

学位（課程博士）論文

自閉症スペクトラムの子どもの
力動出来事語と2語・多語発話の発達

神戸学院大学大学院 人間文化学研究科 博士後期課程

人間行動論専攻 行動発達論講座

9513103 坪倉 美佳

指導教員：小山 正

目次

第1章	自閉症スペクトラムの子どもにおける2語・多語発話の発達	1
第1節	はじめに	1
第2節	定型発達の子どもの2語・多語発話期の発達	1
第3節	自閉症スペクトラムの子どもの2語発話, 多語発話出現期における統語的発達と動詞に関する研究動向	3
第4節	2語・多語発話の発達と力動出来事語の発達	5
第5節	本研究の目的	8
第2章	自閉症スペクトラムの子どもにおける2語・多語発話出現期の発達	9
第1節	目的	9
第2節	方法	9
1.	研究協力者	9
2.	手続き	10
3.	発話分析の方法	10
第3節	結果	10
1.	MLU	10
2.	発話数	11
3.	新出語彙と新出動詞	12
第4節	考察	13
第3章	自閉症スペクトラムの子どもの力動出来事語の獲得 —1語発話期から2語・多語発話期にある事例の縦断的検討—	16
第1節	目的	16

第2節 方法	16
1. 研究協力者	16
2. 手続き	16
3. 分析の方法	17
第3節 結果	18
1. MLU	18
2. 2語・多語発話と力動出来事語	19
3. 各事例の力動出来事語	22
第4節 考察	27
1. 2語発話出現期にあるB児の力動出来事語	27
2. 2語発話期への移行期にあるC児の力動出来事語	29
3. 自閉症スペクトラムの子どもの2語・多語発話期への移行期における力動出来事語	30
第4章 力動出来事的な状況における音声の発達	32
第1節 目的	32
第2節 方法	32
1. 事例	32
2. 観察期間	33
3. 手続き	33
4. 分析	35
第3節 結果	36
1. MLU	36
2. 発話数	37
3. 語彙	39
4. 力動出来事的側面における発声と発話	40
第4節 考察	55
1. D児の力動出来事的状況における音声	55

2. E 児の力動出来事的な状況における音声	58
3. 力動出来事的な側面における発声と発話の出現順序	60
4. 力動出来事的な状況における音声の発達	62
第 5 章 日本語における力動出来事語の発達	75
第 1 節 目的	75
第 2 節 方法	75
1. 研究協力者	75
2. 観察期間	75
3. 手続き	76
4. 発話分析	76
第 3 節 結果	77
1. MLU	77
2. 発話数	78
3. 語彙	79
4. 力動出来事語	81
5. 動詞	92
第 4 節 考察	94
1. D 児の発話と力動出来事語	94
2. E 児の発話と力動出来事語	96
3. 2 語発話出現期の力動出来事語	99
第 6 章 自閉症スペクトラムの子どもの 2 語発話期における力動出来事語	102
第 1 節 目的	102
第 2 節 方法	102
1. 研究協力者	102
2. 手続き	102

3. 分析の方法	102
第3節 結果	103
1. MLU	103
2. 1語・2語発話	103
3. 力動出来事語	104
4. 動詞	112
第4節 考察	112
1. 力動出来事語	113
2. 自閉症スペクトラムの子どもの2語発話期における力動出来事語	115
第7章 総合的考察	117
第1節 自閉症スペクトラムの子どもにおける2語・多語発話期の力動出来事語	117
第2節 定型発達の子どもによる日本語の力動出来事語の資料から	118
第3節 自閉症スペクトラムの子どもにおける力動出来事語と2語・多語発話の発達	122
第4節 今後の課題	125
文献	126
論文目録	131
資料	132

第 1 章 自閉症スペクトラムの子どもにおける 2 語・多語発話の発達

第 1 節 はじめに

言語獲得における遅れと障害は、自閉症スペクトラムの中核的特徴である。自閉症スペクトラムの言語獲得では、特にコミュニケーションと言語の使用の側面における障害は、「心の理論」との関連性が指摘されてきた (Tager-Flusberg, 2007)。しかしながら、自閉症スペクトラムの子どもの精神状態の理解の困難さは、統語的な制約によるものではないと指摘されている (Tager-Flusberg, 1993)。また、自閉症スペクトラムの子どもの縦断的研究から、自閉症スペクトラムの子どもの言語発達の初期段階では、文法的知識、語彙量とその内容などにおいてダウン症の子どもと同じ発達の経路をたどることが指摘されている (Tager-Flusberg, 2007)。自閉症スペクトラムの子どもの初期の言語発達については、さまざまな観点から研究がされてきているが、近年、子どもの初期の言語発達において、動詞の形態・統語の発達に焦点があてられており (Gathercole, 2006)、自閉症スペクトラムの子どものセンテンスの発達の始まりである 2 語・多語発話の前提となる認知発達を考えるにあたり、興味深い観点が提示されてきている。

第 2 節 定型発達の子どもの 2 語・多語発話期の発達

定型発達の子どもの 2 語発話の発達に関して、これまでわが国では、語の組み合わせによる句や文の仕組みに関する統語発達の観点から、資料が提示されてきた (綿巻, 1975)。統語発達においては、Brain (1963) の軸語文法 (頻度が高く位置が固定していること、軸語だけの発話がないこと、軸語と軸語の結合はないという条件に従う) が注目されているが、綿巻 (1975) は、軸語文法の枠組みを使用して日本語を学習している女兒の発話を検討した結果、日本語に軸語文法を適用することは困難な点が多いことを指摘している。綿巻 (1999) は、2 語発話の意味関係構造に着目した研究において、1 歳 8 か月から 2 歳 0 か月までの 1 女兒の発話資料から抽出した多語発話を構成語数と基本構造の種類に分類し、10 の統語＝意味論的構造を提示している。また、多語発話の種類とその構成語数は加齢に伴って増加することを指摘している。さらに、多語発話では動詞節がもっとも多く、準動詞節 (幼児語や擬声、擬態語で真の動詞とはいえないが、意味的、統語的には動詞に準ずる語) は一時的に増加するが、その後は減少する傾向があることを示している。そして、動詞節はその統語＝意味論的構造の違いにより、早期から出現度数が多いもの、出現が遅いも

の、早期から出現するが頻度が少ないもの、出現しないものがあると述べている。1語発話期にみられる語の語用論的機能（実用的機能）と2語発話に表現される意味的關係の連続性が示唆されている（綿巻，1982）。一方、伊藤（1997）は、2語発話段階から多語発話段階までの3例（1歳0か月，1歳10か月，2歳2か月）の保育園での自由遊び場面における自然発話の縦断的資料をもとに、1語発話段階から2語発話段階への移行について分析している。その結果、格助詞「が」，「の」の出現期と多語発話の出現期がほぼ一致することが示された。

近年では、センテンス，初期の統語の発達において、動詞が新たに注目されている。Tomasello（2003）は、多語発話の基礎となる発話レベルの構成を、語結合（word combination：語と語の間に短いポーズを伴わず，単一の音調曲線で発せられる発話），軸語スキーマ（pivot schema：出来事を表す語ひとつが対象を表すラベルを伴って用いられることが多いことや，頻度は下がるが代名詞や一般性の高い表現が定数になることがある），項目依拠的構文（item-based construction：構文のなかの不可欠な部分として統語表示をもち，軸語スキーマよりも上位にある）の3つのタイプに分類している。彼は、特異であり項目に依存する項目依拠的構文の統語表示は，動詞ごとに固有で，動詞がどのように使用されるかを聞いたことによると指摘している。また，多語発話のほぼすべてが特定の動詞に関連する述語表現を中心に発話されていたことから，これを「動詞の島仮説（verb island hypothesis）」と呼んでいる。「動詞の島仮説」は，言語体系のなかで他の部分が組織化されていないにもかかわらず，動詞の部分だけが独自の島のように位置づけられていることに由来している（Tomasello，2003）。そして，「動詞の島仮説」にある動詞島構文によって子どもは「大人に近い文法能力を習得することが容易になる」と述べている。動詞の学習について Kersten and Smith（2002）は，子どもは動詞を学習している間，見慣れた物よりも新奇物を見る傾向があり，さらに見慣れた物の場合は物の見た目よりも動きに注意を向ける傾向があること，そして文脈において動詞の意味を理解するためには，物に関する知識が必要となる可能性を指摘している。つまり，動詞の文脈のなかで動詞の使用を聞くことによって動詞が学習されていくこととなる。しかしながら，動詞が学習され，動詞の島となり特定のパターンで発話されるようになる間，同じ動詞がどのように使用されていたかなどについては，十分に明らかにされていない。

第 3 節 自閉症スペクトラムの子どもの 2 語発話、多語発話出現期における統語的発達と動詞に関する研究動向

自閉症スペクトラムの子どもの 2 語発話、多語発話の発達においても、統語発達の観点から検討されている。高須賀 (1992a) は、6 歳 0 か月の女兒と 4 歳 1 か月の男児を対象に、指導場面での発話資料を構文的構造という観点から分析している。その結果、初期 2 語発話を接合型 (2 語相互の意味的関連が薄く、呼びかけ語など独立語的な性格の強い語を構成要素にもつ)、題目化 (発話の題目とその注釈)、命名文 (述部が名詞的性格の語)、動作文 (述部が動作語で、動作物主、対象、場所、様態の 4 類型)、所有、属性などの 11 種類に分類している。自閉症スペクトラムの特性としては、動作文の下位分類の様態動作文 (初期 2 語発話の動作文の様態が意味的に分化した類型(手段、時間、数量、様相、再起、限定、その他))、連体修飾 (2 語が連体修飾の関係で結合した場合) の下位分類である属性構文等の未分化を認めている。さらに、動作文の様態の数が少ないこと、連体修飾の属性が認められないこと、完全動作文が多いことが指摘されている。また、高須賀 (1992b) は、3 語発話がまだ少ない時期である後期 2 語発話に 2 語発話の構文的構造が多様化することを示している。そして、後期 2 語発話の構文的構造は先の 11 種類の構文的構造に加え、題述 (助詞「は」の使用に関わる類型で動作文との境界は不明確)、複合述語文 (否定などの意味の負荷があるため 1 語として処理しなかった 2 語が複合した述語)、動作文の様態の下位分類である手段 (例: じどうしゃあそんで)、時間 (例: きょうはいこう)、様相 (例: ワンワンなく)、再起 (例: またはじまる) や、連体修飾句 (例: もう 1 かい)、並列 (例: シャツとパンツ) などの 14 の類型になることを示唆している。一方、Naigles, Kelty, Jaffery and Fein (2011) は、自閉症スペクトラムの子ども 17 例 (平均 41 か月) と定型発達の子ども 18 例 (平均 28 か月) の縦断的資料から、自閉症スペクトラムの子どもの初期の文法と語彙能力について検討している。その結果、両方の事例において原因のない行為 (例えば、アヒルとウサギがそれぞれ同時に腕を曲げる) よりも原因のある行為 (例えば、アヒルがウサギを押す) により長く注意を向ける傾向があったことを示している。これらのことから、自閉症スペクトラムの子どもは、少なくとも動詞 (原因のある行為) が提示された他動詞的な枠組みを使用しており、このことは動詞の独立した意味自体によって伝えられることが指摘されている。

高機能広汎性発達障害児を対象とした研究だが、辰巳・大伴 (2009) は、3 歳から 5 歳の高機能広汎性発達障害児 (以下 PDD 児) 35 名と定型発達児 25 名を対象に、「投げる」、

「転がす」、「切る」などの動詞を表す図版を示し、動作を指さしで選択させる理解課題と描写された動作の表出課題を実施している。その結果、両群ともに理解課題の正答率は表出課題の該当動詞の出現率より高かったことを示している。また、PDD 児群は動詞の表現の適切性が定型発達児群よりも有意に低く、自動詞の使用頻度が有意に高かったことから、他動詞による適切な表現が可能となるには、動詞に関わる事象を「動作主体と動作対象との関係」と捉える必要があることが指摘された。さらに、動作に加えて物の運動や配置、属性や形態などの違いを区別し、動詞と結びつけることが必要であることが示唆されたと辰巳・大伴（2009）は述べている。また、動詞の概念は語の示すものだけでなく動作や対象物の特徴、運動や位置、対人的な視点などを動詞に結びつけていく経験を積み重ねるなかで形成されるとしている（辰巳・大伴，2009）。しかしながら、動詞の概念は近接した語彙の意味的な境界が曖昧なため、自閉症スペクトラムの子どもは事象に応じた動詞の使い分けに困難さがあり、自閉症スペクトラムの子どもにみられる特定のものへのこだわりなどが動詞に関わる事物への注目や理解を妨げる可能性があることを辰巳・大伴（2009）は、示唆している。このことは、先の定型発達の子どもの動詞学習では新奇物や動きに注意を向ける傾向があるという Kersten and Smith（2002）の指摘からもいえよう。

Fonseca（2010）は、自閉症スペクトラムの子どもにおいて人称代名詞や自他の概念の獲得、心的空間や三次元の概念の関係性について母子の直接のやりとりから検討した結果、自閉症スペクトラムの子どもではこれらの獲得に困難さがあることを指摘しており、空間における対象物の関係性や空間に関する認識が動詞獲得に関連していることが考えられる。

さらに、自閉症スペクトラムの子どもの動詞獲得と関連して注目されるのが直示動詞（deictic verbs）である。直示動詞は、発話者との直示的な方向について言及する動詞である（例：「戻る」など）。Butterworth and Harris（1994）は、自閉症スペクトラムの子どもは時間的、空間的關係を表す語の使用に特に困難さをもち、そのために直示的な語の使用においても困難さを示すことを指摘している。また、会話における直示的な語の使用は、話し手、聞き手と指示の空間的な枠組みに依存すると述べている。小川・福島・田村・正高（2010）は、発達障害のある小学1年生から5年生（8例）を対象に、心の理論における特異性と直示動詞の理解との関連性を検討している。その結果、動詞内の情報量の多さや関係の複雑さ、一度に提供される情報量の多さが内容理解の困難さと関連する可能性を指摘している。また、空間用法が不一致のときに直示動詞を使用できないという特徴があると述べている。さらに、直示動詞の理解によって、発達障害のある子どもの個人の特徴について

て検討できる可能性を示唆している。

直示動詞と関連して、近年、言語学の分野において移動を表す動詞のうち「行く」、「来る」など、話者との位置関係を示す直示的な「移動動詞」が、対象によって方向に従う、または位置を定める「経路動詞」として注目されている。また、経路、様態といった意味が各言語においてどのような統語要素で表されるのかという点についても関心がもたれている (Nakazawa, 2007 ; 守田, 2006)。この直示動詞の発達の基盤には、直示的な空間に関する認識などを含む認知的側面があり、直示的経路や図と地関係などに関する力動出来事語 (dynamic-event words : 動的な事象語) と動詞獲得の関連が考えられる。

第4節 2語・多語発話の発達と力動出来事語の発達

今日、子どもの言語発達において初期の言語とその認知的側面について注目されており、特に空間関係に焦点があてられている (Gathercole, 2006)。このような観点から、子どもが動きや変化を言語的に認識していることを示す「力動出来事語」が、初期のセンテンスの基礎を形成する語 (例：自己と対象に対する重力的な影響に反応しての down) として注目されている (McCune, 2008)。

力動出来事語の研究は、Piaget and Inhelder (1966) の対象、空間、因果性、時間の前言語的感覚運動的知識の発達が言語の基礎を形成するという指摘から発展している。そして、動詞を伴う初期の2語・多語発話の発達につながる移動出来事語 (motion-event words : 移動事象語) と事物の力動的な動きの側面を記号化する力動出来事語に注目する必要がある。移動出来事とは、そのときに経験している側面を指し、経験の流れと言語での指示によって表される。それは、子ども自身の移動と子どもが他者や対象の移動を観察するという現実世界の出来事との類似が認められることによりセンテンスへ構成される (McCune, 2008)。そして、力動出来事語で表現される移動出来事の意味は語結合において主要な表現となる (McCune, 2006)。また、Johnson (1987) のイメージ・スキーマと力動出来事語の関連が考えられる。英語における out や down などの語には空間的意味が含まれており (McCune, 2008)、このような空間関係に関する語は空間動詞や関係語 (relational words) として注目されてきた。そして、これらの語は初期の語結合期において重要となる (Herr-Israel & McCune, 2006)。空間認知の能力は言語獲得の認知的基盤としても重要である (小山, 2012b)。このような関係的な語は、自閉症スペクトラムの子どものセンテンスの発達に関連することが指摘されているが獲得に困難さがある

(Parish-Morris,2012)。また、力動出来事語の獲得と関連して力 (force) という概念が重要であると考えられる。力とは、力の強さや力を受けたものの移動の方向と経路、因果の連鎖などが含まれる (Johnson, 1987)。力を受けたものの移動を見ることにより、力の概念を子どもは構築する。力は自分が動く、動かされる、動かしてみるといった日常経験のなかで形成されるイメージ・スキーマである (Johnson, 1987)。自閉症スペクトラムを対象とした研究ではないが、小山 (2012a) は、ダウン症の事例において子ども自らの動きや移動、行為、すなわち力によって初期の空間前置詞などの空間語彙が理解されていくと指摘している。Talmy(2000)は、力を介した存在同士の相互関係を「力の力動性(force dynamics)」としており、力の力動性は言語表現に反映されると述べている。しかしながら、力と言語発達との関連についての研究は十分にされてきているとはいえない。

Herr-Israel and McCune (2006) は、これまでの関係語と主要動詞を力動出来事語として捉えている。McCune (2008) によると、want, get, give, take, bring などの動詞は発話者から近距離または遠距離の関係において方向に従う、または位置を定めるときに使用する直示的経路に関わる。そして find は包含、付着の可逆的な側面を含む活動あるいは、接近方法の関係における実体間の空間関係を示す図と地関係に関わっている (McCune,2008)。力動出来事語に含まれている語は、動作語や主客動詞など従来の分類において、自閉症スペクトラムの子どもで獲得に困難さがあることがこれまでも指摘されており (藤上・大伴, 2009)、その認知発達の基盤に注目する必要があるといえる。また、Tomasello (1992, 2003) は、初期動詞に力動出来事語を含めている (McCune, 2008)。力動出来事語は動詞として発話される以前から、対象の動きの可逆的な空間的、時間的側面を伴い、実際に対象が動いていないときも潜在的な可逆性や動きを含意している。

小林・麦谷 (2007) は、音声と動作の対応付けの能力について、生後 12 か月、14 か月、18 か月の 48 例を対象に 2 種の動作と新奇語を組み合わせた動画を使用し、注視時間を指標として検討している。その結果、1 歳前半から動作を心的に表象し、音声に結び付けはじめることを示唆している。力動出来事語である動詞の基礎となる語の獲得について、Oshima-Takane, Kobayashi, Chen, Tardif and Steinman (2012) は、力動的な移動出来事に新奇の名詞と動詞をマップすることについて、日本語、フランス語、そして英語話者の生後 20 か月の子ども 48 例から比較検討している。子どもは、新奇の行為 (飛ぶあるいは跳ねているような) と新奇な行為者 (動物あるいは乗り物のような) の 2 つのアニメーション、そして名詞状況あるいは動詞状況のどちらかに新奇語が提示された。その結果、

日本語話者の子どもは生後 20 か月に形態統語的指示を使用して新奇名詞を行為者へ、新奇動詞を行為へマップできることが報告されている。一方で、英語話者の子どもは名詞の形態統語的指示のみ使用することが指摘されている。Imai, Haryu and Okada (2005) は、行為自体を記号化することや思い出すよりも適切な動詞にマップすることの方が難しいとしており、日本語においても動詞獲得以前の力動出来事語によってそれらの行為や移動などがマップされていることが示唆される。

Herr-Israel and McCune (2006) は、3 例の定型発達の子どもの縦断的資料のうち、生後 14 か月から 24 か月までの家庭で設定された遊びに集中できる自由な母子遊びの場面で産出された down, in, out などの力動出来事語である関係語、初期主要動詞、他の動詞に着目して分析を行っている。その結果、1 語発話期において力動的な出来事を言及するとき、動詞よりも関係語を用いており、語結合期には初期主要動詞によって表現され始めると指摘している。また、初期の語結合に含まれる動詞は 1 語発話期の力動出来事語に認められ、多語発話期では初期主要動詞と関係語が 3 例で 80% 以上含まれていたことが報告されている。McCune (2006) は、力動出来事語を経路（垂直的経路 (up, down) , 直示的経路 (here / thanks, mine, there, go, come) , 図と地 (包含 (open, closed, out, in) , 付着 (stuck / fitted, unstuck) , 移動出来事 (閉塞 (allgone, bye, peekaboo) , 反復 (more, again) , 否定 (反転) (no, uhoh, back)) に分類している。また、McCune (2008) は英語学習者の子ども 7 例とバイリンガル（英語とエストニア語あるいはドイツ語）の子ども 3 例を対象に、力動出来事語の各カテゴリの出現状況について検討した。その結果、直接的な経験が経路の認識を促進し、図と地関係は空間における特定の関係を記号化する語に伴い、移動出来事に関係する語は子どもの出来事の可逆的な特徴への認知的気づきを示していることを示唆している。そして、これらすべては子どもが身体的に関わっている状況に焦点を当てる傾向があると述べている。つまり、力動出来事語の発達は、これらの関係を認知的に特定する子どもの最初のステップであり、言語的に表現するステップでもある (McCune, 2008)。また、力動出来事語のカテゴリと主要な動詞の意味との関連性ととも、単一の力動出来事語から初期の動詞と語結合への移行例が Herr-Israel and McCune (2006) によって示されているといえる。

力動出来事語の動詞への移行に関する実証的研究はまだ不十分である。しかしながら、力動出来事語という枠組みにより、自閉症スペクトラムの子どもに困難とされている空間的な語や可逆的な出来事に関する語の獲得、さらに 2 語・多語発話の認知的基盤と関連し

ていると考えられる動詞獲得に関しても明らかにしていくことができよう。

第 5 節 本研究の目的

これまで、自閉症スペクトラムの子どもの 2 語・多語発話の発達に関する今後の研究的課題を明らかにするために展望してきた。そこで、本研究では、自閉症スペクトラムの子どもの 2 語・多語発話の発達について、本章において着目した力動出来事語、動詞の発達という観点から検討を行う。

第 2 章では、自閉症スペクトラムの子どもの 1 語発話期から 2 語発話期の発達にある自閉症スペクトラムの事例の協力のもと、2 語・多語発話の発達の様相について検討する。

第 3 章では、自閉症スペクトラムの子どもでは獲得に困難さがあると考えられる力動出来事語の発達について、1 語発話期から 2 語・多語発話期への移行期にある自閉症スペクトラムの事例を対象に McCune (2008) の提示する力動出来事語の出現について明らかにすることを目的とする。

しかしながら、日本語に関しては力動出来事語の獲得、さらに、力動出来事語から初期動詞への移行に関する資料はまだ十分ではなく、定型発達の子どもの力動出来事語の定義が必要となる。そこで第 4 章では、日本の子どもの早期表出語彙の特徴をふまえたうえで、力動出来事語的な状況において、日本語ではどのような音声的表現がみられるのかについて定型発達の子どもの研究協力のもと検討を行う。そして、力動出来事語的な状況においてみられた音声的表現の発達、さらに、その出現順序について検討を行う。

第 5 章では、第 4 章の結果をふまえて、2 語発話が始まる時期における日本語における力動出来事語の発達について定型発達の子どもの事例を対象に検討を行い、2 語発話出現期における日本語の力動出来事語について明らかにすることを目的とする。

第 6 章では、第 4 章、第 5 章の日本語を学習している定型発達の子どもの力動出来事語の発達についてふまえたうえで、自閉症スペクトラムの子どもの力動出来事語の発達について明らかにする。

以上のことから、本研究では、自閉症スペクトラムの子どもの事例において力動出来事語、動詞の発達といった観点から、自閉症スペクトラムの子どもの 2 語・多語発話の発達について明らかにすることを目的とする。

第2章 自閉症スペクトラムの子どもにおける2語・多語発話出現期の発達

第1節 目的

本章では、2語・多語発話期への移行期にある自閉症スペクトラムの事例に協力を得て、縦断的資料をもとに1語発話期から2語・多語発話期への移行期に着目し、2語発話、多語発話期の発達の様相について検討を行うことを目的とする。

第2節 方法

1. 研究協力者

研究協力者は、大学での教員による言語発達支援場面にことばの遅れを主訴として来所し、月1回、原則として60分間の支援が行われている5歳7か月3日の自閉症スペクトラムの事例、A児である。筆者は、ボランティアとして支援場面に参加し、保護者に研究協力の了承を得た。

A児の本研究における初回セッションでの総発話数は52、2語発話数は22、多語発話数は0であった。また、初回セッションにおけるA児の様子は、絵本を見ながらバイキンマンの絵を繰り返し描いていた。また、ホワイトボードで描画する際に「アンパンマンバイバイ」といった定型的な2語発話がみられ始めていた。お店屋さんごっこなどについては、療育者が誘っても関心を示さなかった。

A児は、第1子。家族構成は、両親、祖父母、曾祖母、妹(3歳)、A児の7人家族である。保護者の話では、2歳時に地域の療育センターにおいて自閉症スペクトラムの診断を受けた¹とのことである。本研究の対象期間中は、地域の通園施設で療育を受けていた。

5歳11か月時にS-M社会生活能力検査を実施した結果、身辺自立：4歳0か月、移動：2歳11か月、作業：4歳5か月、意志交換：3歳9か月、集団参加：3歳1か月、自己統制：2歳9か月、社会生活年齢(SA)：3歳8か月、社会生活指数(SQ)：62であり、軽度の遅れが認められる。また、6歳7か月2日時に津守・稲毛式乳幼児精神発達質問紙を実施した結果、領域別発達年齢は、運動：7歳0か月、探索：5歳0か月、社会：3歳0か月、生活習慣：4歳6か月、言語：5歳0か月であった。津守・稲毛式乳幼児精神発達質問紙において、言語領域の発達年齢が高くなっているのは、文字や数字を書いたり、読んだりすることが可能なためである。

¹ 現在のDSM-5では、自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害に相当する。

2. 手続き

今回、筆者が対象とした期間は、5歳7か月3日から6歳9か月24日の約1年間、計12セッションである。

発達支援の場所は、大学内の指導室で、教員により、遊びを通してことばの発達の基礎となる認知発達を図る支援が行われている（小山，2000，2009）。支援は、親子同室で行っており、セッションによってはA児の妹（3歳）も加わった。療育者は大学教員の1名である（小山，2009，2010）。

発達支援の場面は、保護者の同意を得てVTRに録画した。録画の開始は入室から5分以内、録画は、原則として60分である。

3. 発話分析の方法

5歳7か月3日から、6歳9か月24日までの毎回のVTRを再生し、60分間についてA児の自発的発話サンプルについてトランスクリプションを作成した。トランスクリプションをもとに、総発話数（自発）、MLU（Mean Length of Utterance：平均発話長）、語彙数、動詞数に着目し、分析を行った。

分析の際に、不明瞭な発話、無意味発声、歌、自発的でない発話は、分析から外した。MLUに関しては、Brown（1973）の基準をもとに算出した。さらに、各セッションの最長の発話長（発話長は、発話の長さのこと。発話に含まれる形態素（意味をもつ最小の単位）の個数から産出される）も算出した。語の切れ目は、1.2秒のポーズを基準に区分した。MLUは、発話数が100未満であったため、産出されたすべての発話から分析を行った。また、このMLUは、指導場面に限定されたものだが、セッション内での推移における変化の指標として検討を行った。

分析は、2名で行い協議しながら分類し、2者で一致率を求めた結果、0.92であった。

第3節 結果

1. MLU

A児の5歳7か月3日から6歳9か月24日までの60分間の発達支援場面における自発的発話について、各セッションの最長の発話長、MLUの推移を示したものが図2-1である。全セッションを通しての最長の発話長は、5であった。MLUは、1.28から1.65の範囲にあり、Brown（1973）のMLUの段階では、段階Iに相当し、2語発話段階であった。

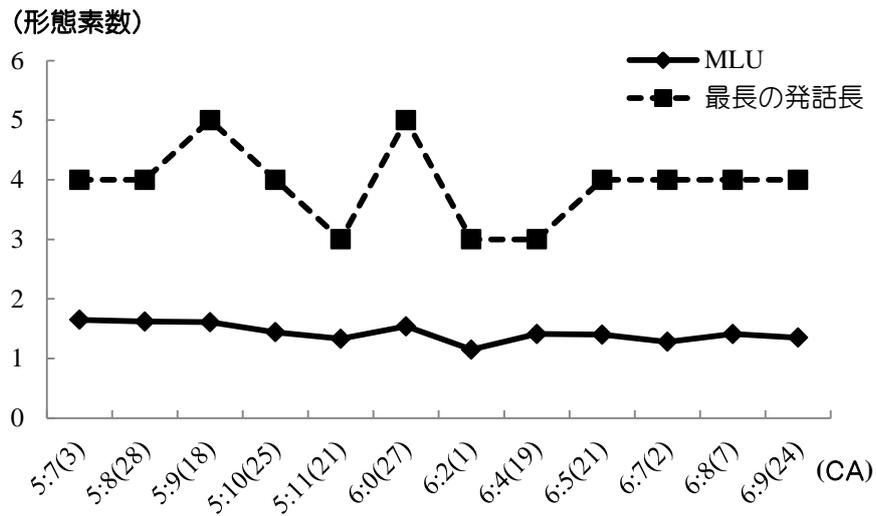


図2-1 MLUの推移

2. 発話数

A 児の 5 歳 7 か月から 6 歳 9 か月までの 60 分間の発達支援場面における自発的発話の 2 語発話数、多語発話数の推移を示したものが図 2-2 である。5 歳 7 か月 3 日には、「バイキンマンバイキンマンバイキンマン」などの successive single words が多くみられていたが、3 回目（5 歳 9 か月 18 日）以降はほとんどみられなくなった。2 語発話数は、6～27 の発話の間で推移を示した。多語発話は、出現し始めた時期であった。2 語発話や多語発話では、「アンパンマンバイバイ」や「タヌキバイバイ」、「お茶ない」など、「バイバイ」や「ない」といった語を軸語（子どもの初期の語結合はひとつの不変語と、それに結合する様々な語から構成され、軸語はこの不変語を指す（山梨，2009））とした発話が見られた。5 歳 10 か月 25 日には、この軸語に、「カタツムリさん楽しかったね」など「楽しかったね」を軸語とした発話加わった。

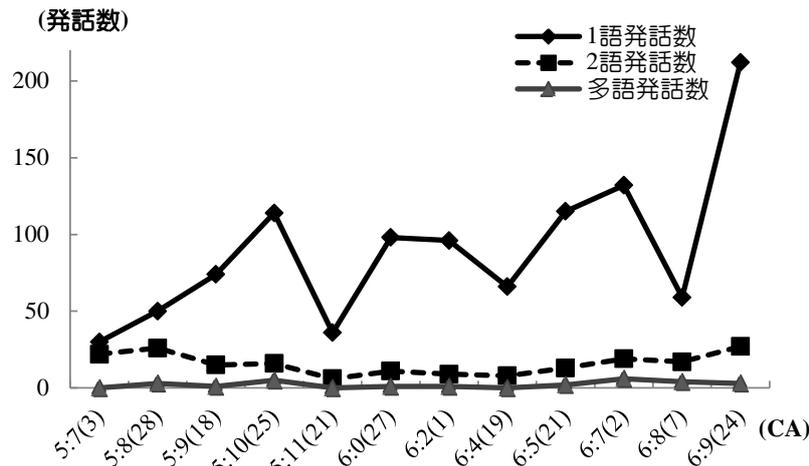


図2-2 1語, 2語, 多語発話数の推移

3. 新出語彙と新出動詞

A児の新出語彙数と新出動詞数の推移は、図2-3の通りである。また、各セッションを通して出現したそれぞれの発話数と、その合計について表2-1に示した。A児では、本研究において対象とした期間では、350語の語彙、58語の動詞が出現した。新出語彙のうち、動詞の占める割合は、17%であった。

動詞では、遊びのなかで物の状態について発話するときに、「開かない」や「割れちゃった」などの動詞が出現した。また、5歳10か月25日までは、「バイバイ」や「ないね」、そして「楽しかったね」といった語を軸語とする発話が2語発話において中心となっていたが、6歳0か月27日以降では、遊びのなかで軸語を用いた2語・多語発話以外のものの割合が高くなっていった。例えば、6歳0か月27日には、「デンデン虫さんバイバイ」といった軸語による2語に加えて、「だれにしよっかな」、「バイキンマンどこかな」、「バイキンマン描いて」などの動詞を含む発話もみられるようになっていった。

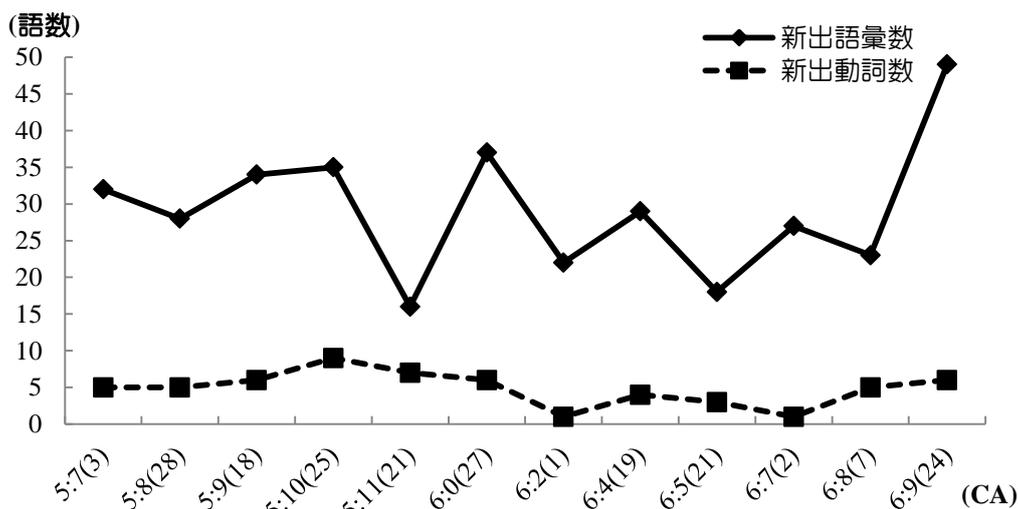


図2-3 新出語彙数と新出動詞数の推移

表2-1 全セッションの発話数と合計

	5:7(3)	5:8(28)	5:9(18)	5:10(25)	5:11(21)	6:0(27)	6:2(1)	6:4(19)	6:5(21)	6:7(2)	6:8(7)	6:9(24)	計
総発話数	52	79	90	135	42	110	106	74	130	157	80	242	1297
1語発話数	30	50	74	114	36	98	96	66	115	132	59	212	1082
2語発話数	22	26	15	16	6	11	9	8	13	19	17	27	189
多語発話数	0	3	1	5	0	1	1	0	2	6	4	3	26
語彙数	32	28	34	35	16	37	22	29	18	27	23	49	350
動詞数	5	5	6	9	7	6	1	4	3	1	5	6	58
動詞を含む1語発話数	1	1	2	6	6	1	6	3	3	6	2	13	50
動詞を含む2語発話数	1	2	5	4	1	7	1	4	3	3	4	7	42
動詞を含む多語発話数	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	3	5

第4節 考察

A児は、本研究において対象とした期間は、MLUの結果から2語発話段階にあるといえる。また、多語発話数は、対象とした期間中は、0~6の発話がみられていたことから、多語発話が出現し始めた時期だと考えられる。2語発話数、多語発話数に関しては、対象とした期間中は、セッションによって増減していた。また、5歳7か月3日時のA児の2語発話は、「名詞+バイバイ」、あるいは「名詞+ないね」の形のもものがほとんどであり、22の2語発話のうち「バイバイ」を軸語としたものが7、「ないね」を軸語としたものが12回みら

れていた。5歳10か月25日には、この軸語に「楽しかったね」が加わった。しかしながら5歳11か月21日以降、軸語による2語・多語発話の割合が減っており、この間には、多語発話が出現し始めただけでなく、発話において、質的な変化がみられたことが考えられた。また、6歳7か月2日以降のセッションでは、それまでの軸語中心の発話などに加えて、遊びに関する2語発話、多語発話が出現するようになっていった。このように、対象とした期間内において、2語発話、多語発話に関しても発話される内容に変化がみられており、発話の質的な変化がみられたことが考えられた。

定型発達の子どもの研究において、1語発話段階では、動詞よりも名詞が優位だが、統語段階では、動詞が優位になることがこれまでも報告されている（Ogura, Dale, Yamashita, Murase, & Mahieu, 2006）。今回の協力者であるA児では、MLUの結果から2語発話段階にあり、初期の統語発達の段階にあるといえる。しかしながら、A児では、出現語彙数のうち、動詞の占める割合は17%であり、動詞が優位の段階とはいえない。このことは、これまでも指摘されているように、自閉症スペクトラムの子どもにおいて動詞獲得に困難さがみられる（辰巳・大伴, 2009）ことが関連していると考えられる。また、A児の2語・多語発話の多くが軸語を中心とした発話によって、MLUの値が高くみられた可能性が考えられる。そのため、パターン化された発話から豊かな発話への変化が必要であろう。しかしながら、先に述べたように、本研究で対象とした期間において、A児の発話には、質的な変化があったことが考えられる。最後のセッションである6歳9か月24日では、「ない、どこにいったかった」や「メニュー出して」、「買いに行く」といった、遊びのなかでの動詞を伴う2語発話がそれまでのセッションに比べて出現した。この6歳9か月24日では、もっとも2語発話がみられており、「名詞+ないね」あるいは、「名詞+バイバイ」の発話は、それぞれ1回のみ出現であったことから、発話内容のバリエーションが増えていると考えられる。この頃には、遊びに関する発話が増えており、周りの状況に関してA児が発話することがみられていた。自分と他者を意図的な動作主として認知することが言語獲得において必要となることが指摘されているが（小椋, 2006）、このことは動詞獲得においても指摘されており（McCune, 2008）、遊びに関する2語発話によって発話内容に変化がみられたことが関連しているのではないかと示唆された。そこには、動詞獲得の基礎が関連していることが考えられる。A児では動詞が少なく、動詞獲得における困難さがみられた。2語発話段階においては動詞が優位になるという点を考えると、A児において、動詞獲得における困難さが2語・多語発話の発達に関連していたことが考えられる。パターン化した2語発話か

ら、遊びに関する 2 語発話など発話内容に変化がみられたときの、2 語発話には動詞を含むものがもっとも出現しているなど、発話内容の変化にも関連しており、自閉症スペクトラムの子どもの 2 語・多語発話の発達において、動詞の発達との関連から検討する必要がある。

本研究では、2 語・多語発話期への移行期にある自閉症スペクトラムの事例、A 児の協力のもと、2 語・多語発話の発達について、動詞獲得といった点からみてきた。今回の結果では、これまで自閉症スペクトラムの子どもにおいて指摘されていたように、A 児においても動詞の発達に困難さが確認された。また、パターン化された発話が語彙の広がりにくさにもつながっている可能性が示唆された。しかしながら、動詞獲得は、2 語・多語発話といった初期の統語発達において重要な役割を示し、今回の結果においても、軸語を中心としたパターン化された発話から変化がみられたときに、動詞を伴った 2 語発話がみられるようになっていった。これらのことから、自閉症スペクトラムの子どもにおける動詞の発達について検討することは、2 語・多語発話の発達について明らかにするには必要となるといえよう。そのためには、自閉症スペクトラムの子どもにおける動詞発達の基盤となるものについて検討していかなければならない。

第3章 自閉症スペクトラムの子どもの力動出来事語の獲得

—1 語発話期から2語・多語発話期にある事例の縦断的検討—

第1節 目的

自閉症スペクトラムの子どもの2語・多語発話の発達を考えるにあたって、動詞発達の基盤について検討する必要がある。そこで、本章では自閉症スペクトラムの子ども2例の協力のもと、1語発話期から2語・多語発話期への移行期にはどのような力動出来事語がみられるのか、あるいは力動出来事語の発達に困難さを示すのかについて検討する。

第2節 方法

1. 研究協力者

研究協力者は、大学での教員による言語発達支援にことばの遅れを主訴として来所し、月1回、原則として60分間の支援が行われている2例の自閉症スペクトラムの事例である（B児：3歳4か月15日・女児，C児：4歳8か月6日・男児）。筆者は、ボランティアとして支援場面に参加し、各事例の保護者に研究協力の了承を得た。

B児の本章において対象とした期間の初回のセッションでの総発話数は36、2語発話数は1、多語発話数は0、語彙数は37であり、「ノック」、「ママ」、「かさ」などの語がみられていた。また、歌のような発話が多くあった。B児の発達の程度としては、境界線級の遅れがみられる。保護者の話では、1歳6か月前後に、月1回の地域のフォロー教室に通い、3歳児に家庭センターで自閉症の診断を受けた²とのことである。その後、地域の通園施設に通っている。

C児の対象とした期間における初回のセッションでの総発話数は199、2語発話数は41、多語発話数は3、語彙数は96であり、「ここ」、「網戸」、「行く」などの語がみられていた。C児は、発達の程度として軽度の遅れがみられる。保護者の話では、1歳半健診後、地域のフォロー教室に通い、3歳時に地域のクリニックにて広汎性発達障害の診断を受けた³とのことである。その後、地域の通園施設に通う。

2. 手続き

今回、筆者が対象とした期間は、B児は、3歳4か月15日から4歳3か月29日、C児は4歳8か月6日から5歳9か月17日の約1年間、各12セッションである。

² 現在のDSM-5では、自閉スペクトラム症／自閉症スペクトラム障害に相当する。

³ 現在のDSM-5では、自閉スペクトラム症／自閉症スペクトラム障害に相当する。

発達支援の場所は、大学内の指導室で、教員により、遊びを通してことばの発達の基礎となる認知発達を図る支援が行われている（小山，2000，2009）。支援は、親子同室で行っており、療育者は大学教員の1名である（小山，2009，2010）。

発話は、発達支援の場面を保護者の同意を得てVTRに録画した。録画の開始は、入室から5分以内、録画は、原則として60分以内で行った。発話分析は、録画した毎回のVTRを再生し、各事例の自発的発話についてトランスクリプトを作成した。原則として60分の録画時間のうち、VTRの始めと終わりを除く、遊びが中心の55分間（各事例の発達をより長く検討するため）を対象とした。

3. 分析の方法

発話分析は、トランスクリプトをもとに、文法発達の指標であるMLU、力動出来事語、2語発話、多語発話、力動出来事語を含む語結合（2語・多語発話）に着目し、分析を行った。分析の際、不明瞭な発話、無意味発声、歌、自発的でない発話は分析から外した。また、B児は、英語の遊び歌や、発話のなかに英語のフレーズがみられていた。そのため、B児の発話にみられた‘This is a cake’などの英語の発話やフレーズと考えられる語は1語と数えた。

MLUは、今回、2語・多語発話の発達との関連性に着目しているため、文法発達を捉えるうえで、より敏感であると指摘されている（宮田，2012）形態素MLUを算出した。事例によっては、発話数が100未満のセッションがあった。初期段階ではMLUを産出する発話が50でもMLUの産出可能であることが示唆されている（宮田，2012）ことから、総発話数での算出を行っている。また、今回算出したMLUは、指導場面に限定されたものだが、変化の指標として捉えた。

力動出来事語は、McCune（2008）を参考に、経路（path）の垂直的経路（vertical path）、直示的経路（deictic path）、目的終了（path-end point）、図と地（figure/ground）の包含（containment）、付着（attachment）、移動出来事（motion event sequence）の閉塞（occlusion）、反復（iteration/conjunction）、否定（反転）（negation（reversal））のカテゴリに分類した。McCune（2008）によると、経路は空間的な可逆性に関わる語であり、垂直面に関するもの（例えば、物が落ちる場面や持ち上げようとするときなど）は垂直的経路（「上」、「下」など）、自己と関係したもの、または人との接近や距離などの直示的な面に関する語は直示的経路（「ここ」、「ありがとう」、「私の」、「あっち」など）に分類される（例えば、物を渡す場面や、物の場所を答える場面など）。行為の完成、終わったことを示すもの、例えば、玩具を片づけるなどの遊びが完了した場面などは、目的終了（「あっち」など）に分類した。図と

地は、図と地の位相的な関係を示すものであり、蓋を開ける、あるいは、閉めるといった容器の関係などを表す包含（「開ける」、「閉める」、「外」、「中」など）と、取り出すあるいは、くっ付けるといった付着（「くっつく」、「合う」、「はがれる」など）にわけた。移動出来事は、予期あるいは反対を望む事態と現在の状態に関する心的な比較を示す語であり、閉塞（「なくなる」、「さようなら」、「ばあ」など）、反復／結合（「もっと」、「もう1回」など）、否定（「いいえ」、「うん」、「戻す」など）に分類した。閉塞は、それまでにあったものがなくなった状況など、不在の状況を示す。反復／結合は、なくなったものが再び現れることを望むなど、繰り返して要求すること、否定は、今の状態とは違う状況を考えるなど、反対の状況になることを望んでいることを示すものである。

発話された語を力動出来事語と定義するにあたって、現実または潜在的な状況について言及する語であること、発話された場面に着目し、対象や人、出来事の変化について言及する語を力動出来事語として、それぞれのカテゴリに分類した。力動出来事語を日本語に当てはめた際に、動詞とされる語が含まれていたため、以下の語は動詞として、今回は除外した。除外したものは、open, closed である。

分析は、療育者と筆者の2名で協議しながら分類し、トランスクリプトを作成した。発話については、作成したトランスクリプトをもとに、臨床心理学を専攻する大学院生と2者でMLU、力動出来事語の分類、2語・多語発話の分類について一致率を求めた結果、0.92であった。

第3節 結果

1. MLU

各事例の全セッションにおけるMLUの推移を示したものが図3-1である。B児では、各セッションの総発話数が100に満たないセッションがあった。そのため、今回は各セッションの総発話数からMLUを算出している。

Brown (1973) のMLUの段階では、B児は、段階I初期であり、初期の語結合の発話が出現する時期であった。C児は、段階I後期から段階IIへの移行期であり、文法使用が活発化する時期にあたる。

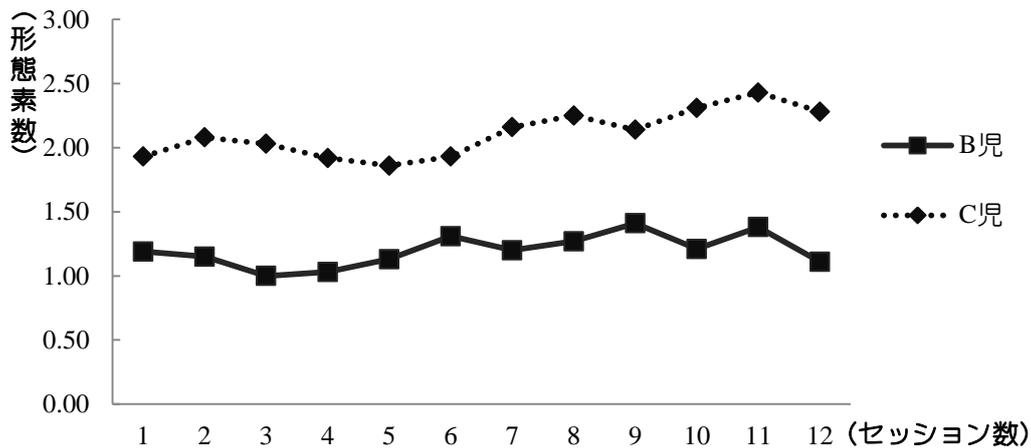


図3-1 各事例のセッションにおけるMLUの推移

2. 2語・多語発話と力動出来事語

各事例の自発的な2語・多語発話数の推移を図3-2、図3-3に示した。また、各セッションにおける2語・多語発話数と力動出来事語を含む語結合数について表3-1、表3-2に示した。力動出来事語は、McCune (2008)を参考に分類した。ここでは、McCune (2008)との比較のために‘again’にあたる「もう1回」など、英語において1語となる語はフレーズとして1語と数えた。B児は、全セッションを通して、多語発話は出現しなかった(図3-2)。2語発話に関しても、出現し始めた時期であった。B児の2語発話は、0~8の発話数で推移しており、2語発話の出現はわずかであった。もっとも2語発話が見られたのは、4歳3か月0日の8の発話であった。そのとき、力動出来事語を含む発話が出現した。また、3歳6か月26日、3歳8か月18日は、2語発話が出現しなかった。B児は、2語発話が見られ始めた時期であり、多語発話は未出現、力動出来事語を含む語結合も2と少なかった。

C児の2語・多語発話数の推移は、図3-3の通りである。2語発話数は、セッションによって増減を示し、36~86の発話数で推移した。多語発話は、出現し始めた時期であり、1~35の発話数で推移した。C児では、2語発話段階への移行期であり、多語発話はみられ始めた時期で徐々に増加へと推移していった。この時期の力動出来事語では、すべてのカテゴリで出現がみられ、特に、<経路・直示的経路>の語を中心に力動出来事語を含む語結合が出現した。多語発話をもっとも出現した5歳8か月19日では、力動出来事語を含む語結合をもっとも出現を示した。

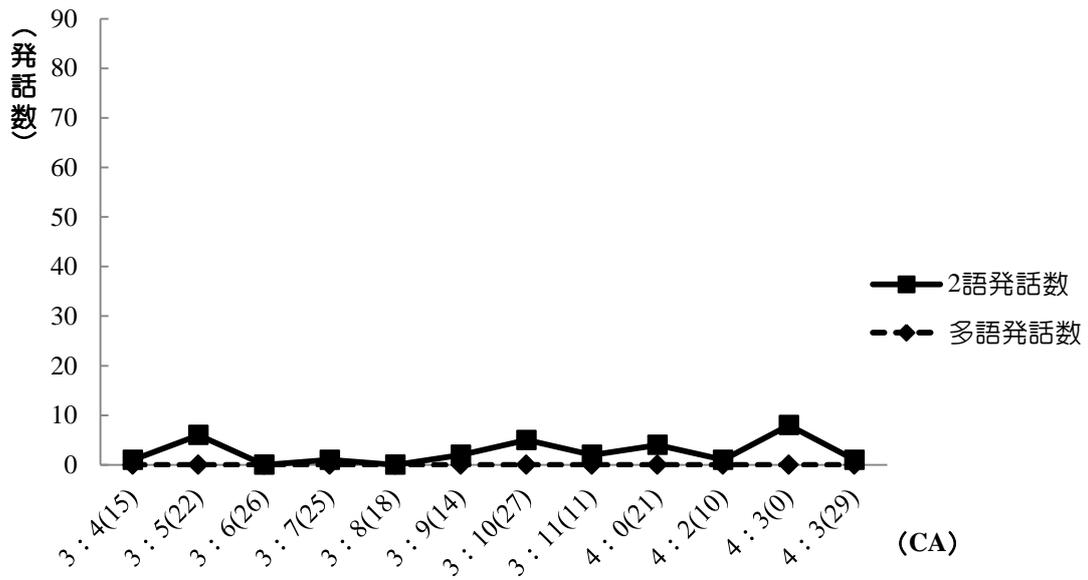


図3-2 B児の2語・多語発話数の推移

表3-1 B児の各セッションにおける2語・多語発話数

	2語発話数	多語発話数	力動出来事語を含む語結合数
3:4(15)	1	0	0
3:5(22)	6	0	0
3:6(26)	0	0	0
3:7(25)	1	0	0
3:8(18)	0	0	0
3:9(14)	2	0	0
3:10(27)	5	0	0
3:11(11)	2	0	0
4:0(21)	4	0	0
4:2(10)	1	0	0
4:3(0)	8	0	2
4:3(29)	1	0	0

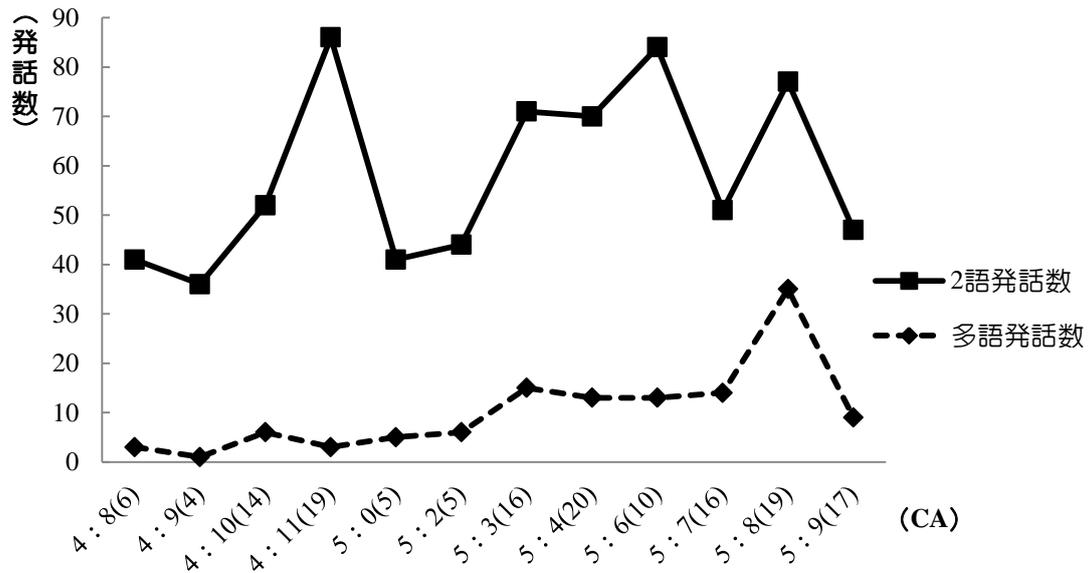


図3-3 C児の2語・多語発話数の推移

表3-2 C児の各セッションにおける2語・多語発話数

	2語発話数	多語発話数	力動出来事語を含む語結合数
4:8(6)	41	3	3
4:9(4)	36	1	10
4:10(14)	52	6	12
4:11(19)	86	3	6
5:0(5)	41	5	9
5:2(5)	44	6	4
5:3(16)	71	15	12
5:4(20)	70	13	13
5:6(10)	84	13	7
5:7(16)	51	14	17
5:8(19)	77	35	24
5:9(17)	47	9	13

3. 各事例の力動出来事語

B 児の各カテゴリにおける力動出来事語の出現状況は、表 3-3 の通りである。力動出来事語のカテゴリについては、以下<カテゴリ名・下位カテゴリ名>で示す。B 児では、<移動出来事・否定（反転）>が 7 セッションと<経路・直示的経路>が 9 セッションでみられた（表 3-3）。同じ経路を表す語においても、直示的な面を表す語は、1 回目のセッション（3 歳 4 か月 15 日）で出現したが、垂直的な面に関しては、未出現であった。<経路・直示的経路>の語は、玩具がほしいときの「ちょうだい」（3 歳 4 か月 15 日）や、反対に玩具を渡すときに「どうぞ」（4 歳 0 か月 21 日）、また、玩具を受け取ったときに「ありがとう」（4 歳 2 か月 10 日）など、物の受け渡しの場面において出現した。未出現の<経路・垂直的経路>に関わるような垂直的な移動は、椅子に座ることや机の上へのぼるといった行動があった。しかしながら、そのような移動は、B 児が“椅子に座り、お店屋さんごっこのお店に買い物に行く”という出来事や、“机の上へのぼり、目的の玩具を取る”といった場面であった。また、B 児では、全セッションを通して、<図と地・包含>も未出現であった。<図と地・包含>には、「中」、「外」といった語があてはまる。B 児のセッションのなかでみられた<図と地・包含>に関わる状況には、“バスケットからミニフードを取り出すこと”や、“びっくり缶（ピーナッツ缶を開けるとへびが飛び出す玩具）からへびを出す”など、事例対事物の関係性のなかでの出来事であった。力動出来事語は、直接的な経験に関する語から出現する（McCune,2008）とされているが、今回のセッションでの<図と地・包含>の出来事は、事物間における包含関係を事例が見るという場面であった。

移動出来事のカテゴリでは、<移動出来事・閉塞>と<移動出来事・否定（反転）>は、出現したが<移動出来事・反復>は未出現であった。<移動出来事・閉塞>は、お店屋さんごっこの遊びのなかでお店から帰る際や、びっくり缶から飛び出たへびを缶の中に戻すときに、「バイバイ」が発話された。<移動出来事・否定（反転）>は、今ある状況とは逆の状況について同時に考えているときの語（McCune,2008）であり、B 児の力動出来事語のなかでは、<経路・直示的経路>の次に出現を示したものである。<移動出来事・否定（反転）>が出現した状況としては、療育者らが、B 児が絵を描いているホワイトボードに一緒に描こうとしたときなど、B 児が遊んでいるところに療育者らが介入したときに「いや」（<移動出来事・否定（反転）>）という発話が出現した。こういった発話は、前の状態を保持したいときにみられた。その一方で、前の状況を繰り返し要求する<移動出来事・反復>については出現しなかった。

C児の力動出来事語は、すべてのカテゴリで出現した(表3-4)。C児では、<経路・直示的経路>が毎回のセッションで出現し、場所についての質問や発話である「ここは」や「ここに」といった発話がみられた。また、B児と同様に、療育者らとの玩具の受け渡しにおいて「ありがとう」や「ちょうだい」、「どうぞ」といった物の直示的な移動を表す語が出現した(<経路・直示的経路>、4歳8か月6日時)。同じ経路の<経路・垂直的経路>は、5歳2か月5日に「上に」、5歳4か月20日に「下」の語が出現し、<経路・直示的経路>に比べて出現が遅かった。C児は、「ここ何階」(<経路・直示的経路>)など、空間に関する発話や確認がみられた。特に、棚をマンションに見立て、動物の人形を置き、「カバちゃん屋上行っちゃった」や「怪獣7階」などの垂直的な面に関しての興味、関心がみられ、そのなかで、「上いきたい」(<経路・垂直的経路>)が出現した。

B児では未出現だった<図と地・包含>については、5歳4か月20日に出現し、他のカテゴリに比べて遅かった。<図と地・包含>は、「こここれ外」(5歳4か月20日)と物を置く場所について示す発話と「この中入ってないね」(5歳6か月10日)と容器の中身についての発話が出現した。また、B児で未出現だった<移動出来事・反復>に関しては、同じ物を何個も要求することや、お店屋さんごっこで、お店屋さんにもう一度行きたいということ伝える「もう1回」といった繰り返しの要求が初回からみられた。

つぎに、力動出来事語を含む語結合の結果について、表3-5、表3-6に示す。B児は、2語発話自体が、出現し始めた段階であり、力動出来事語を含む語結合は、「こっちする」(<経路・直示的経路>)、「ここだっけ」(<経路・直示的経路>)のみで出現した(表3-5)。「ここ」(<経路・直示的経路>)の語は、初出から語結合での発話であった。

C児は、力動出来事語の全てのカテゴリで語結合がみられた。C児においても、力動出来事語の初出から語結合での出現のものがあつた。C児では、「ここ+名詞」など、「ここ」(<経路・直示的経路>)ということばを中心に力動出来事語を含む語結合がフレーズ化していった(表3-6)。C児では、場所に関する発話が多くみられていたため、「ここ」(<経路・直示的経路>)や「こっち」(<経路・直示的経路>)、「上いきたい」(<経路・垂直的経路>)など、場所に関する力動出来事語において語結合がみられた。また、他のカテゴリにおける力動出来事語を含む語結合においても「こここれ外」(<経路・直示的経路>、<図と地・包含>)や「もう1個ここに来た」(<移動出来事・反復>、<経路・直示的経路>)のように、「ここ」(<経路・直示的経路>)を中心に語結合が出現した。

また、各事例のセッションにおける新出語彙数、異なり語彙数について図3-4、図3-5

に示した。B児は、セッションごとの異なり語彙数は、33～66語の語彙が出現していた。また、対象とした期間を通して、305語の異なりの語彙が出現した。もっとも多くの異なり語彙が出現したのは、4歳2か月10日時であった。このとき、力動出来事語に関しても、＜経路・直示的経路＞の「ありがとう」と＜移動出来事・閉塞＞の「ばあ」が初出した。

C児の語彙数は、対象とした期間を通して、483語の異なりの語彙が出現した。セッションごとに81～141語の異なり語彙数が出現した。C児でもっとも多くの異なり語彙数が出現したのは、5歳6か月10日時であり、このときの力動出来事語では、＜図と地・包含＞の「中」、＜図と地・付着＞の「一緒に」が初出した。

表3-3 B児の力動出来事語の出現状況

	McCune(2008)の例	B児の発話 ^{*1}	3: 4(15)	3: 5(22)	3: 6(26)	3: 7(25)	3: 8(18)	3: 9(14)	3: 10(27)	3: 11(11)	4: 0(21)	4: 2(10)	4: 3(0)	4: 3(29)
経路	垂直的経路	上 下	(-) (-)											
	直示的経路	ここありがとう 私の僕の あそこ、あっち こっち、そこ ちょうだい どうぞはい 前	ありがとう (-) こっち ちょうだい はいどうぞ・どうぞ (-)											
図	目的終了	OK おわり	OK おしまい											
	包含	外 中	(-) (-)											
地	付着	一緒に	一緒に											
	閉塞	さよなら・はいはい ばあ	はいはい・クッパバイ ばあ											
移動	回復	ちっと もう1回 ^{*2} もう1回 ^{*3}	(-) (-)											
	否定(反転)	嫌い ダメ	いやー・あーやや ダメ											

※○は出現を示す。
*1:(-)は未出現を示す。
*2*3: フレーズとして1語と数

表3-4 C児の力動出来事語の出現状況

	McCune(2008)の例	C児の発話 ^{*1}	4: 8(6)	4: 9(4)	4: 10(14)	4: 11(19)	5: 0(5)	5: 2(5)	5: 3(16)	5: 4(20)	5: 6(10)	5: 7(16)	5: 8(19)	5: 9(17)
経路	垂直的経路	上 下	上に 下											
	直示的経路	ここありがとう 私の僕の あそこ、あっち こっち、そこ ちょうだい どうぞはい 前	ここありがとう (-) こっち ちょうだい どうぞ 前前前											
図	目的終了	OK おわり	(-) おしまい・おわり											
	包含	外 中	外 中											
地	付着	一緒に	一緒に											
	閉塞	さよなら・はいはい ばあ	さよなら・はいはい (-)											
移動	回復	ちっと もう1回 ^{*2} もう1回 ^{*3}	(-) もう1回 もう1回											
	否定(反転)	嫌い ダメ	いやー (-)											

※○は出現を示す。
*1:(-)は未出現を示す。
*2*3: フレーズとして1語と数えた。

表3-5 B児の力動出来事語を含む語結合

	力動出来事語 初出年齢	子どもの発話	力動出来事語を含む語 結合出現年齢	子どもの発話
経路・垂直的経路				
経路・直示的経路	3:9 (14)	こっち	4:3 (0) 4:3 (0)	こっちする ここだっけ
	3:4 (15)	ちょうだい		
	4:0 (21)	どうぞ		
経路・目的終了	3:5 (22)	OK		
	4:3 (0)	おしまい		
図と地・包含				
図と地・付着	3:4 (15)	一緒に		
移動出来事・閉塞	3:4 (15)	ばいばーい		
	4:3 (0)	ばあー		
移動出来事・否定(反転)	3:4 (15)	ダメ		
	3:5 (22)	いーやー		
	4:0 (21)	うんうん		

表3-6 C児の力動出来事語を含む語結合

	力動出来事語 初出年齢	子どもの発話	力動出来事語を含む語 結合出現年齢	子どもの発話
経路・垂直的経路				
経路・直示的経路	4:8 (6)	ここ	5:6 (10)	上いきたい
	4:8 (6)	こっち	4:8 (6)	ここきゅうり
	4:8 (6)	はいどうぞ	4:8 (6)	こっちにする
	4:9 (4)	ありがとう		
経路目的終了	4:8 (6)	おわり		
図と地：包含	5:4 (20)	外	5:4 (20) 5:6 (10) 5:4 (20)	こここれ外 この中入ってないね 一緒だわ
図と地・付着				
移動出来事・閉塞	4:10 (14)	ばいばーい		
移動・出来事反復			4:8 (6)	もう1回行く
	4:9 (4)	もう1個*	4:9 (4)	もう1個ここに来た
移動出来事・否定(反転)	4:8 (6)	嫌	4:9 (4)	いっばい嫌

※*: フレーズとして1語と数えた.

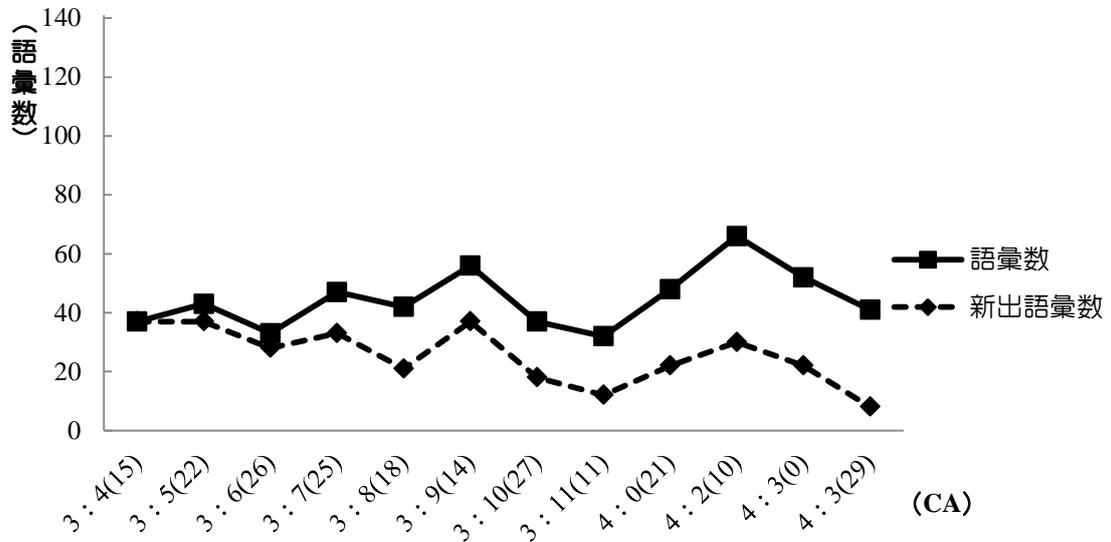


図3-4 B児の語彙数の推移

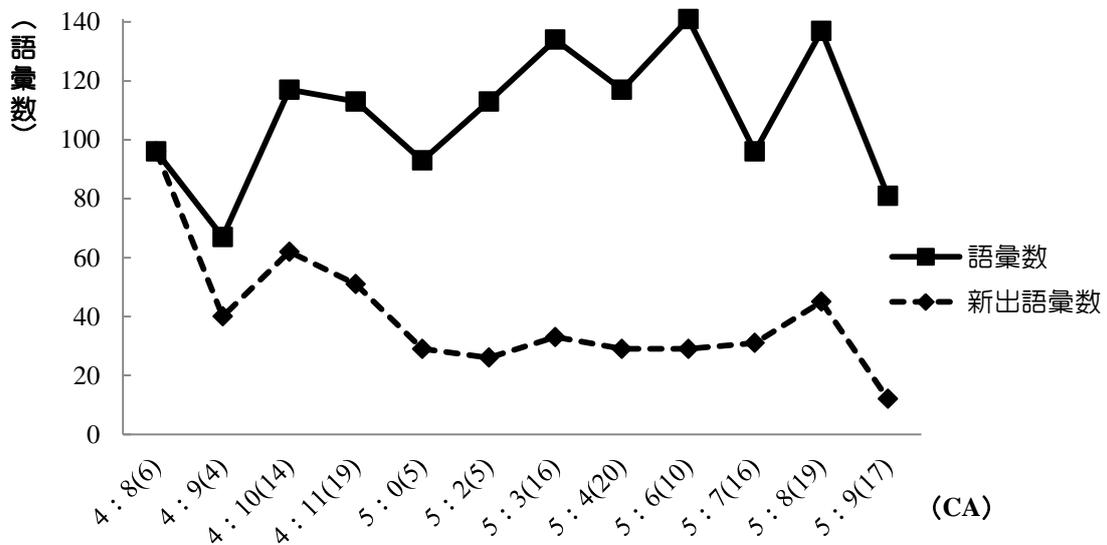


図3-5 C児の語彙数の推移

第4節 考察

本研究では、1語発話期から2語・多語発話期への移行期における自閉症スペクトラムの子どもの力動出来事語の出現状況に着目した。

1. 2語発話出現期にあるB児の力動出来事語

B児は、本研究において対象とした期間は、2語発話が見られ始めた時期であった。力動出来事語は、〈経路・直示的経路〉と〈移動出来事・否定（反転）〉がもっともみられ、〈経路・垂直的経路〉、〈図と地・包含〉、〈移動出来事・反復〉は未出現であった。B児の〈経路・直示的経路〉の語は、玩具の受け渡しといった療育者と事例による物の移動状況においてみられた。このような直示的な移動は、B児の目の前で起こっており、さらにB児の力によってなされた事物の移動やB児自身の移動も含まれている。このように、事例の目の前で起こる移動や事例自身の力によって起きた移動は、他のカテゴリに比べて、認識されやすいのではないかと示唆された。しかしながら、同じ経路を表す〈経路・垂直的経路〉は、未出現であった。これは、直示的な移動は事例のしている空間のなかで生じやすいが、上下といった垂直面の移動に関しては、注意が向かなかつたことが考えられる。実際に、B児では玩具が机の下に落ちてそれを拾う、注意を向けるといったことがみられなかつた。このようなことから、直示的な空間に比べて垂直的な空間は、B児にとって認識されにくかつたことが考えられ、そのことによって〈経路・垂直的経路〉の語が未出現であったことが示唆される。また、B児のセッションのなかでみられた垂直的な移動は、椅子に座る、机の上へのぼるといったB児の垂直的な移動に関する行動がみられていた。しかしながら、こういった移動は、椅子に座り、お店屋さんごっこのお店の方に行く、机の上へのぼり、玩具を取りに行くといった直示的な移動に注意が向けられていたのではないかと考えられた。経路のもうひとつのカテゴリである〈経路・目的終了〉に関しては、B児のしている遊びが完了したときに「OK」が出現しており、“終わる”という状況に対する理解は、2語発話が出現し始める段階ではすでにみられていたことが示唆された。

図と地カテゴリの語に関して、B児では〈図と地・包含〉も未出現であった。B児のセッションのなかで〈図と地・包含〉関係に関する状況としては、“バスケットからミニフードを取り出すこと”や、“びっくり缶からへびを出す”，あるいは“しまう”という場面があった。その場面では「開けて」とびっくり缶を開けることを要求する発話が見られた。この「開けて」という語は、McCune (2008) の分類では、“open”として〈図と地・包含〉に含まれているが、今回、日本語において動詞に分類されるため、除いた。この語に関して

は、日本語の力動出来事語の分類するにあたっての今後の課題といえる。

移動出来事は、＜移動出来事・閉塞＞と＜移動出来事・否定（反転）＞は出現したが、＜移動出来事・反復＞は未出現だった。B 児の＜移動出来事・閉塞＞の語は、お店屋さんごっこの遊びのなかで、お店から帰る際の「バイバイ」や、びっくり缶に療育者がへびをしまうときにみられた。これらの場面では、行って帰るといった直示的な移動の認識や出て入るといった包含関係が前提にあり、現在の状況と、移動によって現在あるもの（お店屋さんごっこでは療育者ら）がなくなることの、両方を子どもが考えている状態だと考えられる。このような場面については、セッションのなかで繰り返しみられていた。そのためこのようにお店屋さんに行って帰るといった療育者との移動出来事に対するイメージシエマ (McCune, 2008) は経験を積み重ねるなかで認識されるようになったことが示唆された。B 児において、＜移動出来事・否定（反転）＞は、初回のセッションから出現していた。＜移動出来事・否定（反転）＞の語は、B 児が遊んでいるところに療育者らが介入しようとしたときに発話された。例えば、B 児がホワイトボードに絵を描いているところに一緒に描こうとすることや、並べている指人形に他の人形を加えようとするなどの場面である。つまり、今ある状況と、以前の状況の両方に関するイメージシエマがあるときに発話されたと考えられ、B 児では、以前の状態を保持したいときに出現していたと考えられる。そのため、＜移動出来事・反復＞としての繰り返しの要求は未出現であり、＜移動出来事・否定（反転）＞といった今とは異なる、以前と同じ状況を要求して発話されたと考えられる。このような表現や、以前の状態を保持したいといった要求を示す発話は、自閉症スペクトラムの子どもの同一性保持といった特徴とも関連していることが示唆された。

B 児は、本研究で対象とした期間は、2 語発話がみられ始めた段階であり新出語彙も増加したが、発話自体もまだ少なく、力動出来事語の出現もカテゴリによっては未出現のものもあった。1 語発話段階にある B 児の力動出来事語では、＜経路・直示的経路＞や＜移動出来事・否定（反転）＞など事例自身が直接的に移動に関わっているもの、何度も繰り返して経験されているもの、以前の状態に保持するものに関する語から出現がみられた。このような、力動出来事語の出現におけるカテゴリごとの偏りは、垂直面といった空間に関する注意や認識、事物間における包含関係の理解の困難さ、さらに、同一性保持といった特徴が関わっていると考えられる。このような力動出来事語の出現においてカテゴリによって偏りがみられることは、発話の豊かさに関連しており、2 語・多語発話の発達に影響していることが示唆された。こういった点も B 児の力動出来事語の発達に寄与したことが考え

られる。

2. 2 語発話期への移行期にある C 児の力動出来事語

C 児は、今回、対象とした期間は、1 語発話期から 2 語発話期への移行期にあった。C 児においても、＜経路・直示的経路＞はもっとも多くみられ、対象としたセッションでは毎回出現を示した。C 児は、場所に関する興味、関心が高く、「ここ何階」や「ここいたね」など、場所に関する発話が多くみられた。また、棚に動物の人形を置いたり、投げたりする遊びがみられ、そのなかで「カバちゃん屋上だね」など、棚をマンションに見立て、動物の人形を棚の上にあげるといった遊びをしていた。このような場所に関する興味や関心が、直示面だけでなく、垂直面に関する空間的認識、＜経路・垂直的経路＞に寄与したことが示唆された。＜経路・垂直的経路＞の語は、セッションの後半の 5 歳 2 か月 5 日に出現した。C 児の場所に関する興味関心から＜経路・垂直的経路＞に関する認識がなされ、そのなかで「上に」といった＜経路・垂直的経路＞の語が出現したと考えられる。

＜図と地・包含＞は、びっくり缶の中にヘビが入っていないで「この中入ってないね」と療育者らに問いかける場面で 5 歳 6 か月 10 日に出現した。このとき、2 語発話数は 84、多語発話数は 13 であった。＜図と地・包含＞の語の出現には、それ以前のセッションにおいて、「入った」、「入らない」、「出る」といった包含関係の理解を示す語が出現していた。このような包含関係の理解が基礎にあり、そのうえで、＜図と地・包含＞の語が出現したと考えられる。しかしながら、「入る」「出る」といった力動的な発話の分類については、今回、動詞として分類し、力動出来事語に含めなかったが、B 児の「開けて」と同様に力動出来事語に含まれる可能性がある。

C 児の＜移動出来事・閉塞＞に関しては、B 児と同様に、お店屋さんごっこでお店に行つて帰るなどの遊びのなかで 4 歳 11 か月 19 日に出現した。このときの 2 語発話数は、86 であった。こういった日常生活に近く、繰り返し経験されるものについては、他のカテゴリに比べて出現がみられることが示唆された。＜移動出来事・反復＞は、「もう 1 回行く」や「もう 1 回する」など繰り返して要求することがみられた。これには、B 児の＜移動出来事・否定（反転）＞のような以前の状態を戻すことを望むのではなく、以前のことを繰り返して行うことを楽しむといった側面があったと考えられる。＜移動出来事・否定（反転）＞に関しては、C 児では、療育者らとの遊びのなかで、自分がしたいこととは違うことに対する療育者らの提案や、自分のほしいものがなかったときに「いや」の発話がみられた。このような、自分の要求や考えていることと、今の状態が合わないことに対する比較は早

期からみられ、そのため<移動出来事・否定（反転）>のカテゴリの語は C 児においても初回のセッションである 4 歳 8 か月 6 日から出現したことが考えられた。このとき、2 語発話数は 41 であり、多語発話数は 3 と出現し始めた時期であった。

C 児は、本研究において対象とした期間は、1 語発話段階から 2 語発話段階への移行期にあり、多語発話も徐々に増加がみられた。C 児のこの時期の力動出来事語は、すべてのカテゴリで出現を示し、自閉症スペクトラムの事例において、C 児のように 2 語発話段階になると力動出来事語の出現がすべてのカテゴリでみられるようになることが示唆された。特に、多語発話が徐々に増加してくると、<経路・垂直的経路>や<図と地・包含>、<図と地・付着>が出現した。C 児では「ここ何階」などの質問や確認、繰り返しや言い直しがみられ、「ここ」といった<経路・直示的経路>の語を中心とした 2 語・多語発話が出現したことが、2 語発話、多語発話の増加につながったのではないかと考えられ、C 児において、経路に関する語が 2 語発話の増加に寄与したことが示唆された。また、力動出来事語を含む語結合においても<経路・目的終了>以外のカテゴリで出現を示しており、発話内容においても広がりを示していた。このことから、力動出来事語の出現が 2 語・多語発話を豊かにし、さらに、2 語・多語発話の発達に寄与したことが示唆された。

3. 自閉症スペクトラムの子どもの 2 語・多語発話期への移行期における力動出来事語

自閉症スペクトラムの子どもは、ひとりひとり個人差が大きく、一般化することはできない。しかしながら、今回対象とした 2 例に関しては、<経路・直示的経路>、<移動出来事・否定（反転）>に関する語は早期から出現し、<図と地・包含>、<経路・垂直的経路>の語に関しては、B 児では未出現、C 児では後半のセッションでの出現と、他のカテゴリに比べて出現が遅れがみられ、力動出来事語の発達にはカテゴリによって偏りがあることが示唆された。言語間の違いはあるが、力動出来事語と初期の語結合期における定型発達の子ども 3 例を対象とした研究（Herr-Israel & McCune, 2006）において、語結合のうち力動出来事語を含むものが 83%であったことが報告されている。それに対して本研究の協力者は、B 児が 6%、C 児が 16%と先の研究（Herr-Israel & McCune, 2006）に比べて低い結果であった。また、McCune（2008）においてまとめられている英語学習者と英語とエストニア語のバイリンガル、英語とドイツ語のバイリンガルの子どもの力動出来事語の出現状況では、力動出来事語の各カテゴリにおいてひとつまたはそれ以上の語で出現したことが示されている。言語による特徴も考えられるが、力動出来事語の出現において全体的に出現を示したその結果と比較しても、今回の研究協力者である B 児、C 児ともに、力動出

来事語の出現カテゴリが定型発達の子どもと比べて偏りがあることが示唆された。そして、このような力動出来事語の発達における偏りが 2 語・多語発話の発達に影響していることが示唆された。

高須賀 (1992a, 1992b) は、自閉症の子どもの 2 語発話について構文的構造から検討した結果、動作文 (2 語発話の構成要素の述部が動作語である発話) の数が少なかったことを報告し、動作文は構文の発達において重要であり、この偏りは認識を含めた発達の偏りと解釈できると述べている。力動出来事語は、動詞の基礎となるものであり、この動作文には、力動出来事語が含まれていると考えられる。また、高須賀 (1992a, 1992b) は、多語発話の発達に関して、2 語発話に多様性が得られることが必要であると指摘している。今回対象とした期間内では、2 事例とも語彙の増加がみられたものの、2 語発話が出現し始めた時期である B 児では、力動出来事語の出現も C 児と比べて少なかった。2 語発話において多様性がみられるようになるには、力動出来事語の獲得が関連していることが考えられ、今回の 2 例に関して、力動出来事語の獲得、さらに力動出来事語を含む発話の広がりが必要となることが示唆された。また、今回みられた力動出来事語の発達には、支援における療育者らとの関係性の変化もあるかもしれない。

本研究では、自閉症スペクトラムの子どもの 1 語発話期から 2 語・多語発話期への移行期における力動出来事語について McCune (2008) による英語での分類をもとに検討を行った。力動出来事語と初期の語結合は、関連しているという指摘があるが (McCune, 2008)、今回の協力者である 2 例の自閉症スペクトラムの子どもにおいて、力動出来事語の発達に偏りがみられることが示唆された。これは、力動出来事語が他の語で表現されている可能性や、発話された語のフレーズ化、パターン化によって他の語へ広がりにくいことが考えられ、より豊かな発話には力動出来事語のカテゴリといった、語やその使用の広がり関わっていることが示唆された。今後、このような力動出来事語から動詞への移行といった観点からも 2 語・多語発話期への移行期について検討することが必要だといえよう。これまで、日本語においては、力動出来事語は動詞や先の高須賀 (1992a, 1992b) のような構文的構造など他のカテゴリのなかに含まれて検討されてきているが、力動出来事語として検討されているものについてはみられず、日本語における力動出来事語の獲得といった点から定型発達の子どもの資料を集積することが必要である。

第4章 力動出来事的な状況における音声の発達

第1節 目的

本章では、発話された状況に着目し、力動出来事語の発達について、生後1歳2か月から1歳8か月にある日本語を学習している定型発達の子どもを対象に検討を行う。

日本語における力動出来事語の発達においては、発話された状況や、文脈から発話された音声を分類していく。また、日本の子どもの早期に表出する語の特徴には、幼児語が多く、動作を表すのに「ネンネ」や「ナイナイ」などの動作名詞やオノマトペを使用していることがあげられている(小椋, 1999)。よって、日本語における力動出来事語にも幼児語が多く含まれてくると考えられる。それらの語も動詞の基礎となるものとして力動出来事語に分類されるだろう。また、「イヤ」のような<否定>を表す語や「チョウダイ」などの要求の語や、母親とのやり取りから「ドウゾ」といった社会的な語が出現することが予想される。これらの語も物の力動的な移動を内的に示している語として、それぞれ力動出来事語のカテゴリに分類されると考えられる。

力動出来事語は、初期動詞(primary varbs)の基礎となることが指摘されており(McCune, 2008)、日本語において、動作と音声に対応付けられるようになるとされる1歳2か月から1歳6か月(小林・麦谷, 2007)に力動出来事語がみられ始めると考えられる。そこで、本章では、これらのことをふまえたうえで、1歳2か月から1歳6か月にある母子の遊びの場面における、子どもの発話の場面や文脈から、移動、経路、図と地といった空間的、時間的な事象においてみられる発声から発話への発達的变化について検討する。そして、それらがみられた状況から、力動出来事語の分類である経路、図と地、移動出来事にカテゴリ分類し、日本語を学習している子どもの力動出来事的な状況における発声、および発話、さらにその出現順序について検討を行うことを目的とする。

第2節 方法

1. 事例

研究協力者は、生後1歳2か月の子ども2例(男児1例、女児1例)とその20代の母親である。

D児は、第1子、E児は、第5子である。いずれの母親も働いており、D児とE児は、普段、保育園に通っている。母親の学歴は、ともに高校卒業である。

D 児の家族構成は、父、母、祖母、D 児である。D 児の乳児期の発達の様子は、首の座り 2 か月、歩き始め 1 歳 1 か月である。初回（1 歳 2 か月時）に、D 児に実施した新版 K 式発達検査 2001 の結果は、P-M（姿勢・運動）：1 歳 1 か月、C-A（認知・適応）：1 歳 1 か月、L-S（言語・社会）：1 歳 9 か月、全領域：1 歳 2 か月、DQ：98 であった。また、5 か月時に実施した際は、P-M：1 歳 3 か月、C-A：1 歳 6 か月、L-S：1 歳 5 か月、全領域：1 歳 5 か月、DQ：98 だった。このときの KIDS（Kinder Infant Development Scale：乳幼児発達スケール）TypeB（以下、KIDS）の結果は、DQ：118 であった。

E 児の家族構成は、父、母、兄 3 人、姉 1 人、E 児である。乳児期の発達の様子は、首の座り 3 か月、はいはい 6 か月、歩き始め 1 歳 1 か月、初語 10 か月、指さし 10 か月である。初回（1 歳 2 か月時）に、E 児に実施した新版 K 式発達検査 2001 の結果は、P-M：1 歳 3 か月、C-A：1 歳 1 か月、L-S：1 歳 1 か月、全領域：1 歳 1 か月、DQ：93 であった。また、1 歳 5 か月時に実施した結果は、P-M：1 歳 5 か月、C-A：1 歳 4 か月、L-S：1 歳 5 か月、全領域：1 歳 4 か月、DQ：97 だった。このとき、KIDS の結果は、DQ：123 であった。

両事例の母親には、事前に本研究がことばの発達に関するものであり、今後ことばの支援へと生かすための基礎的な研究であることを説明した。初回の観察時に、本研究において、月 2 回 VTR によって録画をし、観察を行うこと、そして発達検査を行うことについて説明をし、同意を得た。資料については、研究終了後破棄するものとした。また、研究参加にあたって、子どもとの 1 対 1 でじっくり遊ぶということによって、子どもに対して新たな気づきが得られるということがあった。

2. 観察期間

観察期間は、それぞれの子どもの生後 1 歳 2 か月から生後 2 歳までの間で（D 児：20XX 年 X 月 12 日～20XX+1 年 X 月 15 日、E 児：20XX 年 X+3 月 26 日～20XX+1 年 X+1 月 22 日）、原則として月 2 回観察を行った。今回、対象としたのは、1 歳 2 か月から 1 歳 8 か月までであり（D 児：20XX 年 X 月 12 日～20XX 年 X+7 月 9 日、E 児：20XX 年～X+3 月 26 日～20XX+1 年 X+9 月 30 日）、D 児に関しては、D 児の病気、あるいは母親の都合等により、全 10 回、E 児は、全 13 回のセッションが対象となっている。

3. 手続き

研究協力のための訪問は、原則として月 2 回、2 週間に 1 度のペースで行い、D 児は母親の実家（毎週末実家に訪問している）に、E 児は家庭に観察者（筆者・女性）が訪問し、母

子が遊んでいる様子をビデオカメラによって 30 分間撮影を行った。1 回あたりの訪問時間は約 1 時間から 1 時間 30 分であった。ビデオは、家に訪問し、玩具とビデオカメラの用意ができ、子どもが落ち着いたところで撮影を開始した。ビデオカメラおよび、観察者は部屋の隅に位置した。部屋は、D 児は 6 畳程度、E 児は 8 畳程度の居間にて行った。録画は、研究協力者が部屋を離れたり、母親が電話にてたりした場合は、一時的に中断した。

遊びは、母子が床に座った状態で玩具を提示し、観察者が録画を開始した。玩具は、Herr-Israel & McCune (2006), McCune (1995, 2008) を参考に力動的な出来事が起こることを想定したものと、玩具としてなじみのあるものとして、以下のものを用意した。赤ちゃんの人形、女の子の人形、玩具の哺乳瓶、犬のぬいぐるみ、ポットとカップとソーサー、びっくり箱、ミニフード、ミニフードの入った容器、玩具のアイロン、玩具のお金、ミニカー 2 台 (トラックと乗用車)、トラック、入れ子のカップ、パズル、玩具のツールボックス (中に玩具の金槌、レンチ、ドライバー、ペンチが入っている)、ガラガラ、玩具の電話、子ども用のサングラス、絵本である。びっくり箱 (オルゴールを鳴らすと絵本「はらぺこあおむし」のあおむしのぬいぐるみが飛び出てくるもの)、ミニフードの入った容器、玩具のツールボックス以外はバケツに入れた状態で母子に提示した (サイズが大きく他の玩具が取り出しにくくなるためである)。例えば、絵本では、絵本の読み終わりにおける<経路・目的終了>が想定され、ミニフードの入った容器などは<図と地・包含>を、パズルや人形の衣服やサングラスなどは、はずす、あるいはつけるといった<図と地・付着>の場面が想定された。また、びっくり箱は、遊びの反復を誘う可能性から<移動出来事・反復>の場面に現れると考えた。その他の玩具においても、遊びのなかで物の受け渡しによって<経路・直示的経路>などが起こると考えられ、<経路・垂直的経路>に関しては、玩具を落とすなどの場面を、<移動出来事・閉塞>や<移動出来事・否定 (反転)>も遊びのなかで、母子とのやりとりのなかで出現すると考えた。

撮影は、母子から 1.5m 程度の距離をとり、子どもの体が画面全体に写るようにした。観察者は、部屋の端に座り、母子が働きかけてきた際は、不自然でないように最小限の対応を行った。例えば、D 児、E 児ともに観察中に観察者に玩具を渡すという働きかけをしてくることがあり、観察者は、玩具を受け取り、また D 児に返すようにした。

また、それぞれ、生後 1 歳 2 か月時、生後 1 歳 5 か月時に新版 K 式発達検査 2001 を 30 分間の観察の後に実施した。検査は、観察者が行った。さらに、KIDS の回答をそれぞれ母親にお願いし、記入してもらった。

4. 分析

分析は、VTR をもとに各事例の発声と発話、そして、そのときの文脈についてトランスクリプトを作成した。

トランスクリプトをもとに、MLU、発声と発話、そしてその文脈、発話における語彙に着目し、分析を行った。発話は、綿巻（1999）を参考に、自立語を含むものを発話として捉えた。また、以下の通り、語としてカウントされるものを含むものを発話とした。1語のカウントは、二宮（1985）、渡瀬（2004）を参考に、自立語 1語の発話、自立語プラス付属語（助詞や助動詞など）、擬音語や擬態語も 1語発話と数えた。幼児語 1語についても 1語発話とした。歌っている歌の歌詞は、語にカウントしなかった。非存在を示す「ない」は 1語と数えた。感嘆語は自立語に含まれているが、「あー」や「わー」といった音声は原言語的に使用されている場合や意味が認められない場合は、発声として捉えた。ただし、文中で意味のある使用がされている場合は、発話として数えた（例えば、「わーって」のような使い方における「わー」や「あーお化けだー」の「あー」など）。不明瞭な発話やジャーゴンを含む発話はそれらをのぞいた有意味語の部分をそれぞれ 1語とカウントした。

発声は、先にあげた 1語を含まないものとした。また、不明瞭な発話や歌については、発声としてカウントした。力動出来事的な状況において出現した発声（例えば、「あ」や「ん」、「え」など）については、意味のある発声として力動出来事的な状況における発声として検討した。

また、研究協力者が部屋の外へ出たり、電話に出たりしている場面は、分析から外した。

力動出来事的な状況における音声は、McCune（2008）を参考に、現実または潜在的な状況について表現している音声を対象とし、対象や人、出来事の変化について言及するものとした。そして、力動出来事的な状況における発話および発声をそれぞれ、経路（path）の垂直的経路（vertical path）、直示的経路（deictic path）、目的終了（path-end point）、図と地（figure/ground）の包含（containment）、付着（attachment）、移動出来事（motion event sequence）の、閉塞（occlusion）、反復（iteration/conjunction）、否定（反転）（negation（reversal））の 8つに分類した。

経路は、空間的な可逆性に関わる語であり、垂直面に関するもの（垂直的経路）、自己と関係したもの、または人との接近や距離などの直示的な面に関するもの（直示的経路）、行為の完成や終わりを示すもの（目的終了）を分類した。

図と地は、図と地の位相的な関係を示すもので包含と付着にわけた。容器の関係のよう

な入れる物と入れられるものの包含関係と、対象とくっつく、あるいは離れるといった可逆的な接近に関する付着に分類した。

移動出来事は、予期あるいは反対を望む事態と現在の状態に関する心的な比較を示すものを分類し、ものがなくなるといった不在の状況は閉塞、繰り返しの要求は反復／結合、反対の状況を望む場面は否定あるいは反転に分類した。

力動出来事的の状況における音声は、協議しながら分類し、出現に関しては、場面状況に着目して分析を行った。母子の遊びは、玩具を提示し、母子によって自由な流れで行ってもらったが、McCune (2008) の力動出来事語が産出された場面の例を参考に、物の受け渡しの場面など力動的な状況を示す遊びに、特に着目して分析を行った。また、同じ力動出来事的な状況（同じ玩具や同じ遊びなど）に着目し、力動出来事的な状況における発声から発話への変化について検討した。

第3節 結果

1. MLU

D児の各セッションにおけるMLUは、1.00～1.41の間で推移していた(図4-1)。E児の各セッションにおけるMLUは、初回は発話が未出現であったため、それを除くと1.00～1.47の間であった(図4-2)。両事例とも、Brown (1973) の段階のI初期の初期の語結合の発話が発現する時期であった。しかしながら、両事例ともまだ発話数自体が少なかつたため、各セッションで出現した総発話数によってMLUを算出した。

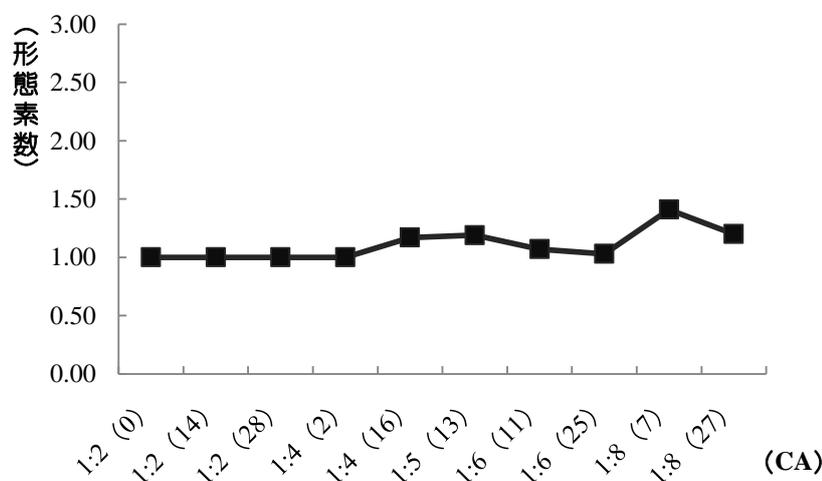


図4-1 D児のMLUの推移

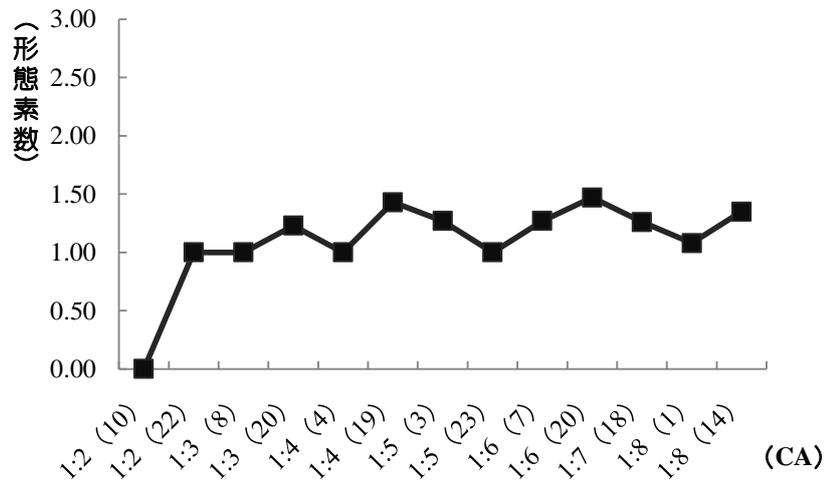


図4-2 E児のMLUの推移

2. 発話数

各事例のセッションごとの発話数について示したものが、図4-3、図4-4である。発話は、自立語を含むものを数えた。そのうち、1語発話は、自立語1語の発話、自立語プラス機能語、擬音語や擬態語1語のものを1語発話とし、自立語2語の連鎖があるものについては2語発話とした。

D児、E児ともに、初回のセッションでは、まだ発声を中心であり、発話数は、それぞれ16回と3回であった。発話数は、セッションによってばらつきがみられたが、最後のセッションでは、D児は77の発話、E児は68の発話が出現を示した。

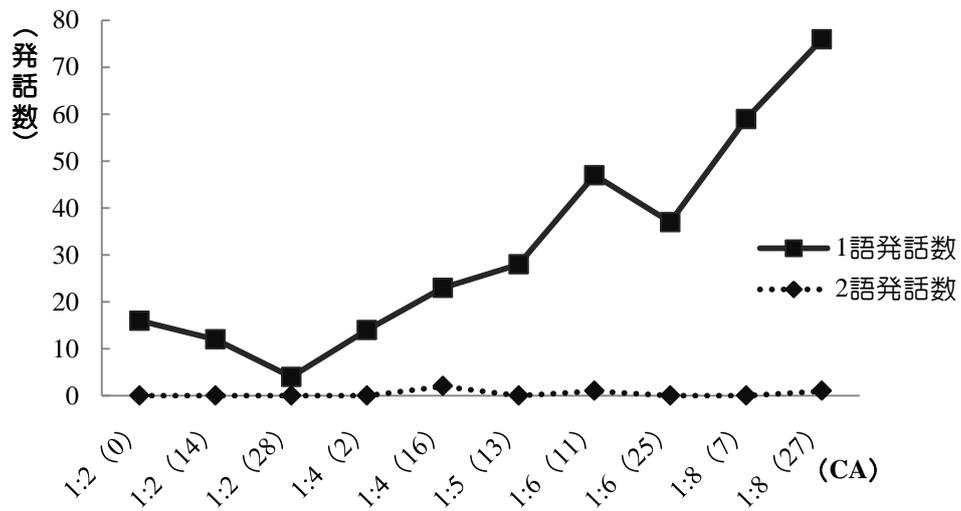


図4-3 D児の発話数の推移

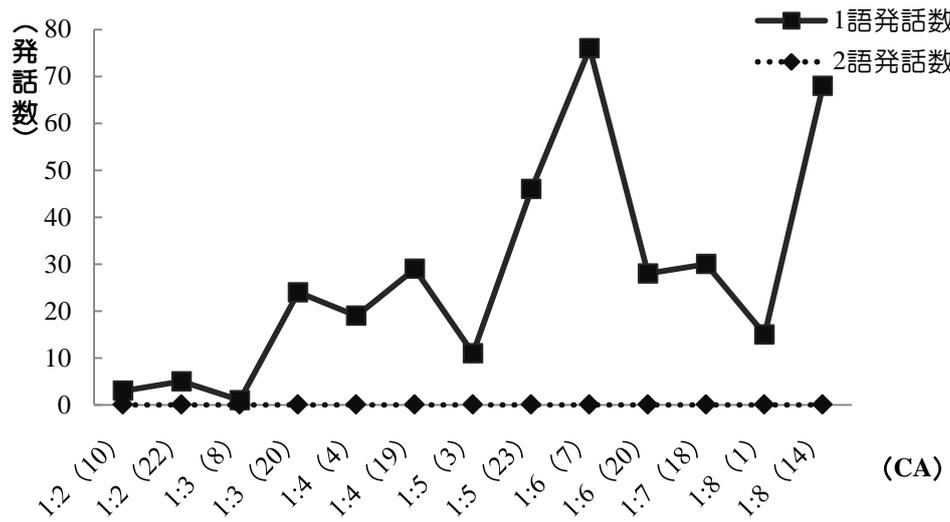


図4-4 E児の発話数の推移

3. 語彙

それぞれの事例のセッションごとの語彙数および、新出語彙数を示したものが図 4-7、図 4-8 である。語彙は、1 語として数えるものをそれぞれカウントし、異なりの種類数を示している。

D 児では、1 回目の 1 歳 2 か月 0 日では、物の受け渡しの際に、「はい」の音韻未熟である「あい」や、飲み物を要求するときに「お茶」、食べるふりの音である「あむ」がみられた。このときはまだ、音韻の未熟さがあつた。D 児は、徐々に、語彙数が増えていき、最後のセッションである、1 歳 8 か月 27 日では、28 語の異なりの語彙、17 語の新出語彙が出現した。また、母親との命名遊びを楽しんでおり、玩具のミニフードの命名、例えば、「いちご」や「スイカ」などがみられた。全セッションを通して、D 児では、57 語の異なりの語彙が出現した。

E 児の語彙に関しては、1 回目のセッションの 1 歳 2 か月 10 日では、遊びのなかで「ばあ」や、「あれ」が出現した。1 歳 3 か月 20 日以降に徐々に語彙の種類が増え、最後のセッションである、1 歳 8 か月 14 日では、22 語の異なり語彙、10 語の新出語彙が出現した。E 児では特に、擬音語によって遊びのなかの動作について表現することがみられた。例えば、玩具を引き抜く際に、「ポーン」や、物を投げる際の「ぼい」などである。また、「あれ」や「よし」、「あら」といった感嘆の表現が出現した。E 児では、全セッションを通して 53 語の異なりの語彙がみられた。

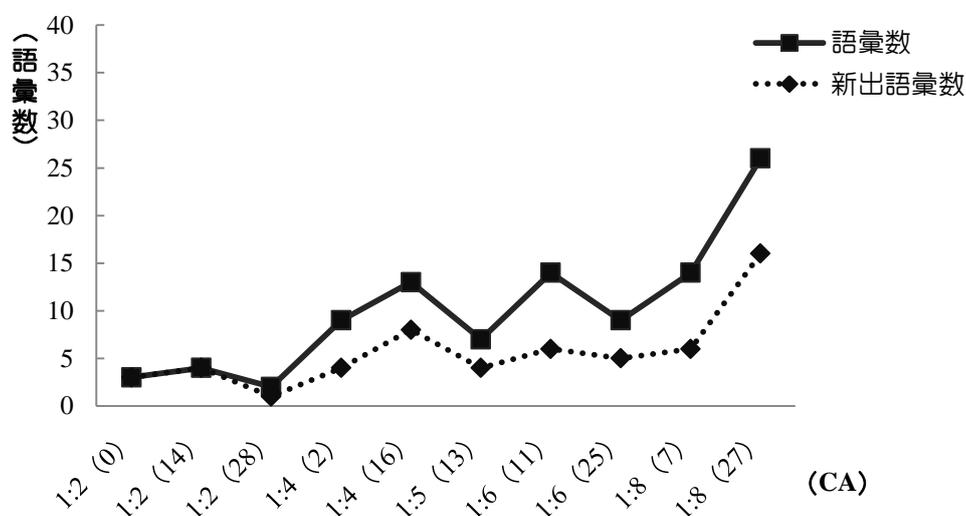


図4-7 D児の語彙数の推移

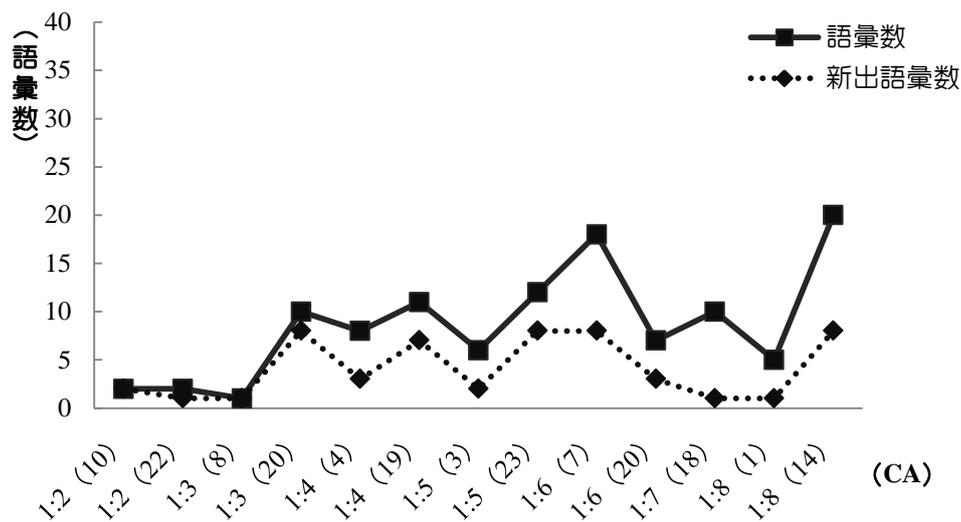


図4-8 E児の語彙数の推移

4. 力動出来事的側面における発声と発話

力動出来事的状況における発声および発話は、〈経路・垂直的経路〉、〈経路・直示的経路〉、〈経路・目的終了〉、〈図と地・包含〉、〈図と地・付着〉、〈移動出来事・閉塞〉、〈移動出来事・反復〉、〈移動出来事・否定（反転）〉のカテゴリに分類された。力動出来事的な状況における発声と発話の同じ状況における発達的变化を表4-1から表4-19にまとめた（D児：表4-1から表4-10，E児：表4-11から表4-19，Mo.は母親を示す）。また，各事例の力動出来事的な状況における発声，および発話については，資料に示す。

D児の〈経路・垂直的経路〉では，ミニフードの入れ物が倒れる状況で，1歳5か月13日には「あー」が，1歳8か月7日には「落ちた」が出現した。また，玩具の包丁を振りおろすときに，「プシー」や，ミニフードの入れ物の蓋を拾おうとしながら「ないない」，毛布を指さしながら寝ることを要求する「ねんね」といった，擬音語や幼児語がみられた。

〈経路・直示的経路〉では，ミニフードを差し出すとき，1歳2か月0日では「はい」の音韻未熟である「あい」だったが，1歳2か月14日では「どうぞ」，1歳5か月13日には「これ」が出現した。こういった変化がみられる間にも，同じ場面で「え」や「あ，あ」や「ん」といった発声が継続してみられた。ミニフードを受け取る場面では，1歳2か月0

日は「えい」が、1歳4か月16日には「うん」、1歳8か月17日には「はい」がみられた。これらは、別の玩具の受け渡しの場面でも出現した。また、玩具を取ろうとするとき、例えば、母親からガラガラを取ろうとするとき、1歳2か月0日は「あーい」や「え」がみられ、1歳2か月14日には「あっあっ」に加え、「どうぞー」が出現した。また、リモコンがほしくて手を伸ばしながら「ママ」と要求することがみられた。離れたものを指し示して要求するとき、例えば、1歳4か月16日にはジュースを「ジュース」、アンパンマンのお面は「アンパ」と物の名称によって示すことがみられた。ミニフードを食べるふりをするときには「あむ」や「まんまんまんまん」といった擬音語がみられた。1歳4か月16日では、ジュースを飲むふりをしながら「ジュースごくごく」が出現した。

<経路・目的終了>は、玩具の包丁でミニフード魚が切れたときに「いえーい」や「できたー」がみられた。「いえーい」は、玩具のサングラスを操作しているときにも出現した。

<図と地・包含>では、ミニフードの入れ物を開けてほしいとき、1歳5か月13日には「え」と「開け」が出現していたが、1歳8か月7日には、「開けて」がはっきりみられ始めた。1歳8か月7日には、入れ子に蓋をする要求においても「開いて」が出現した。ミニフードの入れ物からミニフードを取り出すときには、「え」または「これ」がみられた。反対に物を入れる場面では、びっくり箱の中にぬいぐるみをしまう状況が、「お」（1歳4か月2日）や「う、う」（1歳6か月25日）によって表現された。

<図と地・付着>では、擬音語がみられた。例えば、玩具の金槌で叩く際に「トントントントン」や「がががが」である（1歳8か月17日）。ミニフードの入れ物の蓋がはずれたときには、「わ」がみられた。自らミニフードの蓋を外すことができた1歳5か月13日には「ん、でったー」が出現した。

<移動出来事・閉塞>では、持っていたミニフードを落としたときに「あー」や「わー」がみられた。反対に物を見つけたときには「あった」が出現した。また、1歳8か月17日には、ミニフードを片づけながら「なーいない」がみられた。

<移動出来事・反復>では、ジュースを要求するときに、1歳4か月16日では「ジュース」の名称による表現に加えて、「あーわー」や「いー」といった発声 appeared。もう一度繰り返してほしいことの要求は、びっくり箱を渡すことによって示され、1歳4か月2日には「はい」、1歳5か月13日には「あっあっ」や「あ、が」がみられた。同じ場面において発話がみられた以降も語になっていない発声による表現が継続してみられた。

<移動出来事・否定（反転）>では、母親にくすぐりをやめてほしいとき、1歳4か月

16日には「や」や「あー」が出現した。1歳6か月11日では「や」、1歳8か月7日には「痛い」によって否定を示した。

D児では、力動出来事的な状況において発話が登場した後も「あ」や「ん」、「え」などの発声による表現が継続した。また、擬音語や幼児語による力動出来事の表現がみられた。

E児の<経路・垂直的経路>は、抱っこを要求する場面で、1歳3か月8日は「あー」、1歳5か月23日には「うー」と「お、おー」が出現した。1歳6か月7日と1歳7か月18日では「ママ」がみられた。1歳8か月1日には「こ」と「抱っこ」が出現した。

<経路・直示的経路>では、パズルを渡すとき「ん、ん」(1歳4か月19日)と「え、え、え」(1歳5か月23日)の発声がみられたが、1歳6か月7日には「ママ」が出現した。玩具を取ろうとする場面では、1歳4か月4日はミニフードの牛乳パックを取ろうとして「あ、あ」がみられた。1歳5か月3日には、母親の持つミニフードを取ろうとしながら「ほしーほしー」が出現した。また、ドアを指さして別の部屋を示す際に、1歳5か月23日は「ああー」や「んー」がみられていたが、1歳6か月7日には「パパ(父親が指をさしている部屋にいる)」が出現した。さらに、1歳6か月20日には「あっち」がみられた。

<経路・目的終了>では、1歳6か月7日に玩具の財布にコインを入れて「よし」が出現した。また、犬のぬいぐるみをトラックに乗せたときにもみられた(1歳8か月1日)。

<図と地・包含>では、玩具のツールボックスを開けようとして「ばー」(1歳3か月20日)と「と、と」(1歳4か月19日)がみられた。1歳6か月7日には「開けて」が出現した。この「開けて」は、玩具の財布にコインを入れる場面でも出現した(1歳6か月7日)。びっくり箱の蓋を閉めようとするときには、「えー」(1歳2か月22日)や、「あー」、「えーあー」(1歳3か月20日)がみられた。1歳4か月19日には「よし」が出現した。

<図と地・付着>では、玩具のサングラスをつけてもらおうと母親に渡す場面があり、渡しながら、1歳5か月23日には「ん」や「あ」が、1歳6か月7日には、「はい」が出現した。パズルのピースをはずすという場面では1歳4か月4日に「ばー」が出現した。

<移動出来事・閉塞>では、ミニフードのジュースの中身が入っていないときに「ないない」が出現した(1歳3か月20日)。また、ミニフードのみかんが転がったときには「あれ」がみられた(1歳3か月20日)。びっくり箱で遊ぶ場面では、ぬいぐるみが飛び出てくるのを予測して「ばー」が1歳7か月18日に出現した。

<移動出来事・反復>は、びっくり箱をしてほしいときに、「ん」や「え」がみられた。また、1歳5か月23日にはびっくり箱のぬいぐるみのいもむしの意味である「ブーン」で

反復の要求を示した。

<移動出来事・否定（反転）>では、母親の行動に対して発声がみられた。例えば、母親がミニフードの入れ物を閉めようとしていると、手を払いのけながら「あー」が出現した（1歳8か月14日）。

D児とE児では、物を渡す際（<経路・直示的経路>）に、「あー」や「ん」、「はい」が共通した。物を受け取るときは「はい」、物を取ってほしいときには取ってほしい物の名称を発話することがみられた。<図と地・包含>では、容器の蓋を開けたいときに「開け」や「んー」がみられた。<図と地・付着>は、くっ付けてほしいときに「んん」、物をくっ付けたときに「ちゅ」、はなしたときに「あー」、叩くときに「トントントン」が出現した。<移動出来事・反復>は、「あー」が遊びの反復の要求でみられた。<移動出来事・否定（反転）>においても、物を片づけてほしいときに「あー」による要求が出現した。D児、E児ともに、「あ」や「ん」は、語がみられた後も継続して出現した。また、擬音語や幼児語による表現が出現し、同じ状況において、さまざまな擬音語がみられた。

表4-20に、今回、力動出来事的な状況において出現した語をまとめた。力動出来事的な状況にみられた語には、物の名称や人の名前などが含まれていたが、それらは、今回、力動出来事語として明確に示すために、はずした。両事例の力動出来事的な状況での発話には、共通したものがあつた。<経路・直示的経路>は、「開けて」、「開け」、「うん」、「これ」、「はい」が物を渡す状況で出現した。その他の状況では、食べるふりの「まん」や「あん」の擬音語が出現した。<図と地・包含>での開ける要求のときは、「開け」、「開けて」が共通した。<図と地・付着>では、物を叩く場面で「トントントン」が、<移動出来事・閉塞>では「あつた」の語が2例で共通して出現した。

表4-1 D児の垂直的経路の側面における音声

McCune (2008) の分類	玩具・遊び	文脈	CA	音声	撥音		
up	ミニフード	ミニフードの入れ物の蓋を拾おうとしながら	1: 8 (27)	ないない	nainai		
	ツールボックス	玩具の金槌を持ち上げて観察者に見せる	1: 2 (0)	ない	nai		
	身体的動き	Mo.に手を伸ばしながら	1: 4 (16)	ねんね	nenne		
			1: 4 (16)	あ、あ、あ、あ	alalala		
			1: 8 (7)	えっえっ	e'e'e?		
			1: 6 (11)	ゴー	go:		
down	ミニフード	ミニフードの入れ物が倒れて	1: 5 (13)	あー	aa:		
			1: 8 (27)	あ	a		
			1: 8 (27)	落ちた	ot[ita		
			1: 5 (13)	あー	a:		
			1: 8 (7)	あー	a:		
			1: 8 (7)	わー	wa:		
	ツールボックス	玩具の包丁を振りおろしながら 足の下にミニフードのレモンとたまごがあるのをMo.に指をさして 顔を見ながら知らせる 玩具を叩いて玩具のツールボックスから玩具が落ちたのを見て	1: 6 (11)	プシー	pu:si:		
			1: 8 (7)	あつた	atta		
			1: 4 (2)	あー	a:		
			身体的動き	倒れそうになって	1: 2 (0)	ばきゅばん	bakjuban
					1: 4 (16)	おー	o:
					1: 6 (25)	ねんね	nenne
その他	飲んだジュースがこぼれて	1: 4 (16)	あー	a:			
		1: 4 (16)	あ	a			

表4-2 D児の直示的経路の側面における音声1

McCune(2008)の分類	玩具・遊び	文脈	CA	音声	撥音
here/thanks	ミニフード	ミニフードのチョコの箱をMo.に渡しながら (Mo.はD児の斜め後ろ)	1: 2 (0)	あい	ai
		ミニフードの梨をMo.に渡す	1: 2 (0)	あい	ai
			1: 2 (14)	どーぞー	do:zo:
			1: 2 (14)	え	e
			1: 2 (14)	だい	dai
			1: 2 (14)	どうぞ	douzo
			1: 4 (16)	てい	tei
		ミニフードのいちごをMo.に差し出しながら	1: 2 (0)	あい	ai
			1: 2 (28)	えっえ	e?e?
			1: 4 (2)	ん	n
ミニフードのチョコの箱をMo.に渡しながら、大きな声で	1: 2 (0)	あー	a:		
ミニフードの入参を食べてMo.を見てMo.に差し出して	1: 2 (0)	あいあ	aa		
ミニフードのスイカをMo.に渡しながら	1: 2 (0)	だー	da:		
	1: 2 (0)	あい	ai		
	1: 2 (14)	まんま	manma		
	1: 2 (28)	え	e		
ミニフードのポテトをMo.の方を見て渡しながら	1: 2 (0)	あ、あ	aa		
ミニフードのたまごをMo.に渡しながら	1: 2 (0)	え	e		
Mo.にミニフードのレモンに差し出しながら	1: 2 (0)	あいあ	aa		
	1: 4 (16)	あーてー	a:te:		
ミニフードのマメを食べるふりをした後、Mo.にマメを差し出して	1: 2 (0)	ああー	aa:		
ミニフードのレタスを食べるふりをした後、Mo.にレタスを差し出して	1: 2 (0)	でーでー	dede:		
ミニフードの入れ物からミニフードの箱を取り出してMo.に差し出しながら	1: 2 (14)	どーぞー	do:zo:		
ミニフードの入れ物からミニフードのドーナツを取り出し観察者に見せた後、Mo.の方に差し出して	1: 2 (14)	どーぞー	do:zo:		
ミニフードの梨を口にくわえて手にミニフードのきゅうりを持ち、きゅうりをMo.の方に差し出して	1: 2 (14)	うー	u:		
ミニフードのパンを観察者の方に差し出しながら	1: 2 (14)	ん	n		
ミニフードのパンをMo.に渡す	1: 2 (28)	あ	a		
	1: 4 (16)	あい	ai		
ミニフードの魚をMo.に差し出しながら	1: 2 (28)	えっえっ	e?e?		
	1: 6 (11)	あ	a		
ミニフードのポップコーンの箱をMo.に差し出して	1: 2 (28)	ん	n		
ミニフードのトウモロコシを観察者に差し出しながら	1: 2 (28)	あ	a		
ミニフードのコーヒーの箱をMo.に渡しながら	1: 2 (28)	え	e		
	1: 2 (28)	え	e		
Mo.の方にミニフードのジャガイモを差し出して	1: 2 (28)	あ	a		
ミニフードのジュースをMo.に手渡ししながら	1: 4 (16)	ジュース	dʒu: su		
ミニフードのカレールウをMo.に手渡ししながら	1: 5 (13)	これ	kore		
	1: 5 (13)	これ	kore		
ミニフードの箱を観察者に差し出しながら	1: 2 (28)	ん	n		
	1: 2 (28)	えー	e:		
Mo.にガラガラを差し出されると、それを受け取りながら	1: 2 (14)	てーてー	tete:		
Mo.にミニフードのレモンを手渡されて、それを受け取って	1: 2 (0)	えい	ei		
ミニフードのレモンを受け取って	1: 4 (16)	てん	ten		
	1: 4 (16)	うん	un		
ミニフードの入れ物をMo.から渡されて	1: 8 (27)	はい	hai		
	1: 8 (27)	はい	hai		
ミニフードの魚をくはいと渡されて	1: 8 (27)	はい	hai		
ミニフードのたまごをMo.の方におく	1: 2 (28)	あ	a		
ミニフードのホットドッグを取り出して	1: 8 (27)	はい	hai		
ミニフードのたまごを取りながら	1: 8 (7)	あーむ	a: mu		
ミニフードの入れ物をMo.の方に持って行くことしながら	1: 8 (7)	開けて	akete		
	1: 8 (7)	開け	ake		
	1: 8 (7)	えっえっ	e?e?		
ミニフードの入れ物の中を捜ころびながら探って	1: 4 (16)	うー	u:		
ミニフードの入れ物の中に手を入れ何かを取ろうとして	1: 8 (7)	ん	n		
ミニフードの入れ物の中に手を入れ何かを取ろうとして取れなくてMo.に取ってほしいと顔を見ながら	1: 8 (7)	て	te		
ツールボックス	玩具のツールボックスの中身を渡すときに	玩具の金槌をMo.に渡すときに	1: 2 (0)	あー	a:
		玩具のレンチをMo.に差し出して	1: 2 (0)	うあー	ua:
			1: 2 (0)	あい	ai
			1: 2 (0)	あい	ai
			1: 2 (28)	ん	n
		玩具のドライバーをMo.に差し出し、渡しながら	1: 2 (0)	あい	ai
			1: 2 (0)	あい	ai
		玩具の赤いレンチをMo.に渡して	1: 2 (0)	んんー	nn:
			1: 2 (0)	あー	a:
		玩具のドライバーを観察者の方に差し出す	1: 2 (28)	ん	n
		玩具のペンチを観察者の方に差し出す	1: 2 (28)	えー	e:
		玩具の赤いレンチを観察者の方に差し出す	1: 2 (28)	ん	n
		玩具の金槌を観察者の方に差し出して渡す	1: 2 (28)	んー	n:
		玩具のこぎりを観察者の方に差し出す	1: 2 (28)	ん	n
		玩具のツールボックスを開けてほしくて	1: 4 (2)	どーぞ	do:zo
	1: 6 (11)	ん	n		
	1: 6 (11)	ん、ん、ん	nnn		
	1: 8 (27)	開ける	akeru		

表4-3 D児の直示的経路の側面における音声2

McCune(2008)の分類	玩具・遊び	文脈	CA	音声	撥音
here/thanks	びっくり箱	Mo.にびっくり箱を手渡ししながら	1:4 (2)	ここ	koko
			1:4 (2)	ここ	koko
			1:4 (2)	はい	hai
			1:6 (25)	え	e
			1:6 (25)	え	e
			1:5 (13)	ん	n
			1:6 (25)	え	e
			1:6 (25)	あ	a
			1:6 (25)	え	e
			1:6 (25)	え	e
			1:6 (25)	ん	n
			1:6 (25)	ん	n
			1:5 (13)	わーわ	wa:wa
			1:6 (25)	え	e
			1:6 (25)	え	e
	1:4 (2)	あ	a		
	1:4 (2)	ここ	koko		
	1:5 (13)	あっあっ	a?a?		
コップとカップ	Mo.に玩具のコップを差し出しながら		1:2 (28)	あ	a
			1:2 (28)	あ	a
			1:2 (28)	あー	a:
			1:2 (0)	あーい	a:i
			1:2 (0)	あーい	a:i
			1:2 (0)	んんー	nn:
			1:2 (0)	あーい	a:i
			1:2 (0)	あーい	a:i
			1:2 (0)	あーい	a:i
			1:2 (0)	あーい	a:i
入れ子	入れ子をMo.に渡して		1:2 (0)	あっあっ	a?a?
			1:2 (0)	あい	ai
			1:4 (16)	どぞ	dozo
ガラガラ	ガラガラをMo.に渡して	入れ子に蓋をしたかったがうまくはめられなくてMo.の方に持って行きながら	1:8 (7)	開け	ake
			1:2 (0)	あ、あ、あ、あ、あ	ajajajaja
			1:2 (0)	あい	ai
			1:2 (0)	えーい	e:i
			1:2 (0)	えー	e:
			1:2 (0)	ああー	aa:
			1:2 (0)	あーい	a:i
			1:2 (0)	うーあー	u:a:
			1:2 (14)	あ	a
			1:2 (14)	どうぞー	douzo:
			1:2 (0)	あ、あ	aja
			1:6 (11)	はい	hai
			1:6 (11)	はい	hai
			1:6 (11)	はい	hai
			1:6 (11)	ん、ん	nn
	1:2 (0)	あいあ	aja		
アイロン	玩具のアイロンをした後観察者に差し出しながら		1:8 (27)	ん、ん、ん	nnnn
			1:2 (14)	ん	n
			1:2 (14)	あーあー	a:a:
			1:2 (14)	ママ	mama
			1:2 (14)	ママ	mama
ミニカー	玩具入れのパケツからミニカーを取り出しMo.の方に手を持って行って（顔はパケツの方に回っている）		1:6 (11)	あ	a
			1:6 (11)	はい	hai
			1:6 (11)	はい	hai
mine	ミニフード	Mo.の手からミニフードの梨を取りながら	1:2 (14)	でー	de:~
		Mo.が持っているミニフードの子キツを取りたくて手を伸ばしながら	1:6 (11)	あ、あ、	aja
			1:6 (11)	あ、あ、	aja
		手を伸ばしてMo.の持っているミニフードのコーヒーの箱を要求する	1:2 (28)	ん	n
		ミニフードの入れ物の方に手を伸ばしながら	1:8 (27)	ん、ん	nn
			1:8 (27)	これ	kore
			1:8 (7)	え	e
			1:2 (0)	ん	n
			1:2 (0)	え	e
			1:2 (0)	え	e
ツールボックス	渡したものを（玩具のツールボックスの中身）を返すように手を伸ばしながら要求して		1:4 (2)	こ	koko
			1:2 (0)	ああーい	aa:i
			1:2 (0)	あーい	a:i
			1:2 (0)	ええーい	ee:i
			1:2 (0)	え	e
			1:2 (0)	え、え	e:e
			1:2 (0)	あ、あ	aja
			1:2 (14)	あっあっ	a?a?
			1:2 (14)	あー	a:
			1:2 (14)	あ	a
			1:2 (14)	どうぞー	douzo:
			1:2 (14)	あ	a
			1:2 (0)	え	e
			1:2 (0)	え	e
			1:2 (14)	あー	a:
	1:2 (14)	でいつ	deiz?		
ぬいぐるみ	Mo.の手から犬のぬいぐるみを取って		1:6 (11)	あい	ai
			1:8 (27)	これ	kore
入れ子	入れ子を見た後、取るうとして		1:4 (16)	あ、これちゅかう	aikoret?ukau
			1:2 (14)	えっえっ	e?e?
ミニカー	トラックのミニカーを取ろうとしながら		1:2 (14)	えー	e:
			1:2 (14)	えー	e:
その他	毛布をMo.から取るうとして		1:6 (25)	ええー	ee:
			1:4 (16)	ママ	mama
			1:5 (13)	あっあっ	a?a?

表4-4 D児の直示的経路の側面における音声3

McCune(2008)の分類	玩具・遊び	文脈	CA	音声	撥音			
there	びっくり箱 人形 その他	Mo.がびっくり箱を購らすとびっくり箱の絵を指さしながら	1: 4 (2)	わ	wa			
		赤ちゃんの人形を指さしながら	1: 4 (16)	あ	a			
		外を指さしながら	1: 4 (16)	わ、あ	wala			
		台所の方を手で指す	1: 4 (16)	あー	a:			
		Mo.に何ぞれくジュース?>といわれてMo.の方を指さしながら	1: 4 (16)	ジュース	dʒu: su			
		遠方を指さしながら	1: 5 (13)	あつあつ	a?a?			
		本物のジュースの入ったコップを指さしながら	1: 4 (16)	ジュース	dʒu: su			
			1: 4 (16)	あーうー	a: u:			
			1: 4 (16)	ジュース	dʒu: su			
			1: 4 (16)	あーわー	a: wa:			
			1: 4 (16)	いー	i:			
			1: 8 (7)	え	e			
			1: 8 (7)	これ	kore			
			1: 8 (27)	アンバ	anapa			
			1: 8 (27)	アンバ	anapa			
			1: 8 (27)	アンバ	anapa			
		その他	eat	ミニフード	ミニフードのみかんを食べるふりをしながら	1: 2 (0)	やあ	yaa
ミニフードのヌメを食べるふりをしながら	1: 2 (0)				あむー	amu:		
ミニフードのホットドックを食べるふりをしながら	1: 5 (13)				あーあ	a: a		
ミニフードのカレールウを食べるふりをしながら	1: 5 (13)				でたー	detu:		
ミニフードの子キンを食べるふりをしながら	1: 6 (11)				あん	an		
ミニフードのレモンを食べるふりをしながら	1: 8 (7)				あーむ	a: mu		
	1: 8 (7)				まんまんまんまん	manmanmanman		
ミニフードの桃を食べるふりをしながら	1: 8 (27)				あーむ	a: mu		
	1: 8 (27)				あーむーむー	a: mu: mu:		
ミニフードのきゅうりを食べるふりをしながら	1: 8 (27)				はーあ	ha: a:		
ミニフードのいちごを食べるふりをしながら	1: 8 (27)				あむんーんーんー	amun: n: n:		
玩具のスプーンで食べるふりをしながら	1: 8 (7)				あーむ	a: mu		
ミニフードのジュースをMo.から受け取って飲むふりをしながら	1: 4 (16)				ジュースごくごく	dʒu: sugokugoku		
犬のぬいぐるみを自分の方に寄せて、食べたふり	1: 8 (7)				あーむ	a: mu		
	1: 8 (7)				あーい	a: i		
	1: 8 (7)				あーつ	a: ?		
	1: 8 (7)				まままま	mamamama		
	1: 8 (7)				あむあむあむあむ	amuamuamuamu		
	1: 8 (7)				まままま	mamamamama		
	1: 8 (7)				ままままー	mamamama:		
その他	おやつを食べながらMo.の方を見てうなずきながら				1: 5 (13)	んーん、んーん、んー	n: n: n: n: n	
go	車				ミニカーのトラックを走らせながら	1: 8 (27)	シュー	ʃu:
					トラックを走らせながら	1: 8 (27)	たー	ta:
		その他	Mo.の方に近づこうとしているが、Mo.に手で遮られて前に進めなくて	1: 2 (0)	うえー	ue:		
	Mo.の口にミニフードのみかんを持って行きながら	1: 5 (13)	あ	a				
want	その他	Mo.がミニフードのジュースをおくとジュースを指さしながら要求して	1: 4 (16)	ジュース	dʒu: su			

表4-5 D児の目的終了の側面における音声

McCune(2008)の分類	玩具・遊び	文脈	CA	音声	撥音	
here/there	ミニフード	玩具の包丁でミニフードの魚を切ることができてMo.がくやったー>というハイタッチして	1: 6 (11)	いーい	ie: i	
		半分になるミニフードの魚を玩具の包丁で切ることができて	1: 6 (11)	できたー	dekita:	
		入れ子	入れ子に蓋ができて	1: 8 (7)	あー	a:
		人形	女の子の人形に玩具の哺乳瓶でミルクをあげることができてMo.の顔を見ながら	1: 8 (7)	わー	wa:
		サングラス	玩具のサングラスが開いた後、Mo.の方を見て手を出して、ハイタッチして	1: 6 (11)	いーい	ie: i

表4-6 D児の包含の側面における音声

McCune (2008) の分類	玩具・遊び	文脈	CA	音声	撥音
open	ミニフード	ミニフードの入れ物の蓋を開けて	1: 4 (2)	わー	wa:
			1: 4 (2)	わ	wa
			1: 5 (13)	開いたー	aɪta:
			1: 5 (13)	でったー	detta:
			1: 5 (13)	あ	a
			1: 5 (13)	ん、でったー	ndetta:
			1: 5 (13)	え	e
			1: 5 (13)	開け	ake
			1: 6 (11)	ん、ん	n/n
			1: 6 (11)	ん、ん、ん	n/n/n
			1: 8 (7)	開けて	akete
			1: 8 (7)	あ、あ	a/a
			1: 8 (7)	開けて	akete
			1: 8 (7)	あけ	ake
			1: 8 (7)	えっえっ	e?e?
			1: 4 (2)	どーぞ	do:zo
			1: 6 (11)	ん、ん、ん	n/n/n
			1: 6 (11)	ん	n
			1: 8 (27)	開ける	akeru
			1: 8 (27)	開ける	akeru
1: 8 (27)	開ける	akeru			
close	ミニフード	ミニフード入れ物の蓋をMoに開けてほしくて	1: 5 (13)	ん	n
			1: 5 (13)	あ、が	a/ga
			1: 6 (25)	あ	a
			1: 8 (7)	開いて	aite
			1: 6 (11)	いえーい	e:i
			1: 5 (13)	え、えー	e/e
			1: 5 (13)	んんん	nnn
			1: 5 (13)	あ	a
			1: 5 (13)	あー	a:
			1: 8 (7)	あー	a:
out	ミニフード	ミニフードの入れ物からミニフードを出しながら	1: 8 (7)	開け	ake
			1: 2 (0)	えええ	eee
			1: 8 (27)	あっ、あー	a?/a:
			1: 8 (27)	え	e
			1: 8 (27)	これ	kore
			1: 2 (0)	ガーガ	ga:ga
			1: 4 (16)	あー	a:
			1: 5 (13)	あ	a
			1: 2 (14)	あー	a:
			1: 6 (25)	う、う	u/uu
in	ミニフード	ミニフードの入れ物の中を窺うびながら探りながら観察の方を見て	1: 4 (2)	お	o
			1: 2 (0)	んんー	nn:
			1: 5 (13)	あ	a
			1: 5 (13)	あ	a
			1: 2 (14)	あー	a:
			1: 6 (25)	う、う	u/uu
			1: 4 (2)	お	o
			1: 2 (0)	んんー	nn:
			1: 2 (0)	んんー	nn:
			1: 2 (0)	んんー	nn:

表4-7 D児の付着の側面における音声

McCune (2008)	玩具・遊び	文脈	CA	音声	撥音
stuck/fixed	ミニフード	ミニフードの入れ物の蓋をかぶせて	1: 5 (13)	あー	a:
			1: 4 (16)	ほほほ	hohoho
			1: 8 (7)	ちゅ	tju
			1: 6 (11)	あ	a
			1: 8 (27)	トントントントントント	tonontononton
			1: 8 (27)	やー	ja:
			1: 8 (27)	がががが	gasasaga
			1: 8 (27)	やー	ja:
			1: 8 (27)	だだだだ	dadadada
			1: 8 (27)	トントントント	tononton
			1: 8 (27)	よし	yosisi
			1: 8 (27)	よし	yosisi
			1: 6 (11)	ん、ん	n/n
			1: 8 (7)	あ	a
			1: 8 (7)	んんんー	nnn:
			1: 8 (27)	ん、ん	n/n
			1: 8 (27)	ん	n
			1: 8 (27)	ん、ん、ん、ん	n/n/n/n
			1: 8 (27)	ん、ん、ん	n/n/n
			unstick/invented	ミニフード	ミニフードの入れ物の蓋がはずれて
1: 4 (2)	わ	wa			
1: 5 (13)	あ	a			
1: 5 (13)	ん、でったー	ndetta:			
1: 6 (11)	たいだーい	taida:i			
1: 8 (27)	たいたい	taiai			
1: 6 (11)	プシー	pnsi:			
1: 6 (11)	プシー	pnsi:			
1: 8 (7)	開いて	aite			
1: 2 (0)	あっ、あ	a?/a:			
1: 8 (27)	あ、あ	a/a			
1: 8 (7)	ここち	kokotji			

表4-8 D児の閉塞の側面における音声

McCune (2008) の分類	玩具・遊び	文脈	CA	音声	撥音		
algone	ミニフード	ミニフードのレモンを落とすとして	1: 8 (7)	あー	a:		
		手に持っていたミニフードのレモンを落とすとして	1: 8 (7)	わー	wa:		
			1: 8 (7)	あー	a:		
		D児の足の下においたミニフードのレモンとたまごを取ろうとしながら	1: 8 (7)	あった	atta		
		足の下にミニフードのレモンとたまごを見つけて	1: 8 (7)	あった	atta		
		ミニフードのレモンとたまごが足の下にあることをMo.に知らせるため、顔を見ながら	1: 8 (7)	あった	atta		
		足の下をミニフードのレモンとたまごを探しながら	1: 8 (7)	あつてがつ	attega?		
		玩具のスプーンを取ろうとしながら	1: 8 (27)	おしまい	o imai		
		ミニフードのなますを拾いながら	1: 8 (27)	ないない	na: inai		
		ミニフードのマメを拾いながら	1: 8 (27)	ないない	na: inai		
		ガラガラ	ガラガラを拾いながら	1: 8 (27)	おしまい	o imai	
		その他	食べていたおやつをポードを床に落としてそれを探しながら	1: 5 (13)	あー	a:	
			ジュースを飲み終えて	1: 6 (25)	わー	wa:	
				1: 6 (25)	て	te	
				1: 8 (7)	て	te	
		bye	ミニフード	持っていたカップをミニフードの入れ物の中に片付けながら	1: 8 (27)	ないない	nainai
				持ったミニフードのマメをミニフードの入れ物の中に片付けながら	1: 8 (27)	ないない	na: inai
				ミニフードのスプーンを取ってミニフードの入れ物の中に片付けながら	1: 8 (27)	ないない	na: inai
ミニフードのなますを取ってミニフードの入れ物の中に片付けながら	1: 8 (27)			ないない	na: inai		
ミニフードの人参を取ってミニフードの入れ物の中に片付けながら	1: 8 (27)			ないない	na: inai		
ミニフードのパナオを取ってミニフードの入れ物の中に片付けながら	1: 8 (27)			ないない	na: inai		
ミニフードのジュースを取ってミニフードの入れ物の中に片付けながら	1: 8 (27)			ないない	na: inai		
玩具のカップをミニフードの入れ物の中に片付けながら	1: 8 (27)			あむーむ	amuu: muu		
ツールボックス	玩具のツールボックスの蓋を閉めながら			1: 8 (27)	おしまい	o imai	
びっくり箱	びっくり箱に手を振りながら			1: 5 (13)	はいばーい	baibu: i	
ガラガラ	ガラガラを玩具入れの中に入れながら			1: 8 (27)	おしまいだ	o imaida	

表4-9 D児の反復の側面における音声

McCune (2008) の分類	玩具・遊び	文脈	CA	音声	撥音
more	カップとコップ	玩具のカップで飲むふりをした後、Mo.にカップを向けて	1: 2 (0)	お茶	ot[ə]
	その他	ジュースを要求	1: 4 (16)	ジュース	dʒu: su
			1: 4 (16)	あーわー	a: wa:
			1: 4 (16)	いー	i:
			1: 6 (25)	だい	dai
			1: 6 (25)	ジュース	dʒu: su
			1: 6 (25)	え	e
			1: 8 (7)	んん	nn
			1: 8 (7)	ジュース	dʒu: su
	again	ミニフード	Mo.の方に手を伸ばしたままでミニフードのパンがどこにあるか聞いて	1: 8 (7)	パン
びっくり箱		びっくり箱をしてほしくて	1: 4 (2)	はい	hai
			1: 5 (13)	あっあっ	a?a
			1: 5 (13)	あ、が	alga
			1: 6 (25)	ん、ん	n/n
			1: 6 (25)	ん	n
			1: 6 (25)	え	e
			1: 6 (25)	あ	a
			1: 8 (27)	ぐるぐる	guruguru
ぬいぐるみ		犬のぬいぐるみを探して後ろを振り向きながら	1: 8 (7)	ワンワン	wanwan

表4-10 D児の否定（反転）の側面における音声

McCune (2008) の分類	玩具・遊び	文脈	CA	音声	撥音
no	ミニフード	MoがD児の口元にミニフードの魚を持って行って「あゆ」というと首を振って	1: 8 (7)	ううん	unn
		ミニフードのポテトチップスを食べようとして「本物じゃないから」とMoに	1: 8 (7)	ううんんー	un:nn:
	ツールボックス	手ははずされて首を振りながら	1: 2 (28)	んー	n:
		玩具の金輪を観察者の方に差し出した後、自分ですぐに取る	1: 5 (13)	あっあっ	a?a?
	びっくり箱	Moに渡しながら（見えない所に置いてほしくて）	1: 6 (25)	う、う	uju
		玩具の哺乳瓶を持っているところにMoが赤ちゃんの人形を出してくどうぞし	1: 2 (0)	あい	ai
	人形	て>という。赤ちゃんの人形をMoの方に差しながら	1: 8 (7)	えーえー	e:e:
		人形に飲ませてあげるとMoが女の子の人形の口に玩具の哺乳瓶を近づけよう	1: 6 (11)	やや	ja
	サングラス	MoにD児の足とMoが女の子の人形の口に玩具の哺乳瓶を近づけよう	1: 2 (0)	あいあ	ai
		を返してあげるとMoが女の子の人形の口に玩具の哺乳瓶を近づけよう	1: 6 (11)	嫌や	ja
	その他	MoにD児に玩具のサングラスをつけると、サングラスをはずして、Moに渡し	1: 4 (16)	や	ja
		ながら	1: 4 (16)	あー	a:
	その他	サングラスくつけてみたら?>といわれて首を振りながら	1: 6 (11)	や	ja
		Moにくすぐられてやめてほしくて	1: 8 (7)	痛い	itai
	back	その他	Moにくあっち向いて>体を反転させようときせられて嫌がって	1: 6 (11)	え、え
リモコンがほしくて手を伸ばしながら			1: 4 (16)	ママ	mama

表4-11 E児の垂直的経路の側面における音声

McCune (2008) の分類	玩具・遊び	文脈	CA	音声	撥音		
up	ミニフード	床にあるミニフードのみかんを取りながら	1: 3 (20)	はい	hai		
		床に落ちた玩具のボットの蓋を取って	1: 4 (4)	だ	da		
	入れ子	Moが入れ子のカップの中に玩具を入れカタカタ音を鳴らしていると、腕を振り	1: 4 (19)	ぱっ	pa?		
		上げながら					
	財布	玩具のコインを拾って玩具の財布に入れながら	1: 6 (7)	開けて	akete		
		玩具のコインを持って上に投げながら	1: 8 (14)	う、ほん	u:pan		
	人形	落ちた赤ちゃんの人形を取りながら	1: 8 (14)	はい	poi		
		落ちた玩具のサングラスを拾いながら、犬のぬいぐるみからはずれてサングラ	1: 4 (19)	んー	n:		
	サングラス	スをつけたくて	1: 6 (7)	あーあーあ	a:a:a		
		身体的動き	Moに抱っこしてほしくてMoに抱き付こうとしながら	1: 3 (8)	あー	a:	
	down	ミニフード	Moの膝に座ろうとしながら	1: 5 (23)	うー	u:	
				1: 5 (23)	お、おー	ojo:	
				1: 6 (7)	ママ	mama	
				1: 7 (18)	ママ	mama	
				1: 8 (1)	こ（抱っこ）の意味	ko	
				1: 8 (1)	抱っこ	dakko	
				1: 8 (14)	抱っこ	dakko	
				1: 3 (20)	はい	hai	
				1: 4 (4)	あっあっ	a?a?	
				1: 4 (4)	ママ	mama	
				1: 4 (19)	よしよし	yojiyo/i	
				1: 4 (19)	ママ	mama	
				1: 8 (14)	パンパン	panpan	
				Moの膝に座ろうとし立ち上がりながら	1: 4 (4)	んーんーんー	n:n:n:
				立ち上がりながら	1: 4 (19)	よいしょ	yojo
	1: 4 (19)	よし	yo/i				
	1: 6 (7)	たっち	tatt/i				
	1: 6 (7)	だ	da				
その他	天井を身上げながら向かを見つけて	1: 8 (14)	ち	ti			
	天井に虫がいて取ろうと指を指しながら	1: 8 (14)	あっち	att/i			
その他		1: 8 (14)	あ	a			
	虫がいた天井を指さして	1: 8 (14)	ブーン	bu:n			
down	ミニフード	ミニフードのたまごが落ちて	1: 4 (4)	ジャー	d5a:		
			1: 4 (19)	やー	ja:		
			1: 8 (14)	た	ta		
			ミニフードのみかんを玩具のカップに入れてそれを振っているとみかんが落ち	1: 4 (4)	て	te	
			て				
			1: 4 (4)	てー	te:		
			1: 4 (4)	ちゃー	t5a:		
			1: 4 (19)	ちーた	t5i:ta		
		ツールボックス	玩具のツールボックスを倒しながら	1: 4 (19)	だー	da:	
			財布	玩具の財布からコインを落として	1: 6 (7)	ちー	t5i
		その他		1: 6 (7)	ちゃー	t5a:	
				1: 6 (7)	ち	t5i	
				1: 6 (7)	ちゃ	t5a	
				1: 6 (7)	ちゃーち	t5a:t5i	
				1: 8 (14)	ジャン	d5an	
バスル	持っていたバスルのピースを落として		1: 2 (10)	うえ	ue		
身体的動き	こけそうになったとき		1: 4 (4)	あて	ate		
			1: 6 (7)	おっど	otto		
	Moの膝から落ちて（Moが足を開いてE児が足の間から落ちる遊び）		1: 4 (19)	たー	ta:		
	1: 4 (19)		あー	a:			
	Moの足を滑り台にして滑ろうとMoの方に行って	1: 4 (19)	ママ	mama			
	Moの足を滑り台にして滑るときに	1: 4 (19)	ち	t5i			

表4-12 E児の直示的経路の側面における音声1

McCune (2008) の分類	玩具・遊び	文脈	CA	音声	撥音	
here/thanks	ミニフード	ミニフードの入れ物を開けてもらうためにMo.に渡しながら	1: 3 (8)	あ	a	
			1: 5 (23)	あっあー	a?a:	
			1: 5 (23)	ん	n	
			1: 5 (23)	ママ	mama	
		Mo.にミニフードのクッキーの箱を開けてほしくて渡して	1: 6 (20)	開けて	akete	
		くどうぞ>とミニフードのクッキーの箱を渡されると受け取りながら	1: 6 (20)	うん	un	
		ツールボックス	玩具のツールボックスを開けてほしくてMo.に渡そうとしながら	1: 2 (22)	あー	a:
				1: 8 (14)	え	e
				1: 8 (14)	開けて	akete
				1: 8 (14)	開け	ake
びっくり箱	びっくり箱を開けてほしくてMo.に渡そうとしながら	1: 2 (22)	あっあっあー	a?a?a:		
		1: 3 (20)	あー	a:		
		1: 5 (23)	ああああああああ	aaaaaaaa		
		1: 5 (23)	これ	kore		
カップとコップ	くどうぞ>と玩具のカップを渡されて	1: 3 (20)	はい	hai		
		Mo.がくどうぞ>と玩具のカップをE児に渡すと飲むふりをしながら	1: 4 (4)	くどうぞ	dozozo	
財布	玩具のカードを玩具の財布から取り、Mo.に渡しながら (Mo.の正面に立っている)	1: 8 (14)	ん	n		
		玩具の財布を開けてほしくてMo.の方に差し出しながら	1: 8 (14)	ん、ん	n:n	
		玩具のお札を扱げながら	1: 6 (7)	ばー	pa:	
		玩具のサングラスをつけてもらうとMo.に渡しながら	1: 5 (23)	ん	n	
mine	ミニフード	玩具の携帯電話をMo.に渡しながら	1: 5 (23)	あ	a	
			1: 6 (7)	え	e	
			1: 6 (7)	はい	hai	
			1: 6 (7)	えー	e:	
			1: 6 (7)	あー	a:	
			1: 6 (7)	ん	n	
			1: 7 (18)	んー、んー	n:n'	
			1: 7 (18)	ん	n	
			1: 7 (18)	うん	un	
			1: 7 (18)	あー	a:	
ミニカー	ミニカーのトラックのドアを開けてほしくてMo.に渡して	1: 7 (18)	ん	n		
			1: 7 (18)	開け	ake	
			1: 4 (19)	ん、ん	n:n	
			1: 5 (23)	え、え、え	ejeje	
パズル	Mo.にパズルを渡しながら	1: 6 (7)	ママ	mama		
		玩具の携帯電話をMo.に渡しながら	1: 6 (7)	うん	un	
携帯電話	Mo.に洗濯ばさみを渡しながら	1: 7 (18)	あ	a:		
		Mo.に洗濯ばさみを渡して、開けてもらうとして	1: 7 (18)	開けて	akete	
mine	ミニフード	他の玩具 (ミニフード) で遊びたくて指をさしながら	1: 2 (22)	あっあっんんー	a?a?n'n:	
		ミニフードの入れ物を取ろうとしながら	1: 4 (19)	しーしーしーしー	ji:ji:ji:ji:ji:	
			1: 7 (18)	あー	a:	
			1: 8 (14)	ちゃ	tja	
		玩具入れのバケツから玩具のボットを取ろうとしながら	1: 5 (3)	ばー	ba:	
		Mo.が持っているミニフードの蓋を取ろうと手を伸ばしながら	1: 5 (23)	あ、あ	ala	
		ミニフードの魚を取ろうとして	1: 3 (20)	ま	ma	
			1: 8 (14)	たいたいは	taikaiwa	
		ミニフードの入れ物からミニフードの魚を取った後に	1: 8 (14)	たいたい	taikai	
		ミニフードのボットドッグを取ろうとしながら	1: 3 (20)	あー	a:	
		転がったミニフードのみかんを取ろうとしながら	1: 3 (20)	あ、あ	ala	
			1: 3 (20)	あ	a	
		ミニフードのみかんを探して	1: 8 (14)	パンは	panwa	
		Mo.がミニフードのみかんをE児の手から取ると取り返そうとして	1: 8 (14)	パンは	panwa	
		手に持っていたミニフードのみかんが転がって	1: 8 (14)	ん	n	
		手に持っていたミニフードのレモンを落とすとしてたまごを取ろうとして	1: 8 (14)	わ	wa	
		ミニフードの牛乳パックを見つけて取ろうとして	1: 4 (4)	はい	hai	
		玩具のボットを手に取ろうとしながら	1: 4 (4)	あ、あ	ala	
		ミニフードの入れ物の中からミニフードのオレンジを取り出して	1: 4 (4)	あ	a	
		Mo.が玩具のお皿にミニフードを入れているのを見て	1: 4 (19)	あった	atta	
ミニフードのワインナーを取ろうとしながら	1: 5 (3)	ほしーほしー	ho:ji:ho:ji:			
ミニフードのたまごを飛ばすと速いように取りに行こうとしながら	1: 5 (3)	しーしー	ji:ji:			
Mo.がミニフードのたまごを飛ばすと速いように取りに行こうとしながら	1: 8 (14)	パン	pan			
ミニフードのたまごを拾ってきてMo.に見せながらMo.のところに戻る	1: 8 (14)	パン、パンパン	pan/panpan			
ミニフードのたまごを探しながら	1: 8 (14)	あれ	are			
	1: 8 (14)	パンは	panwa			
	1: 8 (14)	パン	panwa			
	1: 8 (14)	パンは	panwa			
ツールボックス	玩具のペンチを取ろうと手を伸ばして	1: 8 (14)	パンは	panwa		
		玩具のツールボックスから玩具のペンチを取り出して	1: 4 (19)	とー	to:	
		玩具のペンチを拾いながら	1: 4 (19)	だーだ	da:da	
		玩具のツールボックスを取ろうとして	1: 8 (14)	んーわ	n:wa	
			1: 4 (19)	と、と	to:to	
			1: 4 (19)	ほしーほしーほしー	ho:ji:ho:ji:	
			1: 4 (19)	ほしー	ho:ji:	
			1: 6 (20)	開けて	akete	
		玩具のツールボックスの中身を取りながら	1: 4 (19)	だー	da:	
			1: 4 (19)	だーだ	da:da	
カップとコップ	Mo.が持っている入れ子のカップに手を伸ばしながら	1: 6 (20)	開けて	akete		
		1: 4 (19)	ぱぱぱ	papapa		
入れ子	入れ子を見つけて取りに行きながら	1: 4 (19)	うー	u:		
		ガラガラをしまった後また取ろうとするが手が届かなくて	1: 2 (10)	うあ	ua	
ガラガラ	Mo.が持っている玩具のコインがほしくて取ろうとしながら	1: 2 (22)	あー	a:		
		Mo.が持っている玩具のコインがほしくて取ろうとしながら	1: 6 (7)	あ、あ	ala	
財布	Mo.が持っている玩具のコインがほしくて取ろうとしながら	1: 6 (7)	あ	a		
		Mo.が持っている玩具のコインがほしくて取ろうとすると<チョウダイ>って言わな>と言われて	1: 6 (7)	ちょうち	tjo:tji	
パズル	Mo.の持っている猫のパズルピースを取ろうとして	1: 6 (7)	あ、あ	ala		
		Mo.からパズルを取って	1: 2 (22)	んーんー	n:n'	
		パズルのピースを取ろうとしながら	1: 5 (23)	あー	a:	
			1: 2 (22)	ばあー	baa:	
	1: 4 (4)	んーんーんー、んー	n:n'n:n'			
	1: 6 (7)	あった	atta			
サングラス	Mo.の持っている玩具のサングラスを取りながら	1: 2 (22)	あった	a?a		
		玩具入れのバケツからトラックを取ろうとして	1: 2 (22)	あっあ	a?a	
トラック	玩具入れのバケツの方を指さして	1: 4 (4)	んーんー	n:n'		
		玩具入れのバケツの方を指さして	1: 7 (18)	わんわん	wanwan	
ぬいぐるみ	玩具入れのバケツの方を指さしながら犬のぬいぐるみを探す	1: 7 (18)	わんわん	wanwan		
		Mo.がつけているマスクを取ろうとしながら	1: 7 (18)	ココ (犬のぬいぐるみの:koko)		
その他	テーブルの上のかき網を見つけて取りながら	1: 5 (23)	あ、あ	ala		
		1: 8 (14)	わー	wa:		

表4-13 E児の直示的経路の側面における音声2

McCune (2008) の分類	玩具・遊び	文脈	CA	音声	撥音		
there	ミニフード	ミニフードの牛乳パックを投げながら	1: 4 (4)	だ	da		
		輪がっていったミニフードのいちごを指さしてMoの方を振り向きながら	1: 4 (4)	ちー	tʃi:		
	カップとコップ	玩具のコップを投げた後	1: 2 (10)	ばー	ba:		
	絵本	絵本を読んでもらっているときにはずれた本のカバーの方を両手で指しながら	1: 7 (18)	あー	a:		
		Moに知らせる					
	玩具入れ	Moに抱き付きながら玩具の方を手で指して	1: 3 (8)	んー	n:		
		部屋の外から音が聞こえてドアの方を指さしながらMoの顔を振り返る	1: 5 (23)	ばー	pa:		
	その他	Moに向かって		1: 6 (7)	パパ	papa	
			ドアの方を指さしてMoにFaがいることを教える	1: 6 (7)	パパ	papa	
		ドアの方を手で指してMoの顔を見て		1: 6 (20)	あ	a	
			ドアの方を指さしながら	1: 5 (23)	あああー	ana:	
			1: 5 (23)	んー	n:		
			1: 6 (7)	パパ	papa		
			1: 6 (20)	あっち	atʃi		
			1: 6 (20)	ん	n		
			1: 6 (20)	ん、あっち	nattʃi		
		ドアの方を指さしながら観察者にFaがいることを教える		1: 6 (7)	たー	ta:	
				1: 6 (7)	パパ	papa	
		部屋の外に行きたくてMoに抱き付きながら	1: 7 (18)	あっち	atʃi		
			1: 8 (1)	あっち	atʃi		
		別の部屋に行きたくてドアを指しながら	1: 8 (1)	ち	tʃi		
			1: 8 (1)	あっち	atʃi		
		立ち上がりながら、部屋の外に出ようとして	1: 8 (14)	あっち	atʃi		
		別の部屋に行きたくて、怒りながら	1: 8 (14)	ん、ん、ん	n/n/n		
		怒の方を指さしながら	1: 8 (14)	うヌー	ue:		
		その他 eat/drink	ミニフード	ミニフードのホットドッグを食べるふりをしながら	1: 2 (22)	あ	a
				玩具のスプーンで食べるふりをしながら	1: 3 (20)	おいしー	oiʃi:
	Moがくどうぞと玩具のコップをE児に渡すと飲むふりをしながら		1: 4 (4)	どうぞ	dowzo		
	ミニフードのレモンを食べるふりをしながら		1: 5 (3)	あん	an		
	ミニフードのみかんを食べるふりをしながら		1: 6 (7)	はっ	hʌ?		
	ミニフードのプレッツェルを食べるふりをしながら		1: 8 (14)	あらー	ara:		
			1: 8 (14)	まん	man		
	1: 5 (3)		ママ	mama			
go	身体的動き	ミニカーをMoの膝の上で走らせながら	1: 7 (18)	ぶぶー	bubu:		
		Moの方に近づきながら	1: 6 (7)	マ、マ、ママ	ma/ma/mama		
want	ミニフード	玩具のスプーンで食べるふりをして、(ミニフードの要求)	1: 3 (20)	マンマンマ	manmama		
		玩具入れ	玩具入れのバケツの中にほしいものがあって、手を叩きながら要求して	1: 3 (8)	あー	a:	

表4-14 E児の目的終了の側面における音声

McCune (2008) の分類	玩具・遊び	文脈	CA	音声	撥音
here/there	財布	玩具の財布に玩具のコインを入れて	1: 6 (7)	よし	yoʃi
		ぬいぐるみ	トラックに犬のぬいぐるみを乗せながら	1: 8 (1)	よし

表4-15 E児の包含の側面における音声

McCune (2008) の分類	玩具・遊び	文脈	CA	音声	撥音
open	ミニフード	ミニフードの入れ物の蓋を開けようとしながら	1: 4 (19)	ほしーしー	hoʃi:ʃi:
		ミニフードの入れ物を開けてもらおうしながら	1: 5 (23)	ん	n
			1: 5 (23)	ママ	mama
			1: 6 (7)	ママ	mama
			1: 6 (20)	んー	n:
			1: 6 (20)	開けて	akete
			1: 6 (20)	開けて	akete
			1: 4 (4)	だ	da
			1: 4 (4)	だ	da
			1: 4 (4)	た	ta
			1: 2 (22)	ん	n
			1: 8 (14)	開けて	akete
			1: 2 (22)	あー	a:
			1: 8 (14)	え	e
			1: 8 (14)	開けて	akete
			1: 8 (14)	開け	ake
			1: 4 (19)	たーた	ta:ta
			1: 4 (19)	あーたー	a:ta:
			1: 6 (20)	開けて	akete
			1: 3 (8)	んっんー	n?:n:
	1: 7 (18)	んーんー	n:n:		
	1: 4 (19)	しー	ʃi:		
	1: 3 (20)	ばー	ba:		
	1: 4 (19)	と、と	to:to		
	1: 4 (19)	とー	to:		
	1: 6 (7)	開けて	akete		
	1: 6 (20)	開けて	akete		
	1: 7 (18)	開けて開けて	aketeakete		
	1: 8 (14)	じゃー	dʒa:		
	1: 4 (19)	だ	da		
	1: 6 (20)	開けて	akete		
	1: 2 (22)	あっあっあー	a?:a?:a:		
	1: 3 (20)	あー	a:		
	1: 6 (7)	開けて	akete		
	1: 7 (18)	うわー	uwa:		
	1: 7 (18)	んー	n:		
	1: 8 (14)	ば	ba		
	1: 8 (14)	ばー	ba:		
	1: 6 (7)	え、え	e:e		
	1: 6 (7)	え、えー、え	e:e:le		
	1: 8 (1)	んーん	n:n		
	1: 8 (14)	ん、ん	n:n		
	1: 6 (7)	開けて	akete		
	1: 7 (18)	たい	tai		
	1: 7 (18)	あー	a:		
	1: 7 (18)	あー	a:		
	1: 7 (18)	ん	n		
	1: 7 (18)	開け	ake		
	1: 7 (19)	開けて	akete		
	1: 7 (18)	開け	ake		
	1: 5 (23)	ママ	mama		
	1: 8 (1)	ういー	ui:		
	1: 2 (22)	えっえっえー	e?:e?:e:		
	1: 2 (22)	えーえ	e:e		
	1: 2 (22)	えー	e:		
	1: 3 (20)	あー	a:		
	1: 3 (20)	えーあー	e:a:		
	1: 3 (20)	ない	nai		
	1: 3 (20)	うーわー	u:wa:		
	1: 3 (20)	ばーばー	ba:ba:		
	1: 3 (20)	たた	tata		
	1: 4 (19)	よし	yoʃi		
	1: 7 (18)	あ	a		
	1: 8 (14)	お	o		
	1: 8 (14)	た	ta		
close	ミニフード	ミニフードの入れ物の中からミニフードのオレンジを取り出して	1: 4 (19)	あった	atta
		玩具のポットの中にミニフードのみかんが入って取れなくなつて、取ってほしく	1: 5 (3)	あ	a
			1: 5 (3)	あっあっ	a?:a?
			1: 5 (3)	あっあーあーあー	a?:a?:a?:a:
			1: 4 (19)	だー	da:
			1: 4 (19)	だーだ	da:da
			1: 4 (19)	だーだ	da:da
			1: 6 (20)	開けて	akete
			1: 6 (7)	ちー	tʃi
			1: 6 (7)	ちゃー	tʃa:
			1: 6 (7)	ち	tʃi
			1: 6 (7)	ちゃーち	tʃa:tʃi
			1: 5 (23)	ばー	pa:
			1: 4 (4)	んーまん	n:man
			1: 4 (4)	あー	a:
			1: 5 (3)	ばー	ba:
			1: 8 (1)	はい	hai
			1: 8 (14)	じゃー	dʒa:
			1: 5 (23)	ブンブ (虫の意味)	bu:n
			1: 6 (7)	よし	yoʃi
	1: 6 (7)	開けて	akete		
out	ミニフード	玩具のポットの中のミニフードのみかんを取ろうとしながら	1: 5 (3)	あっあっ	a?:a?
		玩具のポットの中のミニフードのみかんを取ろうとしながら	1: 5 (3)	あっあーあーあー	a?:a?:a?:a:
ツールボックス	玩具のツールボックスの中身を取りながら		1: 4 (19)	だー	da:
			1: 4 (19)	だーだ	da:da
財布	玩具のツールボックスから玩具のペンチを取り出して		1: 4 (19)	だーだ	da:da
			1: 6 (20)	開けて	akete
ミニカー	ミニカーのトラックのドアが開かなくて		1: 6 (7)	ちー	tʃi
			1: 6 (7)	ちゃー	tʃa:
玩具入れ	玩具入れのバケツから玩具のポットを取ろうとしながら		1: 6 (7)	ち	tʃi
			1: 6 (7)	ちゃーち	tʃa:tʃi
ミニカー	ミニカーのトラックを取り出して		1: 5 (23)	ばー	pa:
			1: 4 (4)	んーまん	n:man
玩具入れ	玩具入れのバケツから玩具のポットを取ろうとしながら		1: 4 (4)	あー	a:
			1: 5 (3)	ばー	ba:
ミニフード	ミニフードのポテトを持ってミニフードの入れ物に入れようとしながら		1: 8 (1)	はい	hai
			1: 8 (14)	じゃー	dʒa:
びっくり箱	びっくり箱のぬいぐるみをしまわうとしながら		1: 5 (23)	ブンブ (虫の意味)	bu:n
			1: 6 (7)	よし	yoʃi
財布	玩具の財布に玩具のコインを入れて		1: 6 (7)	よし	yoʃi
			1: 6 (7)	開けて	akete

表4-16 E児の付着の側面における音声

McCune (2008) の分類	玩具・遊び	文脈	CA	音声	撥音
stuck/fixed	ミニフード	ミニフードのみかんをミニフードの入れ物に叩きながら	1: 3 (20)	はい	hai
		ミニフードの梨に玩具のスプーンを刺そうとしながら	1: 4 (4)	だ	da
		ミニフードのドーナツの穴に指が入りMo.にそれを見せながら	1: 4 (4)	だー	da:
	ツールボックス	ミニフードの魚でミニフードの入れ物を叩きながら	1: 5 (23)	わー	wa:
		玩具のツールボックスを叩きながら	1: 8 (14)	ワンワンは	wanwanwa
		玩具のペンチを持って先を開きながら	1: 4 (4)	ん	n
		玩具のペンチを持って先を開きながら	1: 4 (4)	ちゅ	tʃu
		玩具のペンチを持って先を開きながら	1: 4 (4)	ちゅーちゅー	tʃu: tʃu:
		Mo.の手に玩具のペンチを当てながら	1: 4 (19)	パバババ	pepepepe
		玩具の金槌で頭を叩きながら	1: 6 (7)	トント	tonton
		玩具の金槌で頭を叩きながら	1: 4 (4)	タタ、タタタタタ	tata(tatatatatata
		玩具の金槌で足を叩きながら	1: 4 (4)	ととた	totota
ひっくり箱	ひっくり箱の蓋を開めようとしながら	1: 6 (20)	コンコン	konkonkon	
	ひっくり箱の蓋を開めようとしながら	1: 6 (20)	コンコン	konkonkon	
	手がひっくり箱に挟まって	1: 2 (22)	えー	e:	
	手がひっくり箱に挟まって	1: 7 (18)	ま々	tete	
	ひっくり箱の蓋を開めようとして（開めようとするといくみぎが蓋に挟まるため）	1: 7 (18)	痛いーい	naia:	
サングラス	Mo.の方を見ながら（玩具のサングラスをつけてほしくて）	1: 2 (22)	えっえ	e?e	
	玩具のサングラスをとりMo.に渡しながら	1: 5 (23)	ん	n	
		1: 5 (23)	あ	a	
		1: 6 (7)	え	e	
		1: 6 (7)	はい	hai	
		1: 6 (7)	えー	e:	
		1: 6 (7)	あー	a:	
		1: 6 (7)	ん	n	
		1: 7 (18)	んー、んー	n: n:	
		1: 7 (18)	ん	n	
		1: 7 (18)	うん	un	
		1: 7 (18)	うん	un	
		Mo.に玩具のサングラスを渡した後、つけてもらおうと顔をMo.の方に近づけながら	1: 2 (23)	えー、えっえっえっ	e: e?e?e?
		玩具のサングラスをつけようとして	1: 6 (7)	あーあーあ	a: a: a:
		犬のぬいぐるみに玩具のサングラスをつけてもらおうとしながら	1: 6 (7)	ワンワン	wanwan
パズル	パズルをはめようとしながら	1: 4 (4)	ばー	ba:	
	犬のパズルのピースを玩具のツールボックスに打ちながら	1: 4 (19)	た	ta	
unstuck/invented	ミニフード	玩具のポットに蓋がはまって取れなくて	1: 4 (19)	トン、トン	ton(ton
			1: 4 (4)	だ	da
			1: 4 (4)	た	ta
	ツールボックス	半分になるミニフードの魚を半分にして	1: 6 (20)	いたーいたーい	ia: ia:
		玩具のペンチを使ってミニフードのたまごを割るふりをしながら	1: 8 (14)	んー	n:
		玩具のペンチを開くことができなくて	1: 8 (14)	パ	pa
		玩具のペンチを開くことができなくて	1: 3 (8)	んつんつん	n?n?n:
		Mo.の手を玩具のペンチからどけようとして	1: 3 (8)	んー	n:
		玩具入れのバケツの中にペンチを入れてそれを勢いよく振きながら	1: 3 (20)	ポーン	bo: n
		玩具のペンチを開こうとしながら	1: 4 (19)	とと	toto
			1: 4 (19)	ちち	tʃitʃi
			1: 5 (3)	これ	kore
	1: 5 (3)	ちよ	tʃo		
	1: 8 (14)	ある	aru		
ひっくり箱	ひっくり箱をしようとしながら叩いて	1: 8 (14)	ちよ	tʃo	
	絵本を読んでもらっているときに外れた本のカバーの方を両手で指しながらMo	1: 6 (20)	こー	ko:	
絵本	に知らせる	1: 7 (18)	あー	a:	
サングラス	Mo.がE児に玩具のサングラスをつけようとするのを取り上げながら	1: 6 (7)	あげ	age	
パズル	パズルのピースを取りながら	1: 4 (4)	ばー	ba:	
		1: 4 (4)	ばー	ba:	
	ツールボックスの上ののせていたパズルを取り払って	1: 4 (19)	ばー	ba:	
その他	Mo.に洗濯ばさみを渡して、開いてもらおうとして	1: 7 (18)	開けて	akete	

表4-17 E児の閉塞の側面における音声

McCune (2008) の分類	玩具・遊び	文脈	CA	音声	撥音		
allgone	ミニフード	ミニフードのジュースを飲もうとするが中身が入っていない	1: 3 (20)	ないない	nainai		
		くお茶かな、何だった?>と聞かれてミニフードのジュースに中身が入っていない	1: 3 (20)	ないない	nainai		
		いじを片取る	1: 3 (20)	あ	a		
		転がったミニフードのみかんを取ろうと手を伸ばしながら	1: 3 (20)	あれ	are		
		ミニフードのみかんが転がって	1: 3 (20)	て	te		
			1: 8 (14)	わ	wa		
			1: 8 (1)	たー	ta:		
			1: 8 (1)	あつた	atta		
			1: 7 (18)	ばいばーい	baiba:i		
bye'	びっくり箱	Mo.がびっくり箱の蓋をくばいばーい>と閉めようとする、ぬいぐるみに	1: 7 (18)	ばいばーい	baiba:i		
		手を振りながら					
		peekaboo	びっくり箱	びっくり箱の中にミニフードのクッキーを入れようとするが飛び出てきて	1: 2 (22)	お	o
				びっくり箱のぬいぐるみがでてきて	1: 2 (22)	ばあ	baa
					1: 3 (20)	ばあ	baa
					1: 8 (14)	うわー	uwa:
					1: 3 (20)	ばあ	baa
					1: 5 (23)	びよ	biyo
					1: 8 (14)	ば	ba
					1: 7 (18)	ばー	ba:
	1: 8 (14)			た	ta		
	1: 8 (14)			ば	ba		
	1: 7 (18)	うわー	uwa:				
	1: 7 (18)	んー	n:				
	1: 4 (19)	ば	pa				

表4-18 E児の反復の側面における音声

McCune (2008) の分類	玩具・遊び	文脈	CA	音声	撥音		
again	ミニフード	手を上下に振りながらミニフードのみかんをコロコロ転がすことを要求する	1: 3 (20)	あーあー	a:a:		
		ツールボックス	玩具のツールボックスを開けようとしながら	1: 6 (7)	開けて	akete	
				1: 6 (7)	開けて	akete	
			びっくり箱	びっくり箱のオルゴール部分を回したくて	1: 2 (22)	ん	n
					1: 2 (22)	え	e
					1: 2 (22)	え	e
					1: 3 (8)	あー	a:
					1: 3 (20)	にゃほ	naha
					1: 5 (3)	ん	n
					1: 5 (23)	んー、んー	n:in:
	1: 5 (23)			ああああああああ	aaaaaaaa		
	1: 5 (23)	これ		kore			
	1: 6 (7)	んー		n:			
	1: 6 (7)	ん、ん	nIn				
	1: 6 (7)	えー	e:				
	1: 5 (23)	ブーン	bu:n				
	1: 6 (20)	こー	ko:				

表4-19 E児の否定（反転）の側面における音声

McCune (2008) の分類	玩具・遊び	文脈	CA	音声	撥音	
no	ミニフード	Mo.がミニフードの蓋を開めようとしていると手を払いのけながら	1: 8 (1)	あー	a:	
		Mo.がミニフードのみかんをE児の手から取ると取り返そうとして	1: 8 (14)	ん	n	
		ミニフードの蓋をひっくり返すのを繰り返しながら	1: 8 (14)	ん、ん、ん、ん、ん、ん	nInInInIn	
		ツールボックス	Mo.がE児の真似をしてE児の足を玩具の金庫で叩くと手で払いのけながら	1: 4 (4)	あー	a:
		びっくり箱	Mo.がびっくり箱のオルゴール部分を回していると自分でしょうとMo.の手を	1: 8 (14)	あ	a
			払って			

表4-20 D児とE児において出現した力動出来事語

力動出来事語のカテゴリ		D児の発話	E児の発話
経路	垂直的経路	ねんね、ゴー、ないない	はい、開けて、ぼい、抱っこ、よいしょ、よし、 たっち、あっち
	直示的経路	落ちた、プシー、あった、ねんね あい、どうぞ、これ、うん、はい、あーむ、開けて、 開け、開ける、ここ これ、どうぞ、あい これ あむ、あん、まんまんまん、ままま、出たー、シュー、 あい	ジャー、やー、ちーた、ジャン、おっと 開けて、開け、うん、これ、はい、ばー はい、ほしい、あれ、開けて、ばあー、あった あっち おいしー、どうぞ、あん、マンマンマン、まん、 あらー、ププー
目的終了		いえーい、できた	よし
図と地	包含	開いたー、開け、開けて、出たー、どうぞ 開け これ	ほしい、開けて、開け、ばー、ジャー よし あった、開けて はい、ジャー、よし、開けて
	付着	ちゅ、トントントントン、やー、よしし、でったー でったー、プシー、開いて	はい、うん、ちゅ、トントン、タタタタタタタ、 コンコン、痛い痛い 痛い痛い、ポーン、これ、ある、ばあ、開けて
移動出来事	閉塞	あった、おしまい、ないない、これ ないない、おしまい、はいはい	ないない、あれ、あった ばあ、びよ
	反復	はい、ぐるぐる	開けて
	否定（反転）	ううん、嫌や、あい、痛い	

*下線は2例で共通して出現したものを示す。

第4節 考察

今回対象とした期間において、力動出来事的な状況での発声および発話は、物を渡すとき（＜経路・直示的経路＞）に、「あー」や「ん」、「はい」が共通した。また、物を受け取るときには「はい」が、物を取ってほしいときには、その名称によって表された。＜図と地・包含＞では、容器の蓋を開けたいときに「開け」や「んー」が出現した。「開け」や「開けて」は、他の力動出来事語のカテゴリでも出現した。＜図と地・付着＞の側面では、くっ付けてほしいときに「んん」、物をくっ付けたときに「ちゅ」や、叩くときに「トントントン」といった擬音語がみられた。＜移動出来事・反復＞では、「あー」が、遊びの反復の要求で出現した。＜移動出来事・否定（反転）＞においても物を片づけてほしいときに「あー」によって要求することがみられた。2例ともに、力動出来事的な状況において擬音語や幼児語が出現した。また、同じ発声や発話が複数のカテゴリにおいてみられた。「あ」や「ん」、「え」は、語による表現がみられた後も、継続して出現した。

1. D児の力動出来事的状況における音声

D児の＜経路・垂直的経路＞の‘up’における音声では、語になっていない発声と母親へ抱っこをしてほしいという意味での「ねんね」が出現した。「ねんね」は、‘寝る’という意味だが、この場面では、母親への抱っこの要求と考えられた。語による表現がみられた後も、「あ、あ、あ、あ」のような発声は続いた。これは他のカテゴリでもみられた。こ

のような「あ」や「ん」、あるいは「え」といった簡単な音声によって、はじめは力動出来事的な意味を表現すると考えられた。その発声は、母音のものが多く、同じ音の連続によって表現された。こういった発声による表現は、母親とのやり取りを繰り返すなかで語へと変化していくと考えられた。しかしながら、語がみられてもすべて語による表現へと置きかわるわけではなく、徐々に語へと変化していくことが示唆された。〈経路・垂直的経路〉の落ちる状況では、物が倒れたとき「あー」などの落ちたことに対する感嘆語が出現した（1歳5か月13日）。1歳8か月17日には「落ちた」がみられ、より場面を具体的に表す語になったといえる。また、「ねんね」の発話も出現した。これは、D児がいつも寝るときの毛布を指さしながら発話された。そのため、抱っここの要求ではなく寝ることを指していると考えられた。さらに、玩具の包丁を振りおろしながら、刺す擬音語の「プシー」が出現した。これは、〈図と地・付着〉とも考えられたが、今回は両方を示すものとした。このような、2つのカテゴリにわたった力動出来事に関する発話をどのように分類するのかについては、今後検討していく必要がある。D児の〈経路・垂直的経路〉は、幼児語、擬音語に加えて、感嘆語が含まれており、それらは力動出来事的な状況について表していると考えられた。

〈経路・直示的経路〉は、力動出来事語のカテゴリのなかで、もっとも出現した。このカテゴリでは、1歳4か月16日に「あ、これちゅかう（「使う」の音韻未熟）」と1歳4か月16日に「ジュースごくごく」の2語発話が見られた。これらはいずれも同じ状況において、それ以前は、発話はみられていなかった。これらの2語は、McCune（2008）のいう、力動出来事的な意味と事物の意味とを別々に示すことができている状態といえるだろう（例えば、ジュース（事物）とごくごく（力動出来事語）の意味）。今回は、それ以前の事物の意味と力動出来事の意味を1語で表すものについて焦点をあてているが、力動出来事的側面について言及したものとしてすべて分類した。D児の〈経路・直示的経路〉は主に、物の受け渡し状況で出現した。例えば、ミニフードの梨を母親に渡すとき、1歳2か月0日は「はい」の音韻未熟である「あい」が、1歳2か月14日では「どうぞ」がみられた。これらは、McCune（2008）の示す力動出来事語の‘here’にあたるといえる。また、ミニフードのジュースを渡しながら「ジュース」が出現した。この「ジュース」は名詞だが、ここでは‘ジュースを渡す’という力動出来事的な意味が含まれている。同じ〈経路・直示的経路〉において、渡す玩具を開けてほしいという〈図と地・包含〉の意味が含まれる場面があった。例えば、ツールボックスを開けてほしくて渡しながら、「どーぞ」（1歳4か

月2日)や「ん、ん」(1歳6か月11日)がみられ、1歳8か月17日には「開ける」が出現した。これは、<経路・垂直的経路>と同様に、日本語では今後どのように分類するかについて検討する必要があるといえる。母親から物を取ろうとする、あるいは置いてあるものを自分の方に引き寄せる場面も<経路・直示的経路>の場面にあてはまる。例えば、母親からガラガラを取ろうとすることがみられ、1歳2か月0日では「あ」や「え」だったが、1歳2か月14日には「どうぞー」へ変化した。これは、一般的に主客の逆転といわれるが、物を渡されるときに母親から「どうぞ」と渡されるため、受け渡しをするという状況に対して適用されていたと考えられた。このような場面に適しているとは考えられないものでは、別の力動出来事的意味が含まれている可能性がある。また、ジュースがほしいとき、ジュースを指しながら「ジュース」と言うなど、名称による表現がみられた。その他にも、食べるふりなど擬音語によって示されることがあった。特に、それらは、事例自身の動きに対するものが多く、そういった自分自身の動き、移動に対して自ら表現する際には、擬音語がよく使われると考えられた(例えば、食べるふりをしながら「あむ」など)。

<経路・目的終了>は、発声や発話自体が少なかった。しかし、「いえーい」、「できたー」が出現した。これらは、行為の完了の状態を喜んでいることを表したものと考えられた。

<図と地・包含>における、「開ける」状況では、物の蓋を開けるときに出現した。ミニフードの蓋を開けてほしいとき、1歳5か月13日は「え」、1歳5か月13日は「開け」、1歳6か月11日は「ん、ん」がみられた。1歳8か月7日には「開けて」がみられたが、その後のセッションでも「あ、あ」や「えっえっ」といった発声がみられ、他のカテゴリと同様に、一度ことばがみられても、発声などによる表現は継続すると考えられた。この「開ける」は、「閉める」状況においてもみられ(1歳8か月7日)、この時期にはまだ、「開ける」ということだけでなく、開け閉めすること全体に適用されていたと考えられた。

<図と地・付着>では、玩具の金槌で叩きながら「トントントントントン」や、ミニフードの魚の口を母親の口に近づけ「ちゅ」など、擬音語がみられ、自らの行動を表すものであった。「はなす」状況では、「でったー」や「開いて」などの<図と地・包含>にあたる語が出現した。これらは、くっ付いていたものがはなれたということに対して全体的に使用されていたと考えられ、まだ<図と地>全体に適用されることが考えられた。

<移動出来事・閉塞>の「なくなる」状況では、物を落としたり、なくなった際に「あー」や「わー」が出現した(1歳8か月7日)。なくなったことに対しては、「ないない」が出現した。これは、いなくなる状況でもみられ、なくなるという状況全体に適用されてい

たとえられた。

<移動出来事・反復>では、物の名称による反復の要求がみられた。例えば、なくなったジュースがほしいときの「ジュース」である。このような表現は、<経路・直示的経路>でもみられた。一方で、行為の再現を要求するときは、「ぐるぐる」など、行為に関する擬音語がみられた。

<移動出来事・否定（反転）>では、「ううん」や「やや」に加えて、「痛い」が出現した。この「痛い」はやめてもらうことを意図しており、一般的な分類とは異なる使い方がされていた。また、「ママ」と呼びかけることに以前あった状態に戻す意図が含まれている発話がみられ（リモコンを母親に取られて、自分の手元に戻す）、同じ呼びかけであってもそのなかには様々な意味が含まれている。

D児では、すべてのカテゴリにおいて、「あ」や「ん」、「え」によって、力動出来事的な状況を示すことがみられ、それは語が出現した後も続いた。そのため、一度、語による表現がみられても、完全に語へと移行するわけではないと考えられた。また、「開ける」などひとつの力動出来事語のカテゴリだけでなく、いくつかのカテゴリにわたって使用されるものがあった。これは「開ける」という行為だけでなく、閉めることや、はずすことなど<図と地>すべてに適用されていた。このような発話は他にもあり、今後ことばがみられるにしたがい、それぞれの語へ変化することが示唆された。さらに、状況によっては語の意味が異なることもあり（例えば、「ジュース」の発話に、「ジュースちょうだい」の意味が含まれているなど）、語をそのままの意味で捉えるだけではなく、力動出来事的意味に考慮する必要性が確認された。自らの行動に関しては、擬音語で表すことがあり、幼児語も出現した。これは、日本語の特徴からも考えられたように、こういった語が日本語においては力動力動出来事語に含まれる。

2. E児の力動出来事的な状況における音声

E児の<経路・垂直的経路>は、母親に抱っこしてほしいとき、1歳3か月6日では「あー」、1歳5か月23日には「うー」や「お、おー」がみられ、1歳6か月7日には「ママ」が出現した。これには「ママ抱っこ」の意味が含まれていると考えられた。1歳8か月には「抱っこ」がみられるようになり、より明確な力動出来事に対する発話が出現するようになった。E児も、D児と同様にさまざまなカテゴリにおいて、「あ」や「ん」などの発声が続いてみられた。これらは、母親とのやり取りを積み重ねていくなかで語としての力動出来事的な表現がみられると考えられた。「down」の状況では、「ちー」などの発声もみら

れたが、こけそうになったときに「おっと」の感嘆語が出現した。

<経路・直示的経路>では、D 児と同様に、力動出来事語のカテゴリでもっとも出現を示した。E 児の物の受け渡しの状況は、何か目的をもっての行動であった。例えば、びっくり箱をして遊びたくて「あっあっあー」や「これ」などである。これらは、<図と地・包含>に分類される可能性も考えられ、今回は両方のカテゴリに分類した。物を要求する場面では、ほしい物の名称による表現がみられた。例えば、E 児はみかんやたまごなどの丸いミニフードを「パン」と呼んでおり、ミニフードのみかんを探しながら「パンは」と発話した。また、「ほしーほしー」といった要求を示すことばによる表現がみられたが、「パンほしい」という発話まではみられなかった。これは、1 語が事物の意味と力動的な意味両方を含んでいる (McCune, 2008) という特徴からいえる。今後、2 語発話が出現することによってみられるようになるだろう。<経路・直示的経路>では、行きたい方向を指さしながら「あっち」だけでなく、その方向にいる人の名前によって表現されることもみられた（「パパ」）。こういった、人の名前や場所の名前も、<経路・直示的経路>にみられると考えられた。その他、<経路・直示的経路>を表しているものとして、D 児と同様に、食べるふりをするのがみられた（「おいしー」）。また、ふりの擬音語がみられ、E 児からも日本語における力動出来事語に擬音語が含まれると示唆された。

<経路・目的終了>では、完了したことに対して「よし」がみられた。これは、D 児と同様に、完了したことを喜んでいる表現と考えられた。

<図と地・包含>では、玩具を開けてほしくて、母親に玩具を渡すときに、発声や発話のみられた。E 児では、「開ける」の状況では、最初の方は、「あ」や「え」だったが、「開けて」が出現するようになった。びっくり箱を開けてほしいときには、開けたときの状態を示す「ばー」がみられた。また、ほしいことを示す「ほしーしー」も出現した。これは、物がほしいときだけではなく、何かしらの要求を母親にするときのもと考えられた。‘閉める’においても「開け」がみられ、D 児と同様に開けるということだけではなく、玩具操作全体に「開ける」が適用されていたと考えられ、取り出すときや、入れるときにも「開けて」がみられた。また、お茶をカップに注ぐふりをしながら「ジャー」の擬音語や、「ブーン(虫)」と操作する物の名称（びっくり箱のぬいぐるみのいもむしを示す）がみられた。こういった、ふりをするときの擬音語や操作する物の名称、あるいはほしい物の名称によって表現することは他のカテゴリでもみられた。

<図と地・付着>では、E 児の行動に伴った擬音語がみられた。玩具の金槌で叩きながら

「トントン」や「コンコン」である。擬音語は、同じ行動でもさまざまな表現がみられた。また、パズルのピースをはずすときに「ばー」が出現した。このように同じ表現が複数のカテゴリでみられ、意味する力動出来事は異なることがあると示唆された。

<移動出来事・閉塞>は、中身がなくなっている状態に「ないない」がみられ、McCune (2008) の *allgone* と共通すると考えられた。びっくり箱の遊びの場面では、「ばあ」や「うわー」と驚いた表現をすることがみられ、これも英語と共通していた。

<移動出来事・反復>では、他のものと同様に、「あ」や「ん」に加えて、遊びの名称による表現がみられた（例えば、びっくり箱は虫の意味の「ブーン」で表す）。また、「開けて」によって、ツールボックスを再び開る要求がみられた。これは、<図と地・包含>の類と重複しており、今後、検討していく必要がある。

<移動出来事・否定（反転）>は、「あ」や「ん」の発声のみであった。しかしながら、他の表現と同様に徐々に語へと移行していくと考えられた。

E 児の力動出来事的な状況における音声では、D 児と同様に、すべてのカテゴリで、「あ」や「ん」、「え」といった発声が継続して出現した。こういった母音による発声は簡単であり、発声のみでも母親とのやり取りのなかで要求が伝わるため継続してみられると考えられた。今後このような音声は、継続し続けるのか、あるいは語へと完全に置き換わっていくのかについては、今後も継続してみていく必要がある。また、E 児でも同じ発話が複数のカテゴリでみられた。特に「開ける」は、D 児と同様に、物を開けるときだけではなく、閉めるとき、さらには物を取り出すときや入れるときなどの複数の力動出来事的な状況において出現した。これは、「開ける」という行動だけではなく、玩具を操作すること全体に適用されていたと考えられ、今後それぞれ別々の語へと分化していくことが示唆された。E 児では、D 児と比べても擬音語がみられ、それらは、特に E 児自身による行動に対するものであった。こういった擬音語も力動出来事語に含まれることが確認された。また、名称によって力動出来事について表現することがあり（例えば、「パン」といいながら、玩具を探すなど）、動詞や名詞といったこれまでのカテゴリでは分類できない、両方の意味を持って発話されていたといえよう。

3. 力動出来事的な側面における発声と発話の出現順序

力動出来事的な状況における発声および発話では、D 児は 1 歳 2 か月 0 日に、<経路・垂直的経路>、<経路・直示的経路>、<図と地・包含>、<図と地・付着>、<移動出来事・反復>、<移動出来事・否定（反転）>が出現し、1 歳 5 か月 13 日に<移動出来事・

閉塞>, 1歳6か月11日に<経路・目的終了>が出現した。発声と発話の両方を含んだ出現では, 早い段階からほとんどのカテゴリで出現を示したが, <移動出来事・閉塞>と<経路・目的終了>は, 他のカテゴリと比べて遅かった。

E児では, 1歳2か月10日に<経路・垂直的経路>と<経路・直示的経路>が出現した。つぎに, 1歳2か月22日に<図と地・包含>, <図と地・付着>, <移動出来事・閉塞>が出現し, 1歳4か月4日に<移動出来事・否定(反転)>が, 1歳5か月23日に<移動出来事・反復>, 1歳6か月7日に<経路・目的終了>がみられた。発話だけでなく発声も含めると, 今回の2例では, <経路・垂直的経路>, <経路・直示的経路>は早い段階から発声や発話がみられると考えられた。つぎに, <図と地・包含>, <図と地・付着>が出現することが示唆された。また, <経路・目的終了>の側面に対する表現は, 他のカテゴリと比べて, 出現が遅いと考えられた。

力動出来事的な状況における発話では, D児は, 1歳2か月0日から<経路・直示的経路>, <移動出来事・反復>, <移動出来事・否定(反転)>が出現した。そして, 1歳4か月2日に<図と地・包含>, 1歳4か月16日に<経路・垂直的経路>, 1歳5か月4日に<図と地・付着>と<移動出来事・閉塞>がみられ, <経路・目的終了>は, 1歳6か月11日に出現した。一方で, E児では, 1歳2か月22日に<経路・直示的経路>, <移動出来事・閉塞>, <移動出来事・反復>が出現し, 1歳3か月20日に<経路・垂直的経路>, <図と地・包含>, <図と地・付着>がみられた。<経路・目的終了>は1歳6か月7日に出現したが, <移動出来事・否定(反転)>は, 対象とした期間に発話はみられなかった。

D児とE児の力動出来事的な状況における発話は, <経路・直示的経路>と<移動出来事・反復>は早期から出現することが示唆された。これらは, 母親との直接的なやり取りのなかで生じやすいものと考えられた。反対に, <図と地・付着>と<経路・目的終了>の語は, 比較的出現が遅かった。<図と地・付着>は, 自分の行動に関する擬音語が出現しており, 他のカテゴリでは, 母親に対する要求をするときに出現しているのに対して, 自己の行動に関する発話であったためと考えられた。また, <経路・目的終了>も, 事例自身が喜ぶような表現だったため同様に遅い出現であったと考えられる。これらのことから, 母親との直接的なやり取りのなかで力動出来事語が生じやすいことが考えられ, <経路・直示的経路>や<移動出来事・反復>が出現しやすいことが示唆された。特に, <経路・直示的経路>に関する発話は, 他のカテゴリと比べても多く出現した。

4. 力動出来事的な状況における音声の発達

力動出来事的な状況における音声の変化について図 4-7 から図 4-26 に示した。力動出来事的な状況における発声では、語とはまだいえない、語以前の段階から語による表現へと移行し、さらに、助詞を含む発話と 2 語発話へと変化していくことが示唆された。

<経路・垂直的経路>では、D 児と E 児に共通したものはみられなかった。D 児では、物が倒れそうになったときに「落ちた」、抱っこしてもらいたいときに「ねんね」、物を乗せるときに「ここ」、よじ登るときに「あつた」がみられた。一方で、E 児では倒れそうになったときに「おっと」、抱っこしてもらいたいときに、「はい」、「よし」、「ママ」、「抱っこ」がみられた。また、垂直面において指示するときに天井を指さしながら「あっち」や指し示す先にあるもの（E 児の場合は、虫が天井にとまっていた）の名称（「ブーン（虫の意味）」）がみられた。物を上に投げる際には、「ポイ」の擬音語が出現した。<経路・垂直的経路>では、2 例に共通した発話はみられず、今後も継続してみていくことが必要である。

<経路・直示的経路>では、2 例ともに物の受け渡し場面で「はい」が出現した。D 児では「どうぞ」、「これ」、「ここ」が、E 児では「ほしい」が物の受け渡し場面で出現した。これらは、日本語でも直示的な移動を表していると考えられた。物の受け渡しや要求では、物の名称によって表されることがあった。こういった場面における物の名称は、力動出来事的な意味を含んでいると考えられた。例えば、D 児では、物を取ってほしい場面において「ジュース」の語がみられたが、これには「ジュースちょうだい」や、「ジュースほしい」といった意味が含まれている。このことから、日本語において発話された語をそのままの品詞に当てはめることは、力動出来事的側面を見落としてしまう可能性がある。また、E 児では、自分自身の移動の要求がみられ、その際に「あっち」がみられた。これは、McCune (2008) における 'there' にあたる。同じ場面において行きたい場所にいる人の名前（E 児では「パパ」）によって示すことがみられ、名称による表現に力動出来事的な意味が含まれていた。

<経路・目的終了>は、しようとしていることができたときに出現し、D 児では「いえーい」、「できたー」が、E 児では「よし」がみられた。これらは、終了したことを示すだけでなく、できたことに対する感情を表す表現であった。

<図と地・包含>では、容器の蓋を開け閉めするときや、その要求でみられた。例えば、開け閉めをしてほしいものを母親に差し出しながら要求を示した。そのなかでみられた表現は、<経路・直示的経路>と<図と地・包含>に明確には分類できなかったため、今回、

両方のカテゴリに分類した。そのため、D児の「どうぞ」やE児の「ほしい」など、＜経路・直示的経路＞と共通するものがあつた。同じ表現であっても、その状況によって日本語では分類されるカテゴリが異なると考えられた。D児、E児では＜図と地・包含＞において「開け」が共通してみられた。この「開け」は、容器の蓋を開けるとき、開いたときだけでなく、D児では、閉めたいときに、E児では容器を開けて、その中に物を入れるときにみられた。つまり、容器の蓋を開け閉めすることに加えて、その中に物を入れるといったことも含む包含関係における表現と考えられ、この語は、包含関係に関して子どもが言及する初期の語といえるだろう。こういった場面における発話が今後どのように変化していくのかについては継続してみていく必要がある。D児では、容器の蓋を開けることに対して「でっー」、容器の蓋を閉めることに対しては「おしまい」、容器から物を取るときに「はい」がみられた。E児では、容器の蓋を開ける際に「ばあ」、蓋を開けたいときに「ほしい」や母親にそれを要求する「ママ」と呼びかけることがみられ、閉めたいときにも「ママ」がみられた。また、容器に物を入れたいときには入れる物の名称で表現することがあつた。物を入れたときに「よし」など＜経路・目的終了＞と、場面および分類が重複するものがあつた。こういった重複するものに関しては、今後どのように発話場面が分化していくのかをみていく必要がある。玩具のポットでカップに注ぐふりをするときには、「ジャー」という擬音語や「はい」がみられた。日本語では複数のカテゴリにおいて重複する発話がみられると考えられた。

＜図と地・付着＞では、玩具の魚の口元と合わせる際に「ちゅ（擬音語）」が共通してみられた。また、玩具と玩具を離す、はがすときには「開けて」が共通した。玩具の金槌で叩くときには、「トントン」が出現した。D児では、玩具と玩具を離すときに「でっー」やはなしたものの名称の「たいたーい（魚）」、玩具の包丁を玩具に刺すときに「プシー」の擬音語がみられた。E児では、挟まったものが離れたときに「痛ーい痛ーい」と挟まったことに関して表現した。これは、実際に挟まったときにもみられ、この場面では手が挟まったため、「手手」と挟まった箇所によって示した。これらは挟まったという事象を言及していると考えられ、力動出来事的な意味を含んでいると考えられた。また、叩く際には、「トントン」以外に「コンコン」といった擬音語がみられ、擬音語のさまざまなバリエーションがこのカテゴリに入ると考えられる。

＜移動出来事・閉塞＞では、D児は目の前になかったものが現れたときに「わー」、反対になくなったときにも「わー」や「えー」がみられた。びっくり箱からぬいぐるみが飛び

出た際にも「わー」が出現した。片付けの際には、「ないない」の幼児語がみられた。E児でも「ないない」はみられたが、あったものがなくなったときに出現した。同様の場面で「はい」、「ばー」、「ばいばーい」、「わ」、「あれ」、「ない」がみられた。なかったものが現れた際には、「あった」が出現した。自分の行為に伴うものについては、語として（幼児語ではあるが）出現する一方で、何か閉塞の状況を目の当たりにした際は、母親に知らせることを意図した注意をひくようなものが出現したと考えられる。

<移動出来事・反復>では、物を再び要求する際、物の名称によって表現された。遊びの反復の要求においても、その遊びを表す名称、あるいは擬音語がみられた（例えば、D児では「ばいばーい」、「ぐるぐる」でびっくり箱をもとの状態に戻すこと、あるいはびっくり箱をして遊ぶことを表し、E児では虫を意味する「ブーン」でびっくり箱をすることを要求した）。これらのように、<移動出来事・反復>や<経路・直示的経路>における物の要求などの、何かを母親に要求するときは、物の名称によって力動出来事的な状況を示していると考えられた。また、要求をしていることを母親に伝える、注意をひくような発声や発話がみられた。こういった注意をひく表現は、D児では「ねーねー」の呼びかけによって出現した。また、名称や擬音語による表現は、今後継続してみたいことで、これらの語がどのようなことばに変わっていくのか検討できると考えられる。

<移動出来事・否定>は、D児では、首を振ることや「あい（「はい」の音韻未熟）」とともに物を返す行為によって表現された。また、母親にくすぐりをやめてほしいときに「や」がみられた。同じ場面で「痛い」によってやめてほしいことを知らせることもあった。<移動出来事・否定>は、首を振ることや逃げる、手を払いのけるなどの行動を伴って出現した。この「痛い」には、「痛い」ということでやめてもらえるというD児の考えがあったと思われた。また、母親が出したものをしましてほしいときに「ばいばーい」がみられた。この<移動出来事・否定>のカテゴリは、今ある状況とは反対の状況を望むことや元に戻すという意味合いも含む（McCune, 2008）ため、否定的な語「嫌」や「ううん」だけでなく、「ばいばーい」もみられた。E児では、<移動出来事・否定>は「あー」がみられた。

両事例において、力動出来事的な状況では、始めは「あ」や「ん」といった発声を中心であった。これらの表現は、簡単な母音による表現でありながらも、母親へ要求が伝わるためであると考えられる。そして、ことばになる以前からこういった力動出来事的な状況に関して子どもは発声によって表現していることが示唆された。このような表現は、力動

出来事的な状況において発話がみられた後も出現した。しかしながら、「あ」や「ん」といった発声を中心としていたものが、今後、語彙の増加や母子とのやり取りを通してそれぞれの別々の語へと分化していくものと考えられる。また、「しー」と発声していたものが、同じ状況において「ほしー」の語へと変化することや「こ」が「抱っこ」の語へと変化することがみられた。このように、発声のなかには、語の一部であるものがある。それらの発声が母親とのやり取りを通して、語へと移行していくこともみられるだろう。語が出現したものに関しても、同じ語が複数のカテゴリにおける状況で使用されていた。例えば、「開ける」は、2例に共通して出現しており、〈図と地・包含〉の面だけでなく、玩具を中に入れる〈図と地・付着〉の場面などの複数のカテゴリにおいて出現した。そのため、「開ける」といった力動出来事的な状況だけでなく、玩具を操作すること全体に使用されていたと考えられ、今後さらに別の語へとそれぞれ変化していくことが示唆された。このように、同じ語が複数の場面において使用されることは、動詞は適切なものをマップすることが難しい (Imai, Haryu & Okada, 2005) ことから、複数の力動出来事語のカテゴリにおいてみられることや、間違った使い方がされたといえる。しかしながら、このような誤用と考えられる使用も、語彙の増加に従い減っていくと考えられる。

今回、対象とした期間の力動出来事的な状況において出現した語 (表 4-20) が、日本語における力動出来事語と考えられた。これらの結果は、本研究における 2 例の個人差や家庭環境などについて考慮に入れる必要はあるが、〈経路・直示的経路〉における「どうぞ」や〈図と地・包含〉の「開けて」など、McCune (2008) での力動出来事語と共通した表現もあった。さらに、McCune (2008) と共通したものに加え、日本の子どもの表出語彙の特徴としてあげられているような幼児語や動作名詞 (小椋, 1999) もみられた。特に、擬音語による表現が多く、事例自身の行動やふりをする際に出現していた。このような動作に対する擬音語は、力動出来事的な意味を含んでおり、力動出来事語に含まれると考えられる。しかしながら、その擬音語は事例によって多様であり、さらに動作によって複数あげられるため、すべてをあげることは難しい。また、物の名称 (あるいは人の名前) による力動出来事を示すことがいくつかみられた。例えば、「ジュース」で「ジュースちょうだい」を意味する場面や「ママ」で「ママそれちょうだい」を意味する場合などがあり、これらの名称による発話には力動出来事的な意味が含まれているといえよう。こういった物の名称も場面によって多様にありうるため、すべてをあげることはできない。名称による力動出来事を示すことは、名詞が動詞に比べて獲得しやすい (小椋, 2007) ことから、

力動出来事を表す際にも使用しやすいということが示唆された。そして、擬音語と同様に、力動出来事的な側面において発話された名称には力動出来事的な意味が含まれているといえるだろう。今回、力動出来事的な状況における発話を分類する際に、複数のカテゴリにあてはまるものがあった。今回は、2つのカテゴリにあてはまるものとして両方のカテゴリに重複して分類した。この点に関しては、今後検討していく必要がある。

力動出来事的な状況における発話と発声を両方含んだものと。発話のみでは、出現する順序が異なった。しかしながら、2例で<経路・直示的経路>と<移動出来事・反復>の発話が他のカテゴリよりも早く出現し、<移動出来事・閉塞>と<経路・目的終了>が遅く出現する共通した部分があった。これらのことから、事例自身の目の前で移動が生じること、事例が母親へ要求することに関わる語は、比較的早期から出現し、反対に、移動した状態について言及するものは出現に時間がかかると考えられた。本研究の2例の結果だが、日本語における力動出来事語の発達の特徴であることが示唆された。

本研究では、玩具を用意したうえで母子の自由遊び場面を対象とした。そのため、2例の普段の生活の様子、ことばすべてについては捉えきれていない部分があるだろう。また、事例によっては、観察状況に対する慣れなども影響している可能性があった。しかしながら、同じ状況においてどのような変化があったのかについて検討するには有用であったと考える。今回用意した玩具については、力動出来事的な状況が予想されるものと、子どもにとってなじみのあるものとして Herr-Israel & McCune (2006), McCune (1995, 2008) を参考に選んだ。特に、2例でミニフード、ツールボックス、びっくり箱、玩具の財布とお金に対する興味が高かった。これらには、渡す、開ける、閉める、要求するといった力動出来事的な状況がみられ、力動出来事語の出現について検討するために、適していたと考えられた。しかし、先に述べたように本研究では、事例の生活全体を捉えられているとはいえないため、今後母親の観察記録の導入や日常生活場面での観察等を検討していきたい。

今回は、1歳2か月から1歳8か月の間であり、まだ語彙の産出も少ない時期であり、力動出来事的な状況における発話では、擬音語や幼児語を含むものや、複数のカテゴリにおいて重複するものがみられた。また、喃語による発声が多く含まれており、日本語による力動出来事語を分類していくには、今後も継続して検討していく必要があるといえる。また、力動出来事語は2語発話期において動詞へと移行していくことが指摘されている (McCune, 2008)。そのため、日本語では動詞への移行がみられるのかについても今後、検討していく必要がある。

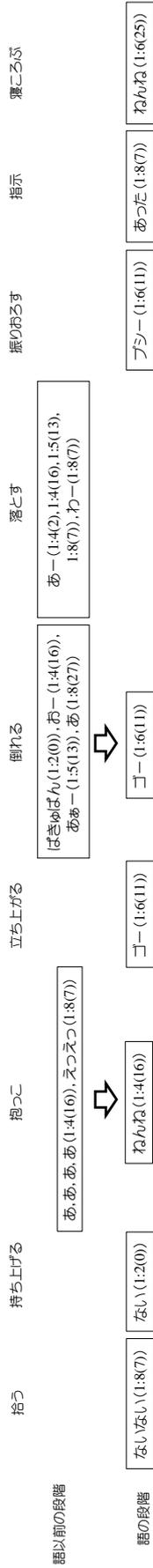


図4-7 D児の<経路・垂直的経路>における音声の変化

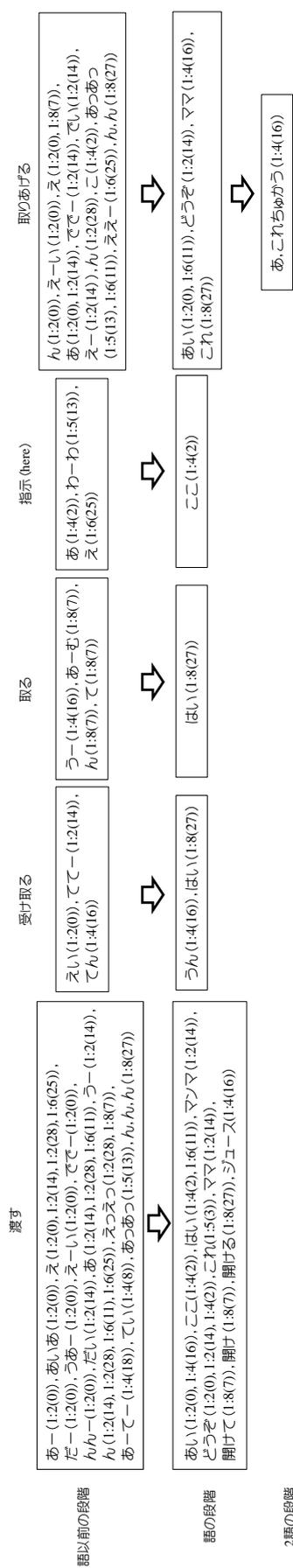


図4-8 D児の<経路・垂直的経路>における音声の変化1

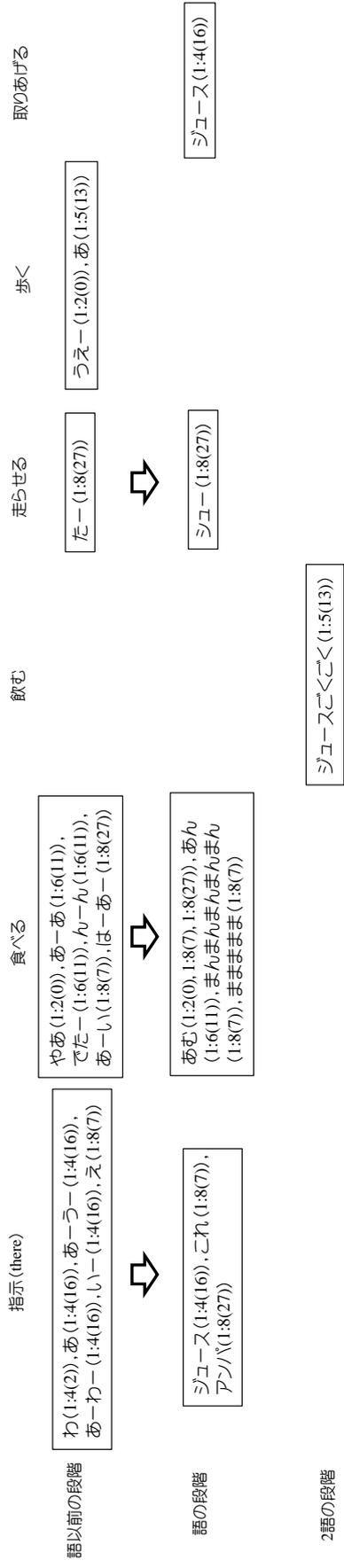


図4-9 D児の<経路・指示的経路>における音声の変化2

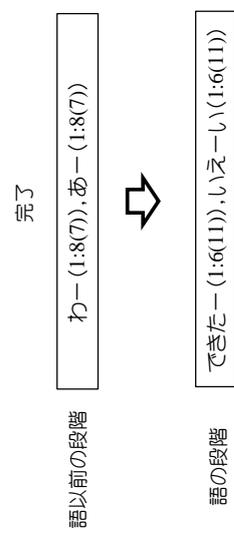


図4-10 D児の<経路・目的終了>における音声の変化



助詞を含む段階

図4-14 D児の<移動出来事・反復>における音声の変化

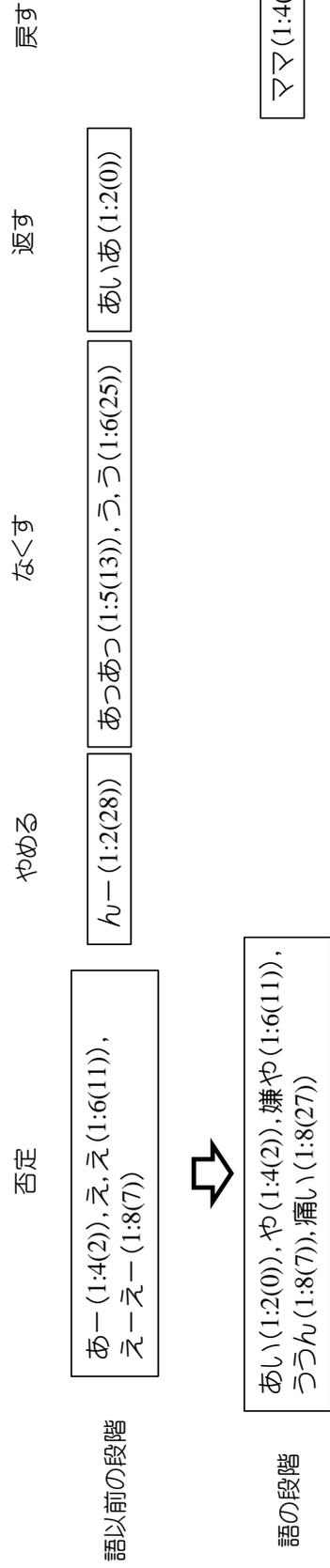


図4-15 D児の<移動出来事・否定(反転)>における音声の変化

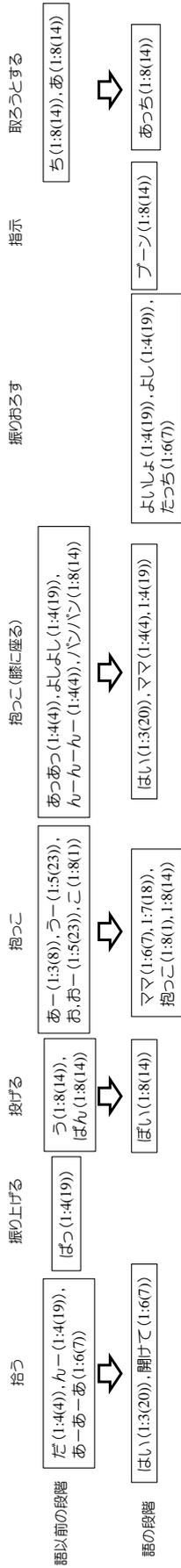


図4-16 E児の<経路・垂直的経路>における音声の変化1

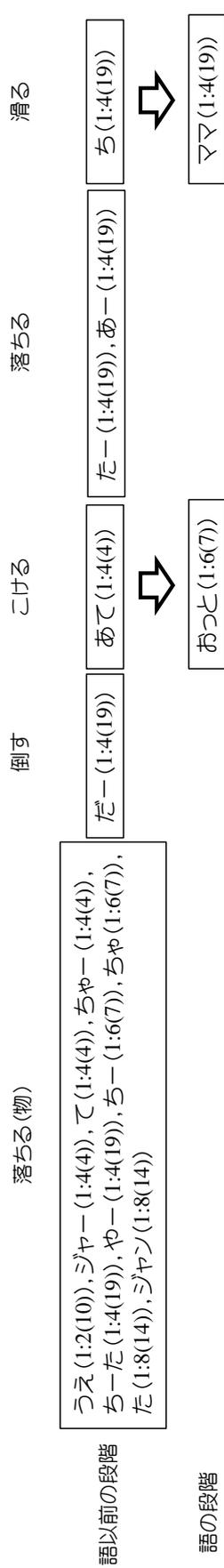


図4-17 E児の<経路・垂直的経路>における音声の変化2

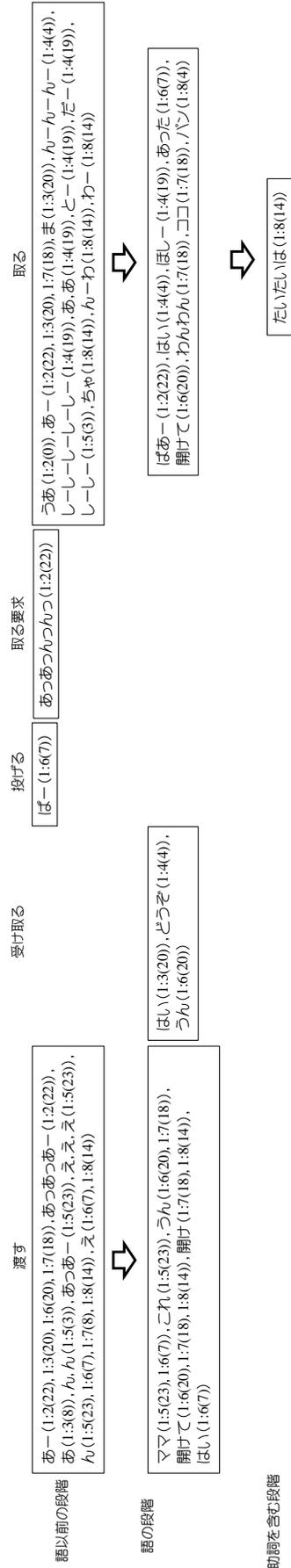


図4-18 E児の<経路・垂直的経路>における音声の変化1

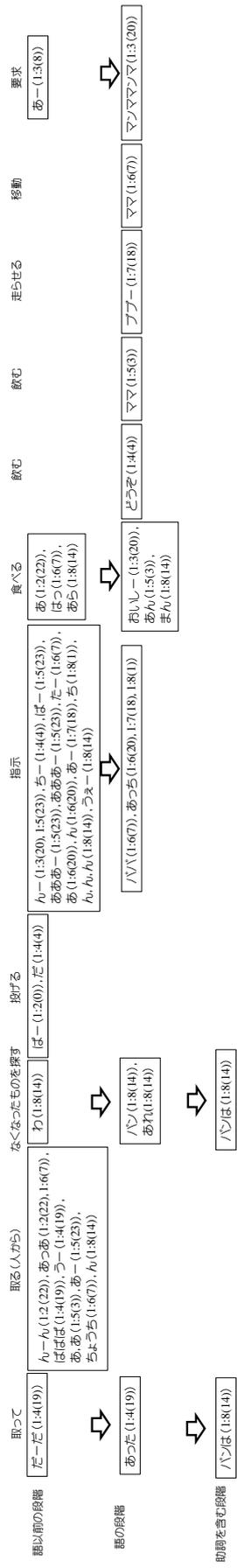


図4-19 E児の<経路・指示的経路>における音声の変化2

行動の完了

語以前の段階

語の段階

よし(1:6(7), 1:8(1))

図4-20 E児の<経路・目的終了>における音声の変化

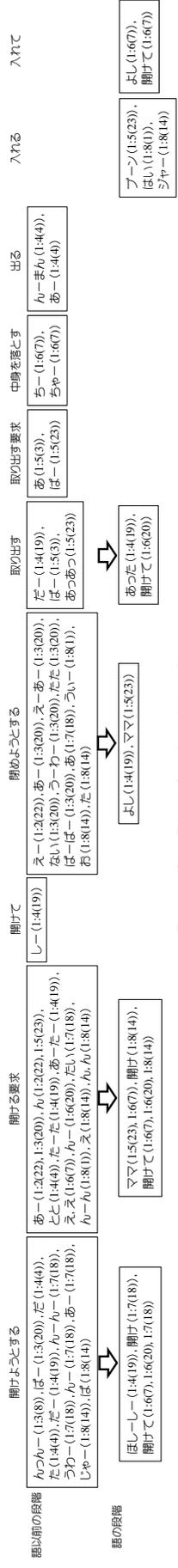


図4-21 E児の<図と地・包含>における音声の変化

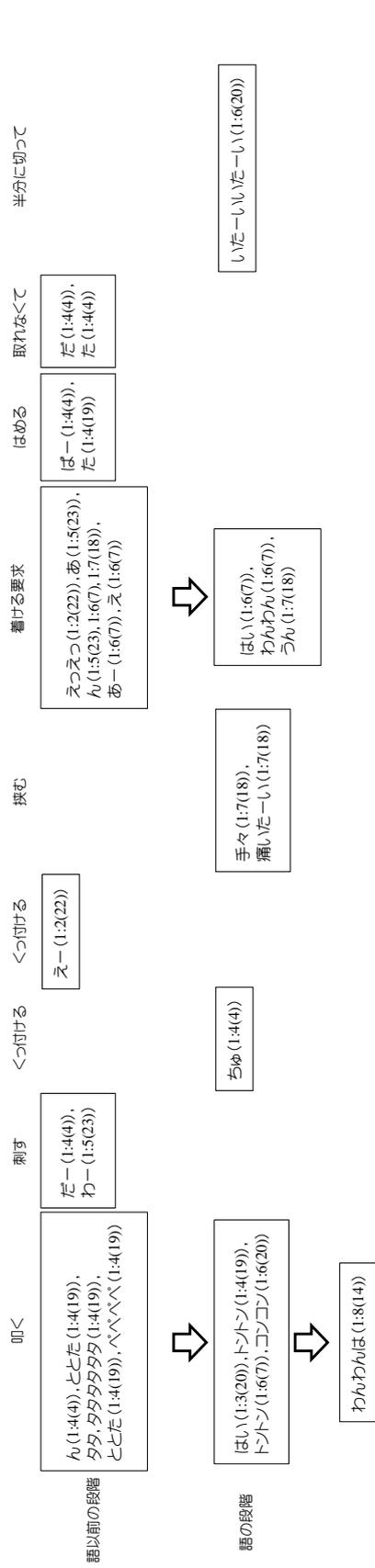


図4-22 E系の<図と地・付着>における音声の変化1

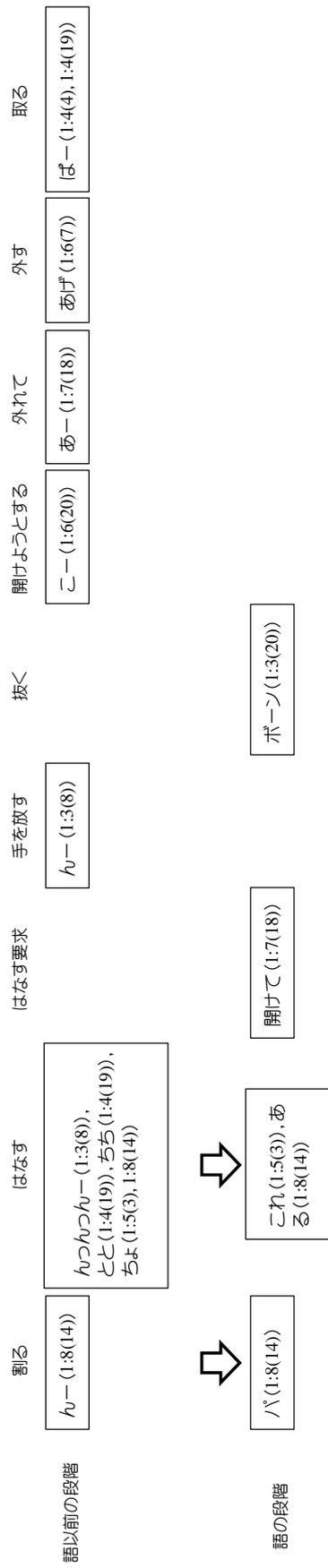


図4-23 E系の<図と地・付着>における音声の変化2

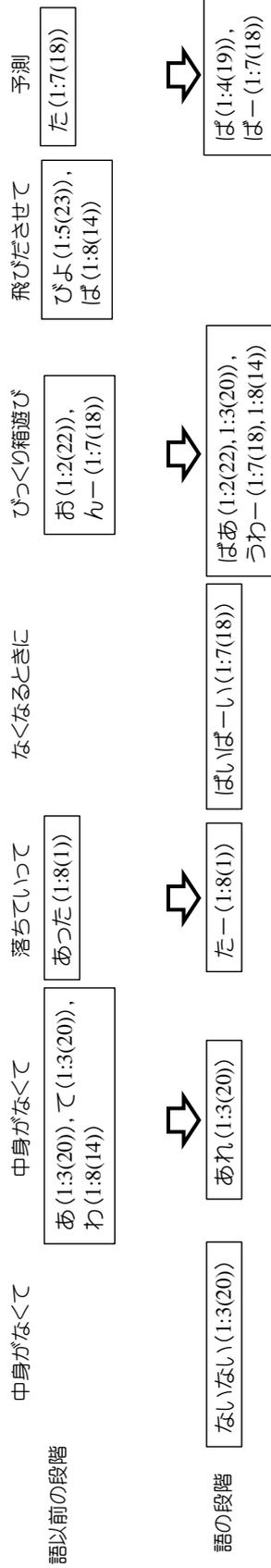


図4-24 E児の<移動出来事・閉塞>における音声の変化

要求

語以前の段階
 ん(1:2(22)), え(1:2(22)), あーあー(1:3(8), 1:3(20)),
 にやは(1:3(20)), ん(1:5(3)), んー(1:5(23), 1:6(7)),
 ああああああ(1:5(23)), えー(1:6(7)), こー(1:6(7))



語の段階
 これ(1:5(23)), ブーン(1:5(23)), 開けて(1:6(7))

図4-25 E児の<移動出来事・回復>における音声の変化



図4-26 E児の<移動出来事・否定(反転)>における音声の変化

第5章 日本語における力動出来事語の発達

第1節 目的

本章では、定型発達の子ども2例の縦断的資料をもとに、日本語における力動出来事語の発達について明らかにすることを目的とする。力動出来事語は、2語発話出現期に動詞へと移行することが指摘されている (McCune, 2008)。そこで、今回は特に、MLUの段階1初期から後期への移行期に着目し、1歳9か月から2歳にある子どもを対象に、まだ文法的ではない2語発話が出現し始める時期の力動出来事語について検討する。

第2節 方法

1. 研究協力者

研究協力者は、生後1歳9か月の子ども2例（男児1例：E児，女児1例：D児）とその20代の母親である。研究協力者の家族構成および、乳児期の発達の様子は第4章の通りである。母親には、事前に本研究がことばの発達に関するものであることを説明し、了承を得た。詳しくは、第4章に示した。

D児の1歳10か月15日時の新版K式発達検査2001の結果は、P-M：2歳0か月，C-A：1歳11か月，L-S：1歳11か月，全領域1歳11か月，DQ：102であった。

E児の1歳9か月12日時に実施した新版K式発達検査2001の結果は、P-M：2歳3か月，C-A：1歳7か月，L-S，1歳11か月，全領域：1歳9か月，DQ：97であった。また、2歳0か月6日に実施した結果では、P-M：2歳3か月，C-A：1歳11か月，L-S：1歳11か月，全領域：2歳0か月，DQ：98であった。このとき実施したKIDSの結果は、運動：2歳4か月，操作：2歳6か月，言語理解：2歳0か月，表出言語：2歳4か月，概念：2歳6か月，対子ども社会性：2歳4か月，対成人社会性：2歳4か月，しつけ：2歳4か月，食事：2歳6か月であった。

2. 観察期間

それぞれの子どもの生後1歳2か月から生後2歳までの間（D児：20XX年X月12日～20XX+1年X月15日，E児：20XX年X+3月26日～20XX+1年X+1月22日），原則として月2回観察を行った。本研究において対象としたのは、1歳9か月から2歳までである（D児：20XX年X+7月23日～20XX+1年X月15日，E児：20XX+1年X+10月16日～20XX+1年X+1月22日）。D児に関しては、D児の病気，あるいは母親の都合に

より、4回、E児は8回のセッションが対象となっている。

3. 手続き

研究協力のための訪問は、原則として月2回、2週間に1度のペースで行い、D児は母親の実家（毎週末実家に訪問している）に、E児は家庭に、観察者（筆者・女性）が訪問し、遊んでいる様子をビデオカメラによって30分間撮影を行った。1回当たりの訪問時間は約1時間から1時間半であった。ビデオは、家に訪問し、玩具とビデオカメラの用意ができ、子どもが落ち着いたところで撮影を開始した。ビデオカメラ及び、観察者は部屋の隅に位置した。部屋は、D児は6畳程度、E児は8畳程度の居間において行った。録画は、研究協力者が部屋を離れたり、母親が電話に出たり、誰かが部屋に入ってきた際は、一時的に中断した。

遊びは、母子が座った状態で玩具を提示し、観察者が録画を開始した。玩具は第4章に示した通りである。

撮影は、母子から1.5m程度の距離をとり、子どもの体が画面全体に写るように行った。観察者は、部屋の端に座り、母子が働きかけてきた際は、不自然でないように最小限の応対を行った。

D児には、生後1歳10か月時に、E児には、生後1歳9か月時と2歳0か月時に新版K式発達検査2001を行った。また、E児ではKIDSも2歳0か月時に実施した。

4. 発話分析

発話は、VTRをもとに各事例の発話場面および発話内容についてトランスクリプトを作成した。

トランスクリプトをもとに、MLU、力動出来事的な状況における発話、1語発話、2語発話、多語発話に着目し、分析を行った。分析の際、不明瞭な発話、無意味発声、模倣は分析から外した。模倣については、親の発話のすぐが続いての発話の場合、模倣として捉えた。

研究協力者が部屋の外へ出たり、電話に出たりしている場面は、分析から外した。

力動出来事語は、McCune（2008）を参考に、自発的な語、現実または潜在的な状況について言及する発話を分析の対象とし、対象や人、出来事の変化について言及する発話を協議して、分類した。分類のカテゴリは、第4章に示した通りである。分類は、協議しながら行った。

第3節 結果

1. MLU

今回対象とした期間におけるD児のMLUは、1.38～1.49の間にあり、Brown (1973)の段階の段階I初期であった(図5-1)。

E児のMLUは、1.31～1.56の間にあった。E児はBrown (1973)の段階では、段階I初期から後期の間にあった(図5-2)。

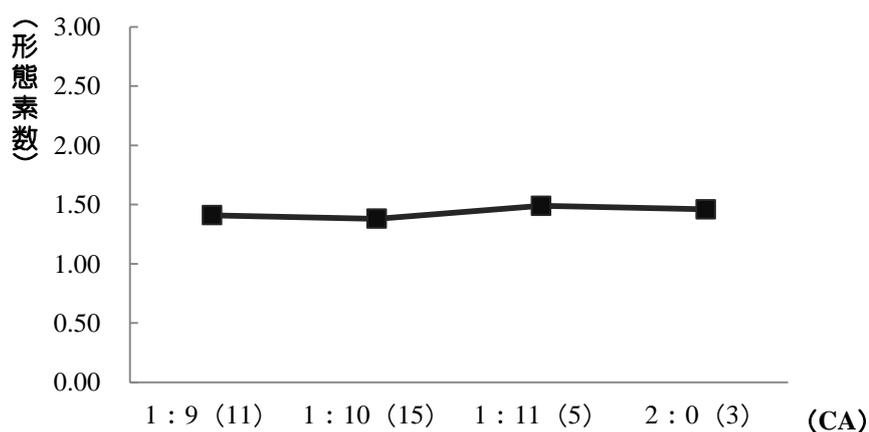


図5-1 D児のMLUの推移

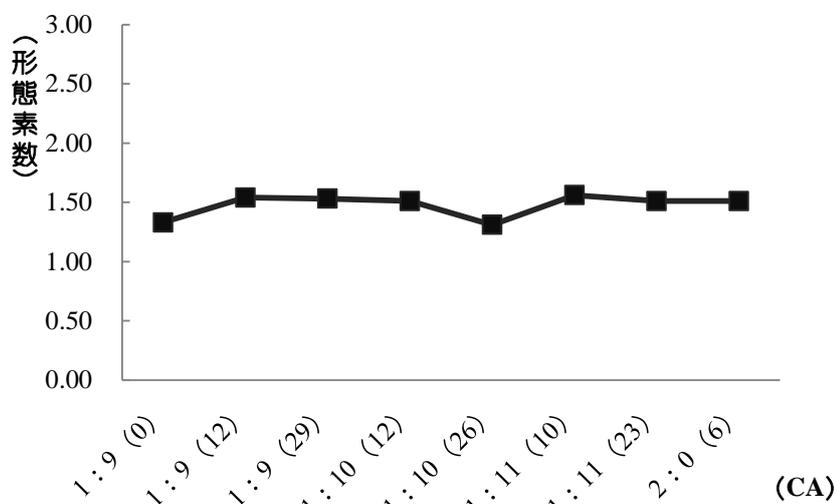


図5-2 E児のMLUの推移

2. 発話数

各セッションにおける1語発話数、2語発話数、多語発話数の推移について、それぞれ、図5-3、図5-4に示す。

D児では、初回である1歳9か月11日では、96の発話が出現し、そのうち2語発話は2であった。このとき、総発話数にしめる1語発話は97%、2語発話は2%であった。また、1歳10か月15日と最後のセッションである2歳0か月3日では、多語発話が出現した。このとき、総発話数にしめる1語発話は91%、2語発話は8%であった。

E児では、初回の1歳9か月0日には、84の発話が出現し、そのうち2語発話は1のみだった。E児において、多語発話が出現したのは、1歳11か月10日のみだった。このときの2語発話は、78の発話のうち、14であった。最後のセッションである2歳0か月6日では、159の発話のうち、1語発話が133、2語発話は26であった。このとき、総発話数にしめる1語発話数は84%、2語発話は16%だった。

2例とも2語発話が出現し、多語発話が見られ始めた時期にあった。

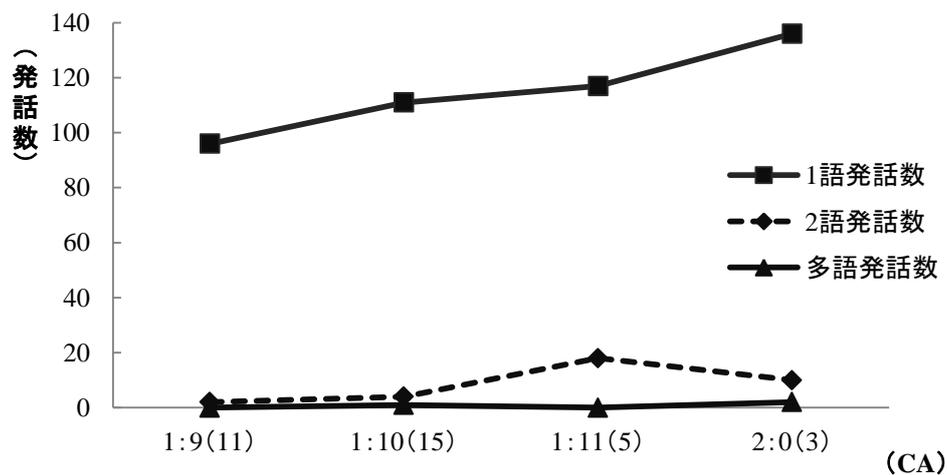


図5-3 D児の1語・2語・多語発話数の推移

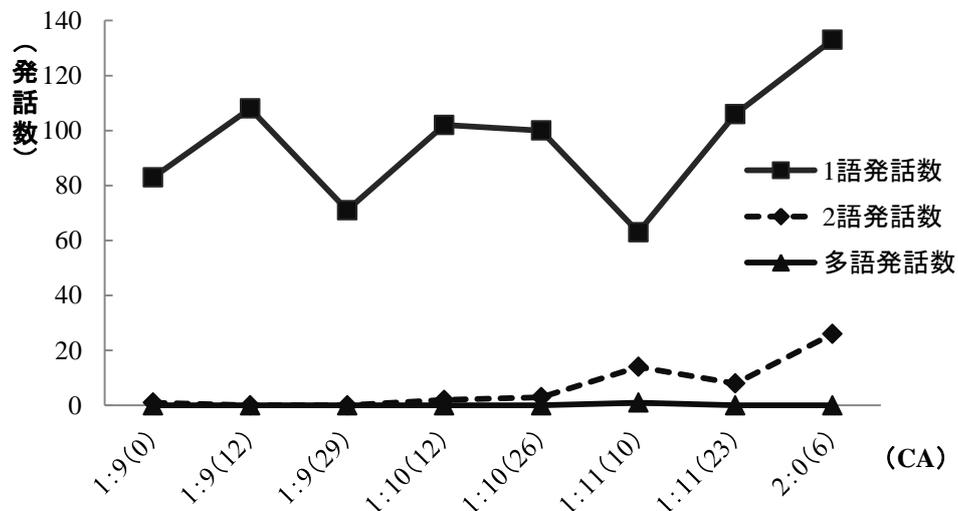


図5-4 E児の1語・2語・多語発話数の推移

3. 語彙

各セッションにおける語彙数、および新出語彙数について、それぞれ、図5-5、図5-6に示す。D児では、初回である1歳9か月11日では25語の異なりの語彙が出現した。その後のセッションでも20語以上の異なりの新出語彙を示し、対象とした期間内に語彙の増加がみられた。D児では、対象とした期間内に、103語の異なりの語彙が出現した。

E児では、初回の1歳9か月0日では、24語の異なり語彙が出現した。その後のセッションでは、毎回9語以上の異なり語彙が出現していた。最後のセッションである2歳0か月6日では、40語の異なり語彙の出現を示した。対象とした期間内にE児では、124語の異なりの語彙がみられた。

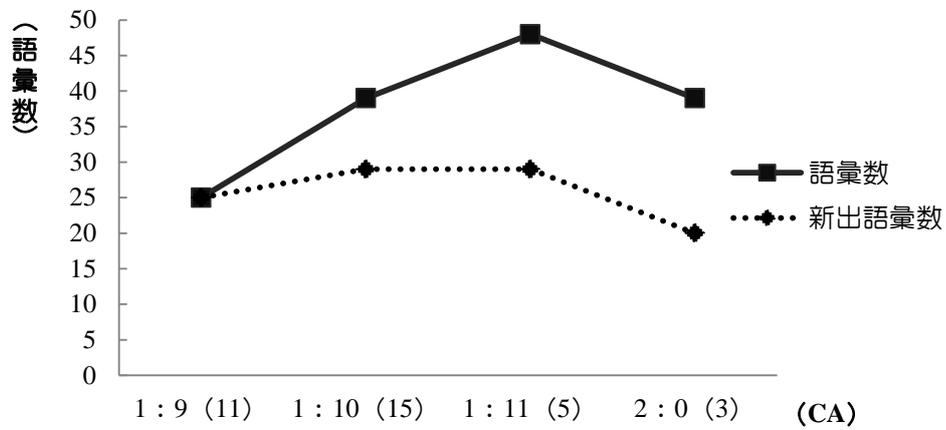


図5-5 D児の語彙数の推移

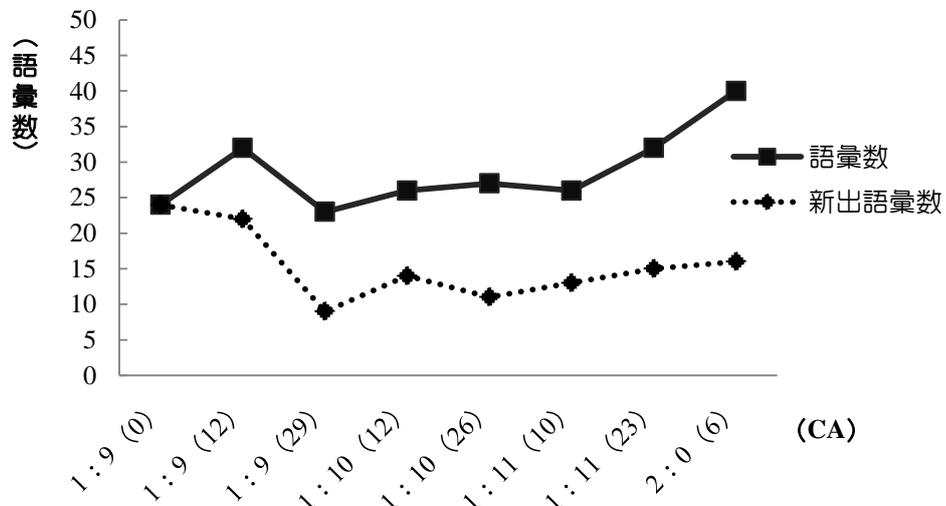


図5-6 E児の語彙数の推移

4. 力動出来事語

それぞれの力動出来事語のカテゴリにおける発話と、その文脈について表に示した（D児：表5-1から表5-8，E児：表5-9から表5-15）。

4-1. D児の力動出来事語

D児の<経路・垂直的経路>では、玩具のコインが落ちた際に、「あ、落ちたね」がみられた（1歳11か月5日）。また、落ちたことに対して「わ、びっくりした」も出現した（2歳0か月3日）。ここでは、「びっくり」+「した」となっており、2語によって表されるようになっていた。

<経路・直示的経路>は、食べるふりの音（1歳9か月11日：「あーん」、「あむ」、「まんまんまん」、1歳10か月15日，2歳0か月3日：「あむ」）や玩具の車を走らせるふりの音（1歳9か月11日：「プププー」、「ピピピピ」、1歳10か月15日「プープープー」）が出現した。また、玩具を渡すときに、「はい」（1歳10か月15日，1歳11か月5日，2歳0か月3日）や「はい」の音韻未熟の「あい」（1歳10か月15日）、「これ」（1歳10か月15日）、「はいどうぞ」（1歳10か月15日，1歳11か月5日）がみられた。1歳10か月15日では、絵本を見ながら「見て」が出現した。2歳0か月3日では、玩具を渡しながらか遊びを要求する「する」と、ミニフードの魚を飛ばせるふりをしながら「お魚とんでいけー」がみられた。

<経路・目的終了>は、「できた」の意味の「でった」が1歳9か月11日に出現した。また、「よし」や「あったー」もみられた。1歳10か月15日には、「でったー」ではなく、「できた」が出現した。

<図と地・包含>は、「開け」、「開けて」、「開ける」が主にみられた。1歳9か月11日では玩具を提示しながら「開けて」と「開け」が出現した。1歳10か月15日では、「開け」と「開ける」、「開けて」、「開けた」、「これ開ける」がみられた。これらはすべて玩具を開けてほしいときに出現した。1歳11か月5日では、「開ける」、「開いてる」、「開けてくれ」、「お、しよー」、「出ておいでー」、「出てくるね」が出現した。「開ける」は閉める場面でも出現した。「出ておいでー」は、玩具の財布から中身を取り出したいときにみられた。その他の「開ける」は、玩具を開ける要求において出現した。

<図と地・付着>は、1歳9か月11日には、入れ子のカップを重ねようとしながら「よし」、入れ子のカップが重ねられなくてそれを要求しながら「これはこれ」や「これ」が出

現した。また、重ねた入れ子はずそうとしながら「開けてーす」、「開けたーす」がみられた。1歳10か月15日では、「開けて」が絵本を開こうとするときに発話された。絵本のカバーがはずれて、それをつけてほしいという意味でも「開ける」が出現した。また、びっくり箱のオルゴールを回すふりをしながら「持ってー」やバナナを手に刺すふりをしながら擬音語の「ちく」、玩具の金槌で打つふりをしながら「トトト」の擬音語が出現した。1歳11か月5日では「開ける」がパズルのピースを持ちながら発話された。パズルを触りながら「出ておいでー」もみられた。玩具の金槌でミニフードのたまごを叩きながら「コンコンコンコン」も出現した。玩具の金槌が手にあたって「あー痛かった」がみられた。女の子の人形の靴下が脱げていることを「くした脱げ」と母親に知らせることがあった。2歳0か月3日では、玩具のカードを置きながら「はい」が出現した。

<移動出来事・閉塞>は、2歳0か月3日にびっくり箱の遊びでみられた。びっくり箱からぬいぐるみが飛び出してくることを予想して「怖いね」、「びっくりした」、「やだ」がみられた。また、びっくり箱を見ながら「わーお」、「ちょうちょ」、「あおむし」、「出たー」が出現した。びっくり箱を閉める場面ではびっくり箱に向かって「ばいばーい」がみられた。また、ジュースを飲み切ったときに、「ピカピカ」と母親に知らせることがあった。

<移動出来事・反復>では、1歳11か月5日にびっくり箱をしてほしいときに「もっかい」が出現した。2歳0か月3日では、同じ場面で「これす」と母親にびっくり箱を渡しながらか「はい」がみられた。母親が流していた音楽をもう一度かけてほしいときにも「もっかいして」が出現した。カップにポットからお茶をそそぐ遊びでは、「おかわり」が発話された。おむつを変えてもらった後に、再びおむつを変えてほしくなって「うんこした」、「おむつ変えていい」、「おむつ」、「おむつあったー」、「このする」、「変える」が出現した。

<移動出来事・否定(反転)>では、「やだ」がすべてのセッションでみられた。これは、母親からの提案や母親の行動に対して発話された。

表5-1 D児の垂直的経路場面の発話

McCune(2008)の分類	玩具・遊び	文脈	CA	発話
down	財布とコイン	コインが落ちて	1:11(5)	あ、落ちた あ、落ちたね
	ポット	ポットの蓋が落ちて	2:0(3)	わ、びっくりし わ、びっくりした

表5-2 D児の直示的経路場面の発話

McCune(2008)の分類	玩具・遊び	文脈	CA	発話		
here/thanks	ミニフード	スプーンをMo.に渡そうとしながら	1:10(15)	あい あい、どうぞ		
			2:0(3)	はい		
			1:11(5)	はいどうぞ はい		
				Mo.にミニフードのトウモロコシを差し出しながら	1:11(5)	はい
				ミニフードのいちごをMo.に差し出しながら	1:11(5)	はい
				Mo.にボットを渡そうとしながら	2:0(3)	はい
				Mo.にボットを渡そうとしながら	2:0(3)	する
				半分にしたミニフードの魚の尻尾の方をMo.に渡しながら	2:0(3)	はい
				Mo.にミニフードの豆を差し出しながら	2:0(3)	あい はい
				びっくり箱 Mo.の膝の上にびっくり箱をのせて	1:10(15)	はい
				財布 玩具のお札をMo.に渡しながら	1:10(15)	あい はい はいどうぞ
				玩具の財布をMo.に渡しながら	1:11(5)	はい
				Mo.に玩具のコインを渡しながら	1:10(15)	あい
				Mo.に玩具のコインを渡しながら	1:11(5)	はい
		mine	ミニフード	ガラガラ ガラガラをMo.に渡しながら	2:0(3)	はい
ミニフードの返してもらおうと手を伸ばしながら	2:0(3)			はい		
ミニフードの豆を返してもらおうと手を伸ばしながら	2:0(3)			はい		
財布 Mo.が持っているお札を取りながら	1:10(15)			あい		
eat	ミニフード	Mo.が持っている玩具の財布を取ろうとしながら		はい		
		ミニフードのいちごを食べるふりをして	1:9(11)	あーん		
			2:0(3)	あむ		
		バナナを食べるふりをしながら	1:9(11)	まんまんまん		
			1:10(15)	あむ		
		ぶどうを食べるふり	1:9(11)	あーむ		
		りんごを食べるふり	1:9(11)	あーむ あむあむあむあむ		
		ミニフードの魚を食べるふりをして	2:0(3)	あむ		
		ミニフードの豆を食べるふりをして	2:0(3)	あむ		
		スプーンで食べるふりをしながら	2:0(3)	あむ		
drink	哺乳瓶	哺乳瓶を飲むふりをして	1:9(11)	あー、おいちー		
feed	ミニフード	ドーナツをMo.の方に向けて食べるふりをさせようとしながら	1:9(11)	あーん		
		Mo.の方にバナナを差し出しながら(食べるふりをしてもらおうとして)	1:10(15)	あむ		
go	ミニフード	ミニフードの魚を右から左に飛ばせるようにして	2:0(3)	お魚とんでいけー		
		アイロン アイロンを動かしながら	1:9(11)	プープープープー		
	トラック	トラックを動かし走らせながら	1:10(15)	プープープープー		
			1:9(11)	プッーしよ プッー プープッー プッーブ		
			1:9(11)	プー		
	ミニカー	ミニカーを走らせながら	1:10(15)	プッー プッー プープー		
			1:9(11)	プッー プッー プッー		
			郵便トラックのミニカーを走らせながら	1:9(11)	プッー ヒヒヒヒ	
	look		絵本を見ながら	1:10(15)	見て	

表5-3 D児の目的終了場面の発話

McCune(2008)の分類	玩具・遊び	文脈	CA	発話	
there/here	ミニフード	ミニフードのぶどうをお皿の上に載せて	1:9(11)	よし	
		お皿の上に載せたミニフードのいちごを見ながら	1:9(11)	あつたー	
		入れ子に哺乳瓶からそくふりをした後、哺乳瓶を玩具入れにしまって	1:9(11)	よし	
		カップにボットからそくふりをした後に	1:9(11)	よし	
		茶わんの蓋を閉めることができ	1:10(15)	できた	
		入れ子 入れ子を重ねることができて	1:9(11)	よし	
		財布 カードの上にコインを置いて喜びながら	1:9(11)	でったー(できた) でったでった(できた) でった(できた) でったでったでった(できた)	
				1:9(11)	よし
				1:9(11)	よし
				1:9(11)	よし

表5-4 D児の包含場面の発話

McCune (2008) の分類	玩具・遊び	文脈	CA	発話	
open	ミニフード	ミニフードの入れ物を開けてほしくて	1:9(11)	開け、あ、開け 開けて	
			1:10(15)	開ける	
	ツールボックス	蓋を開めた茶わんが開かなくなってMoの方に持って行きながら 玩具のツールボックスを開けてほしくて	1:11(5)	開ける	
			2:0(3)	開ける開ける	
			1:10(15)	開け	
			1:10(15)	開け開け	
	びっくり箱	びっくり箱を開けてほしくて	1:11(5)	開ける	
			2:0(3)	開ける	
			1:10(15)	開ける	
	財布	お財布を開けてほしくて	1:11(5)	お、しよー	
1:9(11)			あ、あ、開けて 開けあー 開けー		
1:10(15)			これ開ける 開け 開ける		
1:11(5)			開けてくー 開けてくれ		
2:0(3)			開ける開ける		
closed	ミニフード	ミニフードの入れ物の蓋を閉めながら ポットの蓋をしてほしくて ポットの蓋を閉めることができて 茶わんの蓋を閉めようとしながら	2:0(3)	ないない	
			2:0(3)	これずる	
			2:0(3)	できた	
			1:10(15)	開け	
	ツールボックス	ツールボックスの蓋を閉めながら	1:11(5)	開ける	
	財布	開いた財布を見ながら	1:11(5)	開けてく	
	out	財布	玩具の財布からお札を取ろうとしながら コインを財布から見つけて	1:10(15)	開けた
				2:0(3)	わーお
				1:11(5)	出ておいでー 出てくるね
	in	財布	お札を財布に入れようとして 玩具の財布をMo.に渡してお札を入れてもらおうとして	1:10(15)	開ける
1:10(15)				開けて	

表5-5 D児の付着場面の発話

McCune (2008) の分類	玩具・遊び	文脈	CA	発話
stuck/fitted	ミニフード	バナナを手に刺しながら	1:10(15)	ちく
			1:10(15)	トト
	ツールボックス	金槌を持って打つふりをしながら たまごを金槌で打って手にあたって	1:11(5)	あー痛かった
			1:11(5)	コンコンコンコン
	びっくり箱	玩具の金槌で卵を叩きながら びっくり箱を回すふりをしながら	1:10(15)	持ってー
			2:0(3)	はい
	入れ子	財布から取り出したカードとお札を床におきながら 入れ子のカップを重ねようとしながら 入れ子のカップをMo.に重ねてもらおうとして	1:9(11)	よし
			1:9(11)	これはこれ これ これこれこれー これこれこれこれ
			1:11(5)	出ておいでー 開ける
	unstuck(invented)	絵本	本を開こうとしながら 重ねた入れ子からひとつ取り出そうとして	1:10(15)
1:9(11)				開けてーす
入れ子		本を開こうとして本のカバーが外れてしまって付けてほしくてMo.の顔を見ながら 女の子の人形を指さしながら靴下が脱げていることをMo.に伝えて	1:10(15)	開ける
			1:11(5)	靴下脱げ

表5-6 D児の閉塞場面の発話

McCune(2008)の分類	玩具・遊び	文脈	CA	発話
allgone	その他	ジュースを全部飲んで	2:0(3)	ピカピカ
bye	びっくり箱	Mo.がびっくり箱を開めるのを見ながら	2:0(3)	はいばーい
peekaboo	びっくり箱	びっくり箱をMo.が回していると飛び出てくることを予測して	2:0(3)	怖いね やだ びっくりした
		飛び出してきたびっくり箱を見て	2:0(3)	わーお 出たー 青虫 ちょうちよ

表5-7 D児の反復場面の発話

McCune (2008)の分類	玩具・遊び	文脈	CA	発話
more	ミニフード	カップをMo.から取るうとしながらMo.に聞く	2:0(3)	おかわり
again	びっくり箱	びっくり箱をしてほしくて	1:11(5) 2:0(3)	もっかい これす はい
	その他	<もっかい?>とMo.が妖怪ウォッチの音楽を止めようとする	1:11(5)	もっかいして
		おもつを再び変えてほしくて	2:0(3)	おもつ 変える このする うんこした おもつ変えていい
		Mo.がおもつを取り替えようとしてくれて	2:0(3)	おもつあったー

表5-8 D児の否定(反転)場面の発話

McCune (2008)の分類	玩具・遊び	文脈	CA	発話
no	びっくり箱	Mo.がびっくり箱をしているとMo.に向かって	1:11(5) 2:0(3)	やだ やだ やーだ
		びっくり箱をやってごらんと言われて	2:0(3)	やだ
	財布	Mo.がコインをく入れて>と玩具のお財布を出すすと断って	1:9(11)	やーだ
		Mo.が財布を渡そうとすると	1:10(15)	やだ
		<入れるの?>とMo.が聞いて財布をD児から取ろうとすると	1:10(15)	やだ
	その他	Mo.が服のフードをかぶせようとする	2:0(3)	やだ
		Mo.がD児の髪を結ぼうとしている	2:0(3)	やだ やーだ

4-2. E 児の力動出来事語

E 児の<経路・垂直的経路>では、1歳9か月0日にくまのぬいぐるみを抱っこしようとしながら「ワンワン」、「抱っこ」が出現した。1歳9か月12日では、飛んでいったミニフードを拾いながら「はい」や、入れ子を高く重ねて「高い」が出現した。1歳10か月26日では、玩具のコインやお札を物の上に置きながら「はい」や「これ」、そして置く音としての「ぴ」が出現した。1歳11か月23日では、玩具のお金が落ちて「落ちた」がみられた。

<経路・直示的経路>では、1歳9か月0日に母親に玩具を取ってほしくて「ママ」や取ろうとしている物の名称「ブブ」、「ジュース」が出現した。ほしいものがあるときには、「ほしー」がみられた。1歳9か月12日では、母親の持つ玩具がほしいとき「ほしい」や「貸して」、「はい」が出現した。「貸して」と「はい」は、玩具を渡すときにもみられた。また、投げるふりの音の「ポン」や食べるふりの「あん」が出現した。1歳9か月29日には、食べるふりの「あん」と、玩具を取ろうとしながら「これ」が発話された。1歳10か月12日は、母親の持つ玩具がほしいときや、物を投げた後に「取って」、母親に渡そうとしながら「ママ」、玩具を持ちながら「あった」がみられた。1歳10か月26日は、食べるふりの音「まん」や、ほしいものを指さして「取って」、物を渡す際に「はい」、そして物を指し示して「ここ」や「あっち」が出現した。1歳11か月10日は、ほしいものに手を伸ばして「ほしい」がみられた。1歳11か月23日では、取ってほしいものを指さしながら「こっち」や「ママこっち」が、実際に取りながら「こっち」や「これ」、「あった」が出現した。母親から玩具を取るときには「はい」や「あった」がみられた。母親が片づけている物がほしいときはその名称での要求がみられた（「ママヘビ（ヘビはきゅうりのこと）」、「ヘビ」）。2歳0か月6日は、食べるふりの音「あん」や「あむ」、玩具を渡しながら「はい」や「どうぞ」、「はいどうぞ」が出現した。物を取るときにも「はい」はみられた。また、物の名称「チョコ」や「おやつ」、代名詞の「これ」もみられた。反対に渡すときにも名称を含めて「はいマンマ」の発話がみられた。他にも、玩具を取りながら「はい」、おやつを食べながら「マンマ」、指さしながら、名称の「ワンワン」や「〇ちゃん（兄の名前）」が出現した。

<経路・目的終了>は、1歳9か月12日にミニフードの魚を切って、できたの「たー」が出現した。1歳10か月12日では、入れ子に蓋をしたり、外したりすることができて「できた」がみられた。1歳11か月23日では、玩具のペンチでミニフードを挟むということができたときに「ママきた（できた）」、「きた（できた）」、「きたね（できたね）」が出現した。

玩具のペンチでミニフードを取ることができたときには、「取れた」が発話された。

<図と地・包含>は、1歳9か月0日にポットでカップに入れるふりの音「ジャー」やチャックを開け閉めする音「ジー」、物を取り出すときの音「ポン」が出現した。玩具を開けてほしいときには「開けて」や物に描かれている絵の「ちょうちょ」、こたつの中に入ろうとして「開ける」が出現した。1歳9か月12日は、玩具を開けてほしいとき「ほしい」、「開けて」や、自分で開けながら「ば」や「はい」が出現した。カップに注ぐふりの音の「ジャー」もみられた。1歳9か月29日は、玩具を開けてほしいときや、玩具操作をしながら「開けて」がみられた。1歳10か月12日にも、玩具を開けてほしいときに「開けて」が出現した。玩具のコインを見つけて玩具の財布に入れようとしながら「あった」もみられた。1歳10か月26日には、玩具の財布を開けることができ「開いた」が、カップに注ぐふりの音「ジャー」やカップに氷に見立てた物を入れたことを知らせる「氷」が出現した。1歳11か月10日は、玩具を開けてほしいときに「これ」と「開けて」が出現した。1歳11か月23日にも「開けて」、「開け」が出現し、さらに開いたものを見ながら「開いた」が発話された。びっくり箱からぬいぐるみが飛び出て「出たー」も出現した。2歳0か月6日でも、玩具を開けてほしいときに「これ」、「これが」、「開ける」、「ママ開けて」が出現した。自分で開けようとしながら「開け」や、開けることのできたときに「出た」、開けてもらった後に「開いたぞ」もみられた。他にもミニカーで開けるドアを探しながら「あれこっち」や「こっち」、開けたドアの数を「2つ」と発話することがみられた。玩具の財布からコインを取り出そうとしたときには「これ」が出現した。

<図と地・付着>は、1歳9か月0日では、人形の靴下を取りながら「ほしー」やぬいぐるみのお腹を叩きながら「ぼんぼん」が出現した。1歳9か月12日では、ミニフードのたまごを割ってほしくて「開けて」、魚をくっ付けてほしくて「したい」と擬音語の「ごっちゃん」と「ぺっちゃん」が出現した。金槌を叩く音の「コンコン」と「カンカン」もみられた。1歳9か月29日は、赤ちゃんの人形のお腹を触りながら「ぼんぼん」、叩きながら「ぺん」がみられた。1歳10か月12日は、くっ付いているミニフードのトマトやレタスをはなしてほしいときに「開けて」、母親にサングラスをつけようとしながら「ママ」、ミニフードの魚をくっ付けようとしながら「がっちゃんこ」が出現した。人形の靴下をはかせようとしながら「足」もみられた。1歳11か月10日は、びっくり箱のぬいぐるみが挟まったことに「耳痛い」、「耳」、「耳が痛い痛い」が出現した。また、玩具のペンチを閉じながら「チョキチョキ」、ミニフードの魚をはなして「ぼん」が発話された。玩具のツールボックスの留

め具が外れたことに対して「あーあ」が出現した。2歳0か月6日は、ミニカーに乗れなくドアを指しながら「こっち」が、ホットドッグをつぶしながら「ぺっちゃんこ」、女の子の人形に靴下をはかせようとしながら「はいどうぞ」が出現した。

<移動出来事・閉塞>は、1歳9か月0日では、びっくり箱で驚いた「わ」と、遊びたくて「ほしー」、びっくり箱のぬいぐるみを抑えながら「出た」が出現した。1歳9か月12日は、玩具を隠したり、投げたりした後に「ない」、「ないない」、なくなったものを探しながらその名称「ワンワン」、や「あれ」がみられた。1歳9か月29日は、あるはずの物がないうちに「ない」や探しているときに「あれ」、びっくり箱を閉めようとしながら「ばいばいーい」、そしていないないばあ遊びで「ばあ」が出現した。1歳10か月12日は、何かを探すときや、なくなったときなどに「ない」、見つかったときには「あった」が出現した。母親とのくすぐり遊びで、くすぐりがこないときに「あれ」が出現した。1歳10か月26日では、玩具がないことを知らせる「ない」が出現した。1歳11か月10日は、びっくり箱を閉めながら「ばいばいーい」や玩具を探しながら「あれ」が出現した。1歳11か月23日では、玩具を探しながらの「あれ」、見つけたときに「あった」がみられた。あったものがなくなったときには、その名称「へびちゃん」や「行っちゃった」がみられた。2歳0か月6日は、びっくり箱を閉じるときや、部屋から出ようとするときに「ばいばい」が発話された。おやつがなくなった際は「ない」、「なくなった」、「もうない」と母親に知らせることがみられた。

<移動出来事・反復>は、1歳9か月29日に、びっくり箱の反復を求めて「にゃー」が、1歳11か月10日では、びっくり箱のオルゴールの音を真似ながら「ちゅちゅちゅー」や「んーママたたら」と要求することがみられた。

<移動出来事・否定（反転）>は、1歳9か月29日では、母親に断られたときや、高い高いをやめてほしいときに「やー」が、抱っこから降ろそうとしたときには「いやー」が出現した。1歳10か月26日は、母親がE児の持っている玩具をちょうだいという「嫌」がみられた。1歳11か月10日は、母親におしっこが出たか聞かれ、「まだ」と答えた。2歳0か月6日は、母親からの提案や抱っこから降ろされたときに「やだ」が出現した。

表5-9 E児の垂直的経路場面の発話

McCune (2008) 分類	玩具・遊び	文脈	CA	発話	
up	ミニフード	飛んで行ったぶどうを拾いながら	1:9 (12)	はい	
		玩具のコインをトレーにのせながら	1:10 (26)	はい	
	財布	玩具のお札をトラックの上に置きながら	1:10 (26)	び	
		玩具のコインをトラックの上に置きながら	1:10 (26)	び	
	入れ子	入れ子を高く重ねて指を指しながら	1:9 (12)	高い	
	その他	くまのリュックを抱っこしようとして		1:9 (0)	ワンワン 抱っこ
				1:11 (23)	落ちた
down		お金を取るうとして落として	1:11 (23)		

表5-10 E児の直視的経路場面の発話

McCune (2008) 分類	玩具・遊び	文脈	CA	発話	
here/thanks	ミニフード	ホットドッグをMo.に差し出しながら	1:10 (26)	はい	
		パンをMo.に渡しながら	2:0 (6)	はいどうぞ	
		スプーンを観察者に渡そうとしながら	1:10 (26)	はい	
	ツールボックス	Mo.に玩具の金槌を渡しながら	1:9 (12)	貰して	
		Mo.に玩具のハンチを渡そうとしながら	1:9 (12)	はい	
		金槌を受け取りながら	1:9 (12)	はい	
	サングラス	サングラスをMo.の方に差し出しながら	1:10 (12)	ママ	
	財布	玩具のカードを渡そうとしながら		1:10 (26)	はい
				2:0 (6)	はいどうぞ はい
		玩具のお札を渡そうとしながら	1:10 (26)	はい	
		玩具のコインを渡そうとしながら	1:10 (26)	はい	
			2:0 (6)	はい どうぞ はいどうぞ	
		財布の中にコインがあることをMo.に伝える	1:10 (26)	ここ	
		mine	ミニフード	Mo.からミニフードのたまごを取るうとしながら	1:9 (12)
	Mo.の持つミニフードの魚がほしくて			1:9 (12)	ほしい
	Mo.からドーナツを取るうとしながら			1:10 (12)	取って
	Mo.が持っているパンを取るうとしながら			1:11 (23)	あった
	ミニフードのジュースがほしくて			1:9 (0)	ジュース
	きゅうりを取るうとしながら			1:11 (23)	あった
ミニフードの入れ物を見つけて自分の方に持って行きながら	1:11 (23)			こっち	
ミニフードのホットドッグを取りながら	2:0 (6)			はい	
ミニフードのチョコを取るうとしながら	2:0 (6)			チョコ	
				これ	
きゅうりを取ってほしくて	1:11 (23)			ママヘビ ヘビ	
ミニフードの入れ物を取ってほしくて	1:10 (26)			取って	
			1:11 (23)	これ こっち ママこっち	
その他	おやつの際に手を伸ばしながら		2:0 (6)	おやつ	
ツールボックス	Mo.の持っている玩具ののこぎりを取るうとしながら		1:9 (12)	ん、貰して	
	玩具の金槌がほしくて			貰して	
びっくり箱	びっくり箱を見つけて取りに行きながら		1:9 (0)	ほしー	
財布	Mo.の手のひらから玩具のお金を取りながら		1:11 (23)	はい	
トラック	バケツに手を伸ばしてトラックを取りながら		1:9 (0)	プブ	
人形	女の子の人形を取るうとバケツに手を伸ばしながら	1:9 (0)	ほしー		
玩具入れ	玩具入れのバケツの方を手で指し、Mo.に何かを取ってほしいことを要求する		1:9 (0)	ほしーほしー ママ、ママ ママ	
			1:9 (29)	これ	
	玩具のバケツから何かを取るうとしながら	1:9 (29)	これ		
	玩具入れのバケツから入れ子を取るうとしながら				
その他	水筒をとってほしくて指さしながら	1:10 (12)	取って		
	テーブルの上にあるものに手を伸ばしながら	1:11 (10)	ほしい		
there	ミニフード	ポテトチップスを投げながら	1:9 (12)	ボン	
		スプーンを投げて	1:10 (12)	あった	
	ぬいぐるみ	<ワンワンどこ行った?>の答えで、Mo.とは反対側を指さしながら	1:10 (26)	あっち	
その他	指さしながら	1:10 (26)	あっち		
	壁に飾ってある写真を指さしながら	2:0 (6)	ワンワン 〇ちゃん(兄の名前)		
その他	eat	ミニフード	ポテトチップスを食べるふりをして	1:9 (12)	あん
				2:0 (6)	あん
			ドーナツを食べるふりをしてしながら食べる音	1:9 (29)	あん
	その他	ミニフード	ミニフードの肉を食べるふりをしてしながら	2:0 (6)	あん
			おやつを食べながら	2:0 (6)	まんま あん
feed	ミニフード	イチゴをMo.の口に持って行って	1:10 (26)	まん	
		Mo.におやつをあげながら	2:0 (6)	はいマンマ	

表5-11 E児の目的終了場面の発話

McCune (2008) 分類	玩具・遊び	文脈	CA	発話
there/here	ミニフード	ミニフードの魚を玩具の包丁で切ることができて	1:9(12)	たー
		玩具のベンチの持ちて部分でみかんを挟んで取ることができて	1:11(23)	ママきた(できた) きた(できた) きたね(できた) 取れた
	入れ子	入れ子の中にコインを入れてその上から小さい入れ子で蓋をして	1:10(12)	できた
	財布	コインを入れた入れ子の蓋を取って	1:10(12)	できた

表5-11 E児の包含場面の発話

McCune (2008) 分類	玩具・遊び	文脈	CA	発話	
open	ミニフード	ミニフードの入れ物を開けてほしくて	1:9(0)	開けて	
			1:9(12)	ほしい	
				開け	
			1:9(29)	開けて	
			1:11(10)	これ	
			2:0(6)	これが	
				これ	
				開ける、て	
			ミニフードの入れ物が開いて	1:11(23)	開いた
			玩具のジュースをMo.に提示して	1:9(0)	開けて
			玩具のおやつを手に持ちながら	1:9(29)	開けて
			玩具の缶詰をMo.に渡しながら開けてもらおうとして	1:9(29)	開けて
			玩具の哺乳瓶を開けようとしながら	1:9(0)	開けてー
				1:9(29)	開けて
				1:10(12)	開けて
	ツールボックス	玩具のツールボックスを開けてほしくて	1:9(12)	開けて	
				開け	
				はい	
				ば	
			1:9(29)	開けて	
			1:11(10)	開けて	
			1:11(23)	開けて	
				開け	
	びっくり箱	びっくり箱を開けてほしくて蓋を触りながら	1:9(0)	開けて	
				ちようちよ	
	財布	玩具の財布を開けてほしくて	1:9(0)	開けて	
			1:10(12)	開け	
			2:0(6)	あか	
		財布を開けようとしながら	1:9(0)	ジー	
		玩具の財布を開けることができて	1:10(26)	開いた	
			2:0(6)	でた	
	ミニカー	ミニカーのドアが開いて	2:0(6)	開いたぞ	
				開けた	
				2つ	
		ミニカーのドアを開けようとして	2:0(6)	あれこっち	
				2つ	
		ミニカーのドアを開けてほしくて	2:0(6)	開けて	
		乗ろうとしたドアと反対側のドアを指さしながら	2:0(6)	ママ開けて	
				こっち	
	アイロン	玩具のアイロンを操作しながら	1:9(29)	開けて	
	電話	玩具の携帯電話を開けてほしくて	1:9(29)	開けて	
				開け	
	その他	くまのぬいぐるみのおなかのチャックを開けながら	1:9(0)	ジー	
close	ミニカー	ミニカーのドアが閉まって走らせようと床に下ろしながら	2:0(6)	開いたぞ	
	その他	リュックのチャックを開めようとしながら	1:9(0)	ジー	
in	ミニフード	ポットから注ぐふりをしながら	1:9(0)	ジャー	
			1:9(12)	ジャー	
			1:10(26)	ジャー	
		茶わんの中にカップを入れてカップを氷に見立てて、入れたことをMo.の方に向けて知らせる	1:10(26)	氷	
		哺乳瓶でそそぐふりをして	1:9(12)	ジャー	
	財布	玩具のコインを財布に入れようとしながら	1:10(12)	あった	
	その他	こたつの中に入ろうとしながら	1:9(0)	開ける	
out	ミニフード	なすびをリュックから取り出して	1:9(0)	ボン	
				あ、じー	
	びっくり箱	びっくり箱からぬいぐるみが飛び出てきて	1:11(23)	出たー	
	財布	玩具の財布の中からコインを取ろうとして	2:0(6)	これ	

表5-12 E児の付着場面の発話

McCune (2008) 分類	玩具・遊び	文脈	CA	発話	
stuck/fitted	ミニフード	ミニフードの魚をくっ付けてほしくて	1:9(12)	したい して ごっちゃん(擬音語) べち べっちゃん	
			1:10(12)	がっちゃんこ(くっ付ける意味の擬音語)	
	ツールボックス	ホットドッグを押さえつけてつぶしながら	2:0(6)	べっちゃんこ	
		玩具の金槌で叩きながら	1:9(12)	かん コンコン コン	
	びっくり箱	玩具の金槌で自分の頭を叩きながら	1:9(12)	コンコンコン	
		玩具のハンチを開いたり閉じたりしながら	1:11(10)	チヨキチヨキ	
	人形	びっくり箱に挟まったぬいぐるみの触覚を触りながら	1:11(10)	耳痛い痛い 耳 耳が痛い痛い	
		赤ちゃんの人形のお腹をさわりながら	1:9(29)	ほんほん	
	サングラス	赤ちゃんの人形のお腹を叩きながら	1:9(29)	べん	
		女の子の人形に靴下をはかせようとしながら	1:10(12)	足	
	ungstuck(invented)	ミニフード	Mo.にサングラスをつけようとしながら	2:0(6)	はいどうぞ
		ツールボックス	女の子の人形のお腹を叩きながら	1:10(12)	ママ
ミニフード	くっ付いているトマトのミニフードを離してほしくて	1:9(0)	ほしー		
	レタスをはがしてほしくてMo.の方に向けて要求	1:9(0)	ほんほん		
ツールボックス	ミニフードのたまごを割ってほしくて	1:9(12)	開けて		
	半分になる魚を半分にして	1:10(12)	開けて		
ツールボックス	玩具のツールボックスの留め具が外れて	1:10(12)	開けて		
		1:11(10)	ほん		
		1:11(10)	あーあ		

表5-13 E児の閉塞場面の発話

McCune (2008) 分類	玩具・遊び	文脈	CA	発話
allgone	ミニフード	ごたつの中にミニフードの魚を隠して	1:9(12)	ない
		魚を投げた後に	1:9(12)	ないない
		玩具の哺乳瓶をMo.に見せながら(中身が消えるタイプ)	1:9(12)	あれ
		何かを探しながら(お皿)	1:9(12)	あれ
		ミニフードの入れ物を探しながら	1:11(23)	あれ
		持っていたワインナーを投げて探しながら	1:11(23)	あれー
		ワインナーを見つけて	1:10(12)	あつたー
			1:11(23)	あつた
			1:11(23)	へびが
			1:11(23)	行っちゃった
				へびちゃん
				あれあれ
	ツールボックス	玩具のハンチを探しながら	1:11(23)	あれ
		玩具のハンチを見つけて	1:11(23)	あつたー
	財布	玩具の財布の中を見て	1:9(29)	ない
		玩具の中を何かを探しながら	1:10(12)	ない
		玩具の中から何かを見つけて	1:10(12)	あつた
		玩具の財布の中に手を入れながら	1:10(12)	ない
		玩具を探しながら	1:11(10)	あれ
			1:11(23)	あれ
		玩具のお金を見つけて	1:11(23)	あつたー
		玩具のお金を取った後に	1:11(23)	あつたー
	お札がなくなったことをMo.に知らせる	1:10(26)	ない	
	玩具の財布の中を覗いてコインがなくなっていて	2:0(6)	もうない ない	
ぬいぐるみ	犬のぬいぐるみがどこにあるのかMo.に聞く(犬のぬいぐるみにご飯をあげたくて)	1:9(12)	ワンワンは	
	その他	床の上を何か探しながら	1:9(29)	あれ
		1:10(12)	ない	
	水筒の中身が入っていないくて	1:10(12)	ない	
	おやつがなくなつて	2:0(6)	ない なくなつた	
bye	びっくり箱	青虫の人形が飛び出てきて	1:9(29)	ばーばーい ばいばーい
		びっくり箱を閉めようとしながら	1:11(10)	ばいばーい
	その他	Mo.に向かって手を振りながら	2:0(6)	ばいばーい
peekaboo	びっくり箱	びっくり箱から飛び出てきたぬいぐるみを見て	2:0(6)	ばいばーい
			1:9(0)	わ 出た
	その他	びっくり箱をしようとしながら	1:9(0)	ほしー
		E児が顔を隠していて「いーい」といえない「いーい」はあを言うと真似て	1:9(29)	ばあ
		Mo.がくすぐってこなくて	1:10(12)	あれ

表5-14 E児の反復場面の発話

McCune (2008) 分類	玩具・遊び	文脈	CA	発話
again	びっくり箱	びっくり箱をしてほしくて	1:9 (29)	にゃー
			1:11 (10)	ちゅちゅちゅー(オルゴールの音真似) んーママたたら(オルゴールの音真似)

表5-15 E児の否定(反転)場面の発話

McCune (2008) 分類	玩具・遊び	文脈	CA	発話
no	その他	<後で>と言われて	1:9 (29)	やー
		Mo.に高いたかいをされておろしてほしくて	1:9 (29)	やーやー
		抱っこした状態からおろそうとすると	1:9 (29)	いやー
			2:0 (6)	やだ
		Mo.がくちョウダイ>と手を出すと	1:10 (26)	嫌
		<しっこでた?>と聞かれて返事をして	1:11 (10)	まだ
		おやつを袋をくおいといたら?>と言われて	2:0 (6)	やだ
		<はいどうぞ、いれて>とMo.が空になった玩具の財布にお金を入れようとする	2:0 (6)	やだ

5. 動詞

各セッションにおいて出現した動詞数、新出動詞数について、それぞれ図 5-7, 図 5-8 に示した。動詞は、大久保 (1984) を参考に分類した。D 児では、対象とした期間内に 13 語の異なり動詞が出現した。初回のセッションの 1 歳 9 か月 11 日では、4 語の動詞が出現し、その後のセッションでも 3~4 語の新出動詞が出現した。初回のセッションの語彙数のうち動詞は 16%であったが、最後のセッションでは語彙数のうちの 23%が動詞であった。

E 児の動詞は、対象とした期間内に 13 語出現した。初回のセッションでは、語彙数のうち 8%が動詞であった。最後のセッションでは、18%が動詞になった。

また、各事例で出現した語彙を表 5-16 (D 児), 表 5-17 (E 児) に示した。D 児では、「開ける」、「あった」、「しよ (しよう)」、「でった (できた)」、「見て」、「持って」、「落ちた」、「来る」、「出て」、「脱げ」、「行け」、「変える」、「出た」、「飛んで」、「待って」が出現した。

E 児では、「開けて」、「出た」、「貸して」、「したい」、「あった」、「できた」、「取って」、「行っちゃった」、「落ちた」、「見て」、「おらん (いない)」、「来た」、「走る」が出現した。

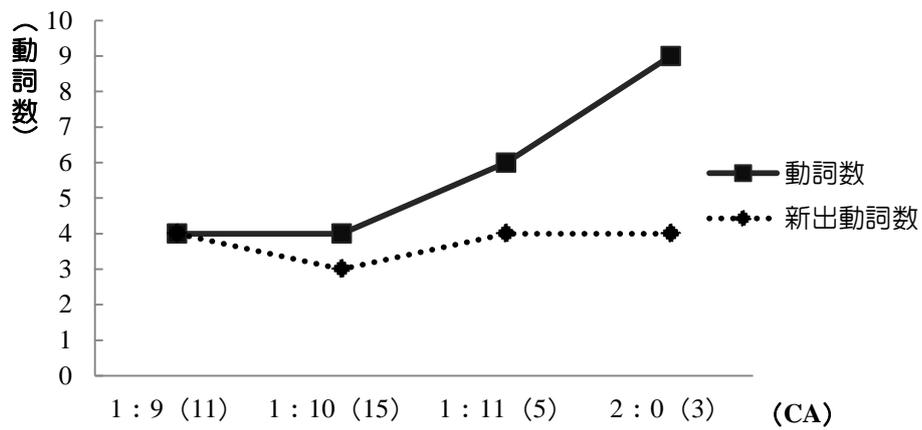


図5-7 D児の動詞数の推移

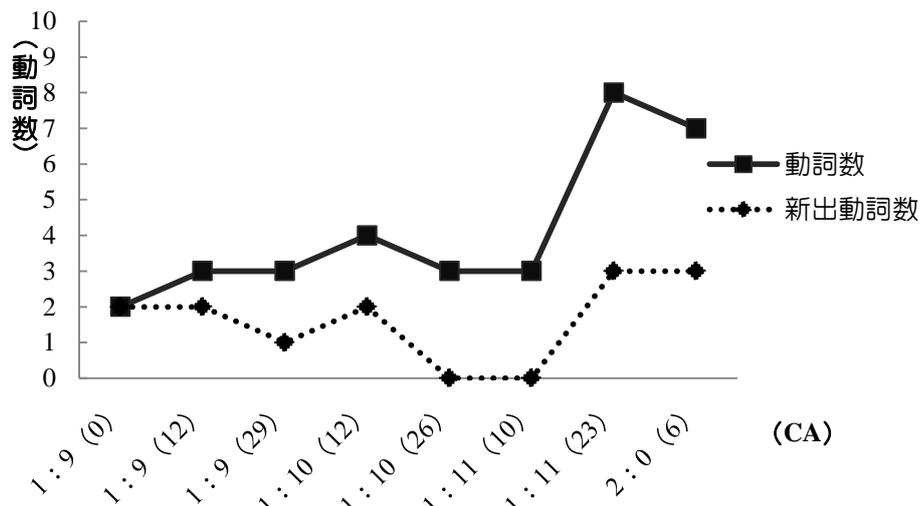


図5-8 E児の動詞数の推移

表5-16 D児の出現動詞

CA	動詞
1:9(11)	開けて, あった, しょ(しよう), できた(できた)
1:10(15)	開け, できた, 見て, 持って
1:11(5)	あった, 落ちた, 来る, する, 出て, 脱げ
2:0(3)	開ける, あった, 行け, 変える, した, できた, 出た, 飛んで, 待って

表5-17 E児の出現動詞

CA	動詞
1:9(0)	開けて, 出た
1:9(12)	開けて, 貸して, したい
1:9(29)	開けて, あった, して
1:10(12)	開けて, あった, できた, 取って
1:10(26)	開けて, あった, 取って
1:11(10)	開けて, あった, きた(できた)
1:11(23)	開けて, あった, 行っちゃった, 落ちた, きた(できた), 出た, 取れない, 見て
2:0(6)	開ける, あった, おらん(いない), 来た, 出た, 走る, 見て

第4節 考察

1. D児の発話と力動出来事語

D児は、対象とした期間は、MLU1.38~1.49にあり、Brown(1973)のいう初期の語結合がみられ始める時期にあった。このとき、D児では2語発話が出現し始めており、まだ1語発話を中心となる時期であった。力動出来事語では2語による表現や助詞を含む表現がみられ始めていた。この期間、D児では103語の異なりの語彙が産出され、そのうち動詞は13語であった。

力動出来事語における<経路・垂直的経路>では、物が落ちたときに、「あ」や「わ」といった感嘆語に加えて、「落ちたね」や「びっくりした」という発話がみられるようになった。落ちるといった事象に対して言及することに加えて、「びっくりした」という気持ちによって表現されることがみられ、2語によって力動出来事を示すことばがみられ始めた。特

に、「わ、びっくりした」では、「びっくり」と動詞の「する」が結合していた。日本語では、人称を文に必ず入れて発話するわけではなく、2語発話がみられても、事物の意味と力動的な意味を別々に示しているとは限らないと考えられた。

<経路・直示的経路>では、「はい」や音韻未熟の「あい」が、出現していたが、それらに加えて「どうぞ」がみられ始め、より場面に適した発話がされるようになったといえる。食べるふりをする場面では、ふりの音に加えて、「あー、おいちー」の発話もみられるようになった。また、遊びの提案として「ププーしよ」と事物の意味と力動出来事の意味が別々に示されることがみられ始めた。このことから、<経路・直示的経路>においても力動出来事語から動詞への移行が始まってきていると考えられた。このような、2語発話においても擬音語は継続して使われており、擬音語や幼児語による表現は力動出来事語を表すものといえ、日本語の特徴として今回も確認された。

<経路・目的終了>は、「よし」と完了について喜ぶ表現に加えて、「でっー（できた）」や「あつー」とその状態について発話することがみられ始めた。

<図と地・包含>では、「開ける」の語が<図と地・包含>の状況全体において出現した。この「開ける」の語が、実際に「開ける」状況だけではなく、閉めることや取り出すこと、入れることにおいてみられた。それは、母親に対して要求する場面であった。それ以外の自己の行為に関しては、閉める状況では、「ないない」や「できた」の語がみられていた。さらに、「これする」によって示されることがあった。しかしながら、「閉める」の語は出現しなかった。開ける状況においても「これ開ける」や「開けてくれ」といった2語によって表現されることがみられ始めており、開ける状況では、これまでの表現である「開ける」に他の語が結合することがみられた。物を取り出す場面では、「開けた」だけでなく、「出ておいでー」や「出てくるね」が出現した。このように、1語によって表現されていたものがそのまま2語へと直接結合するものだけでなく、新たに「出る」といったより場面に適した語によって表現されるようになるものがあることが明らかとなった。

<図と地・付着>においては、擬音語や「開けて」による表現がみられた。それに加えて、「あー痛かった」と付着したことに対してや、「靴下脱げ」と靴下が脱げたことに対する発話がみられた。入れ子を重ねてもらおうとして「これはこれ」がみられ、「どうぞ」や「はい」と渡すことだけでなく、具体的な発話に変わったといえる。しかしながら、まだ「これもして」のような、2語による発話には至らなかった。

<移動出来事・閉塞>は、ジュースがなくなったことに関して「ピカピカ」と擬音語に

よる発話がみられた。また、「ばいばーい」やびっくり箱の遊びのなかで、「怖いね」、「やだ」、「びっくりした」、「わーお」、「出たー」、「あおむし」、「ちょうちょ」の語が出現し、同じ状況に対してもいろいろな表現がみられた。また「びっくりした」と2語による表現もみられた。さまざまな語がみられることによって、より場面に適した語が発話され、さらにそれらが2語発話へとつながっていくことが考えられた。

<移動出来事・反復>の状況では、食べ物に対しては「おかわり」、遊びのときでは「もっかいす」や「もっかいして」と場面によって反復を示す発話を使い分けることがみられた。また、おむつを再度かえてほしいときには、「おむつ」を始めとして「おむつ変えていい」によって示された。これらは、おむつを変えてほしくて母親にアピールするために発話されたものであった。このように、誰かに伝える、要求をするといった場面ですぐに伝わらない場合や、要求が受け入れてもらえない場合に、受け入れてもらおうとしていたことがうかがわれ、このような発話における試行錯誤を繰り返しながら、より場面に適した発話が見られるようになることが考えられた。

<移動出来事・否定(反転)>は、「やだ」の語が遊びのなかで、母親の提案や行動に対して出現した。この語は、簡単で伝わりやすいものだと考えられた。しかしながら、この語についても今後、場面によって別の語が使用される可能性はあるだろう。

D児では、2語によって、力動出来事と事象を別々に示す語、つまり、動詞によって力動出来事を示すことがみられ始めていた。また、力動出来事における発話に関して、より具体的な発話や場面に適した発話が見られ始めた。それらは、新たに動詞が発話されており、動詞が獲得されたことによって力動出来事がより明確に示されるようになったといえる。それは、2語発話によって表現されることにもつながっており、日本語においても力動出来事語から動詞への移行、そして2語発話との関連性が示唆された。

2. E児の発話と力動出来事語

E児は、対象とした期間、MLU1.31~1.56にあり、初期の語結合から屈折辞がみられ始める時期(Brown,1973)にあった。このときE児では、2語発話徐徐にみられ始めた。力動出来事語では、2語による表現や擬音語によって表されることがみられた。この期間、E児では、124語の異なりの語彙が産出された。そのうち、動詞は13語であった。

E児の<経路・垂直的経路>では、物をのせながら、「はい」や擬音語の「び」、「これ」が出現した。また、物が落ちた際には、「落ちた」がみられた。E児では、<経路・垂直的経路>においては、まだ語結合はみられず、今後出現してくると考えられた。物を拾う場

面では「はい」、玩具を高く重ねて「高い」、ぬいぐるみを抱っこしながら「ワンワン」や「抱っこ」が出現した。要求や自らの行動に対してだけではなく「高い」は状況に対して発話されており、自己以外のものに対する力動出来事の言及がされるようになったといえる。

<経路・直示的経路>は、物を渡す場面で「はい」だけでなく、「はいどうぞ」がみられるようになった。また、母親に玩具を渡しながら「貸して」の語がみられた。これは、主客が逆転している発話だったが、このような間違っただけの使用をしていくことも、力動出来事を示すことばが増えていくことに通じると考えられた。また、母親に物を渡そうとするときには「ママ」と名前を呼ぶこともみられた。これには、「ママどうぞ」といった意味が含まれていると考えられ、今後2語発話へと移行していくだろう。玩具を要求する場面では、「ほしい」に加えて「取って」や「貸して」が出現し、場面によって使い分けることがみられ始めたといえる。「チョコ」や「ヘビ」など名称によって要求を示すこともみられ、発話のなかに力動出来事的な意味が含まれていると考えられた。さらに、「ママヘビ」と名称同士の語結合によって要求を示すことがみられ始めた。これには、「ママヘビ取って」の意味が含まれていると考えられ、名称同士の語結合がさらに、多語発話へとつながっていくことも示唆された。遠くを指し示す際は、指し示すものの名称や「あっち」のように指示語が出現した。その他の状況では、食べるふりの「あん」や「まん」、「あむ」が、さらに、おやつを食べさせる状況で「はいマンマ」の語結合がみられ始めた。こういった、擬音語による力動出来事語も語結合に移行することがわかった。

<経路・目的終了>では、遊びの完了に対して、その状態について言及することがみられた（「できた」、「取れた」）、さらに、「ママきた（できたの意味）」の語結合がみられた。これは、できた状態について母親に知らせようとすることによって出現したと考えられた。

<図と地・包含>は、物を開けてほしいときには、「開けて」や「ほしい」、「これ」または、名称が発話された。また、開いたときには「開いた」、「開いたぞ」、「開けた」が、開けてほしいときには「開けて」、あるいは「開ける」など、場面によって発話のされ方が変わり始めたといえる。そのなかで「ママ開けて」といった2語発話も出現しており、徐々に、力動出来事語から、事物の意味を含まずに動きを示す動詞へと移行していく時期にあったといえる。注ぐふりをする状況では、「ジャー」と擬音語による表現に加え、入れるふりをした物の名称の「氷」が発話することもみられた。

<図と地・付着>では、くっ付ける状況で「したい」や「して」、さらに擬音語が出現し

た（「ごっちゃん」、「ぺっちゃん」、「がっちゃんこ」）。また、叩く場面や開く場面などそれぞれ「コンコン」や「チョキチョキ」といった擬音語がみられ、＜図と地・付着＞の状況では、擬音語が使われやすいことが示唆された。また、挟まった状態に対して「耳痛い痛い」と挟まったぬいぐるみの状態を示すこともみられた。ここには‘挟まって虫が、耳が痛いって言っている’という意味が含まれていると考えられた。このように、状態に対する思いによって＜図と地・付着＞を示すこともあるとわかった。くっ付いているものをはなしたいという状況においても「開けて」がみられており、2語発話がみられ始めた段階では、状況によって語の使い分けができるようになる一方で、＜包含＞状況全体に「開けて」の語が発話されるなど、まだ未分化な使用がみられた。

＜移動出来事・閉塞＞は、物がなくなった状況で「ない」や「あれ」、「行っちゃった」がみられた。この「行っちゃった」は McCune (2008) の ‘allgone’ と共通した表現と考えられた。また、「もうない」についても ‘allgone’ にあたると考えられた。＜移動出来事・閉塞＞の状況においても、なくなった物の名称によって力動出来事を示すことがあり、この時期では、名称による力動出来事を示すことは、名詞が獲得されやすいという特徴からもうかがわれる。反対になくなったものが再び現れた場面では「あった」の語が出現していた。びっくり箱のような遊びの場面では、出てくる予想としての「ばあ」や予想に反したときの「あれ」、実際に予想通りのときには「わ」、「出た」が出現した。こういった場面では感嘆語が出やすいことや、遊びの状態について示す語（びっくり箱から飛び出たことを示すなど）が出現した。

＜移動出来事・反復＞は、遊びの反復の要求を示す擬音語が出現した。E児の場合は、びっくり箱のオルゴールの音を「にゃー」や「ちゅちゅちゅー」の擬音語によって示していた。さらに、「ママたたら（オルゴールの音）」と語結合においても擬音語によってびっくり箱を示すことがみられた。このように、擬音語による表現は、語結合期においても継続して出現することが、＜移動出来事・反復＞からもいえる。

＜移動出来事・否定（反転）＞は、母親からの遊びの提案に対して「やだ」と答えることがみられた。また、母親からの質問に対して「まだ」と返すこともみられ、母親からの問いかけによって発話内容が異なることがみられ始めた。これらは、母親とのやり取りのなかで、より適した語が適用され始めていたためだといえる。

E児の力動出来事語では、語彙が増えたことに伴い、力動出来事的な状況においても、発話される語のバリエーションが徐々に増えていった。また、同じ状況においても別々の語

が発話されることがみられた。E 児でも、語結合がみられ始めており、そのなかには、力動出来事と事物の意味を別々に示しているものだけでなく、名称による語結合もみられた（例えば、「ママヘビ」で‘ママヘビ取って’の意味）。こういった、名称によって力動出来事について示すことは、日本語における特徴といえる。さらに、擬音語による表現は語結合においてもみられており、擬音語によって力動出来事を示すことも日本語における特徴といえよう。

3. 2 語発話出現期の力動出来事語

今回対象とした 2 語発話出現期における力動出来事語では、同じ力動出来事的な状況においてもさまざまな語がみられた（例えば、ミニフードの蓋を開けてほしいときに「開けて」、「ほしい」、「これ」など）。また、小林・麦谷（2007）の指摘にあったように、この時期には音声と動作の対応付けがみられていた。そのため、母親とのやり取りのなかで伝えようと子どもが試行錯誤すること（例えばおむつを変えてほしいときに「おむつ」、つぎに「変えていい」、さらに「おむつ変えていい」の語に変わるなど）によって、より場面に適した語が発話されることがみられた。さらに、それらの語が、2 語発話で使用されることが示唆された。

今回の 2 語発話出現期においては、力動出来事語がそれぞれ、D 児では異なりで 41 語、E 児では異なりで、60 語が出現した。このとき、本研究で設定した場面での力動出来事的な状況において 2 語発話のみられ始めており、それらの発話は、McCune（2008）の指摘しているような、事物の意味と力動的な意味をそれぞれ示すことがみられた。つまり、力動出来事語から事物の意味を含まない力動的な意味を示す動詞への移行がみられ始めているといえよう。D 児、E 児では、それぞれ 13 語ずつ異なりの動詞が出現したが、このうち、9 語の動詞が共通していた。これらは、玩具が共通している影響も考えられるが、基礎的な動詞と考えられた。実際に、「開けて」の語は、玩具の財布を開けてほしいときに「これ開ける」（D 児）や母親にミニカーのドアを開けてほしいときに「ママ開けて」（E 児）が、「する」では、びっくり箱の遊びで「びっくりした」や再現の要求で「もっかいして」（D 児）と語結合がみられた。力動出来事的な状況において発話される語のバリエーションが増えること、そしてそれによって誤用が少なくなることには、動詞の発達につながるといえる。しかしながら、今回出現した動詞は、まだ事物の意味を含む力動出来事語の段階にあるものがほとんどいえ、語結合期では名詞優位から動詞優位へと変わる（小椋，2007）という指摘からも、今後、2 語発話のみられることによって、事物の意味を含まずに力動的な意味

を示す動詞へと移行していくと考えられる。また、力動出来事的な状況における発話にバリエーションがみられたこと（例えば、表 5-6 で示したように、同じ状況で D 児では「怖いね」や「やだ」、「びっくりした」と発話したことや、表 5-10 のように、E 児では、開ける要求で「取って」、「これ」、「こっち」、「ママこっち」と発話するなど）も動詞の発達に関連していると示唆される。

擬音語による表現は、2 語発話に含まれるなど継続して出現した。日本の子どもでは、早期に表出する語に幼児語のオノマトペや動作名詞といったものが多く出現することが指摘されており（小椋，2007）、擬音語や幼児語による表現は、子どもが獲得している語彙のなかで力動出来事語を表すものと考えられた。このような擬音語や幼児語による表現は、語獲得の傾向からも、日本語の力動出来事語の特徴として今回も確認された。

今回、対象とした期間においても、名称による力動出来事的な状況を示すこともみられており、日本語においては、発話された状況において力動出来事語に分類される名詞が出てくるであろう。また、E 児の「ママヘビ」など‘ママヘビ取って’の意味が名称同士による語結合もみられた。また、語結合がみられても、力動出来事と事物の意味が別々に示されるというわけではなく、多語発話によって力動出来事と事物の意味を別々に示すようになる場合もあることが示唆された。しかしながら、日本語においては、状況によって主語や目的語を省略することがある一方で、英語では、ほとんど省略されないという違いがある（針生，2004）。そのため、日本語では、力動出来事と事物の意味が未分化なまま発話され続けるものがある可能性もある。このことから、すべての力動出来事語が動詞へと移行するとは限らないと考えられる。動詞の学習に関しては、Tomasello（2003）の動詞の島仮説では、動詞が使用されている文脈でその動詞を使用したなかで学習されることが指摘されている。しかしながら、今回、力動出来事を名詞によって示すことがみられ、さらに、「ママヘビ」のように名詞同士で発話されることや「ママこっち」など必ずしも従来の動詞を必要としない発話がみられた。もちろん、動詞の島のように軸となる可能性が考えられる語（「開けて」など）もあったが、今回対象とした期間では、「これ開けて」や「開けてくれ」といった使用の仕方が異なっていたため、軸語を中心とした動詞の使用はみられなかった。

本章において、設定した力動出来事的な状況において 2 例で発話された動詞は、 \forall 2 語での発話がみられ始めており、単一の語による力動出来事語から動詞として発話される段階へと移行し始めていたことが示唆された。語結合期に入ると動詞が優位になるといった指

摘もあるように（小椋，2007），これには，2語発話の発達に関連しており，今後さらに増えていくことが予想される。

第6章 自閉症スペクトラムの子どもの2語発話期における力動出来事語

第1節 目的

1語発話期から2語発話期への移行期にある自閉症スペクトラムの事例に協力を得て、力動出来事語の発達について、第4章、第5章の日本語における力動出来事語の発達の結果から、検討を行うことを目的とする。これらのことから、自閉症スペクトラムの子どもの力動出来事語の特徴について明らかにする。

第2節 方法

1. 研究協力者

第3章での研究協力者であるB児を本章においても対象とした。B児は、大学での教員による言語発達支援にことばの遅れを主訴として来所し、月1回、原則として60分間の支援が行われている4歳5か月9日の自閉症スペクトラムの事例である。筆者は、ボランティアとして支援場面に参加し、B児の保護者に研究協力の了承を得た。

2. 手続き

今回、筆者が対象とした期間は、4歳5か月9日から5歳1か月4日までの7セッションである。発達支援については、第3章に示した通りである。

発話は、発達支援場面を保護者の同意を得てVTRに録画した。録画の開始は、入室から5分以内、原則として60分間行った。発話分析は、録画した毎回のVTRを再生し、50分間について自発的発話についてトランスクリプトを作成した。

3. 分析の方法

トランスクリプトをもとに、MLU、力動出来事語、動詞、2語発話、多語発話に着目し分析を行った。分析の際は、不明瞭な発話、無意味発声、模倣、歌は分析から外した。分析は協議しながら行った。模倣は、療育者らの発話にすぐ続いている発話を、模倣として捉えた。また、B児では、発話に英語の発話やフレーズがみられていた。そのため、それらの発話は、1語と数えた。

MLUは、Brown (1973) の基準をもとに算出した。力動出来事語は、McCune (2008) を参考に、協議して分類を行った (第4章に示した通りである)。

第3節 結果

1. MLU

各セッションにおけるB児のMLUの推移を図6-1に示した。B児のMLUは、1.20～1.57を推移しており、Brown (1973) のMLUの段階では、段階I初期から後期の間にあった。

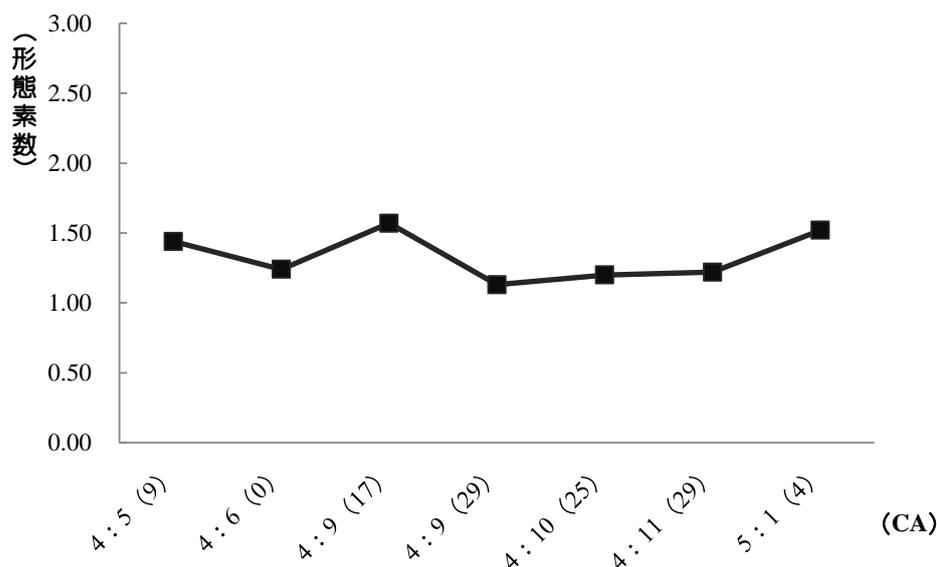


図6-1 MLUの推移

2. 1語・2語発話

発話数は、セッションごとでばらつきがあった。初回のセッションでは、1語発話数が46、2語発話数は2であった。最後のセッションである5歳1か月4日では、1語発話数が89、2語発話数は12であった。2語発話は、みられ始めた時期にあり、もっとも2語発話が出現したのは、4歳6か月0日で、13の発話のみられた。今回対象とした期間では、多語発話はみられなかった。

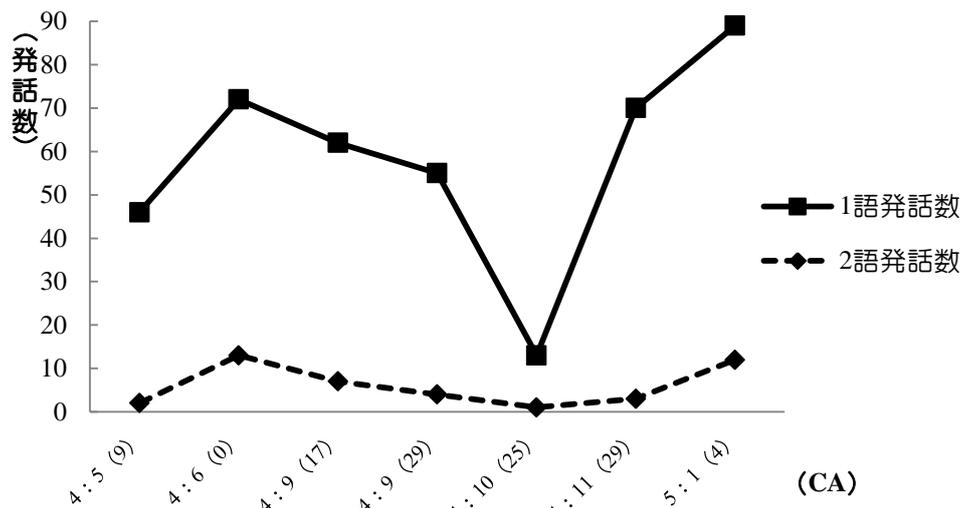


図6-2 1語・2語発話数の推移

3. 力動出来事語

各セッションで出現した力動出来事語とその状況について表6-1から表6-7に示した。B児では、定型発達の子どもでもみられたように、物の名称（あるいは人の名前）によって力動出来事を示すことがあった。それらは、力動出来事を示す語と考えられたものについて名称も各カテゴリに分類した。

<経路・垂直的経路>は、指人形を階段で歩かせてジャンプさせるという遊びのシークエンスで「てくてくてくてくジャンプ」あるいは、「てくてくてく」、「ジャンプ」が何度も出現した。これらはフレーズとして発話されていた。このような遊びとフレーズが結び付いたものとして、鳥の人形を飛ばすふりをしながら「ぱたぱた」と発話することがあった。B児の<経路・垂直的経路>では、ミニフードのアイスを重ねていたが崩れたことに対しては「できない」、玩具が落ちた際は、「落ちた」あるいは、「チョコボール落ちた」と2語発話もみられた。この「落ちた」の表現は、定型発達の子どもと共通する表現だった。その他には、抱っこされて飛んでいるふりをしながら「飛んだ」や「ブーン」、高く積み上げたときに「いっばーい」がみられた。

<経路・直示的経路>では、物の受け渡しにおいて「アイスくださいーい」の2語発話が出現した。また、物の名称だけで表されることもあった。これは、定型発達の子どもでもみられたものである。さらに、「どうぞ」と受け取りながら発話することも共通していた。

<経路・垂直的経路>でみられた「てくてくてく」が、人形を歩かせる場面でみられた。事例自身が走る移動のなかで「待てー」も出現した。ごっこ遊びのなかでは「お風呂行ってきまーす」の発話がみられた。「見て」と「取って」も定型発達の子どもと共通したものであった。

<経路・目的終了>では、遊びが終了したときに「おしまい」がみられた。終了した遊びの名称で表すこともあった（アンパンマンの絵を描き終わって「アンパンマン」）。

<図と地・包含>では、びっくり缶の遊びのなかで「開けて」の語が出現した。開けようとしたが開かないときには「開かない」がみられた。お茶を入れるふりをするときには、療育者らの真似をしながら「ジャー」の擬音語が発話された。この擬音語と「開けて」の語は、定型発達の子どもでもみられたものである。

<図と地・付着>では、椅子に座り、シートベルトをしめるふりをするという遊びのシーケンスのなかで「シートベルト」、「がっちゃん」の語が何度も出現した。これらは、<経路・垂直的経路>でみられたものと同様に遊びのなかでフレーズ化されたものであった。他にも、野球遊びのなかで「かっとばせ」や「カーン」といった語も同様に、遊びと結びついたものであった。ミニフードのたまごをわるふりをするしながら「コンコン」の擬音語は定型発達の子どもでもみられたものであった。人形を電車に乗せる場面で「乗せてー」の語が<図と地・付着>では、出現した。

<移動出来事・閉塞>は、お店屋さんごっこで帰るときや、びっくり缶のへビをしまうときに、「ばいばーい」の語が出現した。びっくり缶で驚くという場面で「わー」や「うわー」、「キャ」といった感嘆語も出現した。予想と違う場面で「あれー」の語も出現した。これらの表現は、日本語における力動出来事語と共通していた。同じびっくり缶（定型発達の子どもでは、びっくり箱）では、その中身の名称によって閉塞について示すことも共通した。

<移動出来事・反復>は、遊びの繰り返しの要求や玩具の要求の際に、「もう 1 回」や「もう 1 個」の語が出現した。この「もう 1 回」についても、日本語における力動出来事語でみられたものであった。

<移動出来事・否定（反転）>は、療育者らの提案に対して「いや」や「だめ」と答えることがみられた。そのほか、B 児特有の表現として、「ちえちえちえ」が出現した。

表6-1 B児の力動出来事語とその文脈1

CA	発話	文脈	力動出来事語のカテゴリ
4:5(9)	出来ない	アイスを重ねようとしたが崩れて	経路・垂直的経路
	出来ない	アイスを重ねようとしたが崩れて	経路・垂直的経路
	出来ない	アイスを重ねようとしたが崩れて	経路・垂直的経路
	ばたばたー	わしの人形をT1に渡されて、人形をゆらしながら	経路・垂直的経路
	ばたばたばたー	わしの人形をT1に渡されて、人形をゆらしながら	経路・垂直的経路
	ばたばたばたばたばたばたー	わしの人形をT1に渡されて、人形をゆらしながら	経路・垂直的経路
	ばたばたー	わしの人形をT1に渡されて、人形をゆらしながら	経路・垂直的経路
	アイスくさーい	お店屋さんごっこをしながら	経路・直示的経路
	アイス	お店屋さんごっこをしながら	経路・直示的経路
	アイス	お店屋さんごっこをしながら	経路・直示的経路
	チキン	お店屋さんごっこをしながら	経路・直示的経路
	アイスクリーム	お店屋さんごっこをしながら	経路・直示的経路
	アイスクリーム	お店屋さんごっこをしながら	経路・直示的経路
	アイス下さい	お店屋さんごっこをしながら	経路・直示的経路
	チーズ	アンパンマンの絵本で探しながら	経路・直示的経路
	ママ	Mo.のところに走って行って	経路・直示的経路
	あつた	バイキンマンのミニ人形を見つけて	経路・直示的経路
	どうぞ	T1がびっくり缶をB児に「どうぞ、Bちゃん開けて」と渡す	経路・直示的経路
	おしまい	アンパンマンの本をすべてめくり終わって	経路・目的終了
	開けて	びっくり缶をT1に渡して、逃げた後に	図と地・包含
	開けて	Mo.が「開けるの？」と聞くと	図と地・包含
	ばいばーい	お店屋さんから帰るときに	移動出来事・閉塞
	パン	びっくり缶をT1が開けようとするので逃げて行って	移動出来事・閉塞
	ばいばーい	びっくり缶を見て	移動出来事・閉塞
	へびちゃん*	びっくり缶を見て	移動出来事・閉塞
	へびさん*	びっくり缶を見て	移動出来事・閉塞
	わー	外を見ながら	移動出来事・閉塞
	うーわー	T1の上に持ち上げられるのを繰り返すと	移動出来事・閉塞
	わー	上に持ち上げられると	移動出来事・閉塞
	あー	上に持ち上げられると	移動出来事・閉塞
	ばいばい	外の人のことをみんなに「バイバイしてるよ」と言われてバイバイしながら、どこでバイバイされてるのかは気づいていない	移動出来事・閉塞
	キャ	びっくり缶が開いて	移動出来事・閉塞
	ケーキ	びっくり缶からケーキが出てくると	移動出来事・閉塞
	あと1回	T1の上に持ち上げられるのを繰り返すと	移動出来事・反復
	やー	お店屋さんごっこをしながら	移動出来事・否定(反転)
	やだー	びっくり缶を持って	移動出来事・否定(反転)

塗りつぶしは、定型発達の子どもと共通のものを示す。
 *は類似状況における、類似表現を示す。
 Mo.:母親, T1:療育者, T2:補助を示す。

表6-2 B児の力動出来事語とその文脈2

CA	発話	文脈	力動出来事語のカテゴリ
4:6(0)	ばたばた	わしの人形を振りながら	経路・垂直的経路
	ばたばた	わしの人形を振りながら	経路・垂直的経路
	ばたばた	わしの人形を振りながら	経路・垂直的経路
	とんだ	抱っこされて	経路・垂直的経路
	ジャンプ	ミニ人形を階段からジャンプさせながら	経路・垂直的経路
	ジャンプ	ミニ人形を階段からジャンプさせながら	経路・垂直的経路
	ジャンプ	ミニ人形を階段からジャンプさせながら	経路・垂直的経路
	ブーン	プランコとT1に揺らされながら	経路・垂直的経路
	ブーン	プランコとT1に揺らされながら	経路・垂直的経路
	落ちたー	カードがテーブルの上から落ちて	経路・垂直的経路
	ジャンプ	ミニ人形を階段からジャンプさせながら	経路・垂直的経路
	てくてくてくジャンプ	ミニ人形を階段からジャンプさせながら	経路・垂直的経路
	てくてくてくてくてくてくてく	ミニ人形を階段からジャンプさせながら	経路・垂直的経路
	ジャンプ	ミニ人形を階段からジャンプさせながら	経路・垂直的経路
	てくてくてくてくジャンプ	ミニ人形を階段からジャンプさせながら	経路・垂直的経路
	てくてくてくてく	ミニ人形を階段からジャンプさせながら	経路・垂直的経路
	てくてくてくジャンプ	ミニ人形を階段からジャンプさせながら	経路・垂直的経路
	ジャンプ	ミニ人形を階段からジャンプさせながら	経路・垂直的経路
	ジャンプ	ミニ人形を階段からジャンプさせながら	経路・垂直的経路
	てくてくてく	ミニ人形を階段からジャンプさせながら	経路・垂直的経路
	ジャンプ	ミニ人形を階段からジャンプさせながら	経路・垂直的経路
	てくてくてくてくジャンプ	ミニ人形を階段からジャンプさせながら	経路・垂直的経路
	てくてくてくジャンプ	ミニ人形を階段からジャンプさせながら	経路・垂直的経路
	てくてくてくてくジャンプ	ミニ人形を階段からジャンプさせながら	経路・垂直的経路
	てくてくてくてくジャンプ	ミニ人形を階段からジャンプさせながら	経路・垂直的経路
	てくてくてくてくジャンプ	ミニ人形を階段からジャンプさせながら	経路・垂直的経路
	てくてくてくてく	ミニ人形を階段からジャンプさせながら	経路・垂直的経路
	てくてくてくてくてくてくてくてく	ミニ人形を階段からジャンプさせながら	経路・垂直的経路
	ジャンプ	Tが次Bちゃんですと言っていると自らT1のところに行き	経路・垂直的経路
	てくてくてく	Tが次Bちゃんですと言っていると自らT1のところに行き	経路・垂直的経路
	てくてく	走りながら	経路・直示的経路
	てくてくジャンプ	走りながら	経路・直示的経路
	てくてく	走りながら	経路・直示的経路
	せーの	レゴを持って行って	経路・直示的経路
	てくてくてく	ミニ人形を歩かせながら	経路・直示的経路
	できない	椅子を取ろうとして取れなかったとき	経路・目的終了
	おしまい	カードを全部見終わって	経路・目的終了
	開けて	びっくり缶を開けてほしくて	図と地・包含
	開けて	びっくり缶を開けてほしくて	図と地・包含
	カーン	バットでボールをうちながら	図と地・付着
	カーン	バットでボールをうちながら	図と地・付着
	あーし	手が抜けなくなって	図と地・付着
	ジャン	ボールを打ちながら	図と地・付着
	かっとはせBちゃん	ボールをバットに当てながら小さい声で	図と地・付着
	かっとはせ	ボールをバットに当てながら小さい声で	図と地・付着
	カーン	ボールをバットに当てながら小さい声で	図と地・付着
	たたーたっち	タンバリンをたたいたあとバットを持って	図と地・付着
	ドキンちゃん	ドキンちゃんの人形をテーブルの下に落として探しながら	移動出来事・閉塞
	あーれー	ドキンちゃんの人形をテーブルの下に落として探しながら	移動出来事・閉塞
	あれー	水道を出そうとするが出ないとき	移動出来事・閉塞
	ば	びっくり缶を見てMo.のところに逃げる	移動出来事・閉塞
	ばーいばいばーい	びっくり缶のへびをしまうときに	移動出来事・閉塞

塗りつぶしは、定型発達の子どもと共通のものを示す。
Mo.:母親, T1:療育者, T2:補助を示す。

表6-3 B児の力動出来事語とその文脈3

CA	発話	文脈	力動出来事語のカテゴリ
4:9(17)	てくてくてく	Tがてくてくてくと言うと	経路・垂直的経路
	てくてくてくてくジャンプ	指人形を階段を上させた後ジャンプさせながら	経路・垂直的経路
	いっばーい	アイスクリームの玩具を高く積み上げて	経路・垂直的経路
	いっばーい	アイスクリームの玩具を高く積み上げて	経路・垂直的経路
	てくてくてく	指人形を階段を上させた後ジャンプさせながら	経路・垂直的経路
	てくてくてくてくジャンプ	指人形を階段を上させた後ジャンプさせながら	経路・垂直的経路
	てくてくてくてくジャンプ	指人形を階段を上させた後ジャンプさせながら	経路・垂直的経路
	てく	指人形を階段を上させた後ジャンプさせながら	経路・垂直的経路
	てくてくてくてく	指人形を階段を上させた後ジャンプさせながら	経路・垂直的経路
	てくてくてくてく	指人形を階段を上させた後ジャンプさせながら	経路・垂直的経路
	ジャンプ	指人形を階段を上させた後ジャンプさせながら	経路・垂直的経路
	てくてくてくジャンプ	指人形を階段を上させた後ジャンプさせながら	経路・垂直的経路
	アイスクリーム	たまごの玩具をMo.のところに持って行って	経路・直示的経路
	お風呂行ってきまーす	ごっこ遊びのなかで	経路・直示的経路
	お風呂行ってきまーす	ごっこ遊びのなかで	経路・直示的経路
	見てー	たまごを持って走りながら	経路・直示的経路
	まてー	走りながら	経路・直示的経路
	まてー	走りながら	経路・直示的経路
	Bちゃん見てー	たまごを持って走りながら	経路・直示的経路
	Bちゃん見てー	たまごを持って走りながら	経路・直示的経路
	先生	T1がお店屋さんで「ハンバーガーいかがですか」というとT1の方に走りながら	経路・直示的経路
	なんですか	メニューを指さしながら	経路・直示的経路
	開けて	たまごの玩具を持って	図と地・包含
	ガッちゃん	T1が「シートベルトガッちゃん」というと笑いながら	図と地・付着
	ガッちゃん	T1が「シートベルトガッちゃん」というと笑いながら	図と地・付着
	ガッちゃん	T1が「シートベルト」というと	図と地・付着
	シート	T1が「シートベルトするよ」というと	図と地・付着
	シートーがっちゃん	椅子に座って	図と地・付着
	シートベルトガッちゃん	椅子に座って	図と地・付着
	ただいま	消している所「バイバーイ」とT1がいうと	移動出来事・閉塞
	わー	びっくり缶を見て	移動出来事・閉塞
	だめー	Tがホワイトボードに書こうとすると	移動出来事・否定(反転)
	だめー	Tがホワイトボードに書こうとすると	移動出来事・否定(反転)
	いや	遊びに対して	移動出来事・否定(反転)
	いや	遊びに対して	移動出来事・否定(反転)

塗りつぶしは、定型発達の子どもと共通のものを示す。
Mo.:母親, T1:療育者, T2:補助を示す。

表6-4 B児の力動出来事語とその文脈4

CA	発話	文脈	力動出来事語のカテゴリ
4:9(29)	てくてくてくてく	指人形を歩かせて	経路・垂直的経路
	てくジャンプ	指人形を歩かせて階段からジャンプさせる遊び	経路・垂直的経路
	ジャンプ	指人形を歩かせて階段からジャンプさせる遊び	経路・垂直的経路
	てくてくジャンプ	指人形を歩かせて階段からジャンプさせる遊び	経路・垂直的経路
	ジャンプ	指人形を歩かせて階段からジャンプさせる遊び	経路・垂直的経路
	ジャンプ	指人形を歩かせて階段からジャンプさせる遊び	経路・垂直的経路
	てくてくてくジャンプ	指人形を歩かせて階段からジャンプさせる遊び	経路・垂直的経路
	てくてくてくジャンプ	指人形を歩かせて階段からジャンプさせる遊び	経路・垂直的経路
	ばたばたー	Tがわしの玩具を出して「ばたばた」というと	経路・垂直的経路
	ばたばた	Tがわしの玩具を出して「ばたばた」というと	経路・垂直的経路
	てくてく	指人形を歩かせて	経路・直示的経路
	てくてくてく	指人形を歩かせて	経路・直示的経路
	ジャンプ	指人形を歩かせて階段からジャンプさせる遊び	経路・直示的経路
	てくてく	指人形を歩かせて	経路・直示的経路
	てくてくてくてく	指人形を歩かせて	経路・直示的経路
	てくてく	指人形を歩かせて	経路・直示的経路
	てくてくてく	指人形を歩かせて	経路・直示的経路
	てく	指人形を歩かせて	経路・直示的経路
	てくてく	指人形を歩かせて	経路・直示的経路
	てくてく	指人形を歩かせて	経路・直示的経路
	てくてく	指人形を歩かせて	経路・直示的経路
	てくてくてくてく	指人形を歩かせて	経路・直示的経路
	てくてく	指人形を歩かせて	経路・直示的経路
	たまご	T2が「たまご」と渡すと	経路・直示的経路
	てくてく	ミニ人形を歩かせながら	経路・直示的経路
	てくてく	ミニ人形を消防署の中に並べて(移動のときに歩かせる)	経路・直示的経路
	てくてくてく	ミニ人形を消防署の中に並べて(移動のときに歩かせる)	経路・直示的経路
	てく	ミニ人形を消防署の中に並べて(移動のときに歩かせる)	経路・直示的経路
	てくてくてく	ミニ人形を消防署の中に並べて(移動のときに歩かせる)	経路・直示的経路
	おしまい	人形を並べ終わって	経路・目的終了
	ぼん	バスケットゴールにボールを入れながら	図と地・包含
	のせてー	指人形をレゴの電車に乗せようとして	図と地・付着
	コンコン	たまごをわるまねをしながら	図と地・付着
	コンコン	たまごをわるまねをしながら	図と地・付着
	ぼん	野球のバットで打ちながら	図と地・付着
	コンコン	たまごをわるまねをしながら	図と地・付着
	コーン	たまごをわるまねをしながら	図と地・付着
	パイパイ	缶からへびを出して、しまおうとする	移動出来事・閉塞
	パイパーイ	缶からへびを出して、しまおうとする	移動出来事・閉塞
	嫌	T2が「電話だよ」というと	移動出来事・否定(反転)

塗りつぶしは、定型発達の子どもと共通のものを示す。
Mo.:母親, T1:療育者, T2:補助を示す。

表6-5 B児の力動出来事語とその文脈5

CA	発話	文脈	力動出来事語のカテゴリ
4:10(25)	落ちた	魚釣りゲームで魚がT1が「落ちた」と聞くと	経路・垂直的経路
	落ちたー	人形が落ちたときに拾いながら	経路・垂直的経路
	ここ	T1が「ここ?」とブロックを置く場所を聞くと	経路・直示的経路
	ハンバーガ	T1がりかちゃんを持ってハンバーガーちょうだいと言うと人形に食べさせながら	経路・直示的経路
	ちょうだい	りかちゃんがハンバーガーちょうだいってとT1が言う	経路・直示的経路
	バットある	Mo.がBちゃんバットは?と聞くと	経路・直示的経路
	開ける	T2が蓋を開けるか聞くと	図と地・包含
	握手	りかちゃん人形に対して	図と地・付着
	かっとなせー	野球遊びでT1がかっとなせと言っている	図と地・付着
	握手	T1がBちゃんと握手と人形を持っていう	図と地・付着
	もう1個	レゴのトンネルをつくってMが「もう1個?」	移動出来事・反復

塗りつぶしは、定型発達の子どもと共通のものを示す。
Mo.:母親, T1:療育者, T2:補助を示す。

表6-6 B児の力動出来事語とその文脈6

CA	発話	文脈	力動出来事語のカテゴリ
4:11(29)	おちたー	人形が電車からおちて	経路・垂直的経路
	取って	T1が「Bちゃん取って」とボールを取ってと言う	経路・直示的経路
	取って	T1が「Bちゃん取って」とボールを取ってと言う	経路・直示的経路
	アンパンマン	アンパンマンの絵を描き終って	経路・目的終了
	アンパンマン	アンパンマンの絵を描き終って	経路・目的終了
	アンパンマン	アンパンマンの絵を描き終って	経路・目的終了
	のせてー	T2がレゴの人形に乗せてーという、しばらくして、	図と地・付着
	のせてー	人形をレゴの電車に乗せながら	図と地・付着
	のせてー	T2が「のせてー」という、人形を電車に乗せながら	図と地・付着
	のせてー	T2が「のせてー」という、人形を電車に乗せながら	図と地・付着
	ガッちゃん	シートベルトとT1が言う	図と地・付着
	ガッちゃん	椅子に座りシートベルトをつけるふり	図と地・付着
	ガッちゃん	シートベルトとT1が言う	図と地・付着
	シートベルトガッちゃん	椅子に座りシートベルトをつけるふり	図と地・付着
	アンパンマンバイパーイ	アンパンマンの人形に向かって	移動出来事・閉塞
	アンパンマンバイパーイ	アンパンマンの人形に向かって	移動出来事・閉塞
	のせてー	T1が「ハム太郎のせてー」という	移動出来事・閉塞
	もう1個	人形を探して	移動出来事・反復
	もう1個	人形を探して	移動出来事・反復
	これ	Tが「これ?」と聞くと、言い、くびをふる	移動出来事・否定(反転)
ちえちえちえ	嫌ということを表現して、T1にBちゃんもとマイクを向けられて	移動出来事・否定(反転)	

塗りつぶしは、定型発達の子どもと共通のものを示す。
Mo.:母親, T1:療育者, T2:補助を示す。

表6-7 B児の力動出来事語とその文脈7

CA	発話	文脈	力動出来事語のカテゴリ
5:1(4)	チョコレート落ちた	T1がチョコレート落ちたという	経路・垂直的経路
	チョコレート落ちた	チョコレートが落ちて	経路・垂直的経路
	チョコレート落ちた	チョコレートが落ちて	経路・垂直的経路
	ポテト	お店屋さんごっこでポテトがいるという意味で	経路・直示的経路
	ポテト	お店屋さんごっこでポテトがいるという意味で	経路・直示的経路
	ポテト	お店屋さんごっこでポテトがいるという意味で	経路・直示的経路
	チョコレート下さい	チョコレート(玩具)の要求	経路・直示的経路
	チョコレート	チョコレート(玩具)の要求	経路・直示的経路
	チョコレート	チョコレート(玩具)の要求	経路・直示的経路
	ちょうだいチョコレート	チョコレートの要求	経路・直示的経路
	ばく	食べるふり	経路・直示的経路
	取って	T1がポッキーどうぞという	経路・直示的経路
	プップ	自動車に乗って	経路・直示的経路
	そーれ	ダーツで遊びながら	経路・直示的経路
	トマトあげよ	ミニフードで遊びながら	経路・直示的経路
	キャベツあげよ	ミニフードで遊びながら	経路・直示的経路
	きゅうりあげよ	ミニフードで遊びながら	経路・直示的経路
	遅れそう	走りながら	経路・直示的経路
	遅れそう	走りながら	経路・直示的経路
	どーぞ	T2がどうぞと言ってカップを渡すと	経路・直示的経路
	どうぞ	カップを受け取りながら	経路・直示的経路
	どうぞ	カップを受け取りながら	経路・直示的経路
	どうぞ	カップを受け取りながら	経路・直示的経路
	チョコレート	エルモの人形に食べさせながら	経路・直示的経路
	チョコレート	チョコレートの要求	経路・直示的経路
	チョコレート	チョコレートの要求	経路・直示的経路
	チョコレートとアイスクリーム	チョコレートの要求	経路・直示的経路
	それ	ダーツで遊びながら	経路・直示的経路
	キャッチ	キャッチと言いながら投げる	経路・直示的経路
	キャッチ	キャッチと言いながら投げる	経路・直示的経路
	ジャー	T2がジャーと言ってお茶を入れるふりをすると	図と地・包含
	ジャー	お茶を入れるふりをしながら	図と地・包含
	開けて	T2にびっくり缶を渡して	図と地・包含
	開けて	びっくり缶を開けてほしくて	図と地・包含
開けて	びっくり缶を開けてほしくて	図と地・包含	
開けて	T2が開けてと言うと	図と地・包含	
開けて	T1が開けてと言うと	図と地・包含	
開かない	開けようとして	図と地・包含	
開け	開けようとして	図と地・包含	
バイバイ	へびを戻してほしくて	移動出来事・閉塞	
バイバイ	へびを缶に戻しながら	移動出来事・閉塞	
さよなら	遊びのなかで	移動出来事・閉塞	
もっかい	びっくり缶をしてほしくて	移動出来事・反復	
嫌	歌に対して	移動出来事・否定(反転)	
やーだ	遊びのなかで	移動出来事・否定(反転)	

塗りつぶしは、定型発達の子どもと共通のものを示す。
Mo.:母親, T1:療育者, T2:補助を示す。

4. 動詞

各セッションにおける、新出語彙数と新出動詞数の推移について、図 6-3 にまとめた。初回のセッションでは、20 語の語彙のうち動詞は 4 語であった。最後のセッションである 1 歳 5 か月 4 日では、34 語の新出語彙のうち、動詞は 3 語であった。全セッションを通して、「ください」、「できない」、「あった」、「開けて」、「飛んだ」、「落ちた」、「見て」、「いる」、「乗せて」、「入ります」、「取って」、「どいて」の 12 語の異なりの動詞が出現した。

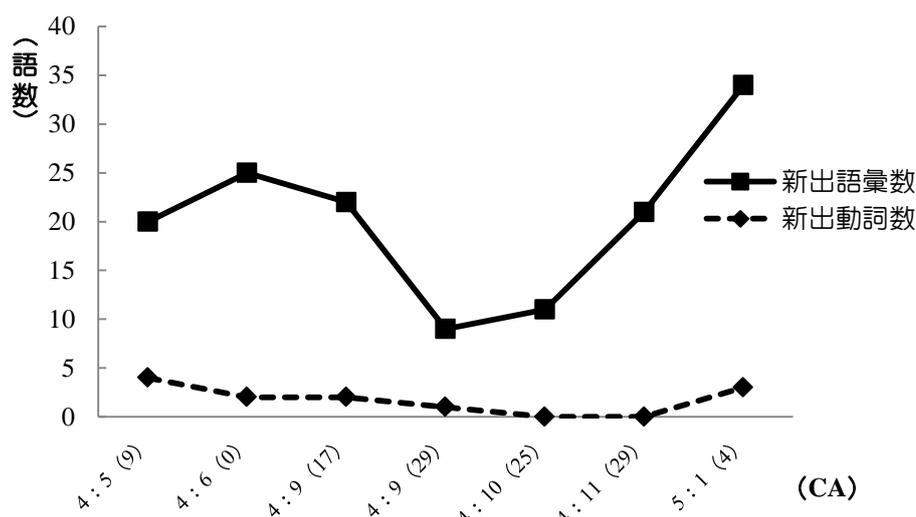


図6-3 新出語彙数と新出動詞数の推移

第 4 節 考察

本章において対象とした期間は、B 児は、2 語発話が登場し始める時期にあり、第 4 章、第 5 章において検討した D 児、E 児と MLU の段階において同じ時期にあったといえる。発話数からみても、多語発話は未出現であり、2 語発話が登場し始めた時期であった。動詞に関しても、出現数は、定型発達の子どもと同程度（12 語）であった。B 児にみられた力動出来事語は、日本語における力動出来事語と共通する語と遊びのなかで、B 児のみで出現した語があった。また、力動出来事に関して言及するときに、フレーズ化された表現がみられた。

1. 力動出来事語

今回対象とした期間、力動出来事的な状況において出現した語は、日本語における力動出来事語と共通したものと、定型発達の子どもではみられず、B児のみで出現したものがあつた。

<経路・垂直的経路>では、人形を歩かせてジャンプさせるという遊びのなかで「てくてくてくてく」、「ジャンプ」あるいは、「てくてくてくてくジャンプ」がフレーズ化され出現した。また、わしの人形を飛ばせるふりをしながら「ぱたぱた」の発話も同様であつた。このような、フレーズ化されパターン化した表現が力動出来事においても、自閉症スペクトラムの子どもでは出現した。力動出来事語は語結合において動詞へと移行することが指摘されているが (McCune,2008), このようなパターン化された語は移行しにくいと考えられた。反対に、定型発達の子どもでみられた日本語の力動出来事語と共通した語として「落ちた」があつた。この語は、「チョコボール落ちた」と語結合にも含まれており、こういった共通してみられる語は、2語発話へと移行しやすいことが示唆された。これらのことが、自閉症スペクトラムの子どもの2語・多語発話の発達に関係していることが考えられた。また、「いっぱい」も日本語の力動出来事語には含まれていなかったが、同様に玩具を積み上げて「高い」という発話が日本語力動出来事語には含まれている。これらは、語は違うが同じことについて表していると考えられた。また、「出来ない」が同じように積み上げたが崩れ落ちた場面でみられた。「出来た」の語は、<経路・目的終了>に分類されるが、今回は、崩れたことに対して言及しているため<経路・垂直的経路>に分類した。

<経路・直立的経路>においても、「てくてくてくてく」と「ジャンプ」あるいは、「てくてくてくジャンプ」のパターン化された発話がみられた。一方で、日本語の力動出来事語と共通した発話としては、「見て」、「取って」、「どうぞ」があつた。また、ほしい物をその名称によって示すことも共通してみられた。こういった語は、「Bちゃん見てー」のように、語結合へと移行しやすいことが考えられた。ふりの擬音語が違うものの、食べるふりをしながら「ぱく」ということも定型発達の子どもと共通しているといえるだろう。また、ほしいものに関して「チョコボールください」や「ちょうだいチョコボール」の発話がみられた。同じ状況で、定型発達の子どもでは、「はい」や「ほしい」の語が示されたが、今回B児でみられた「ください」の語の方が成人の語に近い形であるといえる。こういったことばは、「遅れそう」や「キャッチ」などの発話とともに、療育者らのことばをそのまま取り入れていたためだと考えられる。このような、他者のことばをそのまま取入れるこ

とで、場面に適した発話がみられたと思われる。B児のように、こういったことばをそのまま取り入れることを通して、語彙が増えていくこともあるだろう。しかしながら、それらのことばが、他の場面や状況へと広がらないという可能性もあり、自閉症スペクトラムの子どもの2語発話の発達に影響していると考えられる。

<経路・目的終了>においては、「おしまい」と「できない」に加えて、完了した物の名称によって示すことがみられた。定型発達の子どもの<経路・目的終了>では、行為の完了について喜び、母親に伝えるような表現であった。そのため「よし」や「できた」、「いえーい」といった発話がみられていたが、B児では、遊びの完了で片づける、遊びを終了する意味での発話と考えられた。

<図と地・包含>では、日本語力動出来事語と同じ「開ける」とお茶を入れるふりの音「ジャー」、入れるときの擬音語「ポン」が出現した。しかしながら、「出す」や「閉める」の状況について言及されることはなかった。また、定型発達の子どもの場合、閉める状況や<包含>を表すものすべてにおいて「開けて」の語が適用されることがみられたが、B児では、みられなかった。これは、「開ける」という状況が、びっくり缶の蓋を開けるという状況に限定されていたためだと考えられ、語が獲得された後、同じ力動出来事のカテゴリを示す他の状況へと広がりにくいことが関係していると考えられた。

<図と地・付着>においては、<経路>でみられたような、遊びのなかでパターン化された「ガッチャン」、「シートベルトガッチャン」、「かっとなげ」といった語が出現した。しかしながら、自己の行為に関して、擬音語による表現がみられるところは共通していた。例えば、たまごを割るふりをしながら「コンコン」や、野球のバットで打つふりをしながら「カーン」や「ポン」などである。擬音語には多くのバリエーションがあるため、全く同一のものとはいえないが、擬音語表現という部分では共通しているといえよう。その他には、人形をレゴの電車に乗せようとして人形のふりをして「乗せてー」の語や、人形と握手をしながら「握手」が出現した。これらは、療育者らのセリフやことばを取り入れているものであり、今後使用される場面が増えてくるのがキーとなるだろう。

<移動出来事・閉塞>の場面では、「ばいばいーい」に加えて「あれ」や「わー」、「あー」といった感嘆語が日本語の力動出来事語と共通してみられた。これらは、びっくり缶の遊びのなかで出現し、遊び場面も共通したものであった。しかしながら、<移動出来事・閉塞>においても、発話される状況がびっくり缶の遊びにほぼ限定されていた。その他の状況に広がっている場面では、ぬいぐるみに向かって「アンパンマンバイバーイ」と語結合

がみられており、使用場面が増えてくる必要があると、このことから示唆された。

<移動出来事・反復>では、「あと1回」、「もう1個」、「もっかい」がB児で発話された。「もう1回」は、日本語の力動出来事語にもみられたものであり、これらの表現については、人形を探しながらや、遊びの要求などの場面で発話されていた。定型発達の子どもでは、物の名称や擬音語などによって表されることがあったが、B児では、その場面にあった語で表されていた。

<移動出来事・否定（反転）>では、「やだ」や「いや」、「だめ」、「これ」、首を振りながら「ちえちえちえ」が出現した。「やだ」、「いや」は日本語の力動出来事語と共通したものである。これらの<移動出来事・否定（反転）>を示す語は、療育者らの提案や行動に対して言及していた。こういった面は、定型発達の子どもでもみられたものであった。

2. 自閉症スペクトラムの子どもの2語発話期における力動出来事語

今回、対象としたB児の力動出来事語では、日本語の力動出来事語と共通するものとB児のみで出現したものがあった。さらに、動詞においても11語出現したうちの5語が定型発達の子ども2例に共通してみられた動詞であった。そして、それらの動詞では、力動出来事語において、語結合がみられる傾向が少数ながらも示唆された。

今回、力動出来事語のすべてのカテゴリにおいて発話が認められたが、力動出来事語におけるカテゴリのなかで、開けると閉めるのような反対の方向性を示すものや<経路・直示的経路>における、近い距離と遠い距離などでは、一方しか、言及することがみられなかった。自閉症スペクトラムの子どもでは、こういった空間関係における理解の困難さがあるため（Fonseca, 2010）、このような一方向的な語がみられたと考えられた。そして、こういった、空間や可逆性といったものに対する範囲の狭さといった部分が、自閉症スペクトラムの子どもにおいて、力動出来事語の発達に影響していることが示唆された。

また、B児の力動出来事語は、遊びや場面に強く結びついたものがいくつかあり、その使用場面が限定されていることが考えられた。第1章であげた高須賀（1992b）は発話の多様性と多語発話の関連性を指摘していたが、本研究の結果、なかでも力動出来事語の使用場面の広がりや、さらに可逆性について言及することがB児の力動出来事語の発達において必要となることが考えられた。

力動出来事語の出現については、<経路・直示的経路>がもっとも多いという点は、定型発達の子どもと共通していた。また、<経路・垂直的経路>も多くみられていたが、これらの発話には、パターン化された発話が多く含まれていたためだと考えられる。定型発

達の子どもで多くみられた〈図と地・包含〉については、B児では少なかった。

今回、B児では、定型発達の子どもにみられたいくつものカテゴリにわたって同じ語が発話されることはなかった。そのため、より場面に適した語を使用していた。しかしながら、これは、保護者や療育者らの言ったことばをそのまま取り入れているためという可能性がある。しかしながら、それによって、語彙が増えていくことにもつながる可能性もある。そのため、今回、力動出来事語の使用場面の狭さという特徴がB児ではみられたが、語彙の使用の場面が広がっていくことが、力動出来事語の発達においても、自閉症スペクトラムの子どものことばの発達において重要となってくると考えられる。

もっとも、定型発達の子どもにおいてみられた日本語の力動出来事語とでは、遊びや、場面設定の違いから出現する力動出来事語は異なってくるだろう。しかしながら、自閉症スペクトラムの子どもでは、力動出来事語の言及がみられても、その語の反対を意味する語（例えば、開けるに対して閉めるなど）の出現に困難さみられるといえよう。それらが、力動出来事語の発達に影響していることが考えられ、また少数ながらも定型発達の子どもで出現した力動出来事語では2語発話で発話される傾向も示唆されたことから、2語・多語発話の発達に影響を与えていることが考えられる。こういった使用場面の広がりや出現した力動出来事語の反対の方向性の語の使用といった面について着目していく必要性が示唆された。

第7章 総合的考察

第1節 自閉症スペクトラムの子どもにおける2語・多語発話期の力動出来事語

第1章では、自閉症スペクトラムの子どもの2語・多語発話の発達について展望した。2語・多語発話の発達について定型発達の子どもの場合は、初期の統語の発達において、近年、動詞が注目されており、自閉症スペクトラムの子どもの2語・多語発話の発達を考えるうえで、重要であると考えられた。しかしながら、自閉症スペクトラムの子どもでは、動詞の発達に困難さがみられ(辰巳・大伴, 2009)、動詞の発達と関連して、動詞の基礎となる語である力動出来事語(McCune, 2008)が注目される。力動出来事語は、空間における可逆的な移動について示す語(McCune, 2008)であり、自閉症スペクトラムの子どもでは力動出来事語の獲得に困難さを示すことが示唆された。そして、このことが動詞の発達、さらには、2語・多語発話の発達に関連していると考えられた。

そこで、第1章の展望の結果、自閉症スペクトラムの子どもの2語・多語発話の発達において、力動出来事語という観点から自閉症スペクトラムの子どもにおいて困難さが指摘されている空間的な語や可逆的な出来事に関する語の獲得、さらに動詞の発達について検討していく必要性が明らかとなった。

第2章では、自閉症スペクトラムの子どもの1語発話期から2語発話期にある事例A児の協力のもと、自閉症スペクトラムの子どもの2語・多語発話の発達について検討を行った。その結果、A児においても、これまで指摘されていたように、動詞の発達に困難さが示され、パターン化された発話が語彙の広がりにくさにつながっている可能性が示唆された。また、軸語を中心としたパターン化された発話に変化がみられたとき、動詞を伴う2語発話がみられたことから、自閉症スペクトラムの子どもの2語・多語発話の発達について明らかにするにあたって、動詞の発達について検討する必要があることが明らかになった。そのためにも、まずは、動詞発達における基盤、つまり、力動出来事語の発達について明らかにしていく必要性が示された。

第3章では、自閉症スペクトラムの子どもでは、獲得に困難さがあると考えられる力動出来事語の発達について、1語発話期から2語・多語発話期への移行期にある自閉症スペクトラムの事例、B児とC児の2例を対象にMcCune(2008)によって提示されている英語における力動出来事語から、その出現について検討した。その結果、McCune(2008)の力動出来事語をそのまま訳したものを検討した場合、〈経路・直示的経路〉、〈移動出来

事・否定（反転）>に関する語は早期から出現し、<図と地・包含>、<経路・垂直的経路>の語は獲得に時間がかかることが示唆された。また、力動出来事語を含む語結合についても、定型発達の子ども（McCune（2008）の事例）と比較して少ない傾向が示され、自閉症スペクトラムの子どもでは、力動出来事語の出現において偏りがあることが示唆された。このことは、力動出来事語が他の語で表されている可能性や、発話された語のフレーズ化、パターン化によって他の語へ広がりにくいことが考えられ、より豊かな発話には力動出来事語のカテゴリといった語やその使用の広がりに関わると考えられた。また、他の語で表されている可能性があることから、新たに、日本語での力動出来事語の発達について検討する必要性が示された。

第2節 定型発達の子どもによる日本語の力動出来事語の資料から

日本語においては、力動出来事語の獲得に関する資料がまだ十分ではない。そのため、第4章では、定型発達の子ども、D児、E児を対象に、力動出来事的な状況における音声の発達について検討した。また、力動出来事的な状況における音声の出現順序についても着目した。その結果、<経路・直示的経路>の「どうぞ」や<図と地・包含>の「開けて」など McCune（2008）の分類と共通した表現がみられた。日本語の特徴として、擬音語や幼児語によって力動出来事を示すことが明らかとなった。さらに、物の名称によって力動出来事を示すことがあり、そのなかには、力動出来事的な意味が含まれると考えられた。力動出来事語の出現順序に関しては、<経路・直示的経路>と<移動出来事・反復>が他のカテゴリに比べ早く出現し、<移動出来事・閉塞>と<経路・目的終了>は出現が遅い傾向が示された。このことから、事例自身の目の前で移動が生じること、事例の要求に関する語は比較的早期から出現し、反対に移動した状態について言及するものは出現に時間がかかると考えられた。

さらに、第5章では、2語発話がみられ始める時期における日本語の力動出来事語の発達について、引き続き、定型発達の子ども、D児、E児を対象に検討を行い、この時期の力動出来事語について明らかにした。その結果、2語発話出現期においては、同じ力動出来事的な状況でさまざまな語がみられた。この時期には、本研究において設定した力動出来事的な状況において2語発話がみられ始め、それらの発話は、McCune（2008）の指摘する、事物の意味と力動的な意味をそれぞれ示すものであった。それらの割合は、2語発話のうち81%と71%であり、D児、E児で出現した2語発話のうち半数以上が力動出来事語を含む

ものであった。それらには「ママヘビ」のような名称同士の語結合も含まれていたが、「見てパン」や「あったワンワ」、「パパ来た」、「ママ開けて」のような発話を中心となっていた。つまり、これらの発話においては、力動的な意味と事物の意味両方を含むものではなく、力動的な意味と事物の意味をそれぞれ記号化しているものであったといえよう。しかしながら、まだこの時期には、1語発話が2語発話に比べて多く、この時期に出現した動詞は、力動出来事語の段階（事物の意味を含む段階）であったと考えられた。これらの語は、2語発話の増加にしたがい、動詞としての使用が増えていくだろう。今回、D児とE児において、力動出来事的な状況における表現にバリエーションがみられてきたこと（例えば、同じ状況で「開けて」、「ほしい」、「これ」などが発話されるなど）も動詞の発達につながったと考えられた。また、擬音語による表現は2語発話に含まれるなど継続してみられた。そのため、擬音語の力動出来事語は、日本語における特徴だということが明らかとなった。名称によって力動出来事を示すこともみられ、名称同士による語結合も出現した。つまり、語結合がみられても、力動出来事と事物の意味が別々に示されるというわけではなく、力動出来事語は、語結合がみられた後、動詞へと移行するものと、移行しないものがあるということが示唆された。

第4章、第5章の結果から、日本語における力動出来事語では、擬音語や幼児語が含まれており、さらに、名称によって力動出来事が示されるという特徴が示された。第4章、第5章の期間を通して出現した力動出来事語について、表7-1に示す。これらは、発話された状況における力動的側面を示したものであることに注意する必要があるが、これらの語が、本研究で出現した日本語における力動出来事語である。その結果、＜経路・直示的経路＞における「どうぞ」や＜図と地・包含＞における「開ける」など McCune (2008) のものと共通するものがみられた。また、複数の力動出来事語のカテゴリにおいて同じ語が出現することもあった。例えば、「これ」には、「これちょうだい」や「これ開けて」などさまざまな場面で使われるためである。そのため、発話された状況に着目することは今後も必要である。しかしながら、2語発話が登場し始める時期になると、母親とのやり取りのなかで、新たな語の提示されることや伝えようとさまざまな語を使用することを通して、力動出来事的な状況において、場面に適した語がみられるようになっていった。しかしながら、「開けて」の語は、まだ使用が＜図と地・包含＞だけでなく、＜図と地＞の状況全体で使用されており、くっ付いたものをはなす場面でも使用されていた（蓋を開けるなどもくっ付いているものをはなすため）。さらに、閉める状況においても「開けて」の語がみら

れていた。McCune (2008) においても ‘open’ の語は、英語を学習している子どもに共通して出現する一方で ‘close’ の出現は稀であることが指摘されている。これは、包含関係の理解自体に関連していることが考えられ、日本語の力動出来事語においても同じ傾向がみられた。さらに、動作をあらわすことばでは、適切な動詞をマップすることが難しいという傾向は (Imai, Haryu & Okada, 2005), 力動出来事語においてもみられる。複数のカテゴリにおいて同じ語が出現することに加え、明確に力動出来事語のカテゴリに分類できないものもあったが (物を渡しながら「開けて」の語など), それらは、発話の目的から分けていくことができると考えられる (先の例の場合, 渡すというよりも, 開けてもらうことを目的として渡しているため, <図と地・包含>に分類する)。

また, McCune (2008) によると, 2語発話が登場し始める時期になると, 力動出来事と事物の語をそれぞれ別々に発話することがみられ始め, 事物の意味を含まない動詞である真の動詞が登場し始めるという。本研究において, この時期にみられた動詞では, 2例で出現した動詞のほとんどが共通していた。その一覧は, 表 7—2 に示す。これらの語は, 他の力動出来事語に比べ「ママ開けて」や「おむつあった」, など 2語発話のみみられており, 真の動詞 (事物の意味を含まない動詞) へ移行しやすいことが示唆される。

力動出来事語のカテゴリの出現に関しては, <経路・直示的経路>がすべての期間を通してもっとも出現を示した。直示的な方向性は, 物のやり取りをはじめとして, 目の前で生じやすく認識されやすいと考えられた。また, <図と地・包含>についても同様に, 子ども自身が<包含>の操作をしていたこと, さらに「開けて」の語がさまざまな場面で出現したためと考えられる。一方で, <経路・目的終了>に関しては, すべての期間を通して出現数自体が少なかった。これは, 目的が完了するという点に関して, 経路の方向性というよりも, 完了を喜ぶ, それを伝える意味が含まれていたためだと考えられた。このように, 力動出来事語では, カテゴリによって出現数は異なったが, すべてのカテゴリで発話のみられ, 徐々に発話される語にバリエーションがみられることや, 場面に適した語へと変化していくことがみられた。これらは, 母親に伝えようとする点によって発話のバリエーションが増え, それが 2語発話につながる (「おむつ変える」など) ことが考えられた。そして, 発話のバリエーションが増えるなかには, 動詞のみられ, それらが 2語発話によって発話されるようになるなど相互に関連していくことが考えられた。

表7-1 定型発達の子どもで出現した力動出来事語

力動出来事語のカテゴリ		力動出来事語
経路	垂直的経路	だっこ、ねんね、たっち、よいしょ、よし、あっち、これ、あった、ないない、はい、開けて、高い、落ちた、びっくりした、おっと、ねんね、擬音語（ポイ、ピ、ゴー、ブシー、ジャー）、名称（ワンワン、ママ）
	直示的経路	どうぞ、はい、あい、これ、おいしー、うん、開けて、ここ、見て、する、飛んでいけー、ほしー、貸して、とって、あった、あっち、あれ、ばあ、出た、擬音語（あむ、あん、まんまんまん、ままま、シュー、プープー、ピピピ、ボン、ププー）、名称（ママ、ヘビ、ジュース、おやつ、チョコ、ワンワン、〇ちゃん、マンマ）
	目的終了	いえーい、できた、よし、あった、取れた
図と地	包含	開いた、出た、どうぞ、これ、ほしい、ばー、よし、あった、はい、わーお、これ、する、できた、ないない、こっち、擬音語（ジャー、ジー、ボン）、名称（ちょうちょ、氷、ママ）
	付着	やー、よしし、でったー、はい、うん、痛い、よし、これは、開けて、待って、脱げる、出ておいで、ほしい、して、こっち擬音語（トントン、タタタ、コンコン、ちゅ、ちく、トトト、ぼんぼん、ごっちゃん、べっちゃん、ぺち、かん、がっちゃんこ、チヨキチヨキ、ぼん）、名称（ママ、足、耳）
移動出来事	閉塞	あった、おしまい、ないない、これ、あれ、ばいばい、ばあ、怖いね、わーお、びっくりした、出た、やだ、ほしー、行っちゃった、なくなった、もうない、擬音語（ピカピカ）、名称（ちょうちょ、青虫、ワンワン、ヘビ）
	反復	はい、ぐるぐる、開けて、もっかい、して、これ、はい、おかわり、あった、する、変える、擬音語（にゃー、ちゅちゅちゅー、たたら）、名称（ママ、おむつ、うんこ）
	否定（反転）	ううん、嫌や、あい、痛い、やだ、まだ

表7-2 定型発達の子どもでみられた動詞

動詞

開ける、ある、する、できる、見る、落ちる、来る、出る、行く

第3節 自閉症スペクトラムの子どもにおける力動出来事語と2語・多語発話の発達

第6章では、第4章、第5章の結果をふまえたうえで、自閉症スペクトラムの子どもの力動出来事語の発達について検討した。その結果、McCune (2008) の示す、英語を対象とした力動出来事語におけるすべての力動出来事語のカテゴリで、発話が認められた。これらの発話には、日本語の力動出来事語と共通する語の出現もみられた。この共通した語の発話は少数ながらも他の語と比較して2語発話に含まれる傾向が示唆された。また、自閉症スペクトラムの子どもでは、力動出来事に関する発話がみられても、その語の反対を意味する語（例えば、開けるに対する閉めるなど）の出現に困難さが示唆され、それらが、力動出来事語の発達、さらに、2語・多語発話の発達に影響を与えていることが考えられた。

第3章で検討した自閉症スペクトラムの子どもにおける力動出来事語はMcCune(2008)による英語における力動出来事語のみを対象としている。そのため、第6章の結果と異なり、力動出来事語はカテゴリによって出現に偏りがみられた。今回、新たに日本語の力動出来事語として検討した結果では、すべての力動出来事語のカテゴリに出現が認められた。さらに、力動出来事語のカテゴリごとの出現数にばらつきがみられていたが、それらは定型発達の子どものみでもみられており、自己の行動や目の前で生じている力動出来事についての言及がされやすいといった点が共通していた。また、McCune (2008) の分類は、今回の日本語における力動出来事語では「開ける」、「あっち」、「嫌」など共通したものがあり、日本語における力動出来事語に含まれている。加えて、日本語では物の名称や擬音語によって力動出来事が示されることがある。

第3章のC児は、2語発話期への移行期にあり、多語発話も出現していた。C児では、〈図と地・包含〉における「入る」、「出る」といった逆の方向性に関する発話がみられていたことや、空間関係に関する興味が高いことなど、第6章においてB児に困難さがみられたものに出現を示し、こういった点が、2語発話、さらに多語発話の発達に寄与したことが考えられた。さらに、C児では、同じ事象に対する質問や確認、繰り返しや言い直しがみられていた。このようなことは定型発達の子どものみでも2語発話のみがみられる際の語彙の広がりとも関連していたことから、2語・多語発話の発達において重要となるといえよう。また、C児では、定型発達の子どものみではみられなかった力動出来事語の軸語を中心とした2語発話が出現していた。定型発達の子どものみでは同じ状況でさまざまな語が使用されるようになった一方で、C児では、同じ発話あるいは同じ語を中心とした発話を別の場面で使用する、別の語と組み合わせた発話がされるようになるといったことが2語発話の発達に寄与

したことが考えられた。

自閉症スペクトラムの子どもでは、発話がフレーズ化パターン化し、ことばが広がりにくいことがあり、新奇の語に対しては、療育者らのことばをそのまま場面に適用することがみられた。そのため、Oshima-Takane, Kobayashi, Chen, Tardif and Steinman (2012)の指摘にあったような、新奇名詞、新奇動詞をそれぞれ行為者と行為へマップするというよりも、場面および状況にマップされていたといえる。このことは、第5章の結果から、日本語では、その特徴から事物の意味と力動出来事の意味が未分化なまま発話され続ける可能性が自閉症スペクトラムの子どもではあまりみられなかったことにも通じていると考えられる。それは、事物の意味と力動出来事の意味が未分化な発話というよりも、場面に適した発話、つまり療育者らのことばがそのままみられていたためであったと考えられる。定型発達の子どもの場合、「開ける」の語が〈図と地〉全体に適用されており、〈図と地・包含〉において出現した「開ける」についても、くっ付いているものはなれるという意味で「開けて」の語が発話されていたことが考えられた（蓋を開けることは、くっ付いている蓋がはなれるという意味として捉えていた）。そのため、「開けて」の語などに誤用がみられたが、自閉症スペクトラムの子どもではこのような誤った使用はみられなかった。そこには、力動出来事語が場面に依存しており、力動的な動きというよりも出来事、遊びに適用されていたことが考えられる。それは、空間関係の理解や力動的な移動に関する理解の困難さによるものであると考えられた。このような空間的な枠組みに依存する発話の困難さはこれまでも指摘されており (Butterworth & Harris, 1994), 場面に依存した発話によって力動出来事を示すことは自閉症スペクトラムの子どもの困難さである。定型発達の子どもの場合、主に母親とのやり取りのなかで力動出来事語が出現しており、人とのやり取りのなかで力動的な認識がされるようになることが考えられた。このことも自閉症スペクトラムの子どもで力動的な移動の認識、そして力動出来事語における困難さに繋がったことではないか。しかし、自閉症スペクトラムの子どもでは、場面や状況においてフレーズ化、パターン化し、そのようなパターン化された発話のなかで新たな語、2語発話、多語発話へと広がっていくこともC児の事例から考えられた。

B児、C児で出現した2語発話では、事物と力動出来事が別々に発話されており（「チョコボール落ちた」や「Bちゃん見て」、「こっちにする」、「上いきたい」など）、力動出来事語から事物の意味を含まない力動的な意味を示す動詞への移行がみられていることが自閉症スペクトラムの子どもでもいえる。これらの、2語発話に含まれた動詞は、力動出来事語

において以前にも出現していたものであった（例えば「開ける」など）。このことは、C児においても「行く」や「する」といった語でみられており、表7-2で示した定型発達の子どもで出現した動詞が2語発話に含まれていた（行く、来る、見る、落ちる、する、ある、など）ことから、これらの動詞の出現は自閉症スペクトラムの子どもにおいても2語発話、多語発話の発達に関係していると考えられた。自閉症スペクトラムの子どもでは、これらの力動出来事語の獲得に困難さがみられることが考えられたが、今回の結果から、事例自身が主体となるものは、出現することが示唆された。

今回、自閉症スペクトラムの子どもの力動出来事語と2語発話、動詞の発達といった観点から検討を行い、自閉症スペクトラムの子どもの2語・多語発話の発達について明らかにすることを目的としてきた。自閉症スペクトラムの子どもでは、パターン化された発話によって、発話される力動出来事が限られていることがあった、それは発話された力動出来事語が特定の場面、遊び（その力動出来事語が発話された場面）にしか言及されず、時間的空間関係の理解が十分に伴っていない可能性が考えられた。さらに、発話される語が限定されていることがみられた。これらは、力動出来事語の発話においても同様であった。それには、力動出来事語において、反対の方向性に関する発話がみられない（例えば、「行く」に対する「来る」など）ことにもつながっていると考えられた。実際に、B児では、＜経路・直示的経路＞の物の受け渡しでは、「渡す」という方向よりも、「取る」、「受け取る」といった一方向のものが主であった。しかしながら、力動出来事に関して反対の方向性に関して示す語が出現した事例（C児）は、2語発話移行期にあり、多語発話が出現していた。この事例においてもパターン化された発話は出現していたが、その軸語を中心とした2語発話のみがみられており（「ここ」を軸に「こここれ外」や「もう1個ここに来た」、「ここいたね」など）、力動出来事語を中心として2語発話のみがみられていた。また、このように2語発話、多語発話のみがみられることによって力動出来事語として事物の意味も含まれて発話されていた語も事物の意味を含まない動詞による発話のみがみられたといえる（「もう1個ここに来た」の「来た」は真の動詞といえる）。2語・多語発話のみがみられた動詞は、それ以前に力動出来事語において発話されていた語であった。これらのことから、力動出来事語が発話される場面が広がること、そして力動出来事に関して、反対の方向性（つまり両方向、例えば、「上」に対する「下」など）についても言及することができるようになることが自閉症スペクトラムの子どもの2語・多語発話の発達において重要となるだろう。さらに、力動出来事について発話される語の広がりには2語発話に繋がり、さらに、語の広がりの中で

従来の動詞がみられてくる。そして、それらの動詞は 2 語発話において発話される傾向があることから、自閉症スペクトラムの子どもにおいて、発話場面の広がり、発話される時間及び空間の方向性が広がること、そして、それらが適切な語へと変化していくことが、動詞の発達、そして 2 語・多語発話の発達へとつながることが明らかとなった。

第 4 節 今後の課題

今回、定型発達の子どもの資料から、日本語の力動出来事語について明らかにし、自閉症スペクトラムの子どもにおける力動出来事語の発達について検討を行った。その結果、日本語の力動出来事語では、擬音語や幼児語、さらに名詞が含まれることが明らかとなった。そして、力動出来事語を検討するにあたっては、擬音語や幼児語、名詞は多様にあるため、文脈から検討する必要性が示された。また、日本語の特徴からも事物の意味と力動的な意味が未分化なまま発話され続ける可能性が示唆された。2 語・多語発話期へと移行した後も、このような傾向が実際みられるのかについては今後、検討する必要がある。

自閉症スペクトラムの子どもでは、発話された力動出来事語は場面に依存したものや、療育者らのことばをそのまま取り入れていたため、定型発達の子どものみられたような誤用が少なかった。一方で、発話される力動出来事語の方向性が一方に限られるといった特徴があった。しかしながら、2 語発話期への移行期、さらに多語発話のみられた事例では時間あるいは空間における言及が一方だけでなく両方向に関する力動出来事語がみられた（例えば、「行く」に対する「来る」など）。そのため、このような力動出来事語の意味において力動的な方向が一方だけでなく、両方向に発話されるようになることの発達について検討していくことは、さらに自閉症スペクトラムの子どもの力動出来事語の発達において必要となってくると考えられる。

文献

- American Psychiatric Association (2013) Diagnostic and statistical manual of mental disorders: DSM-5. American Psychiatric Publishing. 日本精神神経学会 (監修) (2014) DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル. 医学書院.
- Brain, M. (1963) The ontogeny of English phrase structure. *Language*, 39, 1-14.
- Brown, R. (1973) A first language: The early stages. Harvard University Press.
- Butterworth, G., & Harris, M. (1994) Principles of developmental psychology. Lawrence Erlbaum Associates Ltd, East Sussex, Hove, UK. 村井潤一(監訳)(1997)発達心理学の基礎を学ぶ—人間発達の生物学的・文化的基盤. ミネルヴァ書房.
- Fonseca, V. R. (2010) Les difficultés concernant le pronom personnel et l'espace mental dans les troubles autistiques: Une hypothèse. *Neuropsychiatrie de l'Enfance et de l'Adolescence*, 58, 145-151.
- 藤上実紀・大伴 潔 (2009) 自閉症児の語彙獲得に関する研究—知的障害児との比較による検討—. 東京学芸大学紀要 総合教育科学系, 60, 487 - 498.
- Gathercole, V. C. M. (2006) Special issue: Language-specific influences on acquisition and cognition: Introductory note to Part 2. *First Language*, 26, 139-140.
- 針生悦子 (2004) 動作をあらわすことばの学習—子どもはどのようにしてその意味を推論するのか. 児童心理, 58-1, 113-119, 金子書房.
- Herr-Israel, E. & McCune, L. (2006) Dynamic event expression of motion events and the transition to verb meanings. In Gagarina, N. & Gulzow, I. (Eds), *Language specificity in the discovery of verb meaning*, Kluwer Academic Publishers, The Hague, The Netherlands, 124-149.
- 生澤雅夫・松下 裕・中瀬 惇 (2002) 新版 K 式発達検査 2001 実施手引書. 京都国際社会福祉センター.
- Imai, M., Haryu, E. & Okada, H. (2005) Mapping novel nouns and verbs onto dynamic action events: Are verb meanings easier to learn than noun meanings for Japanese children?, *Child Development*, 76-2, 340-355.
- 伊藤友彦 (1997) 言語理論を基盤とする言語獲得研究—二語発話段階から多語発話段階への移行について—. 音声言語医学, 38-3, 291-296.
- Johnson, M. (1987) The body in the mind: The bodily basis of meaning, imagination, and

- reason. The University of Chicago Press, Chicago, Illinois.
- Kersten, A.W., & Smith, L. B. (2002) Attention to novel objects during verb learning. *Child Development*, 73, 93-109.
- 小林哲生・麦谷綾子 (2007) 乳児はいつ動詞を学び始めるか—音声と動作の対応づけ能力の発達過程—. 電子情報通信学会技術研究報告書, 53, 31-32.
- 小山 正 (2000) 子どもの発達とことばの獲得. 小山正(編) ことばが育つ条件—言語獲得期にある子どもの発達. 培風館, 1-15.
- 小山 正 (2009) 言語獲得期にある子どもの象徴機能の発達とその支援. 風間書房.
- 小山 正 (2010) 意味発達を支える象徴機能. 秦野悦子 (編) 子どもへの発達支援のエッセンス 第1巻 生きたことばの力とコミュニケーションの回復. 45-59, 金子書房.
- 小山 正 (2012a) 言語獲得初期における空間語彙と動詞の理解との関連—ダウン症の事例から—. 音声言語医学, 53,148-152.
- 小山 正 (2012b) 初期象徴遊びの発達の意義. 特殊教育学研究, 50, 363 - 372.
- McCune, L. (1995). A normative study of representational play at the transition to language. *Developmental Psychology*, 31, 198-206.
- McCune, L. (2006) Dynamic event words: From common cognition to varied linguistic expression. *First Language*, 26, 233-255.
- McCune, L. (2008) How children learn to learn language. Oxford University Press, New York.
- 小山正・坪倉美佳 (2013) 子どもの言語学習能力—言語獲得の基盤—. 風間書房.
- 三宅和夫 (監) (1991) KIDS 乳幼児発達スケール手引き. 財団法人発達科学研究教育センター.
- 宮田 Susanne (2012) 日本語 MLU (平均発話長) のガイドライン—自立語 MLU および形態素 MLU の計算法—. 健康医療科学研究, 2 : 1-17.
- 守田貴弘 (2006) 空間移動表現の類型論的研究—直示移動表現を中心に—. 日本言語学会 第132回大会.
- Naigles, L. R., Kelty, E., Jeffery, R. & Fein, D. (2011) Abstractness and Continuity in the syntactic development of young children with autism. *Autism Research*, 4, 422-437.
- Nakazawa, T. (2007) A typology of the ground of deictic motion verbs as path-conflating verbs: the speaker, the addressee, and beyond. *Poznan studies in Contemporary Linguistics*, 43-2, 59-82.

- 二宮 昭 (1985) 1歳児の語彙発達. 日本教育心理学会 第27回大会.
- 小川詩乃・福島美和・田村綾菜・正高信男 (2010) 発達障害児の直示動詞の理解と心の理論の関連. 日本発達心理学会第21回大会発表論文集, 589.
- 小椋たみ子 (1999) 語彙獲得の初期発達. 桐谷 滋 (編) ことばの獲得, 144-194, ミネルヴァ書房.
- 小椋たみ子 (2006) 言語獲得における認知的基盤. 心理学評論, 49-1, 25-41.
- 小椋たみ子 (2007) 日本の子どもの初期の語彙発達. 言語研究, 132, 29-53.
- 大久保愛 (1984) 幼児言語の研究—構文と語彙—. あゆみ出版.
- Ogura, T., Dale, P. S., Yamashita, Y., Murase, T. & Mahieu, A. (2006) The use of nouns and verbs by Japanese children and their caregivers in book reading and toy-play contexts. *Journal of Child Language*, 33, 1-29.
- Oshima-Takane, Y., Kobayashi, T., Chen, J., Tardif, T. & Steinman, C. (2012) Mapping of novel nouns and verbs in dynamic motion events in Japanese-, French- and English-speaking infants: a crosslinguistic study. *22nd Biennial Meeting of International Society for the Study of Behavioral Development Abstract Book*, 180-181.
- Parish-Morris, J. (2012) Relational vocabulary in preschoolers with autistic spectrum disorder: The role of dynamic spatial concepts and social understanding. Proquest Umi Dissertations Publishing.
- Piaget, J., & Inhelder, B. (1966) *La Psychologie de L' enfant*. Press Universitaires de France, Paris. 波多野完治・須賀哲夫・周郷博訳(1969)新しい児童心理学 白水社.
- Tager-Flusberg, H. (1993) What language reveals about the understanding of minds in children with autism. Baron-Cohen, H., Tager-Flusberg, & D. J. Cohen (Eds.), *Understanding other Minds perspective from Autism*, Oxford University Press, Oxford, UK, 138-157. 田原俊司監訳 (1997) 心の理論 (上) —自閉症の視点から—. 八千代出版.
- Tager-Flusberg, H. (2007) Evaluating the theory-of-mind hypothesis of autism. *Current Directions in Psychological Science*. 16, 311-315.
- 高須賀直人 (1992a) 自閉児の初期2語発話の構文的構造. 耳鼻咽喉科臨床, 59, 116-130.
- 高須賀直人 (1992b) 自閉児の後期2語発話: その構文的構造. 聴能言語学研究, 9, 21-25.

- Talmy, L. (2000) Toward a cognitive semantics. *Concept Structuring Systems*, 1. MA : MIT Press, Cambridge.
- 辰巳朝子・大伴 潔 (2009) 高機能広汎性発達障害児における動作語の理解と表出：表現の適切性を含めた検討. *コミュニケーション障害学*, 26, 11-19.
- Tomasello, M. (1992) *First verbs: A case study of early grammatical development*. Cambridge University Press, New York.
- Tomasello, M. (2003) *Constructing a language: A usage-based theory of language Acquisition*. Harvard University Press, Cambridge, Massachusetts. 辻幸夫・野村益寛・出原健一・菅井三実・鍋島弘治朗・森吉直子訳 (2008) *ことばをつくる一言語習得の認知言語学的アプローチ*. 慶応義塾大学出版会.
- 津守 真・磯部景子 (1965) : 乳幼児精神発達診断法. 大日本図書, 東京.
- 綿卷 徹 (1975) 二語文期における乳児の文法発達. *教育心理学年報*, 15, 96.
- 綿卷 徹 (1982) 初語の発生から二語発話初期までの言語発達 (1) - 語彙項目の指示的意味と一語発話期の実用機能に関する予備分析-. *日本発達心理学会*, 252-253.
- 綿卷 徹 (1999) ダウン症児の言語発達における共通性と個人差. 風間書房.
- 渡瀬弘子 (2004) 自閉症スペクトラムの子どもの遊びと言語の発達. 小山 正・神土陽子 (編) *自閉症スペクトラムの子どもの言語・象徴機能の発達*. ナカニシヤ書房, 88-110.
- 山梨正明 (2009) *講座認知言語学のフロンティア言語習得と用法基盤モデル*. 研究社.

謝辞

本論文を作成するにあたって、多くの方々にご協力いただきました。

特に、研究協力者であるお子さん5名、そしてそのご家族の皆様には、心より感謝しております。Aさん、Bさん、Cさんの3名のお子さんには、研究を始めるきっかけ、そして多くのことを学ばせていただきました。3名のお子さんのご家族の皆さん、研究をすすめるにあたって快く了承していただき、本当にありがとうございました。Dさん、Eさんの2名のお子さんとそのご家族には、お忙しいなか、お時間をとっていただいたことと思います。厚くお礼申し上げます。

そして、本論文をすすめるにあたり、神戸学院大学人間文化科学研究科での指導教員であります、神戸学院大学人文学部人間心理学科 小山正教授には、学部頃から、多くの温かいご指導、ご助言をいただきました。小山先生の研究に対する姿勢、そしてその考え等、さまざまな話には多くのことを学ばせていただきました。そして、本論文を最後まで、書き進めることができたのも小山先生からの温かい励ましがあったからこそだと思っています。

神戸学院大学人文学部人間心理学科の先生方には、いつも温かいことばをかけていただき、ときにアドバイスをいただき、本当にありがとうございました。また、実習助手の方々には、研究をすすめるにあたって、手続き等でたいへんお世話になりました。そして、大学院の先輩方、同期、そして後輩の皆さんには、話を聞いていただいたり、ときにはアドバイスをいただいたりしました。本当にありがとうございました。

最後に、本論文を作成するにあたって、今回名前をあげた方に限らず、多くの人にお世話になり、支えられてきました。今一度、深くお礼申し上げます。

論文目録

博士論文を構成する論文のうち、すでに公表しているものを以下に示す。

1. 査読論文：公表済み，ならびに掲載予定

坪倉美佳（2014）2 語，多語発話出現期における自閉症スペクトラムの子どもの心的状態語，心的動詞の発達. 人間文化, 34, 51-66. (第 2 章)

坪倉美佳（2015）自閉症の子どもにおける 2 語・多語発話の発達. 特殊教育学研究, 52-5, 381-390. (第 1 章)

坪倉美佳（2015）自閉症スペクトラムの子どもの力動 - 出来事語—1 語発話期から 2 語，多語発話期にある事例の縦断的検討—. 人間文化, 37, 15-25. (第 3 章)

2. 学会発表

坪倉美佳（2015）1 語発話期における力動 - 出来事的側面に対する音声的表現. 日本発達心理学会第 26 回大会, P1-G-1. (第 4 章)

資料

・第4章 資料

資料1 D児の力動出来事的状況における音声1

CA	音声	文脈	力動出来事語のカテゴリ
1:2(0)	ない	玩具の金槌を持ち上げて観察者に見せて	経路・垂直的経路
	ばきゅばん	立っているのをMo.に支えられているが後ろに倒れそうになって	経路・垂直的経路
	あー	玩具のツールボックスの中身を渡すときに	経路・直示的経路
	うあー	玩具の金槌をMo.に渡すときに	経路・直示的経路
	ん	渡したもの(玩具のツールボックスの中身)を返すように手を伸ばしながら要求して	経路・直示的経路
	あい	玩具のレンチをMo.に差し出して	経路・直示的経路
	あい	玩具の青いレンチを母親に渡しながら	経路・直示的経路
	あい	玩具のドライバーをMo.に渡しながら	経路・直示的経路
	あい	Mo.の膝に座り、玩具のドライバーを手に取り、Mo.に渡しながら	経路・直示的経路
	んんー	玩具の赤いレンチを取り、上にあげMo.に渡しして	経路・直示的経路
	あい	入れ子を上にあげてMo.に渡しして	経路・直示的経路
	あー	玩具の赤いレンチを見つけてMo.の方を見てMo.に渡す	経路・直示的経路
	あい	ミニフードのチョコの箱をMo.に渡ししながら(Mo.はD児の斜め後ろ)	経路・直示的経路
	あ、あ	絵本を閉じてMo.の方を振り向きながら渡して	経路・直示的経路
	あい	ミニフードのなしをMo.の方に振り向いて渡す	経路・直示的経路
	あい	Mo.に<いちごがあるよ>と渡され、受け取り、笑顔でMo.に見せ、食べた後Mo.に返す	経路・直示的経路
	あー	ミニフードのチョコの箱をMo.に渡ししながら、大きな声で	経路・直示的経路
	あい	入れ子にミニフードのスイカを入れたものを食べるふりをした後に、Mo.にそれを渡ししながら	経路・直示的経路
	あいあ	ミニフードのにんじんを食べてMo.を見て差し出して	経路・直示的経路
	やあ	みかんを食べるふりをしながら	経路・直示的経路
	あ、あ	ミニフードのポテトをMo.の方を見て渡ししながら	経路・直示的経路
	あ、あ、あ、あ、あ	ガラガラを振って笑顔になった後、Mo.に渡しして	経路・直示的経路
	ああーい	Mo.がガラガラを振っていると、Mo.の方に手を差し出して大きな声で	経路・直示的経路
	あい	ガラガラを振った後、Mo.に手渡ししながら	経路・直示的経路
	あーい	Mo.がガラガラを振ると、Mo.の方に手を伸ばして、大きな声で	経路・直示的経路
	ええーい	Mo.がガラガラを振っているとガラガラの方に手を伸ばして取りながら	経路・直示的経路
	え	母親がガラガラを振るとそれを取りながら	経路・直示的経路
	えーい	ガラガラを振った後、Mo.にガラガラを渡ししながら	経路・直示的経路
	えー	Mo.にガラガラを渡しながら	経路・直示的経路
	え	観察者にガラガラを渡した後に観察者の方に手を伸ばしながら	経路・直示的経路
	え	ミニフードのたまごをMo.に渡しながら	経路・直示的経路
	え	ガラガラを観察者に渡してガラガラを振っていると手を伸ばして	経路・直示的経路
	ああー	ガラガラを振った後、Mo.に渡しして	経路・直示的経路
	え、え	ガラガラをMo.がD児の上の方で振ると、ガラガラに手を伸ばしながら	経路・直示的経路
	あ、あ	ガラガラをMo.がD児の上の方で振ると、ガラガラに手を伸ばしながら	経路・直示的経路
	あーい	Mo.にガラガラを渡す(顔は観察者の方に向けている)	経路・直示的経路
	あーい	玩具のカップをMo.に渡す	経路・直示的経路
	あーい	玩具のカップの蓋をMo.に渡す	経路・直示的経路
	うえー	Mo.の方に歩こうとしているが、Mo.に手で支えられて前に進めなくて	経路・直示的経路
	うあー	Mo.にガラガラを渡しながら	経路・直示的経路
	えい	Mo.にミニフードのレモンを渡されて、それを受け取って	経路・直示的経路
	あいあ	Mo.にミニフードのレモンに差し出ししながら	経路・直示的経路
	だー	ミニフードのにんじんを食べるふりをした後、Mo.の方に差し出して	経路・直示的経路
	ああー	ミニフードの豆を食べるふりをした後Mo.の方にマメを差し出して	経路・直示的経路
	あむー	ミニフードの豆を食べるふりをしながら	経路・直示的経路
	でー	ミニフードのレタスを食べるふりをした後Mo.の方にレタスを差し出して	経路・直示的経路
	えええ	玩具のカップの蓋を開めようとして	図と地・包含
	がーが	玩具入れのバケツの中からガラガラを取り出そうと探りながら観察者の方を見て	図と地・包含
	んんー	蓋付きのカップがカップに入らなくて、上にあげてMo.に渡ししながら(Mo.はD児の後ろ)	図と地・包含 一経路・直示的経路
	あっあっ	玩具のカップの蓋が取れなくて、Mo.に渡ししながら	図と地・附着 一経路・直示的経路
	お茶	玩具のカップで飲むふりをした後に、Mo.にカップを向けて	移動出来事・反復
	あい	玩具の哺乳瓶を持っているところにMo.が赤ちゃんの人形を出して<どうぞして>という、赤ちゃんの人形をMo.の方に戻しながら	移動出来事・否定(反転)
	あいあ	Mo.がD児に玩具のサングラスをつけると、サングラスを外して、Mo.に渡ししながら。	移動出来事・否定(反転) 一経路・直示的経路

資料2 D児の力動出来事的状況における音声2

CA	音声	文脈	力動出来事語のカテゴリ
1:2(14)	あっあっ	Mo.がD児の頭の周りでガラガラを鳴らしているときガラガラを取ろうとしながら	経路・直示的経路
	ん	玩具のアイロンをした後、観察者に差し出しながら	経路・直示的経路
	あーあー	玩具のトレイを持ち上げ、Mo.に渡しながら	経路・直示的経路
	ててー	Mo.にガラガラを差し出されると、それを受け取りながら	経路・直示的経路
	まんま	ミニフードの入れ物からミニフードのスイカを取り出し、Mo.に渡して	経路・直示的経路
	あー	Mo.がガラガラを取ってD児の頭の上で振るとそれに手を伸ばしながら	経路・直示的経路
	あ	Mo.がガラガラを取ってD児の頭の上で振るとそれに手を伸ばしながら	経路・直示的経路
	あ	観察者の方にガラガラを差し出しながら	経路・直示的経路
	あー	観察者がガラガラを持っていると手を伸ばして	経路・直示的経路
	あー	Mo.がガラガラを振っていると手を伸ばして取ろうとして	経路・直示的経路
	でいっ	観察者がD児に返すためにガラガラを出すときそれを取ろうとしながら	経路・直示的経路
	ママ	玩具入れのバケツからミニカーを取り出しMo.の方に手を持って行って(顔はバケツの方に向いている)	経路・直示的経路
	えっえっ	トラックのミニカーを取ろうとしながら	経路・直示的経路
	えー	トラックのミニカーを取ろうとしながら	経路・直示的経路
	どーぞー	ミニフードの入れ物からミニフードの箱を取り出してMo.に差し出しながら	経路・直示的経路
	どーぞー	Mo.にミニフードの梨を差し出しながら	経路・直示的経路
	どーぞー	ミニフードの入れ物からミニフードのドーナツを取り出し、観察者に見せた後、Mo.の方に差し出して	経路・直示的経路
	え	観察者の方にミニフードの梨を差し出しながら	経路・直示的経路
	だい	ミニフードの梨を食べるふりをした後、Mo.にそれをMo.に差し出して	経路・直示的経路
	でー	Mo.の手からミニフードの梨を取りながら	経路・直示的経路
うー	ミニフードの梨を口にくわえて手にミニフードのきゅうりを持ち、きゅうりをMo.の方に差し出して	経路・直示的経路	
1:2(28)	どうぞ	食べるふりをしていたミニフードの梨を手をもってMo.の方に差し出して	経路・直示的経路
	どうぞー	Mo.がガラガラを振っているとそれを取ろうとしながら	経路・直示的経路
	どうぞー	観察者の方にガラガラを差し出しながら	経路・直示的経路
	ん	パンを観察者の方に差し出しながら	経路・直示的経路
	あ	Mo.がガラガラを取ってD児の頭の上で振るとそれに手を伸ばしながら	経路・直示的経路
	あー	玩具のポットの中にミニフードのいちごを入れた後、観察者の方を見て	図と地・包含
	え	ミニフードの入れ物からミニフードのスイカを取り出し、Mo.に差し出す	経路・直示的経路
	えっえっ	ミニフードの魚をMo.に差し出しながら	経路・直示的経路
	えっえ	ミニフードのいちごをMo.に差し出しながら	経路・直示的経路
	ん	玩具のドライバーを観察者の方に差し出す	経路・直示的経路
1:4(2)	えー	玩具のペンチを観察者の方に差し出す	経路・直示的経路
	ん	玩具の青いレンヂをMo.に渡す	経路・直示的経路
	ん	玩具の赤いレンヂを観察者の方に差し出す	経路・直示的経路
	んー	玩具の金槌を観察者の方に差し出して渡す	経路・直示的経路
	ん	玩具ののこぎりを観察者の方に差し出す	経路・直示的経路
	ん	ミニフードのポップコーンの箱をMo.に差し出して	経路・直示的経路
	あ	ミニフードのトウモロコシを観察者に差し出しながら	経路・直示的経路
	あ	ミニフードのたまごをMo.の方におく	経路・直示的経路
	え	ミニフードのコーヒーの箱をMo.に渡しながら	経路・直示的経路
	ん	手を伸ばしてMo.の持っているミニフードのコーヒーの箱を要求する	経路・直示的経路
	え	ミニフードの箱をMo.に渡しながら	経路・直示的経路
	ん	ミニフードの箱を観察者に差し出しながら	経路・直示的経路
	あ	Mo.に玩具のコップを差し出しながら	経路・直示的経路
	あ	Mo.に玩具のコップを差し出しながら	経路・直示的経路
	あー	Mo.に玩具のコップを渡そうとしながら	経路・直示的経路
	あ	Mo.の方にミニフードのジャガイモを差し出して	経路・直示的経路
	えー	ミニフードの箱をMo.の方に差し出すが自分の方に戻して、観察者に渡す	経路・直示的経路
	ん	ミニフードのパンをMo.に渡す	経路・直示的経路
んー	玩具の金槌を観察者の方に差し出した後、自分ですぐ取る	移動出来事・否定(反転)	
あー	玩具を叩いて玩具のツールボックスから玩具が落ちたのを見て	経路・垂直的経路	
ん	Mo.にミニフードのいちごを渡そうとして	経路・直示的経路	
ここ	びっくり箱を近くに寄せながら	経路・直示的経路	
ここ	Mo.にびっくり箱を手渡ししながら	経路・直示的経路	
わ	Mo.がびっくり箱を鳴らすとびっくり箱の絵を指さしながら	経路・直示的経路	
あ	びっくり箱のいもむしの絵を指さしながら	経路・直示的経路	
ここ	びっくり箱のいもむしの絵を指さしながら	経路・直示的経路	
こ	びっくり箱を自分の方にかき寄せながら	経路・直示的経路	
わー	ミニフードの入れ物の蓋を取って見ながら	図と地・包含	
お	びっくり箱のぬいぐるみが入っていくのを見ながら指さして	図と地・包含	
どーぞ	玩具のツールボックスを開けてはくしてMo.に渡しながら	図と地・包含	
わ	ミニフードの入れ物の蓋がとれて驚いた顔をしながら蓋を見る	図と地・包含 一図と地・付着	
はい	自分でびっくり箱をならせなくて、Mo.にびっくり箱を手渡ししながら	移動出来事・反復 一経路・直示的経路	

資料3 D児の力動出来事状況における音声3

CA	音声	文脈	力動出来事語のカテゴリ	
1:4 (16)	あー	飲んだジュースがこぼれて	経路・垂直的経路	
	あ	ジュースがこぼれて、こぼれた自分の手を見ながら	経路・垂直的経路	
	おー	倒れかけて	経路・垂直的経路	
	ねんね	Mo.に手を伸ばしながら	経路・垂直的経路	
	あ、あ、あ、あ	Mo.に手を伸ばしながら	経路・垂直的経路	
	うー	ミニフードの入れ物の中を覗くころびながら探って	経路・直示的経路	
	てん	Mo.がくこれ？>とミニフードのレモンを手渡すとレモンを受け取ろうとして	経路・直示的経路	
	うん	ミニフードのレモンを受け取って	経路・直示的経路	
	あーてー	ミニフードのレモンをMo.に差し出しながら	経路・直示的経路	
	あい	ミニフードのパンをMo.に差し出しながら	経路・直示的経路	
	てい	ミニフードの梨をMo.に差し出しながら	経路・直示的経路	
	あ、これちゅかう	入れ子を見た後、取ろうとして	経路・直示的経路	
	どぞ	入れ子をひとつMo.に渡しながら	経路・直示的経路	
	ジュース	Mo.がミニフードのジュースを置くとジュースを指さしながら要求して	経路・直示的経路	
	ジュースごくごく	ミニフードのジュースをMo.から受け取って飲むふりをしながら	経路・直示的経路	
	ジュース	ミニフードのジュースをMo.に手渡しながら	経路・直示的経路	
	ジュース	Mo.に何それくジュース？>といわれてMo.の方を指さしながら	経路・直示的経路	
	ジュース	本物のジュースの入ったコップを指しながら	経路・直示的経路	
	あーうー	本物のジュースの入ったコップを指しながら	経路・直示的経路	
	あ	赤ちゃんの人形を指さしながら	経路・直示的経路	
	わ、あ	外を指さしながら	経路・直示的経路	
	あー	台所の方を手で指す	経路・直示的経路	
	ママ	リモコンがほしくて手を伸ばしながら	経路・直示的経路	
	ママ	リモコンがほしくて手を伸ばしながら	一移動出来事・反転 経路・直示的経路	
	あー	ミニフードの入れ物の中を覗くころびながら探っていてうまく手が入らなくて	図と地・包含	
	ほほほ	ミニフードのレモンといちごを叩き合わせながら	図と地・付着	
	ジュース	本物のジュースの入ったコップを指して	移動出来事・反復 一経路・直示的経路	
	あーわー	ジュースがほしくて手でさしながら	移動出来事・反復 一経路・直示的経路	
	いー	ジュースがほしくて手でさしながら	移動出来事・反復 一経路・直示的経路	
	や	Mo.にくすぐられて	移動出来事・否定(反転)	
	あー	Mo.にくすぐられて	移動出来事・否定(反転)	
	1:5 (13)	ああー	ミニフードの入れ物が倒れて	経路・垂直的経路
		あー	玩具のカードを床に落として	経路・垂直的経路
		あ	Mo.の口にミニフードのみかんを持っていきながら	経路・直示的経路
		あっあっ	遠方を指さしながら	経路・直示的経路
		あっあっ	おやつの方に手を伸ばしながら取ってほしくて	経路・直示的経路
		あっ	おやつが取れなくてMo.の方を見ながら	経路・直示的経路
		これ	ミニフードのカレールウをMo.に手渡しながら	経路・直示的経路
		これ	カレールウをMo.に手渡しながら	経路・直示的経路
		あーあ	ミニフードのホットドッグを食べるふりをしながら	経路・直示的経路
		でたー	ミニフードのカレールウを食べるふりをしながら	経路・直示的経路
		んーん、んーん、んーん	おやつを食べながらMo.の方を見てうなずきながら	経路・直示的経路
わーわ		びっくり箱を指さしながら	経路・直示的経路	
ん		びっくり箱のオルゴールを部分回した後、Mo.の方に押しのけながら	経路・直示的経路	
あ		ミニフードの入れ物の蓋をかぶせて中を横から覗き込みながら	図と地・包含	
え		ミニフードの入れ物の蓋を叩きながらMo.の方を見て	図と地・包含	
開け		ミニフードの入れ物の蓋を叩きながらMo.の方を見て	図と地・包含	
え、えー		ミニフードの蓋を開めようとしてMo.の方を見ながら	図と地・包含	
んんん		ミニフードの蓋を開めようとしてMo.の方を見ながら、閉めてほしくて	図と地・包含	
開いたー		ミニフードの入れ物の蓋を開けてMo.の方を見ながら嬉しそうに	図と地・包含	
でったー		ミニフードの入れ物の蓋を取って	図と地・包含	
あ		ミニフードの入れ物の蓋を開めて	図と地・包含	
あ		びっくり箱のオルゴール部分に手を伸ばしながら	図と地・包含	
あ		ミニフードの入れ物の蓋を外して	図と地・包含 一図と地・付着	
あー		ミニフードの入れ物の蓋をかぶせて	図と地・包含 一図と地・付着	
ん、でったー		ミニフードの入れ物の蓋がとれて	図と地・包含 一図と地・付着	
あー		ミニフードの入れ物の蓋が外れて	図と地・付着 一図と地・包含	
あー		食べていたおやつのパワーを床に落としてそれを探しながら	移動出来事・閉塞	
これ		食べていたおやつのパワーを床に落としてそれを探しながら	移動出来事・閉塞	
ばいばい		びっくり箱に手を振りながら	移動出来事・閉塞	
あっあっ		Mo.に向かってびっくり箱を回したくて	移動出来事・反復	
あ、が		びっくり箱が開かなくて、蓋を叩きながら	移動出来事・反復 一図と地・包含	
あっあっ		びっくり箱をMo.に渡しながら(見えない所に置いてほしくて)	移動出来事・否定(反転) 一経路・直示的経路	

資料4 D児の力動出来事的情況における音声4

CA	音声	文脈	力動出来事語のカテゴリ	
1:6(11)	ゴー	両手をあげたまま立ち上がりながら	経路・垂直的経路	
	はい	女の子の人形をMo.に差し出す	経路・直示的経路	
	はい	玩具のカードをMo.に渡しながら	経路・直示的経路	
	はい	玩具の財布をMo.に渡しながら	経路・直示的経路	
	あい	Mo.の手から犬のぬいぐるみを取って	経路・直示的経路	
	ん、ん	布をMo.に渡しながら	経路・直示的経路	
	あ、	おやつをMo.に渡しながら	経路・直示的経路	
	あ、あ、	Mo.が持っているミニフードのチキンを取りたくて手を伸ばしながら	経路・直示的経路	
	あ、あ、	Mo.が持っているミニフードのチキンを取りたくて手を伸ばしながら	経路・直示的経路	
	あん	ミニフードのチキンを食べるふりしながら	経路・直示的経路	
	あ	ミニフードの魚をMo.に渡す	経路・直示的経路	
	はい	リモコンを観察者に渡す	経路・直示的経路	
	いえーい	玩具の包丁でミニフードの魚を切ることができてくやったー>というMo.とハイタッチして	経路・目的終了	
	できたー	半分になるミニフードの魚を玩具の包丁で切ることができて	経路・目的終了	
	いえーい	玩具のサングラスが開いた後、Mo.の方を見て手を出して、ハイタッチして	一図と地・付着	
	ん、ん	ミニフードの入れ物の蓋を叩きながらMo.の方を見て	一図と地・付き	
	ん、ん	ミニフードの入れ物を持ち上げながら	一図と地・付き	
	ん、ん、ん	く持ってきて>といわれて、ミニフードの入れ物の蓋を叩く	一図と地・付き	
	ん、ん、ん	玩具のツールボックスを振りながらMo.に差し出して開けてほしくて	一図と地・付き	
	ん	玩具のツールボックスをMo.に渡しながら(開けてもらおうとする)	一図と地・付き	
	でっー	玩具のサングラスが開いて	一経路・直示的経路	
	わー	頭からお面をとってMo.の頭にさせようとする	一図と地・付着	
	ん、ん	赤ちゃんの人形のとれた帽子をかぶせてほしくてMo.の方に人形を持って行きながら	一図と地・付着	
	あ	半分にしたミニフードの魚をくっ付けて	一図と地・付着	
	たいたいーい	ミニフードの魚を切ろうとしながら	一図と地・付着	
	ブシー	玩具の包丁を振りおろしながら	一図と地・付着	
	ブシー	玩具の包丁を振りおろしながら	一図と地・付着	
	わー	壁に掛けてある布の後ろから犬の絵が見えて	一経路・垂直的経路	
	嫌や	くつけてみたら?>といわれて首を振りながら	移動出来事・閉塞	
	やや	Mo.にくちやんの足どこ?>と人形を出しながら聞かれて首を振りながら人形をどかさうとする	移動出来事・否定(反転)	
	え、え	Mo.にくちやん向いて>体を反転させようとして嫌がって	移動出来事・否定(反転)	
	や	Mo.にくちやん向いて押しつけながら	移動出来事・否定(反転)	
	1:6(25)	ねんね	毛布を指さしながら	経路・垂直的経路
		ええー	毛布をMo.から取るうとして	経路・直示的経路
		う、う	びっくり箱のぬいぐるみを持ってほしくてMo.の方にびっくり箱を押す	一図と地・付き
		わー	ジュースを飲むとMo.の方を見ながら	移動出来事・閉塞
		て	ジュースがなくなったことをMo.に知らせる	移動出来事・閉塞
		て	ジュースがなくなったことをMo.に知らせる	移動出来事・閉塞
		ん、ん	Mo.の顔を見ながら(びっくり箱をしてほしくて)	移動出来事・反復
		ん	びっくり箱を持ってMo.に向けながら顔を見る	移動出来事・反復
だい		ジュースがなくなりMo.に向けながらまだほしいことを要求	移動出来事・反復	
ジュース		ジュースがもっとほしいことを要求	移動出来事・反復	
ジュース		ジュースがもっとほしいことを要求	移動出来事・反復	
ジュース		<飲んだでしょ?>と言われ、もっとほしいことを要求	移動出来事・反復	
ジュース		<飲んだでしょ?>と言われ、もっとほしいことを要求	移動出来事・反復	
え		コップを指さしてジュースがほしいことを知らせる	移動出来事・反復	
ジュース		ジュースがほしいことをMo.に知らせる	移動出来事・反復	
え		ジュースがもっとほしいことを知らせる	移動出来事・反復	
え		ジュースがもっとほしいことを知らせる	移動出来事・反復	
え		びっくり箱を押しながらMo.の方を見て	移動出来事・反復	
あ		びっくり箱を押しながらMo.の方を見て	一経路・直示的経路	
え		びっくり箱を押しながらMo.の方を見て	移動出来事・反復	
え		びっくり箱を持ってMo.の方に持って行き顔を見ながら	一経路・直示的経路	
ん		びっくり箱を持ってMo.の方に持って行き顔を見ながら	移動出来事・反復	
ん		びっくり箱を持ってMo.の方に持って行き顔を見ながら	一経路・直示的経路	
え		びっくり箱を指さしながら	移動出来事・反復	
え		びっくり箱を指さしながら	一経路・直示的経路	
え		びっくり箱をMo.に手渡ししながら	移動出来事・反復	
え		びっくり箱をMo.に手渡ししながら	一経路・直示的経路	
あ		びっくり箱を叩きながら	移動出来事・反復	
			一図と地・付き	

資料8 E児の力動出来事的情況における音声2

CA	音声	文脈	力動出来事語のカテゴリ	
1:4 (4)	ジャー	入れ子の中に入れたミニフードのたまごを落としながら	経路・垂直的経路	
	だ	床に落ちた玩具のポットの蓋を取って	経路・垂直的経路	
	て	ミニフードのみかんを玩具のカップに入れたものを振っていきみかんが落ちて	経路・垂直的経路	
	てー	ミニフードのみかんを玩具のカップに入れたものを振っていきみかんが落ちて	経路・垂直的経路	
	ちゃー	持っていたミニフードのみかんが転がって	経路・垂直的経路	
	あっあっ	Mo.の膝に座ろうとして	経路・垂直的経路	
	ママ	Mo.の膝に座ろうとして	経路・垂直的経路	
	んーんーんー	Mo.の膝に座ろうとし立ち上がりながら	経路・垂直的経路	
	あて	こけて	経路・垂直的経路	
	はい	手に持っていたミニフードのレモンを落としたまごを取ろうとして	経路・直示的経路	
	あ、あ	ミニフードの牛乳パックを見つけて取ろうとして	経路・直示的経路	
	だ	ミニフードの牛乳パックを投げながら	経路・直示的経路	
	あ	玩具のポットを手に取ろうとしながら	経路・直示的経路	
	どうぞ	Mo.が「どうぞ」と玩具のカップをE児に渡すと飲むふりをしながら	経路・直示的経路	
	ちー	転がっていったミニフードのいちごを指さしてMo.の方を振り向きながら	経路・直示的経路	
	んーんー	玩具入れのバケツからトラックを取ろうとして	経路・直示的経路	
	んーんーんー、んー	パズルのピースを取ろうとしながら	経路・直示的経路	
	んーまん	玩具入れのバケツから出ようとしてMo.に手を伸ばしながら	図と地・包含	
	あー	玩具入れのバケツの中から出ようとして	図と地・包含	
	だ	玩具のポットに蓋がはまって取れなくて	図と地・包含	
	た	玩具のポットの蓋がポットから取れなくて取ろうとしながら	一図と地・付着	
	だ	ミニフードの梨に玩具のスプーンを刺そうとしながら	図と地・付着	
	だー	ミニフードの梨に玩具のスプーンを刺そうとしながら	図と地・付着	
	ん	玩具のツールボックスを叩きながら	図と地・付着	
	ちゅ	玩具のベンチを持って先を閉じながら	図と地・付着	
	ちゅーちゅー	玩具のベンチを持って先を閉じながら	図と地・付着	
	ととた	自分の足の裏を玩具の金槌で叩いて	図と地・付着	
	タタ、タタタタタ	玩具の金槌で足を叩きながら	図と地・付着	
	ばー	パズルのピースを取って	図と地・付着	
	ばー	パズルをはめようとしながら	図と地・付着	
	ばー	パズルのピースを取りながら	図と地・付着	
	あー	Mo.が真似してE児の足を玩具の金槌で叩くと手で払いのけながら	移動出来事・否定 (反転)	
	1:4 (19)	ちーた	玩具のポットの上にミニフードのみかんをのせ、食べるふりをしているとみかんが落ちて	経路・垂直的経路
		やー	ミニフードのたまごが落ちて	経路・垂直的経路
		んー	落ちた赤ちゃんの人形を取りながら	経路・垂直的経路
		ばっ	Mo.が入れ子のカップの中に玩具を入れカタカタ音を鳴らしていると、腕を振り上げながら	経路・垂直的経路
		よいしょ	立ち上がりながら	経路・垂直的経路
		よしよし	パズルを持ったままMo.の膝の上に座ろうとして	経路・垂直的経路
		ママ	Mo.の膝に座ろうとしながら	経路・垂直的経路
		よし	立ち上がって	経路・垂直的経路
		たー	Mo.の膝から落ちて (Mo.が足を開いてE児が足の間から落ちる遊び)	経路・垂直的経路
		あー	Mo.の膝から落ちて (Mo.が足を開いてE児が足の間から落ちる遊び)	経路・垂直的経路
		ママ	Mo.の膝の方に向かって	経路・垂直的経路
		ち	Mo.の足を滑り台にして滑るときに	経路・垂直的経路
		だー	玩具のツールボックスを倒しながら	経路・垂直的経路
しーしーしーしー		ミニフードの入れ物に手を伸ばしながら	経路・直示的経路	
とー		玩具のベンチを取ろうと手を伸ばして	経路・直示的経路	
と、と		Mo.の膝の上に座ったまま玩具のツールボックスを取ろうとして	経路・直示的経路	
ほしーほしーほしー		玩具のツールボックスの方に身を乗り出しながら	経路・直示的経路	
ほしー		玩具のツールボックスの方に身を乗り出しながら	経路・直示的経路	
ん、ん		Mo.にパズルを渡そうとして	経路・直示的経路	
ばばば		Mo.が持っている入れ子のカップに手を伸ばしながら	経路・直示的経路	
うー		Mo.が持っている入れ子のカップに手を伸ばしながら	経路・直示的経路	
ほしーしー		ミニフードの入れ物の蓋を開けようとしながら	図と地・包含	
よし		びっくり箱の蓋を開けて	図と地・包含	
たーた		玩具のツールボックスを開けてほしくてMo.の方に振り向きながら	図と地・包含	
あーたー		玩具のツールボックスを開けてもらおうとMo.の方を振り向きながら	図と地・包含	
しー		玩具のツールボックスを開けて	図と地・包含	
と、と		玩具のツールボックスを開けようとしながら	図と地・包含	
とー		玩具のツールボックスを開けようとしながら	図と地・包含	
だ		倒した玩具のツールボックスを揺らしながら	図と地・包含	
あった		ミニフードの入れ物の中からミニフードのオレンジを取り出して	図と地・包含	
だー		玩具のツールボックスの中身を取りながら	一経路・直示的経路	
だーだ		玩具のツールボックスの中身を取りながら	図と地・包含	
だーだ		玩具のツールボックスから玩具のベンチを取り出して	一経路・直示的経路	
だーだ		玩具のツールボックスから玩具のベンチを取り出して	図と地・包含	
とーあー		玩具入れのバケツの中から入れ子を取ろうとして	図と地・付着	
た		パズルのピースをパズルの上に当てて	図と地・付着	
トン、トン		犬のパズルのピースを玩具のツールボックスに打ちつけながら	図と地・付着	
ばー		ツールボックスの上にのせていたパズルを取り払って	図と地・付着	
とと		玩具のベンチを開こうとしながら	図と地・付着	
ちち		玩具のベンチを開こうとしながら	図と地・付着	
べべべ		Mo.の手に玩具のベンチをあてながら	図と地・付着	
ば		Mo.の膝の上に座っていて落ちることを予想して	移動出来事・閉塞	
			一経路・直示的経路	

資料9 E児の力動出来事状況における音声3

CA	音声	文脈	力動出来事語のカテゴリ	
1:5 (3)	ほしーほしー	Moが玩具のお皿にミニフードを入れているのを見て	経路・直示的経路	
	しーしー	ミニフードのフインナーを取ろうとしながら	経路・直示的経路	
	あん	ミニフードのしモンを食べるふりをしながら	経路・直示的経路	
	ママ	Moが自分の方に来るのを予想して	経路・直示的経路	
	あ	玩具のポットの中にミニフードのみかんが入って取れなくなって、取ってほしくてMoに渡しながら	図と地・包含	
	あっあっ	玩具のポットの中のミニフードのみかんを取ろうとしながら	図と地・包含	
	あっあーあーあー	玩具のポットの中のミニフードのみかんを取ろうとしながら	図と地・包含	
	ばー	玩具入れのパケツから玩具のポットを取ろうとしながら	図と地・包含 一経路・直示的経路	
	これ	玩具のベンチを開こうとしながら	図と地・付着	
	ちょ	玩具のベンチを開こうとしながら	図と地・付着	
	ん	びっくり箱をしてみらおうとMoの方に持って行きながら	移動出来事・反復	
	1:5 (23)	うー	Moに抱っこしてもらおうと走って行って	経路・垂直的経路
		お、おー	Moに抱き付きながら	経路・垂直的経路
		あっあー	ミニフードの入れ物をMoに渡そうとしながら	経路・直示的経路
		あ、あ、	Moが持っているミニフードの蓋を取ろうと手を伸ばしながら	経路・直示的経路
		ばー	部屋の外から音が聞こえてドアの方を指さしながらMoの方を振り返る	経路・直示的経路
		あああー	ドアの方を指さしながら	経路・直示的経路
		んー	ドアの方を指さしながら	経路・直示的経路
		え、え、え	パズルをMoに渡そうとしながら	経路・直示的経路
		あー	Moからパズルを取って	経路・直示的経路
		あ、あ、	Moが持っているマスクを取ろうとしながら	経路・直示的経路
		プーン (虫の意味)	びっくり箱のぬいぐるみをしまおうとしながら	図と地・包含
		ばー	ミニカーのトラックを取り出して	図と地・包含
ママ		ミニフードの入れ物の蓋を閉めようとしながらMoの方を見て	図と地・包含	
ん		ミニフードの入れ物を開けてもらおうとMoに渡そうとしながら	図と地・包含 一経路・直示的経路	
ママ		ミニフードの入れ物を開けてもらおうとMoに渡そうとしながら	図と地・包含 一経路・直示的経路	
わー		ミニフードのドーナツの穴に指が入りMoにそれを見せながら	図と地・付着	
ん		玩具のサングラスをとりMoに渡しながら	図と地・付着 一経路・直示的経路	
あ		Moに玩具のサングラスを渡そうとし、つけてもらおうとする	図と地・付着 一経路・直示的経路	
びよ		ぬいぐるみをびっくり箱へ押しつけて飛び出させて	移動出来事・閉塞	
んー、んー		びっくり箱をMoの方に渡してオルゴール部分を回してもらおうとして	移動出来事・反復	
ぶーん		びっくり箱を開けてもらおうと、びっくり箱を持ちながらMoの顔を見て	移動出来事・反復	
ああああああああ		Moにびっくり箱をしてみらおうとMoの方に持って行きながら	移動出来事・反復 一経路・直示的経路	
これ		Moにびっくり箱をしてみらおうとMoの方に持って行きながら	移動出来事・反復 一経路・直示的経路	
1:6 (7)	たっち	立ち上がるようとしながら	経路・垂直的経路	
	おっと	こけかけて	経路・垂直的経路	
	だ	天井を見上げながら何かを見つけて	経路・垂直的経路	
	ママ	Moに抱き付きながら	経路・垂直的経路	
	ちー	玩具の財布をひっくり返して中のコインを落とす	経路・垂直的経路	
	ちゅー	玩具の財布からコインを落として	図と地・包含 経路・垂直的経路	
	ち	玩具の財布からコインを落として	図と地・包含 経路・垂直的経路	
	ちゅ	玩具の財布からコインを落として	図と地・包含 経路・垂直的経路	
	ちゅーち	玩具の財布からコインを落として	図と地・包含 経路・垂直的経路	
	はっ	ミニフードのみかんを食べるふりをしながら	経路・直示的経路	
	ばー	玩具のお札を投げながら	経路・直示的経路	
	あ、あ	Moが持っている玩具のコインがほしくて手を伸ばしながら	経路・直示的経路	
	あ	Moが持っている玩具のコインがほしくてMoの手から取ろうとしながら	経路・直示的経路	
	ちようち	Moが持っている玩具のコインがほしくて取ろうとするとちようだいて言わな>と書かれて	経路・直示的経路	
	あつた	パズルを取ろうとしながら	経路・直示的経路	
	ママ	パズルをMoに渡しながら	経路・直示的経路	
	うん	玩具の携帯電話をMoに渡しながら	経路・直示的経路	
	ババ	ドアの方を指しながら	経路・直示的経路	
	たー	ドアの方を指さしながら観察者にFaがいることを教える	経路・直示的経路	
	ババ	ドアの方を指さしながら観察者にFaがいることを教える	経路・直示的経路	
	マ、マ、ママ	Moの方に駆け寄りながら	経路・直示的経路	
	ママ	Moの方に近づいて	経路・直示的経路	
	ババ	Moに向かって	経路・直示的経路	
ババ	ドアの方を指さしてMoにFaがいることを教える	経路・直示的経路		
よし	玩具の財布に玩具のコインを入れて	経路・目的終了 図と地・包含		
ママ	Moの膝に座ってミニフードの入れ物を開けてもらおうと蓋を叩きながら	図と地・包含		
え、え	玩具の財布を開けてほしくてMoの方に出しながら	図と地・包含		
え、えー、え	玩具の財布を開けてほしくてMoの方に出しながら	図と地・包含		
開けて	びっくり箱のオルゴール部分をまわしてほしくて<開けては?>と書かれて	図と地・包含		
開けて	玩具の財布の中に玩具のコインを入れながら	図と地・包含		
開けて	玩具の財布を開けてほしくてMoの方に差し出すと<開けてだったが>と書かれて	図と地・包含		
開けて	玩具のコインを拾って玩具の財布に入れながら	図と地・包含 一経路・垂直的経路		
トントン	玩具の金輪で頭を叩きながら	図と地・付着		
あげ	MoがE児に玩具のサングラスをつけようとするのを取り上げながら	図と地・付着		
あーあーあ	落ちた玩具のサングラスを拾いながら、犬のぬいぐるみからはずれたサングラスをつけたくて	図と地・付着 一経路・垂直的経路		
え	Moに玩具のサングラスを渡しながら	図と地・付着 一経路・直示的経路		
はい	Moに玩具のサングラスを渡しながら	図と地・付着 一経路・直示的経路		
えー	玩具のサングラスをつけてもらおうとMoに渡しながら	図と地・付着 一経路・直示的経路		
あー	玩具のサングラスをつけてもらおうとMoに渡しながら	図と地・付着 一経路・直示的経路		
ん	玩具のサングラスをMoに渡しながら	図と地・付着 一経路・直示的経路		
ワンワン	犬のぬいぐるみと玩具のサングラスをMoに渡して犬のぬいぐるみにサングラスをつけてもらおうとする	図と地・付着 一経路・直示的経路		
んー	びっくり箱のオルゴール部分を回してほしくて	移動出来事・反復		
ん、ん	びっくり箱のオルゴール部分を回してほしくて	移動出来事・反復		
えー	びっくり箱のオルゴール部分を回してほしくて	移動出来事・反復		
開けて	玩具のツールボックスをMoの方に出し、開けようとしながら	移動出来事・反復 図と地・包含		
開けて	玩具のツールボックスの蓋を開けようとしながら	移動出来事・反復 図と地・包含		

資料10 E児の力動出来事的状況における音声4

CA	音声	文脈	力動出来事語のカテゴリ
1: 6 (20)	あ	ドアの方を手で指してMo.の顔を見て	経路・直示的経路
	あっち	ドアの方を手で指しながら	経路・直示的経路
	ん	ドアの方を指さしながら	経路・直示的経路
	ん、あっち	ドアの方を指さしながら	経路・直示的経路
	うん	<どうぞ>とミニフードのクッキーの箱を渡されると受け取りながら	経路・直示的経路
	んー	ミニフードの入れ物を開けてほしくて蓋を持ちながら	図と地・包含
	開けて	玩具のツールボックスを開けてほしくてMo.に向かって	図と地・包含
	開けて	玩具のツールボックスを閉めた後に開けようとして	図と地・包含
	開けて	ミニフードのポテトの箱を開けてほしいときに<開けてだったが>と言われて	図と地・包含
	あけてい	Mo.にミニフードのクッキーの箱を開けてほしくて渡すと<なんていうの?>と言われて	図と地・包含 一経路・直示的経路
	開けて	Mo.にミニフードのクッキーの箱を開けてほしくて渡して	図と地・包含 一経路・直示的経路
	開けて	玩具のツールボックスを自分の方に引き寄せながら	図と地・包含 一経路・直示的経路
	開けて	Mo.が玩具のツールボックスを持っていると中の玩具を取ろうとしながら	図と地・包含 一経路・直示的経路
	いたーいいたーい	半分になるミニフードの魚を半分にして	図と地・付着
コンコンコン	玩具の金槌で足を叩きながら	図と地・付着	
コンコンコン	玩具の金槌で足を叩きながら	図と地・付着	
こー	びっくり箱をしようとしながら叩いて	移動出来事・反復 一図と地・付着	
1: 7 (18)	ママ	Mo.に抱っこされようとしながら	経路・垂直的経路
	あー	ミニフードの入れ物を取りながら	経路・直示的経路
	ワンワン	玩具入れのバケツの方を指さして	経路・直示的経路
	ワンワン	玩具入れのバケツに手を伸ばしながら	経路・直示的経路
	ココ (犬のぬいぐるみ)	玩具入れのバケツの方を指さしながら犬のぬいぐるみを探す	経路・直示的経路
	ぶぶー	ミニカーをMo.の膝の上で走らせながら	経路・直示的経路
	あー	Mo.に洗濯ばさみを渡しながら	経路・直示的経路
	あっち	部屋の外に行きたくてMo.に抱き付きながら	経路・直示的経路
	あ	びっくり箱の蓋を閉めようとしながら	図と地・包含
	たい	玩具の財布が開かなくてMo.の顔を見ながら	図と地・包含
	あー	ミニカーのトラックのドアが開かなくて	図と地・包含
	開け	ミニカーのトラックのドアを開けてほしくてMo.に<開けてだったが>と言われて	図と地・包含
	開けて	ミニカーのトラックのドアを開けてほしくてMo.に<開けてって言わな>と言われ	図と地・包含
	開けて開けて	玩具のツールボックスを膝に乗せながら開けようとしながら	図と地・包含
	んーんー	玩具のツールボックスが開かなくて	図と地・包含
	あー	ミニカーのトラックのドアを開け閉めして遊んでいたが、開けられなくてMo.に	図と地・包含
	ん	開けてもらおうとMo.の方に持って行きながら	一経路・直示的経路
	ん	ミニカーのトラックのドアを開けてほしくてMo.の方に持って行きながら	図と地・包含 一経路・直示的経路
	開け	ミニカーのトラックをMo.に渡し、Mo.の膝に顔をうずめながら	図と地・包含 一経路・直示的経路
	てて	手がびっくり箱に挟まって	図と地・付着
	痛いーい	びっくり箱の蓋を閉めようとして (閉めようとするぬいぐるみが蓋に挟まるため)	図と地・付着
	うん	Mo.に玩具のサングラスを渡した後、付けてもらおうと顔をMo.の方に近づけながら	図と地・付着
	んー、んー	玩具のサングラスをつけてほしくてMo.に渡しながら	図と地・付着 一経路・直示的経路
	ん	玩具のサングラスをつけてもらおうとMo.にサングラスを渡しながら	図と地・付着 一経路・直示的経路
	うん	玩具のサングラスをつけてもらおうとMo.にサングラスを渡して	図と地・付着 一経路・直示的経路
	あー	絵本を読んでもらっているときにはずれた本のカバーの方を両手で指しながら	図と地・付着 一経路・直示的経路
	開けて	Mo.に知らせる	図と地・付着 一経路・直示的経路
	ばいばーい	Mo.がびっくり箱の蓋を<ばいばーい>と閉めようとする、ぬいぐるみに手を振りながら	移動出来事・閉塞
	ばー	びっくり箱のオルゴール部分を回しながら飛び出てくるのを予想して	移動出来事・閉塞
	うわー	なかなかびっくり箱が開かなくて、待たなくて蓋を叩きながら	移動出来事・閉塞 一図と地・包含
んー	びっくり箱には早く開いてほしくて蓋を触りながら	移動出来事・閉塞 一図と地・包含	
1: 8 (1)	こ (抱っこ) の意味	Mo.に抱き付きながら抱っこしてもらいたくて	経路・垂直的経路
	抱っこ	Mo.に抱き付きながら抱っこしてもらいたくて	経路・垂直的経路
	ち	別の部屋に行きたくてドアを指しながら	経路・直示的経路
	あっち	別の部屋に行きたくてドアを指しながら	経路・直示的経路
	あっち	Mo.に抱き付きながらあっちに行きたいという	経路・直示的経路
	よし	トラックに犬のぬいぐるみを乗せながら	経路・目的終了
	んーん	玩具の財布を開けてほしくてMo.の方に財布を持ち上げながら (Mo.の膝に座っている)	図と地・包含
	ういー	ミニフードの蓋を持って閉めようとして動かしながら	図と地・包含
	はい	ミニフードのポテトを持ってミニフードの入れ物に入れようとしながら	図と地・包含
	たー	玩具のコインが床に落ちていって探しながら	移動出来事・閉塞
	あった	玩具のコインが床に落ちていって探しながら	移動出来事・閉塞
あー	Mo.ミニフードの蓋を閉めようとしていると手を払いのけながら	移動出来事・否定 (反転)	

資料11 E児の力動出来事的状況における音声5

CA	音声	文脈	力動出来事語のカテゴリ
1: 8 (14)	バンバン	ミニフードのたまごを拾ってきてMo.の膝の上に座ろうとしながら	経路・垂直的経路
	た	ミニフードのたまごが転げ落ちて	経路・垂直的経路
	ジャン	玩具のコインを叩き落とすしながら	経路・垂直的経路
	う、バン	玩具のコインを持って上に投げながら	経路・垂直的経路
	ポイ	玩具のコインを持って上に投げながら	経路・垂直的経路
	ち	虫が上を飛んでいて手を伸ばしながら	経路・垂直的経路
	抱っこ	Mo.の方に歩いて行って抱き付きながら	経路・垂直的経路
	あっち	天井に虫がいて取ろうと指を指しながら	経路・垂直的経路
	あ	天井に虫がいて取ろうと指を指しながら	経路・垂直的経路
	ブーン (虫の意味)	虫がいた天井を指さして	経路・垂直的経路
	たいたいは	ミニフードの入れ物からミニフードの魚を取ろうとしながら	経路・直示的経路
	たいたい	ミニフードの入れ物からミニフードの魚を取った後に	経路・直示的経路
	ちゃ	Mo.の膝に座った状態でミニフードの入れ物に手を伸ばしながら	経路・直示的経路
	バンは	Mo.の膝の上から起き上がろうとしながらミニフードのみかんを探して	経路・直示的経路
	バンは	床の上を見てミニフードのみかんを探しながら	経路・直示的経路
	バン	Mo.がミニフードのたまごを飛ばすと嬉しそうに取りに行こうとしながら	経路・直示的経路
	バン、バンバン	ミニフードのたまごを拾ってきてMo.に見せながらMo.のところに戻る	経路・直示的経路
	ない	Mo.がくあれ?ないな>と一緒にミニフードのたまごを探しながら	経路・直示的経路
	あれ	ミニフードのたまごを探しながら	経路・直示的経路
	バンは	玩具のペンチを玩具のツールボックスに叩きつけながらミニフードのたまごを探して	経路・直示的経路
	バン	玩具のペンチを振りながらミニフードのたまごを探して	経路・直示的経路
	バンは	玩具のペンチを振りながらミニフードのたまごを探して	経路・直示的経路
	バン	ミニフードのたまごを探しながら	経路・直示的経路
	バンは	ミニフードのたまごを持ちながら	経路・直示的経路
	あらー	ミニフードのプレッツェルを食べるふりをしながら	経路・直示的経路
	まん	ミニフードのプレッツェルを食べるふりをしながら	経路・直示的経路
	んーわ	玩具のペンチを拾いながら	経路・直示的経路
	ん	玩具のカードを玩具の財布から取り、Mo.に渡しながら	経路・直示的経路
	うゝー	窓の方を指さしながら	経路・直示的経路
	あっち	立ち上がりながら、部屋の外に出ようとして	経路・直示的経路
	ん、ん、ん	別の部屋に行きたくて、怒りながら	経路・直示的経路
	わー	テーブルの上のかぎ網棒を見つけて取りながら	経路・直示的経路
	ん	Mo.がミニフードのみかんをE児の手から取るど取り返そうとして	経路・直示的経路
			一移動出来事・否定 (反転)
	ば	びっくり箱の蓋を開けようとしながら	図と地・包含
	ばー	びっくり箱の蓋を開けようとしながら	図と地・包含
	お	びっくり箱の蓋を閉めようとしながら	図と地・包含
	た	びっくり箱の蓋を閉めようとしながら	図と地・包含
	じゃー	玩具のツールボックスの蓋を開けようとしながら	図と地・包含
	開けて	玩具のツールボックスの蓋が開かなくて怒っていた後にMo.がく開けて>という	図と地・包含
		とそれを真似しながら中身を取り出して	
	じゃー	玩具のポットから玩具のカップに入れるふりをしながら	図と地・包含
	え	玩具のツールボックスを持ってきて開けてもらおうとMo.に渡しながら	図と地・包含
			一経路・直示的経路
	開けて	玩具のツールボックスを持ってきて開けてもらおうとMo.に渡しながら	図と地・包含
			一経路・直示的経路
	開け	玩具のツールボックスを持ってきて開けてもらおうとMo.に渡しながら	図と地・包含
			一経路・直示的経路
	ん、ん	玩具の財布を開けてほしくてMo.の方に差し出ししながら	図と地・包含
			一経路・直示的経路
	わんわんは	ミニフードの魚でミニフードの入れ物を叩きながら	図と地・付着
	んー	玩具のペンチを使ってミニフードのたまごをわるふりをしながら	図と地・付着
	バ	玩具のペンチでミニフードのたまごをわるふりをしながら	図と地・付着
	ある	玩具のペンチの先を開きながら	図と地・付着
	ちよ	玩具のペンチの先を開きながら	図と地・付着
	た	びっくり箱の蓋を触りながら出てくるのを予想して	移動出来事・閉塞
	ば	押さえていたびっくり箱の蓋をはなして	移動出来事・閉塞
	うわー	びっくり箱が開いて飛び出てきて	移動出来事・閉塞
	ば	びっくり箱をのオルゴール部分を回しながら	移動出来事・閉塞
	わ	手に持っていたミニフードのみかんが転がって	移動出来事・閉塞
			一経路・直示的経路
	あ	持っていたミニフードのみかんが飛んで行って	移動出来事・否定 (反転)
	ん、ん、ん、ん、ん、ん	ミニフードの蓋をひっくり返すのを繰り返しながら	移動出来事・否定 (反転)
	あ	Mo.がびっくり箱のオルゴール部分を回していると自分でしようとてMo.の手を	移動出来事・否定 (反転)
		はらって	

・資料 第5章

資料12 D児の力動出来事状況における音声7

CA	音声	文脈	力動出来事語のカテゴリ
1:9 (II)	あ、あ、あ	カードの上に置いた玩具のコインが落ちてしまって	経路・垂直的経路
	あ、あ、あ	カードの上に置いた玩具のコインが落ちてしまって	経路・垂直的経路
	あ、あー	カードの上にコインを置いたまま立ち上がると玩具のコインが落ちて転がって	経路・垂直的経路
	わー	カードの上に置いた玩具のコインが立ち上がろうとして落ちてしまって	経路・垂直的経路
	あー	カードを持ち上げ玩具のコインを落とす	経路・垂直的経路
	あ、	お皿の上にミニフードのりんごをのせると、のせていたミニフードのいちごが落ちて	経路・垂直的経路
	あ、ぎゅー	袖をまくるうとしてMo.の方に腕を出して	経路・垂直的経路
	あーん	お皿の上にのせたミニフードのいちごを食べるふりをしながら	経路・直示的経路
	あむあむあむあむ	お皿の上にのせたミニフードのいちごを食べるふりをしながら	経路・直示的経路
	んー	ミニフードのバナナを食べるふりをしながら	経路・直示的経路
	んー	ミニフードのドーナツを食べるふりをしながら	経路・直示的経路
	あーん	ミニフードのドーナツをMo.の方に向けて食べるふりをさせようとしながら	経路・直示的経路
	まんまんまん	ミニフードのバナナを食べるふりをしながら	経路・直示的経路
	んー	ミニフードのポップコーンを食べるふりをしながら	経路・直示的経路
	あーむ	ミニフードのぶどうを食べるふり	経路・直示的経路
	あーむ	ミニフードのりんごを食べるふり	経路・直示的経路
	あー、おいちー	玩具の哺乳瓶を飲むふりをして	経路・直示的経路
	プープープープー	玩具のアイロンを動かしながら	経路・直示的経路
	プープーしよ	玩具のアイロンを<プープーじゃないよ>とMo.に言われて、トラックを取り	経路・直示的経路
	プープー	トラックを動かして走らせながら	経路・直示的経路
	プープープー	トラックを動かしながら	経路・直示的経路
	プープー	トラックを動かしながら	経路・直示的経路
	プー	ミニカーを走らせながら	経路・直示的経路
	プープー	ミニカーを走らせながら	経路・直示的経路
	プープー	トラックのミニカーを走らせながら	経路・直示的経路
	ピピピピ	トラックのミニカーを走らせながら	経路・直示的経路
	ピピピピ	トラックのミニカーを走らせながら	経路・直示的経路
	でったー(できた)	カードの上に玩具のコインを置いて喜びながら	経路・目的終了
	でったでった(できた)	カードの上にさらに玩具のコインを置きながら	経路・目的終了
	でったでった(できた)	カードの上にさらに玩具のコインを置きながら	経路・目的終了
	でった(できた)	カードの上にさらに玩具のコインを置きながら	経路・目的終了
	でったでったでった(できた)	カードの上にさらに玩具のコインを置きながら	経路・目的終了
	あー	カードの上に玩具のコインを置き終わって喜んでように	経路・目的終了
	よし	ミニフードのぶどうをお皿の上ののせて	経路・目的終了
	わー	ミニフードのいちごをお皿の上ののせて	経路・目的終了
	あっだー	お皿の上にのせたミニフードのいちごを見ながら	経路・目的終了
	よし	くしでついた後に	経路・目的終了
	よしよし	くしを玩具入れのパケツにしまっ	経路・目的終了
	よし	入れ子に玩具の哺乳瓶からそそぐふりをした後、哺乳瓶を玩具入れのパケツにしまっ	経路・目的終了
	あ、あ、開けて	玩具のお財布を持ってMo.の方に振り向きながら提示する	図と地・包含
	あ、あ	Mo.に玩具のお財布を開けてほしくて振り向きながら提示する	図と地・包含
	開けあー	玩具のお財布を開けてもらおうとしてMo.の方にお財布を持ち上げながら	図と地・包含
	開けー	玩具のお財布を開けてもらおうとしてMo.の方にお財布を持ち上げながら	図と地・包含
	開け、あ、開け	ミニフードの入れ物の方に行き、Mo.の方に持って行きながら開けてもらおうとして	図と地・包含
	開けて	Mo.がミニフードの入れ物を持って開けるのを待ちながら	図と地・包含
	ん、ん	ミニフードの蓋を開けようとしながら	図と地・包含
	よし	玩具のカップに玩具のポットからそそぐふりをした後	図と地・包含—経路・目的終了
	よし	玩具のカップに玩具のポットからそそぐふりをした後	図と地・包含—経路・目的終了
	わー	玩具のコインをカードの上に置くことができ	図と地・付着
	こー	ミニフードのいちごとりんごを打ち合わせながら	図と地・付着
	あー	ミニフードのポップコーンの箱が破れてきてMo.の顔を見ながら	図と地・付着
	あ、あ、あ	お皿に乗せたミニフードのりんごが落ちて、直そうとしながら	図と地・付着
	リンゴリンゴリンゴリンゴリンゴリンゴ	ミニフードのりんごを取ってお皿の上ののせスプーンを持ちながら	図と地・付着
	あー	入れ子を重ねて	図と地・付着
	よし	入れ子のカップを取り、重ねようとしながら	図と地・付着
	これはこれ	入れ子のカップが重ねられなくてMo.に黄色のカップを提示しながら	図と地・付着
	これ	入れ子のカップが重ねられなくてMo.に黄色のカップを提示しながら	図と地・付着
	これ	Mo.に黄色のカップを重ねてもらおうとして渡して	図と地・付着
	これこれこれー	入れ子のカップを重ねてもらおうとしてMo.に黄色のカップを手渡す	図と地・付着
	これ	Mo.に渡したカップを重ねてほしくて重なった入れ子の中を指さしながら指示する	図と地・付着
	これこれこれこれ	Mo.に渡したカップを重ねてほしくて重なった入れ子の中を指さしながら指示する	図と地・付着
	開けてーす	重ねた入れ子からひとつ取り出そうとして	図と地・付着
	開けたーす	重ねた入れ子からひとつ取り出して	図と地・付着
	よし	入れ子を重ねることができて	図と地・付着—経路・目的終了
	やーだ	Mo.がぐん入れて>と玩具のお財布を出すと断って	移動出来事・否定(反転)

資料13 D児の力動出来事状況における音声8

CA	音声	文脈	力動出来事語のカテゴリ
1:10(15)	あ	玩具の茶わんを落として	経路・垂直的経路
	はい	Mo.の膝の上にびっくり箱をのせて	経路・直示的経路
	あい	玩具のスプーンをMo.に渡そうと手を伸ばしながら	経路・直示的経路
	あい、どうぞ	玩具のスプーンをMo.に渡して	経路・直示的経路
	プッー	ミニカーを走らせながら	経路・直示的経路
	プープープープー	玩具のアイロンをかける真似をしながら(車を走らせるように)	経路・直示的経路
	あー	玩具のナイフをMo.に差し出しながら	経路・直示的経路
	プープープー	ミニカーを走らせながら	経路・直示的経路
	プープープー	ミニカーを走らせながら	経路・直示的経路
	あー	玩具の茶わんからミニフォードのたまごを食べるふりをしながら	経路・直示的経路
	あむ	Mo.の方にミニフォードのパナナを差し出しながら(食べるふりをしてもらおうとして)	経路・直示的経路
	あむ	自分でミニフォードのパナナを食べるふりをしながら	経路・直示的経路
	見て	絵本を見ながら	経路・直示的経路
	はい	玩具の財布から玩具のお札をとりMo.に渡ししながら	経路・直示的経路
	えび	玩具の財布から玩具のお札をとりMo.に渡ししながら	経路・直示的経路
	えび	玩具の財布から玩具のお札をとりMo.に渡ししながら	経路・直示的経路
	えびが	玩具の財布から玩具のお札をとりMo.に渡ししながら	経路・直示的経路
	あい	Mo.が持っている玩具のお札をとりながら	経路・直示的経路
	あい	玩具の財布から玩具のお札を取り出してMo.に渡ししながら	経路・直示的経路
	あい	玩具の財布をMo.に渡しながら	経路・直示的経路
	はい	Mo.が持っている玩具の財布をとろうとしながら	経路・直示的経路
	これ	玩具のお札をとりMo.の前にあるツールボックスの上に置きながら	経路・直示的経路
	はい	玩具の財布をMo.に渡しながら	経路・直示的経路
	はい	玩具のお札をMo.に渡しながら	経路・直示的経路
	はい	玩具のお札をMo.に渡しながら	経路・直示的経路
	はいどうぞ	玩具のお札をMo.に渡しながら	経路・直示的経路
	こわが	玩具のお札をMo.に渡しながら	経路・直示的経路
	できた	茶わんの蓋を閉めることができ	経路・目的終了一図と地・包含
	開ける	ミニフォードの入れ物を開けてほしくてMo.の方に持って行きながら	図と地・包含
	開ける	ミニフォードの入れ物を開けてほしくてMo.の方に持って行きながら	図と地・包含
	開ける	<何?>と聞かれて答えて	図と地・包含
	開ける	びっくり箱を触り、開けてもらおうとMo.の膝にのせながら	図と地・包含
	開け	びっくり箱を触り、開けてもらおうとMo.の膝にのせて	図と地・包含
	開け	びっくり箱を少し回した後にMo.の膝にびっくり箱をのせながら	図と地・包含
	これ開ける	玩具の財布を持ってMo.の方に歩いて行きながら	図と地・包含
	開け	玩具の茶わんの蓋を開めようとしながら	図と地・包含
	開け	蓋を閉めた玩具の茶わんが開かなくなってMo.の方に持って行きながら	図と地・包含
	ん、ん、ん	玩具の茶わんの蓋を開けようとしながらMo.の方に歩いて行って	図と地・包含
	ん、ん	玩具の茶わんの蓋を開けようとしながらMo.の方に歩いて行って	図と地・包含
	開け開け	玩具のツールボックスを持ってきてMo.に開けてもらおうとして	図と地・包含
	開ける	玩具のツールボックスを持ってきてMo.に開けてもらおうとして	図と地・包含
	開ける	玩具のツールボックスを開けようとしながら	図と地・包含
	開ける	玩具のお札を財布に入れようとして	図と地・包含
	開けた	玩具の財布からお札を取ろうとしながら	図と地・包含
	開けて	玩具の財布をMo.に渡してお札を入れてもらおうとして	図と地・包含
	開け	玩具の財布を開けてほしくてMo.に向かって	図と地・包含
	開ける	玩具の財布を開けてほしくてMo.に向かって	図と地・包含
	開けて	本を開こうとしながら	図と地・付着
	開ける	本を開こうとして本のカバーが外れてしまっていて付けてほしくてMo.の顔を見ながら	図と地・付着
	持ってー	びっくり箱を回すふりをしながら	図と地・付着
	ちく	ミニフォードのパナナを手に刺しながら	図と地・付着
	トト	金槌を持って打つふりをしながら	図と地・付着
	あー	入れ子のカップを重ねていて、ひとつ飛んで行ってしまっ	移動出来事・閉塞
	あ	玩具のポットの中に落ちてしまった蓋がポットを振っていると出てきて	移動出来事・閉塞
	あ	玩具の茶わんからたまごが落ちてしまっ	移動出来事・閉塞
	あーあ、あ、あ	玩具のポットの蓋がとんで行ってしまっ	移動出来事・閉塞
	あー	玩具のポットの中に落ちてしまった蓋がポットを振っていると出てきて	移動出来事・閉塞
	やだ	Mo.が玩具の財布を渡そうとすると	移動出来事・否定(反転)
	やだ	<入れるの?>とMo.が聞いて玩具の財布をD児から取ろうとすると	移動出来事・否定(反転)

資料14 D児の力動出来事状況における音声9

CA	音声	文脈	力動出来事語のカテゴリ
1:11 (5)	あ、落ちた	玩具のコインが落ちてしまって	経路・垂直的経路
	あ	玩具の財布から玩具のコインが落ちてしまって	経路・垂直的経路
	あー	玩具の財布から玩具のコインが落ちてしまって	経路・垂直的経路
	あー	玩具の財布から玩具のコインが落ちてしまって	経路・垂直的経路
	あ	床に落ちた玩具のコインを拾おうとしながら	経路・垂直的経路
	あ	床に落ちた玩具のコインを拾いながら	経路・垂直的経路
	おーた	玩具のコインが床に落ちて	経路・垂直的経路
	あつた	玩具のコインを拾おうとしながら	経路・垂直的経路
	あー	玩具のコインを拾おうとして別のコインが落ちて	経路・垂直的経路
	あ	玩具のコインが床に落ちて	経路・垂直的経路
	あー	落ちた玩具のコインを拾いながら	経路・垂直的経路
	あー	落ちた玩具のコインを拾いながら	経路・垂直的経路
	あ、落ちたね	玩具の財布から玩具のコインが落ちてしまって	経路・垂直的経路
	あー	お皿の上の玩具のコインが落ちてしまって	経路・垂直的経路
	はいどうぞ	Mo.に向かってミニフードのトウモロコシを差し出しながら	経路・直示的経路
	はい	Mo.に向かってミニフードのトウモロコシを差し出しながら	経路・直示的経路
	はい	ミニフードのトウモロコシをMo.に差し出しながら	経路・直示的経路
	はい	ミニフードのいちごをMo.に差し出して渡そうとしながら	経路・直示的経路
	はい	ミニフードのいちごをMo.に差し出して渡そうとしながら	経路・直示的経路
	はい	Mo.に玩具のコインを差し出しながら	経路・直示的経路
	はい	玩具のお札をMo.に差し出しながら	経路・直示的経路
	開ける	ミニフードの入れ物に手を当てMo.の顔を見て	図と地・包含
	開ける	ミニフードの入れ物に手を当てMo.の顔を見て	図と地・包含
	開ける	玩具のツールボックスの蓋を触ってMo.に向かって	図と地・包含
	開いてる	玩具のツールボックスの蓋を開けながら	図と地・包含
	開ける	ツールボックスの蓋を閉めながら	図と地・包含
	お、しよー	びっくり箱を操作した後Mo.の方に持って行きながら	図と地・包含
	開けてくー	玩具の財布を持って	図と地・包含
	おー	ふすまが開いたのが見えて	図と地・包含
	開けてくー	玩具の財布を持ちながら	図と地・包含
	開けてくれ	玩具の財布の子ヤックの部分をさわりながら	図と地・包含
	開けてく	開いた玩具の財布を見ながら	図と地・包含
	出たおいでー	玩具のコインを財布から見つけて	図と地・包含
	出てくるね	Mo.に向かって	図と地・包含
	出たおいでー	玩具の財布に手を入れて取ろうとして	図と地・包含
	開けてくれ	玩具の財布を触りながら	図と地・包含
	開ける	パズルのピースを持ちながら	図と地・付着
	あー痛かった	たまごを金槌で打って手にあたって	図と地・付着
	コンコンコンコン	玩具の金槌でたまごを叩きながら	図と地・付着
	靴下脱げ	女の子の人形を指さしながら靴下が脱げていることをMo.に伝えて	図と地・付着
	出たおいでー	パズルを触りながら	図と地・付着
	出たおいでー	パズルを触って牛のピースを取りながら	図と地・付着
	お皿です	玩具のコインをのせたお皿を持ちながら歩きながら	図と地・付着
	え	<観察者にも見せてあげて>という聞きながら	図と地・付着
	お皿です	観察者に向かってコインをのせたお皿を持ってきて見せながら	図と地・付着
	もっかい	びっくり箱をMo.の膝の上にのせながら顔を見て	移動出来事・回復
	もっかいして	<もういい?>とMo.が妖怪ウォッチの音楽を止めようとする	移動出来事・回復
	やだ	Mo.がびっくり箱をしているとMo.に向かって	移動出来事・否定(反転)
	やだ	びっくり箱からぬいぐるみが飛び出てくるとびっくりして立ち上がり逃げようとしながら	移動出来事・否定(反転)
	やだ	Mo.がびっくり箱を壊れていると逃げながら	移動出来事・否定(反転)
	やだ	もう一度繰り返して言って	移動出来事・否定(反転)
	やだ	観察者の方に逃げてきて	移動出来事・否定(反転)
	やだ	観察者の方に逃げてきて	移動出来事・否定(反転)
	やだ	観察者の方に逃げてきて	移動出来事・否定(反転)

資料15 D児の力動出来事的状況における音声10

CA	音声	文脈	力動出来事類のカテゴリ
20(3)	わ	ミニフォドの茶わんの蓋が落ちて	経路・垂直的経路
	わ	ミニフォドの茶わんの蓋が落ちて	経路・垂直的経路
	わ	アイロン台が倒れてきて	経路・垂直的経路
	わわわ	アイロン台が倒れてきて	経路・垂直的経路
	わ	玩具のポットの蓋が落ちて	経路・垂直的経路
	わ、びっくりし	玩具のポットの蓋が落ちて	経路・垂直的経路
	わ、びっくりした	玩具のポットの蓋を閉めようとしてポットの中に蓋が落ちてしまって	経路・垂直的経路
	わ、びっくりし	玩具のポットの中にポットの蓋が落ちてしまって	経路・垂直的経路
	わー	玩具のポットの中からポットの蓋が出てきて	経路・垂直的経路
	はい	玩具のポットからミニフォドのたまご蓋が落ちてきて	経路・垂直的経路
	わー	玩具のポットからミニフォドのたまごが出てきて	経路・垂直的経路
	あー	玩具のポットの中からミニフォドのたまごを落としながら	経路・垂直的経路
	わ	玩具の財布をひっくり返し、中から玩具のコインが落ちてきて	経路・垂直的経路
	わ	玩具の財布をひっくり返し、中から玩具のコインが落ちてきて	経路・垂直的経路
	わー	玩具の財布をひっくり返し、中から玩具のコインが落ちてきて	経路・垂直的経路
	わー	空になったミニフォドの入れ物にミニフォドのいちごを入れて自分の顔に向けてひっくり返して、いちごが飛び出てきて	経路・垂直的経路
	する	Moに玩具のポットを渡そうとしながら	経路・指示的経路
	はい	玩具のカップにポットから入れるふりをした後Moにカップを渡して	経路・指示的経路
	はい	玩具のカップへそくふりをした後Moに渡しながら	経路・指示的経路
	ん	ガラガラをMoに渡しながら	経路・指示的経路
	はい	ガラガラをMoに渡しながら	経路・指示的経路
	ん	「見て」と言われて空になったペットボトルをMoに見せながら	経路・指示的経路
	お魚とんでいけー	ミニフォドの魚を右から左に飛ばせるようにして	経路・指示的経路
	あむ	ミニフォドの魚を食べるふりをして	経路・指示的経路
	はい	半分にしたミニフォドの魚の尻尾の方をMoに渡しながら	経路・指示的経路
	はい	渡したミニフォドの魚を返してもらおうと手を伸ばしながら	経路・指示的経路
	あむ	ミニフォドの豆を食べるふりをして	経路・指示的経路
	あい	Moにミニフォドの豆を差し出しながら	経路・指示的経路
	はい	Moにミニフォドの豆を差し出しながら	経路・指示的経路
	はい	渡したミニフォドの豆を返してもらおうと手を伸ばしながら	経路・指示的経路
	はい	玩具のスプーンをMoに差し出しながら	経路・指示的経路
	あむ	玩具のスプーンで食べるふりをしながら	経路・指示的経路
	あむ	ミニフォドのいちごを食べるふりをして	経路・指示的経路
	はい	ミニフォドのいちごをMoに差し出しながら	経路・指示的経路
	はい	ミニフォドのいちごをMoに差し出しながら	経路・指示的経路
	開ける開ける	ミニフォドの入れ物を開けてはしく	図と地・包言
	わ	玩具の茶わんの蓋を取り	図と地・包言
	ないない	ミニフォドの入れ物の蓋を閉めながら	図と地・包言
	わーお	玩具の財布からカードとお札を取ることでできて	図と地・包言
	これする	玩具のポットの蓋をしてはしくMoに渡しながら	図と地・包言
	わ	玩具のポットから蓋が出てきて	図と地・包言
	できた	玩具のポットの蓋を閉めることでできて	図と地・包言
	開ける	玩具のツールボックスを持ってMoの方に持って行きながら	図と地・包言
	開ける	玩具のツールボックスを持ってMoの方に持って行きながら	図と地・包言
	開ける	ガラガラを取り出してMoに渡しながら	図と地・包言
	開ける	Moにガラガラを渡しながら	図と地・包言
	開ける開ける	Moが振っているガラガラに手を伸ばしながら	図と地・包言
	びちゃ	ミニフォドの入れ物の蓋に血を置きながら	図と地・付着
	はい	玩具の財布から取り出したカードとお札を床におきながら	図と地・付着
	わー	ミニフォドの魚を半分にして	図と地・付着
	ぬいぬ	びっくり箱をMoが回しているとき飛び出てくることを予測して	移動出来事・閉塞
	わーお	びっくり箱からぬいぐるみが飛び出てきて両手を振りながら驚いたように	移動出来事・閉塞
	ちようちよ	びっくり箱を見ながら	移動出来事・閉塞
	ちようちよ	びっくり箱を見ながら	移動出来事・閉塞
	わ	びっくり箱をMoが回しているとき予測して	移動出来事・閉塞
	びっくりした	びっくり箱をMoが回しているとき予測して	移動出来事・閉塞
	わ	びっくり箱からぬいぐるみが飛び出てきて	移動出来事・閉塞
	ちようちよ	飛び出てきたびっくり箱のぬいぐるみを指さしながら(はらへこあむむしのぬいぐるみ)	移動出来事・閉塞
	ちようちよ	飛び出てきたびっくり箱のぬいぐるみを指さしながら	移動出来事・閉塞
	あむむし	びっくり箱のぬいぐるみを指さしながらMoに向かって	移動出来事・閉塞
	あむむし	<え?>とMoが聞き返すともう一度びっくり箱のぬいぐるみを指さしながら言う	移動出来事・閉塞
	びっくりした	Moがびっくり箱を回しているとき	移動出来事・閉塞
	出たー	びっくり箱からぬいぐるみが飛び出てきて指さしながら	移動出来事・閉塞
	ちようちよ	びっくり箱のぬいぐるみを指さしながら	移動出来事・閉塞
	あむむし	びっくり箱のぬいぐるみを指さしながら	移動出来事・閉塞
	わ	びっくり箱のぬいぐるみをしまおうとすると飛び出てきて	移動出来事・閉塞
	わ	びっくり箱のぬいぐるみをしまおうとすると飛び出てきて	移動出来事・閉塞
	わー	玩具のポットが転がって行って	移動出来事・閉塞
	やだ	Moにびっくり箱を渡し、逃げて	移動出来事・閉塞
	わ	びっくり箱からぬいぐるみが飛び出てきて	移動出来事・閉塞
	ちようちよ	びっくり箱のぬいぐるみを指しながら	移動出来事・閉塞
	あむむし	<ちようちよ?>とMoが聞き返すと	移動出来事・閉塞
	はい	Moがびっくり箱を閉めるのを見ながら	移動出来事・閉塞
	わー	ミニフォドのたまごが転がって行ってしまっ	移動出来事・閉塞
	ピカピカ	ジュースを全部飲んで	移動出来事・閉塞
	ピカピカ	ジュースを全部飲んだことをMoに伝える	移動出来事・閉塞
	これず	びっくり箱をMoの方に寄せながら	移動出来事・回復
	はい	もう1回びっくり箱をしてはしくびっくり箱の方に行きMoの方に寄せる	移動出来事・回復
	うん	<もう一回?>と聞かれて	移動出来事・回復
	おかわり?	玩具のカップをMoから取るようにしながらMoに聞く	移動出来事・回復
	おかわり	玩具のカップとポットを手に取りながら	移動出来事・回復
	うんこした	Moにうんこをしたことを伝える	移動出来事・回復
	おむつ変えていい	おむつを変えてはしくMoに聞く	移動出来事・回復
	おむつ	おむつを変えてはしくMoに聞く	移動出来事・回復
	おむつあったー	Moがおむつを取り出すと適しように	移動出来事・回復
	おむつ	Moの手からおむつをとって	移動出来事・回復
	このする	おむつを変えてもらおうと選転がることを指さしながらMoに伝える	移動出来事・回復
	変える	おむつを変えるために選転がることをMoに伝える	移動出来事・回復
	変える	おむつを変えるために選転がることをMoに伝える	移動出来事・回復
	変える	おむつを変えるために選転がることをMoに伝える	移動出来事・回復
	うんこした	Moにうんこをしたことを伝える	移動出来事・回復
	やだ	<Dちゃん自分でやてごらん>と言われて	移動出来事・否定(反転)
	やだ	Moがびっくり箱を回しているとき	移動出来事・否定(反転)
	やだ	Moが腕のフードをかぶせようとするとき	移動出来事・否定(反転)
	やだ	Moが腕のフードをかぶせようとするとき	移動出来事・否定(反転)
	やだ	MoがC児の髪を結ぼうとしているとき	移動出来事・否定(反転)
	やだ	Moがびっくり箱を回しているとき	移動出来事・否定(反転)
	やだ	びっくり箱の方を見ながら	移動出来事・否定(反転)

資料16 E児の力動出来事状況における音声6

CA	音声	文脈	力動出来事語のカテゴリ
1:9(0)	あー	ミニフードの魚の半分が落ちて行ってしまっ	経路・垂直的経路
	ワソワソ	くまのぬいぐるみリュックを手に取りながら	経路・垂直的経路
	抱っこ	くまのリュックを抱っこしようとして	経路・垂直的経路
	抱っこ	くまのぬいぐるみリュックを抱っこしようとして	経路・垂直的経路
	ジャー	玩具のポットでカップに入れるふりをしながら	経路・垂直的経路—図と地・包含
	ジャー	玩具のポットで入れるふりをしながら	経路・垂直的経路—図と地・包含
	ん	ミニフードの魚でミニフードを指さしながら	経路・直示的経路
	ママ、ママ	玩具入れのパケツの方を手で指し、Mo.に何かを取ってほしいことを要求する	経路・直示的経路
	ママ、ママ	玩具入れのパケツの方を手で指し、Mo.に何かを取ってほしいことを要求する	経路・直示的経路
	ママ	玩具入れのパケツの方を手で指し、Mo.に何かを取ってほしいことを要求する	経路・直示的経路
	プブ	玩具入れのパケツに手を伸ばしてトラックを取りながら	経路・直示的経路
	ほしー	女の子の人形を取ろうと玩具入れのパケツに手を伸ばしながら	経路・直示的経路
	ほしーほしー	女の子の人形を取ろうと玩具入れのパケツに手を伸ばしながら	経路・直示的経路
	ん、ん	前にある玩具入れのパケツをよけようとしながら	経路・直示的経路
	ちゃーちゃーちゃー	玩具入れの方に手を伸ばし玩具のカップを取ろうとしながら	経路・直示的経路
	ちゃちゃー	Mo.が持っている玩具のポットを取ろうと手を伸ばしながら	経路・直示的経路
	ちゃちゃー	Mo.が持っている玩具のポットを取ろうと手を伸ばしながら	経路・直示的経路
	ちゃちゃー	玩具のポットの蓋をしてほしくて	経路・直示的経路
	ん	Mo.が絵本を読んでいると絵本を手で払いながら(膝の上に座ったまま)	経路・直示的経路
	ジュース	何かを探しながら	経路・直示的経路
	ジュース	何かを探しながら	経路・直示的経路
	ほしい	何かを探しながら	経路・直示的経路
	ほしー	びっくり箱を見つけて取りに行きながら	経路・直示的経路
	ジュース	ミニフードのジュースを取ろうとMo.の膝に座ったまま手を伸ばして	経路・直示的経路
	ジュース	ミニフードのジュースを取ろうとMo.の膝に座ったまま手を伸ばして	経路・直示的経路
	ジュース	玩具の哺乳瓶を手に取って	経路・直示的経路
	ちゃー	くまのリュックの口に玩具の哺乳瓶を近づけて飲ませるふりをして	経路・直示的経路
	開けて	Mo.の膝に座りミニフードのれ物の蓋を持って	図と地・包含
	開けて	玩具の財布を手に取り振りながら	図と地・包含
	開けて	玩具の財布のジッパーを開けようとしながら	図と地・包含
	開ける	こたつの中に入ろうとしながら	図と地・包含
	開けて	ミニフードのジュースをMo.に提示して	図と地・包含
	ん、ん	くまのぬいぐるみのお腹のチャックを開けようとして	図と地・包含
	ジー	くまのぬいぐるみのお腹のチャックを開けながら	図と地・包含
	あー	くまのリュックの中を開いて見ながら	図と地・包含
	あー	くまのリュックの中から何かを取り出そうとしながら	図と地・包含
	ジー	くまのリュックを開けながら	図と地・包含
	ジー	くまのリュックを開けながら	図と地・包含
	ぼん	ミニフードのなすびをリュックから取り出して	図と地・包含
	ジー	くまのリュックのチャックを開めようとしながら	図と地・包含
	ジー	くまのリュックのチャックを開めようとしながら	図と地・包含
	ジー	くまのリュックのチャックを開けながら	図と地・包含
	あ、じー	くまのリュックの中になすびを取り出しながら	図と地・包含
	ジー	くまのリュックのチャックを開めようとしながら	図と地・包含
	ジー	くまのリュックのチャックを開めようとしながら	図と地・包含
	開けてー	玩具の哺乳瓶の蓋を開けようとしながら	図と地・包含
	よ	びっくり箱の蓋を開めながら	図と地・包含
	開けて	びっくり箱を開けてほしくて蓋を触りながら	図と地・包含
	ちようちよ	びっくり箱を開けてほしくて蓋を触りながら	図と地・包含
	ん、ん	赤ちゃんの人形の服を取ろうとしながら	図と地・付着
	ほしー	女の子の人形を持ちながら	図と地・付着
	ほしー	女の子の人形の靴下を取りながら	図と地・付着
	ぼんぼん	くまのぬいぐるみのお腹を叩きながら	図と地・付着
	しー	Mo.がびっくり箱を回しているとき止めて	移動出来事・閉塞
	わ	びっくり箱から飛び出てきたぬいぐるみを見て	移動出来事・閉塞
	ほしー	自分でびっくり箱を回そうとして	移動出来事・閉塞
	あー	びっくり箱が開くことを予想して蓋の方を覗き込みながら	移動出来事・閉塞
	しー	びっくり箱を自分で回そうとして	移動出来事・閉塞
	ほしー	びっくり箱を自分で回そうとして	移動出来事・閉塞
	出た	飛び出てきたびっくり箱のぬいぐるみを抑えながら	移動出来事・閉塞
	わ	びっくり箱からぬいぐるみが飛び出たのを見て	移動出来事・閉塞

資料17 E児の力動出来事的状況における音声7

CA	音声	文脈	力動出来事語のカテゴリ
1:9(12)	はい	飛んで行ったミニフードのぶどうを拾いながら	経路・垂直的経路
	高い	入れ子を高く重ねて指を指しながら	経路・垂直的経路
	ん	Mo.の手からミニフードのたまごを取ろうとしながら	経路・直示的経路
	ん	Mo.の手からミニフードのたまごを取ろうとしながら	経路・直示的経路
	ほしい	Mo.の手からミニフードのたまごを取ろうとしながら	経路・直示的経路
	ほしい	Mo.が持っているミニフードの魚がほしくて	経路・直示的経路
	あん	ミニフードのポテトチップスを食べるふりをして	経路・直示的経路
	ボン	ミニフードのポテトチップスを投げながら	経路・直示的経路
	はい	<貰しては?>というMo.に持っている玩具のハンチを渡そうとしながら	経路・直示的経路
	ん.貰して	Mo.の持っている玩具ののこぎりを取ろうとしながら	経路・直示的経路
	あー	Mo.の持っている玩具のレンチを取ろうと手を伸ばしながら	経路・直示的経路
	貰して	Mo.の持っている玩具の金槌に手を伸ばしながら	経路・直示的経路
	はい	玩具の金槌を受け取りながら	経路・直示的経路
	ん.ん	Mo.の持っている玩具のハンチがほしくて手を伸ばしながら	経路・直示的経路
	貰して	<どうするの?>と聞かれて	経路・直示的経路
	貰して	Mo.に玩具の金槌を渡しながら	経路・直示的経路
	たー	ミニフードの魚を玩具の包丁で切ることができて	経路・目的終了
	ん.ん	ミニフードの入れ物に手を伸ばしながら、開けてほしくて	図と地・包含
	ほしい	ミニフードの入れ物を開けてほしくて蓋を触りながら	図と地・包含
	開け	ミニフードの入れ物を開けてほしくて蓋を触りながら	図と地・包含
	開け	ミニフードの入れ物を開けてほしくて蓋を触りながら	図と地・包含
	開けて	玩具のツールボックスに手を伸ばして取りながら	図と地・包含
	開けて	玩具のツールボックスを開けようとしながら	図と地・包含
	開けて	玩具のツールボックスを開けようとしながら	図と地・包含
	開けて	Mo.に玩具のツールボックスを渡しながら	図と地・包含
	開け	Mo.に玩具のツールボックスを渡しながら	図と地・包含
	ジャー	玩具のボットからカップに注ぐふりをして	図と地・包含
	ジャ	玩具のボットを振りながら	図と地・包含
	ジャー	玩具のカップにそそぐふりをして	図と地・包含
	ジャー	玩具のカップにそそぐふりをして	図と地・包含
	ジャー	玩具のカップにそそぐふりをして	図と地・包含
	ジャー	玩具のカップでそそぐふりをして	図と地・包含
	開けて	玩具のツールボックスの蓋を開けようとしながら	図と地・包含
	はい	玩具のドライバーで玩具のツールボックスの蓋を開けようとしながら	図と地・包含
	ジョワー	玩具のドライバーで玩具のツールボックスの蓋を開けようとしながら	図と地・包含
	ジョワー	玩具のドライバーで玩具のツールボックスの蓋を開けようとしながら	図と地・包含
	ば	玩具のツールボックスの蓋を開けながら中を覗いて	図と地・包含
	ば	玩具のツールボックスの蓋を開けようとしながら	図と地・包含
	ジャー	玩具の哺乳瓶でそそぐふりをして	図と地・包含
	開けて	ミニフードのたまごを割ってほしくて	図と地・付着
	開けて	ミニフードのたまごを割ってほしくて	図と地・付着
	ん.ん	半分にしたミニフードの魚をくっ付けてたくて	図と地・付着
	ん.ん	ミニフードの魚をくっ付けてほしくて	図と地・付着
	したい	ミニフードの魚をくっ付けてほしくて	図と地・付着
	んー	ミニフードの魚をくっ付けてほしくてMo.に渡しながら	図と地・付着
	ち	ミニフードの魚をくっ付けてほしくて	図と地・付着
	して	ミニフードの魚をくっ付けてほしくて	図と地・付着
	ごっちゃん(擬音語)	ミニフードの魚をくっ付けてほしくてMo.に渡しながら	図と地・付着
	べち	ミニフードの魚をくっ付けてほしくて	図と地・付着
	べっちゃん	ミニフードの魚をくっ付けてほしくて	図と地・付着
	ん.ん.ん	ミニフードの魚をくっ付けてほしくて	図と地・付着
	ん.ん.ん	ミニフードの魚をくっ付けてたくて	図と地・付着
	あー	ミニフードの魚が切れて	図と地・付着
	あー	ミニフードの魚を切ることができて	図と地・付着
	うあー	ミニフードの魚を切ることができて	図と地・付着
	わー	ミニフードの魚を切ることができて	図と地・付着
	わー	ミニフードの魚をくっ付けて	図と地・付着
	だん	ミニフードの魚を切って	図と地・付着
		ミニフードの魚をうまくくっ付けることができなくてMo.にくっつけてもらおうと差し出しな	
	ん.ん	がら	図と地・付着
	あー	ミニフードの魚を切ることができて	図と地・付着
	かん	玩具の金槌で叩きながら	図と地・付着
	コンコン	玩具の金槌で叩きながら	図と地・付着
	コン	玩具の金槌で叩きながら	図と地・付着
	コンコンコン	玩具の金槌で自分の頭を叩きながら	図と地・付着
	ちちちち	玩具のドライバーとレンチを叩き合わせながら	図と地・付着
	あ.あ	玩具のツールボックスの蓋の留め具がとれて	図と地・付着
	ない	こたつの中にミニフードの魚を隠して	移動出来事・閉塞
	ないない	ミニフードの魚を投げた後に	移動出来事・閉塞
	ワンワンは	犬のぬいぐるみがどこにあるのかMo.に聞く(犬のぬいぐるみにご飯をあげたくて)	移動出来事・閉塞
	あれ	玩具の哺乳瓶をMo.に見せながら(中身が消えるタイプ)	移動出来事・閉塞
	あれ	玩具の哺乳瓶をMo.に見せながら(中身が消えるタイプ)	移動出来事・閉塞
	あれ	何かを探しながら(お皿)	移動出来事・閉塞
	あれ	何かを探しながら(お皿)	移動出来事・閉塞
	ん.ん	玩具のレンチを回すのをMo.にしてほしくて	移動出来事・回復

資料18 E児の力動出来事状況における音声8

CA	音声	文脈	力動出来事語のカテゴリ
1:9 (29)	ん、ん	Mo.の膝に座ろうとしながら	経路・垂直的経路
	ん、ん、ん	玩具入れのパケツを自分の方に引き寄せようとしながら	経路・直示的経路
	これ	玩具入れのパケツから何かを取ろうとしながら	経路・直示的経路
	ん	玩具の金槌をMo.の手に渡して	経路・直示的経路
	これ	玩具入れのパケツから入れ子を取ろうとしながら	経路・直示的経路
	これ	玩具入れのパケツから入れ子を取ろうとしながら	経路・直示的経路
	あん	ミニフードのドーナツを食べるふりをしながら食べる音	経路・直示的経路
	開けて	ミニフードの入れ物の蓋をさわりながら開けてほしくて	図と地・包含
	あー	玩具のツールボックスを開けようとしながら	図と地・包含
	あーあ	玩具のツールボックスを開けようとしながら	図と地・包含
	開けて	玩具のツールボックスを開けようとしながら	図と地・包含
	開けて	Mo.のところに玩具のツールボックスを持って行き膝に座りながら	図と地・包含
	あー	Mo.が開けているのを見ながら	図と地・包含
	開けて	玩具のアイロンを操作しながら	図と地・包含
	開けて	ミニフードの入れ物を持ち開けようとしながら	図と地・包含
	開けて	ミニフードの入れ物をMo.に渡して	図と地・包含
	開けて	ミニフードの缶詰をMo.に渡しながら開けてもらおうとして	図と地・包含
	開けて	玩具の哺乳瓶を開けようとしながら	図と地・包含
	開けて	玩具の携帯電話を持って振りながら	図と地・包含
	開けて	玩具の携帯電話を持って振りながら	図と地・包含
	開け	玩具の携帯電話をMo.に渡しながら	図と地・包含
	開けて	ミニフードのおやつを箱の手に持ちながら	図と地・包含
	ぼんぼん	赤ちゃんの人形のお腹をさわりながら	図と地・付着
	べん	赤ちゃんの人形のお腹を叩きながら	図と地・付着
	ん、ん	玩具のサングラスをつけてもらおうとしながら	図と地・付着
	ない	玩具の財布の中を見て	移動出来事・閉塞
	びーびー	びっくり箱のぬいぐるみが飛び出てきて	移動出来事・閉塞
	ばいばい	びっくり箱を開けようとしながら	移動出来事・閉塞
	あれ	床の上を何か探しながら	移動出来事・閉塞
	あれ	床の上を何か探しながら	移動出来事・閉塞
	ばあ	E児が顔を隠していて<いーい>とMo.がいーいーいーいばあを言うと真似て	移動出来事・閉塞
	にやー	びっくり箱を持ってMo.の膝に座りびっくり箱に手を当てて	移動出来事・回復
	ん、ん	びっくり箱を回してほしくて	移動出来事・回復
	やー	<後でと言われて>	移動出来事・否定(反転)
	やーやー	Mo.に高いかきをされておろしてほしくて	移動出来事・否定(反転)
やーやー	Mo.に高いかきをされておろしてほしくて	移動出来事・否定(反転)	
いやー	抱っこした状態からおろそうとする	移動出来事・否定(反転)	
1:10 (12)	あ	床に玩具のコインを落としてそれを見ながら	経路・垂直的経路
	取って	Mo.の手からミニフードのドーナツがとれなくて取ろうとしながら	経路・直示的経路
	ママ	玩具のサングラスをMo.の方に差し出しながら	経路・直示的経路
	ママ	玩具のサングラスをMo.の方に差し出しながら	経路・直示的経路
	ママ	玩具のサングラスをMo.の方に差し出しながら	経路・直示的経路
	ママ	玩具のサングラスをMo.の方に向けながら	経路・直示的経路
	ママ	玩具のサングラスをMo.の方に向けながら	経路・直示的経路
	ママ	玩具のサングラスをMo.の方に向けながら	経路・直示的経路
	ママ	玩具のサングラスを持ちながら	経路・直示的経路
	ママ	玩具のサングラスを持ちながら	経路・直示的経路
	あった	玩具のスプーンを投げて	経路・直示的経路
	ちー	<何だった？>と聞かれて、ドアの方を指さしながら	経路・直示的経路
	取って	水筒をとってほしくて指さしながら	経路・直示的経路
	取って	水筒をとってほしくて指さしながら	経路・直示的経路
	できた	入れ子の中に玩具のコインを入れてその上から小さい入れ子で蓋をして	経路・目的終了
	できた	入れ子の中に玩具のコインを入れてその上から小さい入れ子で蓋をして	経路・目的終了
	きー	入れ子の中に玩具のコインを入れてその上から小さい入れ子で蓋をして	経路・目的終了
	できた	入れ子の中に玩具のコインを入れてその上から小さい入れ子で蓋をして	経路・目的終了
	できた	入れ子の中に玩具のコインを入れてその上から小さい入れ子で蓋をして	経路・目的終了
	できた	手を含わせながら	経路・目的終了
	できた	手を含わせながら	経路・目的終了
	できた	玩具のコインを入れた入れ子の蓋を取って	経路・目的終了
	できた	玩具のコインを入れた入れ子の蓋を取って	経路・目的終了
	わー	ミニフードの入れ物を持ったら蓋が開いて、驚いて	図と地・包含
	開けて	玩具の哺乳瓶を口に入れながら	図と地・包含
	開け	玩具の財布を開けようとしながら	図と地・包含
	あった	玩具のコインを見つけて	図と地・包含
	あった	見つけた玩具のコインを財布に入れようとしながら	図と地・包含
	開けて	くっ付いているトマトのミニフードを離してほしくて	図と地・付着
	ママ	Mo.に玩具のサングラスをつけようとしながら	図と地・付着
	がっちゃんこ(くっ付ける意味の擬音語)	半分になるミニフードの魚の半分を探しながらくっ付けたくて	図と地・付着
	がっちゃんこ(くっ付ける意味の擬音語)	半分になるミニフードの魚の半分を探しながらくっ付けたくて	図と地・付着
	がっちゃんこ(くっ付ける意味の擬音語)	半分になるミニフードの魚の半分を探しながらくっ付けたくて	図と地・付着
	がっちゃんこ(くっ付ける意味の擬音語)	半分のミニフードの魚を探しながら	図と地・付着
	がっちゃんこ(くっ付ける意味の擬音語)	半分のミニフードの魚を探しながら	図と地・付着
がっちゃんこ(くっ付ける意味の擬音語)	半分のミニフードの魚を探しながら	図と地・付着	
がっちゃんこ(くっ付ける意味の擬音語)	半分のミニフードの魚を探しながら	図と地・付着	
がっちゃんこ(くっ付ける意味の擬音語)	半分のミニフードの魚を探しながら	図と地・付着	
がっちゃんこ	半分になったミニフードの魚をくっ付けようとしながら	図と地・付着	
ない	床の上を何か探しながら	移動出来事・閉塞	
あったー	ミニフードのウインナーを見つけて手に取りながら	移動出来事・閉塞	
ない	玩具の中を何かを探しながら	移動出来事・閉塞	
あった	玩具の中から何かを見つけて	移動出来事・閉塞	
あった	ミニフードのウインナーを取って	移動出来事・閉塞	
ない	玩具の財布の中に手を入れながら	移動出来事・閉塞	
ない	玩具の財布の中に手を入れながら	移動出来事・閉塞	
あれ	Mo.がくすぐってこなくて	移動出来事・閉塞	
ない	水筒の中身が入っていないくて	移動出来事・閉塞	

資料19 E児の力動出来事的状況における音声9

CA	音声	文脈	力動出来事語のカテゴリ
1:10 (26)	はい	玩具のコインをトレーにのせながら	経路・垂直的経路
	はい	玩具のコインをトレーにのせながら	経路・垂直的経路
	はい	玩具のお札をトレーにのせながら	経路・垂直的経路
	だー	ミニフードのホットドッグをMo.に差し出してミニフードのウインナーを落とそうとしながら	経路・垂直的経路
	び	玩具のお札をトラックの上に置きながら	経路・垂直的経路
	これ	玩具のお札をトラックの上に置きながら	経路・垂直的経路
	び	玩具のお札をトラックの上に置きながら	経路・垂直的経路
	び	玩具のコインをトラックの上に置きながら	経路・垂直的経路
	び	玩具のコインをトラックの上に置きながら	経路・垂直的経路
	あー	持っていた玩具の茶わんを落として	経路・垂直的経路
	あ	手に取るうとした玩具のポットが倒れて	経路・垂直的経路
	まん	ミニフードのいちごをMo.の口に持って行って	経路・直示的経路
	取って	ミニフードの入れ物を指さしながら	経路・直示的経路
	はい	玩具のカードをMo.に差し出しながら	経路・直示的経路
	はい	玩具のカードをMo.に差し出しながら	経路・直示的経路
	はい	玩具のお札をMo.に差し出しながら	経路・直示的経路
	はい	玩具のお札をMo.に差し出しながら	経路・直示的経路
	ここ	玩具の財布の中にコインがあることをMo.に伝える	経路・直示的経路
	はい	<ください>とMo.が手を出す玩具のコインを取って渡そうとしながら	経路・直示的経路
	はい	ミニフードのホットドッグをMo.に差し出しながら	経路・直示的経路
	あっち	<ワフンどこ行った?>の答えで、Mo.とは反対側を指さしながら	経路・直示的経路
	はい	玩具のスプーンを観察者の方に向けながら	経路・直示的経路
	あっち	指さしながら	経路・直示的経路
	ん、ん	玩具のツールボックスが開かなくて	図と地・包含
	ん、ん	玩具のツールボックスが開かなくて	図と地・包含
	ん、ん	玩具の財布が開かなくて	図と地・包含
	開いた	玩具の財布を開けることができ	図と地・包含
	だー	玩具のポットでそそぐふりをしながら	図と地・包含
	ジャー	玩具のポットで玩具の茶わんにそそぐふりをしながら	図と地・包含
	ジャー	玩具のポットで玩具のカップに注ぐふりをしながら	図と地・包含
	氷	玩具の茶わんの中にカップを入れてカップを氷に見立てて、入れたことをMo.の方に向けて知らせる	図と地・包含
	ジャー	玩具のカップから玩具の茶わんにそそぐふりをしながら	図と地・包含
	ジャー	玩具のカップから玩具の茶わんにそそぐふりをしながら	図と地・包含
	開けて	<っ付いているミニフードのトマトをはがすことを要求	図と地・付着
	開けて	ミニフードのレタスをはがしてほしくてMo.の方に向けて要求	図と地・付着
	足	人形の靴下を持ちながら	図と地・付着
	足	人形に靴下をはかせようとしたができなくて	図と地・付着
足	人形に靴下をはかせようとしたができなくて	図と地・付着	
ない	玩具のお札がなくなったことをMo.に知らせる	移動出来事・閉塞	
えー	Mo.が<チョウダイ>と手を出す	移動出来事・否定(反転)	
嫌	Mo.が<チョウダイ>と手を出す	移動出来事・否定(反転)	
嫌	Mo.が<ください>と手を出す	移動出来事・否定(反転)	
1:11 (10)	チヨキチヨキ	玩具のベンチを落として	経路・垂直的経路
	きた	落とした玩具のベンチを拾って	経路・垂直的経路
	ほしい	テーブルの上にあるものに手を伸ばしながら	経路・直示的経路
	これ	ミニフードの入れ物を持ってきて開けてほしくて	図と地・包含
	これ	ミニフードの入れ物を開けてほしくてMo.に差し出しながら	図と地・包含
	これ	ミニフードの入れ物を開けてほしくてMo.に差し出しながら	図と地・包含
	あ	ミニフードの入れ物を開けてほしくてMo.に差し出しながら開けようとしながら	図と地・包含
	開けて	玩具のツールボックスを持ってきてMo.に渡しながら	図と地・包含
	耳痛い痛い	飛び出してきたびっくり箱のぬいぐるみの触覚を触りながら	図と地・付着
	耳痛	びっくり箱にぬいぐるみの触覚が挟まって出て来た後触覚をさわりながら	図と地・付着
	耳	びっくり箱に挟まったぬいぐるみの触覚を触りながら	図と地・付着
	耳	びっくり箱に挟まったぬいぐるみの触覚を触りながら	図と地・付着
	耳が痛い痛い	びっくり箱に挟まったぬいぐるみの触覚を触りながら	図と地・付着
	耳痛い痛い	びっくり箱にぬいぐるみの触覚が挟まっていた場所を触りながら	図と地・付着
	チヨキチヨキ	玩具のベンチを開いたり閉じたりしながら	図と地・付着
	ばん	半分になるミニフードの魚を半分にして	図と地・付着
	ちよきちよき	玩具のベンチを開いたり閉じたりしながら	図と地・付着
	あーあ	玩具のツールボックスの留め具が外れて	図と地・付着
	あーあ	外れた玩具のツールボックスの留め具を見ながら	図と地・付着
	あーあ	外れた玩具のツールボックスの留め具を見ながら	図と地・付着
	ばばーい	びっくり箱の蓋を閉めながら	移動出来事・閉塞
	あれ	玩具を探しながら	移動出来事・閉塞
	あれ	玩具を探しながら	移動出来事・閉塞
	ちゅちゅちゅー	びっくり箱のオルゴールの音を真似ながらびっくり箱を回そうとして	移動出来事・反復
	んーママたたら	びっくり箱を回してほしくて	移動出来事・反復
	まだ	<しっこでた?>と聞かれて返事をして	移動出来事・否定(反転)
	まだ	<おしっこ出た?>と聞かれて返事をして	移動出来事・否定(反転)
まだ	<しっこでた?>と聞かれて返事をして	移動出来事・否定(反転)	

資料20 E児の力動出来事的状況における音声10

CA	音声	文脈	力動出来事語のカテゴリ
1:11 (23)	落ちた	玩具のお金を取ろうとして落として	経路・垂直的経路
	落ちた	玩具のお金を取ろうとして落として	経路・垂直的経路
	はい	Mo.の手のひらから玩具のお金を取りながら	経路・直示的経路
	こっち	ミニフードの入れ物を見つけて自分の方に持って行きながら	経路・直示的経路
	こっち	ミニフードの入れ物を見つけて自分の方に持って行きながら	経路・直示的経路
	こっち	Mo.の膝に座った状態で左側を指さしながら(左側にミニフードの入れ物があり取ってほしくて)	経路・直示的経路
	ママこっち	Mo.の膝に座った状態で左側を指さしながら(左側にミニフードの入れ物があり取ってほしくて)	経路・直示的経路
	これ	ミニフードの入れ物を取りながら	経路・直示的経路
	あつた	Mo.が持っているミニフードのパンを取ろうとしながら	経路・直示的経路
	あつた	ミニフードのきゅうりを取ろうとしながら	経路・直示的経路
	あつた	ミニフードのきゅうりを取ろうとしながら	経路・直示的経路
	ママへビ	Mo.がミニフードのきゅうりを片づけていて、出してほしくて	経路・直示的経路
	へビ	Mo.がミニフードのきゅうりを片づけていて、出してほしくて	経路・直示的経路
	ママへビ	Mo.がミニフードのきゅうりを片づけていて、出してほしくて	経路・直示的経路
	へビ	Mo.がミニフードのきゅうりを片づけていて、出してほしくて	経路・直示的経路
	ママきた(できた)	玩具のハンチの持ち手部分でミニフードのみかんを挟むことができたのをMo.に報告して	経路・目的終了
	きた(できた)	玩具のハンチの持ち手部分でミニフードのみかんを挟むことができたのをMo.に報告して	経路・目的終了
	きたね(できた)	玩具のハンチの持ち手部分でミニフードのみかんを挟むことができたのをMo.に報告して	経路・目的終了
	きたね(できた)	玩具のハンチの持ち手部分でミニフードのみかんを挟むことができたのをMo.に報告して	経路・目的終了
	取れた	ハンチの持ち手でミニフードのみかんを取ることができて	経路・目的終了
	取れた	ミニフードのみかんを取るのをやめて立ち上がろうとしながら	経路・目的終了
	あれ	玩具のお金が無くなって探しながら	移動出来事・閉塞
	あれ	玩具のお金が無くなって探しながら	移動出来事・閉塞
	あれ	玩具のお金が無くなって探しながら	移動出来事・閉塞
	あつたー	玩具のお金を見つけて	移動出来事・閉塞
	あれ	玩具のお金を探しながら	移動出来事・閉塞
	あれ	玩具のお金を探しながら	移動出来事・閉塞
	あつたー	玩具のお金をとった後に	移動出来事・閉塞
	あれ	ミニフードの入れ物を探しながら	移動出来事・閉塞
	あれ	ミニフードの入れ物を探しながら	移動出来事・閉塞
	あれー	持っていたミニフードのウィンナーを投げて探しながら	移動出来事・閉塞
	あつた	ミニフードのウィンナーを見つけて	移動出来事・閉塞
	あれ、あれ	玩具のハンチを探しながら	移動出来事・閉塞
	あれ	玩具のハンチを探しながら	移動出来事・閉塞
	あつたー	玩具のハンチを見つけて	移動出来事・閉塞
	へビが	ミニフードの入れ物の中を覗きながら	移動出来事・閉塞
	行っちゃった	ミニフードの入れ物の中を覗きながら	移動出来事・閉塞
	行っちゃった	ミニフードの入れ物の中を探りながら	移動出来事・閉塞
	へびちゃん	ミニフードの入れ物の中を探りながら	移動出来事・閉塞
	ちーた	玩具の財布を開けて	図と地・包含
	出たー	びっくり箱からぬいぐるみが飛び出てきて	図と地・包含
	開けて	Mo.に玩具のツールボックスを渡して開けてもらおうとして	図と地・包含
	開け	Mo.に玩具のツールボックスを渡した後膝に座って開けてもらおうとツールボックスに手を伸ばしながら	図と地・包含
	開けて	Mo.に玩具のツールボックスを渡した後膝に座って開けてもらおうとツールボックスに手を伸ばしながら	図と地・包含
	開いた	ミニフードの入れ物をMo.が開けると中を覗きながら	図と地・包含

資料21 E児の力動出来事的状況における音声11

CA	音声	文脈	力動出来事語のカテゴリ
2:0 (6)	あん	ミニフードのポテトチップスを食べるふりをしながら	経路・直示的経路
	はい	ミニフードのホットドッグを取りながら	経路・直示的経路
	おやつ	おやつ <small>の袋</small> に手を伸ばしながら	経路・直示的経路
	まんま	おやつを食べながら	経路・直示的経路
	チョコ	ミニフードの入れ物の中にミニフードのチョコを見つけて取ろうとしながら	経路・直示的経路
	チョコ	ミニフードの入れ物の中にミニフードのチョコを見つけて取ろうとしながら	経路・直示的経路
	これ	ミニフードの入れ物の中にミニフードのチョコを見つけて取ろうとしながら	経路・直示的経路
	チョコ	ミニフードの入れ物の中にミニフードのチョコを見つけて取ろうとしながら	経路・直示的経路
	はいどうぞ	ミニフードのパンをMo.に渡しながら	経路・直示的経路
	あむ	おやつを食べながら	経路・直示的経路
	はいマンマ	Mo.におやつをあげながら	経路・直示的経路
	あむ	ミニフードの肉を食べるふりをしながら	経路・直示的経路
	ワンワン	壁に飾ってある写真を指さしながら	経路・直示的経路
	ワンワン	壁に飾ってある写真を指さしながら	経路・直示的経路
	〇ちゃん(兄の名前)	壁に飾ってある写真を指さしながら	経路・直示的経路
	はいどうぞ	玩具の財布からカードを取り出してMo.に差し出しながら	経路・直示的経路
	はい	玩具のカードを差し出しながら	経路・直示的経路
	はいどうぞ	玩具のお札をMo.に渡しながら	経路・直示的経路
	はい	玩具のお札をMo.に渡しながら	経路・直示的経路
	はいどうぞ	玩具のお札をMo.に渡しながら	経路・直示的経路
	はいどうぞ	玩具のお札をMo.に渡しながら	経路・直示的経路
	はいどうぞ	玩具のお札をMo.に渡しながら	経路・直示的経路
	はい	玩具のコインをMo.に渡しながら	経路・直示的経路
	どうぞ	玩具のコインをMo.に渡しながら	経路・直示的経路
	はいどうぞ	玩具のコインをMo.に渡しながら	経路・直示的経路
	はい	玩具のコインをMo.に渡しながら	経路・直示的経路
	はいどうぞ	玩具のコインをMo.に渡しながら	経路・直示的経路
	はいどうぞ	玩具のコインをMo.に渡した後	経路・直示的経路
	はいどうぞ	玩具のコインをMo.に渡しながら	経路・直示的経路
	はいどうぞ	玩具のお金をMo.に渡そうと財布から取りながら	経路・直示的経路
	これ	くどうするの?>と聞かれてミニフードの入れ物を開けてほしくて	図と地・包含
	これが	ミニフードの入れ物を開けてほしくて	図と地・包含
	これが	ミニフードの入れ物を開けてほしくて	図と地・包含
	これ	ミニフードの入れ物を開けてほしくて	図と地・包含
	開ける、て	くどうするの?>と聞かれて	図と地・包含
	あか	玩具の財布を開けようとしながら	図と地・包含
	でた	玩具の財布を開けることができ	図と地・包含
	これ	玩具の財布の中から玩具のコインを取ろうとして	図と地・包含
	開いたぞ	ミニカーのドアが開まって走らせようと床に下ろしながら	図と地・包含
	開いたぞ	ミニカーのドアが開いたことに対して	図と地・包含
	あれこつち	ミニカーのドアを開けようとする探しながら	図と地・包含
	あれこつち	ミニカーのドアを開けようとする探しながら	図と地・包含
	開けた	ミニカーのドアが開いているのを見て	図と地・包含
	開いた	ミニカーのドアを開けることができ	図と地・包含
	2つ	ミニカーのドアを2つ開けることができ	図と地・包含
	2つ	ミニカーのドアを3つ開けることができ	図と地・包含
	2つ	ミニカーのドアを2つ開けようとしながら	図と地・包含
	2つ	ミニカーのドアを2つ開けようとしながら	図と地・包含
	開けて	ミニカーのドアを開けてほしくてMo.の方に持って行きながら	図と地・包含
	ママ開けて	ミニカーのドアを開けてほしくてMo.の方に持って行きながら	図と地・包含
	開けて	ミニカーのドアを開けてほしくてMo.の方に持って行きながら	図と地・包含
	こつち	乗ろうとしたミニカーのドアと反対側のドアを指さしながら	図と地・包含
	こつち	乗ろうとしたミニカーのドアと反対側のドアを指さしながら	図と地・包含
	べっちゃんこ	ミニフードのホットドッグを押さえつけてつぶしながら	図と地・付着
	はいどうぞ	女の子の人形に靴下をはかせようとしながら	図と地・付着
	はいばーい	びっくり箱のぬいぐるみをしまいながら	移動出来事・閉塞
	あた	玩具が飛んで行って	移動出来事・閉塞
	ない	くもういいんじゃない?ばいしても>というとおやつ <small>の袋</small> に手を入れながら	移動出来事・閉塞
	なくなった	おやつ <small>の袋</small> を覗き込んでなくなったことを伝える	移動出来事・閉塞
	もうない	玩具の財布の中を覗いて玩具のコインがなくなっていて	移動出来事・閉塞
	ない	<いれてよ>とMo.が空になった玩具の財布に玩具のお金を入れようとする	移動出来事・閉塞
	ない	<いれてよ>とMo.が空になった玩具の財布に玩具のお金を入れようとする	移動出来事・閉塞
	ない	<いれてよ>とMo.が空になった玩具の財布に玩具のお金を入れようとする逃げて	移動出来事・閉塞
	はいばい	Mo.に向かって手を振りながら	移動出来事・閉塞
	ん、やだ	Mo.がミニカーを走らせているとそれを取ろうとしながら	移動出来事・閉塞
	やだ	おやつ <small>の袋</small> をくおいたいたら?>と言われて	移動出来事・否定(反転)
	やだ	<はいどうぞ、いれて>とMo.が空になった玩具の財布に玩具のお金を入れようとする	移動出来事・否定(反転)
	やだ	抱っこから降ろされて	移動出来事・否定(反転)